可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土木監督署官制

第一條　内務省直轄ノ土木工事ヲ施行シ及地方ノ土木工事ヲ監視スル爲メ土木監督區ヲ置ク左ノ如シ

第一區　武藏　上總　下總　常陸　上野　下野　安房　相模　伊豆　駿河　甲斐　遠江　信濃ノ内

第二區　磐城　岩代ノ内　陸前　陸中　陸奥　羽前　羽後

第三區　越後　岩代ノ内　越中　佐渡　能登　加賀　越前　飛騨ノ内　信濃ノ内　若狭

第四區　三河　尾張　美濃　信濃ノ内　飛騨ノ内　伊勢　志摩　伊賀　近江　山城　大和　攝津　河内　和泉　紀伊　丹波　丹後　但馬　播磨　淡路

第五區　阿波　讃岐　伊豫　土佐　備前　備中　備後　安芸　周防　長門　美作　因幡　伯耆　出雲　隱岐　石見

第六區　豊前　豊後　筑前　筑後　肥前　肥後　薩摩　大隅　日向　壹岐　對馬

第二條　土木監督區ニ土木監督署ヲ置キ内務大臣ノ管轄ニ屬シ左ノ職員ヲ置ク

署長

技師

技手

書記

第三條　監督署長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條　監督署長ハ部内地方ノ土木事業ヲ巡視シ利害得失ヲ精査シ之ヲ内務大臣ニ報告ス可シ

第五條　監督署長ハ内務省直轄ノ土木事業ヲ計畫シ意見ヲ内務大臣ニ開申シ其命令ニ依リ之ヲ施行ス可シ

第六條　監督署長ハ内務大臣ノ命令ニ依リ特ニ新設工事又ハ既成工事ノ變更等ヲ檢査スルトキハ意見ヲ内務大臣ニ開申ス可シ

第七條　技師ハ奏任トシ二十四人ヲ以テ定員トス各監督署ニ分屬シ署長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ分掌ス

第八條　技手ハ判任トシ百人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス

第九條　書記ハ判任トシ三十五人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

内務省告示

明治二十三年八月十五日第二十五號　土木監督官

派出所位置左ノ如シ

第一區土木監督署　東京府管下　同　派出所　靜岡縣管下　宮城縣管下　仙臺

第二區土木監督署　新潟縣管下　新潟

第三區土木監督署　大阪府管下　大阪

第四區土木監督署　三重縣管下　桑名

同　派出所　廣島縣管下　廣島

第五區土木監督署　福岡縣管下　久留米

第六區土木監督署

第二款　衛生試驗所

勅令

明治二十三年八月二日第百五十五號　既衛生試驗所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

衛生試驗所官制

第一條　東京大藏植物園ニ衛生試驗所ヲ置ク

第二條　衛生試驗所ハ内務大臣ノ管轄ニ屬シ衛生上試驗ニ屬スル事項ヲ取扱フ所トス

第三條　各衛生試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

技師

技手

書記

第四條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所内ノ事務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督ス

第五條　技師ハ奏任トシ六人ヲ以テ定員トス各試驗所ニ分屬シ所長ノ指揮ヲ承ケ試驗ノ事務ヲ分掌ス

第六條　技手ハ判任トシ十七人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第七條　書記ハ判任トシ七人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　各試驗所事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム

第三款　中央氣象臺　附測候所

勅令

明治二十三年八月二日第百五十六號　既中央氣象臺官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

中央氣象臺官制

第一條　中央氣象臺ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　氣象觀測

二　氣象報告

三　氣象調査

四　氣象觀測器械檢査

五　天氣豫報

六　暴風警報

七　地震驗測

八　地磁氣驗測

九　空中電氣驗測

十　空氣驗測

第二條　中央氣象臺ニ左ノ職員ヲ置ク

臺長

技師

技手

書記

第三條　臺長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ文部大臣ノ指揮監督ヲ承ケ臺務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條　技師ハ奏任トシ三人ヲ以テ定員トス臺長ノ指揮ヲ承ケ臺務ヲ分掌ス

第五條　技手ハ判任トシ九人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ臺務ニ從事ス

第六條　書記ハ判任トシ二人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　事務ノ分課ハ文部大臣之ヲ定ム

勅令

明治二十年八月三日第四十一號　既氣象臺測候所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

氣象臺測候所條例

第一條　東京ニ中央氣象臺ヲ置キ地方便宜ノ場所ニ地方測候所ヲ置ク其位置ハ文部大臣之ヲ指定ス

第二條　前條ノ外測候所ヲ設置セントスル者アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受ク可シ

第三條　中央氣象臺ハ文部大臣之ヲ直轄シ地方測候所ハ地方長官之ヲ管理シ文部大臣之ヲ監督ス

其他ノ測候所ハ地方長官之ヲ監督ス

第四條　地方測候所ノ費用ハ該測候所在地ノ地方税ヲ以テ支辨ス可シ

第五條　中央氣象臺及各測候所ハ事業上互ニ氣脈ヲ通シ通信ヲ爲ス可シ

第六條　本條例施行ニ關スル細則ハ文部大臣之ヲ定ム

内務省令

明治二十五年五月四日第五號　氣象臺測候所條例

施行細則左ノ通改定ス

氣象臺測候所條例施行細則

第一條　中央氣象臺ハ今國ノ氣象事業ヲ統轄シ全國ノ氣象ヲ調査シ全國ニ天氣豫報暴風警報ヲ發スル所トス

第二條　地方測候所ハ所在地ノ氣象ヲ觀測シ所圖ニ報告内ノ氣候ヲ調査シ並ニ中央氣象臺ノ天氣豫報ニ基キ地方天氣豫報ヲ發スル所トス

第三條　地方測候所ヲ分テ一等二等トス

一等測候所ハ晴雨計寒暖計乾湿計最高最低寒暖計日温計地温計地中寒暖計風力計風信器雨量計蒸發計日照計地震計等ヲ備ヘ毎時觀測ヲ爲スモノトス

但自記器械ヲ備フルモノハ其觀測ヲ一日六回ト爲スコトヲ得

二等測候所ハ晴雨計寒暖計乾湿計最高最低寒暖計風力計風信器雨量計地震計等ヲ備ヘ一日六回ノ觀測ヲ爲スモノトス

第四條　地方測候所ハ中央氣象臺ヨリ暴風警報ヲ受ケルトキ及天候不穩ト認メタルトキハ前條觀測ノ外ニ臨時數回ノ觀測ヲ爲ス可シ

第五條　地方測候所ハ中央氣象臺ニ向ヒ左ノ報告ヲ爲ス可シ

氣象電報　氣象月報　氣象年報

一周年事業報告　氣象五年報　暴風報告

雷雨報告　地震報告　積雪報告

動物報告　植物報告　解報

第六條　條例第五條ノ主旨ニ基キ地方測候所ハ氣象月報氣象年報及氣象五年報ヲ印刷シ個立交換ス可シ

第七條　觀測ノ時期方法器械ノ品位報告ノ書式及期限ハ中央氣象臺ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ得テ定ム可シ

第八條　内務大臣ハ臨時中央氣象臺技師ヲシテ地方測候所ヲ巡回セシム

第九條　條例第二條ニ依リ測候所ヲ設置セントスル時ハ左ノ諸件ヲ詳記シ地方長官ヲ經由シテ内務大臣ノ許可ヲ請フ可シ

一　設立ノ位置及地勢　測候所ノ位置ヲ示シ略圖ヲ添フルヲ要ス

二　使用スヘキ器械ノ明細書

三　維持ノ方法

第十條　條例第四條ノ地方測候所費ハ北海道廳ニ於テハ本廳費沖縄縣ニ於テハ地方費ニ以テ支辨ス可シ

附　則

第十一條　本制第二條ノ地方天氣豫報ヲ發スルニハ當分ノ内内務大臣ノ認可ヲ受クルヲ要ス

第十二條　市町村又ハ人民ニ於テ新ニ暴報信號標ヲ設立セントスル時ハ地方長官ノ許可ヲ請フ可シ

第十三條　地方長官新ニ彙報信號標ヲ設立シ或ハ其設立ヲ許可セハ實施ヨリ少クモ三十日前其制編書及位置ヲ示シタル略圖ヲ添ヘ中央氣象臺ニ通知スヘシ

第十四條　既設ノ彙報信號標ニ異動ヲ生シタル時ハ地方長官ハ之ヲ中央氣象臺ニ通知スヘシ

第十五條　前二箇條ノ場合ニ於テハ中央氣象臺ヨリ之ヲ全國ニ告示スヘシ

勅令

明治二十七年三月廿六日第二十五號　朕明治二十六年勅令第百三十二號第一項並同年勅令第百三十四號施行延期ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十六年勅令第百三十二號第一項並同年勅令第百三十四號（中央氣象臺及測候所ノ管理ヲ文部大臣ニ改ムルノ件）ノ施行ハ明治二十八年四月一日マテ延期ス

第四款　集治監假留監

勅令

明治二十六年十月廿六日第三十號　朕集治監假留監官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

集治監假留監官制

第一條　東京府下、宮城縣下及福岡縣下ニ集治監ヲ置ク其ノ名稱及位置ハ内務大臣之ヲ定ム

第二條　各集治監ニ左ノ職員ヲ置ク

典獄
書記
看守長
監獄醫

第三條　典獄ハ一人奏任トス内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌理ス

第四條　典獄ハ部下ノ官吏ヲ監督シ判任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ看守以下ノ判任官ノ懲戒ヲ内務大臣ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第五條　典獄ハ部下ノ判任官ノ懲戒ヲ内務大臣ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第六條　典獄事故アルトキハ上席書記其ノ職務ヲ代理ス

第七條　書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第八條　看守長ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ警護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス

第九條　監獄醫ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ニ係ル醫務ニ從事ス

第十條　書記、看守長及監獄醫ノ定員ハ各集治監ヲ通シテ七十人トシ其ノ各官ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム

第十一條　看守ニ係ル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十二條　事務ノ分課並處務ノ規程ハ内務大臣之ヲ定ム

第十三條　假留監ハ集治監ニ附設ス

假留監ニハ別ニ其ノ職員ヲ置カス集治監ノ職員ヲ以テ之ニ充ツ

附則

第十四條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

明治二十六年十一月九日第五十一號　集治監ハ東京府南葛飾郡瑞穂村宮城縣仙臺市字古城、福岡縣三池郡下里村ニ置ク其東京府下ニ置クモノヲ東京集治監、宮城縣下ニ置クモノヲ宮城集治監、福岡縣下ニ置クモノヲ三池集治監ト稱ス又東京集治監ニ附設スル假留監ヲ東京假留監、宮城集治監ニ附設スル假留監ヲ宮城假留監、三池集治監ニ附設スル假留監ヲ三池假留監ト稱ス

内務省告示

明治二十六年十一月廿九日第五十一號　集治監ハ東京府南葛飾郡瑞穂村宮城縣仙臺市字古城、福岡縣三池郡下里村ニ置ク其東京府下ニ置クモノヲ東京集治監、宮城縣下ニ置クモノヲ宮城集治監、福岡縣下ニ置クモノヲ三池集治監ト稱ス又東京集治監ニ附設スル假留監ヲ東京假留監、宮城集治監ニ附設スル假留監ヲ宮城假留監、三池集治監ニ附設スル假留監ヲ三池假留監ト稱ス

第五款　中央衛生會

勅令

明治二十三年八月二日第百五十四號　朕中央衛生會官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

中央衛生會官制

第一條　中央衛生會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ各省大臣ノ諮詢ニ應シ公衆衛生獸畜衛生ニ關シテ意見ヲ述ヘ及其施行方法ヲ審議ス

第二條　中央衛生會ハ各省主管事務中衛生ニ關スル事項ニ就テハ其主任大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條　中央衛生會ハ衛生各般ノ事項ヲ諮問シ或ハ臨時會員ヲ各地方ニ派遣シテ檢察セシムルコトヲ得

第四條　中央衛生會議事規則ハ議會ニ於テ之ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第五條　中央衛生會ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス

一　會長
二　幹事
三　委員
四　臨時委員

會長ハ勅任トス幹事ハ一人奏任トシ内務大臣奏薦宣行ス

第六條　委員ハ左ノ各官ヲ以テ之ニ充ツ

陸軍省醫務局長
海軍中央衛生會議議長
宮内省侍醫局長
帝國大學醫科大學長
警視總監
東京府知事
内務省衛生局長

内務省醫務局長
内務省高等官　三人
其他醫師十五人化學家三人ヲ以テ委員トス
委員中醫師化學家内務省高等官及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
委員中醫師及化學家ノ任期ハ四箇年トス但滿期後再任セラルルコトヲ得

第七條　會長ハ本會議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其議定セシモノヲ内務大臣及主任大臣ニ具申ス

第八條　會長事故アルトキハ開會當日ノ上席人ヲシテ其事務ヲ代理セシム

第九條　幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第十條　會長及幹事ハ他ノ官職アル者ヨリ兼任スルトキハ別ニ其俸給ヲ給セス

第十一條　中央衛生會ニ書記ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承ケ議事ノ筆記及庶務ニ從事ス

書記ハ内務屬ヲ以テ之ニ充ツ

第六款　土木會

勅令

明治二十五年六月二十日第五十二號　朕土木會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土木會規則

第一條　土木會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ治水修路築港ニ關スル重要事項ニ付内務大臣ノ諮詢ニ應シ意見ヲ開申ス

第二條　土木會ハ土木ニ關スル事項ニ付主任各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條　土木會ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第四條　土木會ハ會長一人委員二十人及臨時委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條　會長ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ會務ヲ掌理ス

第六條　會長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其決議ヲ内務大臣及主任各省大臣ニ具申ス

第七條　會長事故アルトキハ其指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第八條　土木會ニ幹事一人ヲ置キ奏任官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス

第九條　會長委員臨時委員及幹事ハ無俸給トス但他ニ有給ノ官職ヲ帶ヒサル者ニ限リ一箇年五百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十條　土木會ニ書記ヲ置ク會長幹事ノ指揮ヲ受ケ議事ノ筆記及庶務ニ從事ス

書記ハ内務屬ヲ以テ之ニ充ツ

第七款　臨時横濱築港局

勅令

明治二十五年六月二十一日第五十三號　朕臨時横濱築港局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時横濱築港局官制

第一條　臨時横濱築港局ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ横濱築港工事ヲ施行スルコトヲ掌ル

第二條　臨時横濱築港局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長　一人
次長　一人
技師　四人
船長　十四人
技手　十六人

第三條　局長ハ神奈川縣知事ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　局長ハ局中一切ノ事務ヲ掌理シ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第五條　局長ハ局中處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第六條　（削除）

第七條　局長ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條　（削除）

第九條　次長ハ奏任トス局長ノ事務ヲ助ケ局長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第十條　技師ハ奏任トス局長ノ指揮ヲ承ケ築港ノ事業ヲ分掌ス

第十一條　船長ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十二條　技手ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ工事若クハ船舶ノ運用ニ從事ス

第八款　造神宮使廳

勅令

明治二十年十二月二十五日第六十八號　朕造神宮使廳官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

造神宮使廳官制

第一條　造神宮使廳ハ內務大臣ノ管理ニ屬シ新宮造營及神寶裝束調進ノ事ヲ主掌ス

第二條　造神宮使廳ニ左ノ職員ヲ置ク

造神宮使

造神宮副使

造神宮主事

造神宮屬

第三條　造神宮使ハ一人勅任トス神宮祭主ヲ以テ之ニ充ツ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ廳中ノ事務ヲ整理ス

第四條　造神宮使ハ所屬ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ內務大臣ニ具狀シ判任官ハ之ヲ專行ス

第五條　造神宮副使ハ一人奏任トス內務省祉寺局長ヲ以テ之ニ充ツ造神宮使ノ事務ヲ佐ケ造神宮使事故アルトキハ內務大臣ノ命ヲ受テ其事務ヲ代理ス

第六條　造神宮主事ハ一人奏任トス使副使ノ命ヲ承ケ新宮造營神寶裝束等調進ノ事務ヲ處辨ス

第七條　造神宮屬ハ判任トス上官ノ命ヲ受ケ造營ノ事務ヲ分任シ職工ヲ使役シ記錄計算ヲ掌ル

第九款　神宮司廳

內務省達明治十七年五月十九日神宮職制（抄錄）

祭主　一員

大御手代トシテ祭祀ニ奏仕シ祭事ヲ總判スルコトヲ掌ル

宮司

祭祀ニ奉仕シ齋戒ヲ奏聞シ及庶務ヲ總判スルコトヲ掌ル

權宮司

掌宮司ニ准ス

御饌ニ紙幣シ神饌ヲ供獻シ殿內一切ノ事ヲ管シ臨時新時祓除ヲ修シ及庶務ヲ處辨スルコトヲ掌ル宮司缺席スル時ハ上席ノ權宜代理タルコトヲ得

主典

神饌ヲ調理シ大麻曆ヲ製造シ及廳中各課ノ事務ニ從事スルコトヲ掌ル

宮掌

雜務ニ從事スルコトヲ掌ル

第十款　藥劑師試驗委員

勅令明治二十七年六月二十三日第七十四號

藥劑師試驗委員組織權限

第一條　藥劑師試驗委員組織權限ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第二條　藥劑師試驗委員ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ藥劑師試驗ノ事務ヲ掌ル

第三條　藥劑師試驗委員長及委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

藥劑師試驗委員長一人委員若干人ヲ以テ組織ス

第四條　藥劑師試驗委員長ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

藥劑師試驗委員ノ任期ハ四箇年トス

藥劑師試驗委員ハ滿期ノ後再任セラルルコトヲ得

第五條　藥劑師試驗委員長ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

藥劑師試驗委員ノ中ヨリ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第六條　藥劑師試驗委員長ハ藥劑師試驗委員及主事ヲ監督シ其ノ事務ヲ掌理ス

第七條　藥劑師試驗委員長ハ試驗ヲ供獻シ及庶務ヲ處辨スルコトヲ掌ル

第八條　藥劑師試驗委員長ハ藥劑師試驗委員長ノ指揮ヲ承ケ學說試驗ノ實地試驗ヲ掌ル

第九條　藥劑師試驗主事ハ藥劑師試驗委員長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

藥劑師試驗主事ハ藥劑師試驗委員長ノ命ヲ承ケ其ノ庶務ヲ代理スルコトヲ得

第十條　藥劑師試驗ノ事務ニ關シ書記ヲ置キ內務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十一款　醫術開業試驗委員

勅令明治二十二年五月六日第六十二號

醫術開業試驗委員組織權限

第一條　醫術開業試驗委員組織權限ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第二條　醫術開業試驗委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ醫術開業試驗ヲ行フモノトス

第三條　醫術開業試驗委員ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス

試驗委員長

試驗委員

宮內省侍醫

陸海軍軍醫

陸海軍藥劑官

帝國大學及高等中學校教官

其他醫師藥科醫及理化學家

書記　內務屬ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　試驗委員長及試驗委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

委員ノ任期ハ四箇年トス

委員ハ滿期後再任セラルルコトヲ得

第四條　試驗委員長ハ醫術開業試驗一切ノ事務ヲ處理ス可シ

委員長事故アルトキハ內務大臣ヨリ委員中ニ就キ代理ヲ命スルコトアル可シ

第五條　試驗委員長ハ試驗了ルノ後試驗委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタルモノニハ直ニ及第證書ヲ與フ可シ

及第證書ニハ試驗委員長署名ス可シ

第六條　試驗委員長ハ試驗了ルノ後其成績ヲ內務大臣ニ報告ス可シ

第七條　書記ハ醫術開業試驗ノ事務ニ關シ試驗委員長ノ指揮ヲ受ケ文書計算ニ從事ス

第九章　大藏省

勅令明治二十六年十月三日第大藏省官制ノ改正

十日第百三十五號

大藏省官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ會計、出納、租稅、國債、貨幣、預金、保管物及銀行ニ關スル事務ヲ管理シ府縣郡市町村及公共組合ノ財務ヲ監督ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ揭クルモノノ外左ノ事務ヲ掌ル

一　銀行ニ關スル事項

二　貨幣ニ關スル事項

三　保護獎勵會社ノ會計監督ニ關スル事項

四　印紙類ノ出納保管ニ關スル事項

第三條　大藏省專任參事官ハ三人專任書記官ハ二人ヲ以テ定員トス

第四條　大藏省ニ左ノ三局ヲ置ク

主計局

主稅局

國債局

第五條　主計局長及主稅局長ハ勅任トシ國債局長ハ奏任トス

第六條　主計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　總豫算總決算ニ關スル事項

二　特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項

三　仕拂豫算ニ關スル事項

四　國庫簿ノ登記ニ關スル事項

五　歲入歲出現計書ノ調製ニ關スル事項

六　豫備金支出ニ關スル事項

七　定額超越ノ承認及定額展入年度開始前支出ニ關スル事項

八　收入支出ノ科目ニ關スル事項

九　國庫ノ出納管理監督ニ關スル事項

十　國庫ノ出納計算書ニ關スル事項

十一　出納官吏ノ監督及現元保證ニ關スル事項

十二　物品會計ニ關スル事項

十三　預金、保管物及供託物ニ關スル事項

第七條　主稅局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　國稅ノ賦課徵收ニ關スル事項

二　稅務ノ管理監督ニ關スル事項

三　民有地地租目變換ニ關スル事項

四　土地臺帳ニ關スル事項

五　稅關輸出輸入ノ狀況調査ニ關スル事項

六　外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スル事項

七　大藏省所管稅外諸收入ニ關スル事項

八　府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ諸收入ニ關スル事項

第八條　國債局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　國債ノ募集借入及償還ニ關スル事項

二　國債簿ノ登記ニ關スル事項

三　紙幣、國債證券、大藏省證券及借入證書ノ取扱ニ關スル事項

四　紙幣、國債證券及大藏省證券用紙ノ出納保管ニ關スル事項

五　國債計算書ノ調製ニ關スル事項

六　年金、恩給及賜祿ノ給與ニ關スル事項

七　國債元利金、國債取扱手數料、年金、恩給及賜祿ノ仕拂豫算ニ關スル事項

八　國債費ノ仕拂命令調製ニ關スル事項

九　偏斑償還金ニ關スル事項

十　國債、恩給及賜祿計算書ノ下檢査ニ關スル事項

十一　府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ公債ニ關スル事項

第九條　大藏省ニ主計官三人主稅官三人技師一人ヲ置ク奏任トス主計官ハ主計局ニ主稅官ハ主稅局ニ技師ハ大臣官房ニ屬シテ其ノ事務ヲ掌ル

第十條　大藏省屬ハ二百六十三人ヲ以テ定員トス

附　則

第十一條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第一款　造幣局

勅令　明治二十六年十月三十日第百三十六號　朕造幣局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

造幣局官制

第一條　造幣局ハ大阪市ニ置キ大藏大臣ノ管理ニ屬シ貨幣ノ鑄造、舊貨幣ノ鑄潰、賞牌ノ製造、地金銀ノ精製分析及諸試物ノ試驗ヲ掌ル

第二條　造幣局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長	一人	奏任
技師	四人	
屬	二十人	判任
技手	二十一人	

第三條　局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工務ヲ監理ス

第五條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス

第七條　東京市ニ造幣支局ヲ置キ地金ノ買入及代リ貨幣拂渡ノ事務ヲ分掌セシム

造幣支局長ハ大藏省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

附則

第八條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第二款　印刷局

勅令　明治二十六年十月三十日第百三十七號　朕印刷局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

印刷局官制

第一條　印刷局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ兌換銀行券、郵便切手、諸證券類ノ製造及諸印刷及抄紙ノ事ヲ掌ル

第二條　印刷局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長	一人	奏任
技師	三人	
屬	三十四人	判任
技手	六十人	

第三條　局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工務ヲ監理ス

第五條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス

附則

第七條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第三款　稅關

勅令　明治二十六年十月三十日第百三十八號　朕稅關官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

稅關官制

第一條　稅關ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　各開港ニ於ケル西洋形船舶及外國通航ノ日本形船舶ノ出入ニ關スル事項

二　貨物ノ輸出入ニ關スル事項

三　各開港外ニ於ケル外國貿易取締ニ關スル事項

四　各開港外ニ於ケル輸出入貨物搭載ノ船舶出入ニ關スル事項

五　海關稅及稅外諸收入ノ徵收ニ關スル事項

六　稅關管理ノ倉庫ニ關スル事項

第二條　左ノ六港ニ稅關ヲ置ク

武藏國横濱
攝津國神戸
攝津國大阪
肥前國長崎
渡島國函館
越後國新潟

第三條　前條稅關ノ外稅關ノ事務ヲ行フハキ場所ニ稅關出張所ヲ配置ス其ノ配置ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　各稅關ニ稅關長一人ヲ置ク奏任トス

大阪稅關長ハ神戸稅關長、新潟稅關長ハ新潟縣收稅長サシテ之ヲ兼テシム

第五條　各稅關ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

鑑定官	二人	奏任
屬	百七十四人	判任
鑑定吏	十二人	判任
監吏	二十六人	判任
監吏補	二百八十六人	判任

第六條　稅關長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ稅關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第七條　鑑定官ハ稅關長ノ指揮監督ヲ承ケ貨物檢査鑑定ノ事ヲ掌理ス

第八條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第九條　鑑定吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ貨物檢査鑑定ニ從事ス

第十條　監吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏補ヲ監督シテ密商脫稅ノ監視ニ從事ス

第十一條　監吏補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監吏ノ事務ヲ助ク

附則

第十二條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

勅令　明治二十六年十月三十日第百三十九號　朕稅關出張所及派出所設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

稅關出張所及派出所ヲ置キ其ノ名稱位置ヲ定ムルコト左ノ如シ

下ノ關神戸稅關出張所
宮津神戸稅關出張所
四日市大阪稅關出張所
門司長崎稅關出張所
博多長崎稅關出張所
唐津長崎稅關出張所
口ノ津長崎稅關出張所
三角長崎稅關出張所
熊原長崎稅關出張所
佐須奈長崎稅關出張所
鹿見長崎稅關出張所
那覇長崎稅關出張所
小樽函館稅關出張所
釧路函館稅關出張所
室蘭函館稅關出張所
夷港新潟稅關出張所
伏木新潟稅關出張所
築地横濱稅關派出所
長門國赤間關
丹後國宮津
伊勢國四日市
豐前國門司
筑前國博多
肥前國唐津
肥前國口ノ津
肥後國三角
對馬國嚴原
對馬國佐須奈
對馬國鹿見
琉球國那覇
後志國小樽
釧路國釧路
膽振國室蘭
佐渡國夷
越中國伏木
武藏國東京

附則

本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第四款　廣島鑛山

勅令　明治二十六年十月三十日第百四十號　朕廣島鑛山官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

廣島鑛山官制

第一條　廣島鑛山ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ廣島鑛山ノ事業經營ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　廣島鑛山ニ左ノ職員ヲ置ク

管理長	一人	
技師		
技手		

第三條　管理長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ廣島鑛山一切ノ事務ヲ管理ス

第四條　理事ハ管理長ノ指揮監督ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ掌ル

第五條　管理長ハ廣島縣知事、理事ハ廣島縣書記官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條　技師ハ一人ヲ以テ定員トス管理長ノ指揮監督ヲ承ケ工務ヲ監理ス

第七條　技手ハ十二人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス

附則

第八條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第五款　貨幣制度調査會

勅令　明治二十六年十月十四日第百十三號　朕貨幣制度調査會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貨幣制度調査會規則

第一條　貨幣制度調査會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シ左ノ事項ヲ調査審議ス

一　近時金銀價格變動ノ原因及其ノ一般ノ結果
一　近時金銀價格變動ノ我邦經濟上ニ及ボス影響
一　近時金銀價格ノ變動ハ我邦現行貨幣制度ヲ改正スヘキ必要アルヤ否若シ其ノ必要アリトスルトキハ新ニ採用スヘキ貨幣本位及其ノ施行方法

第二條　貨幣制度調査會ハ左ノ人員ヲ以テ之ヲ組織ス

一會長	一人
一副會長	一人
一委員	二十人

第三條　會長副會長及委員ハ高等行政官帝國大學教授帝國議會議員其ノ他通貨ニ關シ學識經驗アル者ノ中ヨリ選定シ大藏大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　貨幣制度調査會ノ議事及會務整理ニ關スル規則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五條　會長ハ議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ大藏大臣ニ具申ス

會長事故アルトキハ副會長ヲシテ事務ヲ代理セシム

第六條　貨幣制度調査會ニ幹事ヲ置キ大藏省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケテ庶務ヲ整理ス

第七條　貨幣制度調査會ニ書記ヲ置ク會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ議事ノ筆記及庶務ニ從事ス

第八條　會長副會長委員幹事及書記ニハ一箇年三百圓以下ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十章　陸軍省

勅令　明治二十六年八月三十日第九十一號　朕陸軍省官制ノ改正ヲ

第十二條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第十三條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第十四條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第十五條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第十六條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第十七條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第十八條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第十九條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第二十條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十一條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第二十二條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十三條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第二十四條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十五條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第二十六條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十七條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第二十八條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十九條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第三十條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十一條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第三十二條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十三條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第三十四條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十五條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第三十六條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十七條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第三十八條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十九條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第四十條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第四十一條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第四十二條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第四十三條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第四十四條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第四十五條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第四十六條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第四十七條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第四十八條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第四十九條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第五十條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第五十一條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第五十二條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第五十三條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第五十四條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第五十五條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第五十六條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第五十七條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第五十八條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第五十九條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第六十條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第六十一條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第六十二條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第六十三條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第六十四條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第六十五條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第六十六條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第六十七條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第六十八條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第六十九條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第七十條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第七十一條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第七十二條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第七十三條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第七十四條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第七十五條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第七十六條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第七十七條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第七十八條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第七十九條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第八十條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第八十一條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第八十二條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第八十三條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第八十四條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第八十五條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第八十六條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第八十七條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第八十八條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第八十九條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第九十條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第九十一條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第九十二條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第九十三條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第九十四條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第九十五條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第九十六條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第九十七條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第九十八條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第九十九條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百一條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百二條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百三條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百四條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百五條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百六條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百七條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百八條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百九條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百十條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百十一條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百十二條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百十三條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百十四條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百十五條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百十六條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百十七條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百十八條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百十九條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百二十條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百二十一條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百二十二條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百二十三條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百二十四條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百二十五條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百二十六條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百二十七條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百二十八條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百二十九條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百三十條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百三十一條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百三十二條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百三十三條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百三十四條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百三十五條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百三十六條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百三十七條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百三十八條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百三十九條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百四十條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百四十一條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百四十二條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百四十三條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百四十四條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百四十五條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百四十六條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百四十七條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百四十八條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百四十九條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百五十條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百五十一條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百五十二條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百五十三條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百五十四條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百五十五條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百五十六條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百五十七條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百五十八條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百五十九條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百六十條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百六十一條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百六十二條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百六十三條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百六十四條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百六十五條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百六十六條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百六十七條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百六十八條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百六十九條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百七十條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百七十一條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百七十二條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百七十三條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百七十四條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百七十五條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百七十六條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百七十七條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百七十八條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百七十九條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第百八十條　陸軍省ニ法官部ヲ置キ法官部ハ法官部長及書記ヲ以テ之ヲ組織ス

第百八十一條　法官部長ハ法官部ノ事務ヲ掌理シ書記ハ法官部長ノ命ヲ受ケテ法官部ノ事務ヲ掌ル

第一款　獸醫學校

勅令　明治二十六年五月三日第二十六號　陸軍獸醫學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍獸醫學校條例

第一條　陸軍獸醫學校ハ陸軍獸醫部士官並陸軍騎砲輜重兵蹄鐵工長下長ヲ召集シテ學生トナシ其學術ヲ講究セシメ又陸軍騎砲輜重兵蹄鐵工卒ヲ召集シテ學生トナシ之ニ蹄鐵工下長タルノ伎倆ヲ養成シ並獸醫部士官候補生ヲ教成スル所トス

第二條　本校ハ陸軍省軍務局長ノ管理ニ屬ス

第三條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　騎砲輜重兵尉官

教官　騎兵少佐　一二等獸醫

軍醫

第四條　前條ニ掲クル職員ノ外屬下士並技手ヲ置ク

第五條　校長ハ軍務局長ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第六條　士官學生ノ學期ハ概子五箇月下士學生ノ學期ハ概子三箇月兵卒學生ノ學期ハ概子九箇月トシ毎年各一回召集ス

第七條　學生ノ人員及召集時期ハ陸軍大臣之ヲ告達ス

第八條　前條ノ告達アルトキハ士官學生ハ所管長官下士及兵卒學生ハ當該隊長之ヲ選定シ入校期十日前迄ニ其兵籍ニ考科表ヲ添ヘ校長ニ送附スヘシ　但兵卒學生ハ下士志願ノ蹄鐵工卒中適當ノ者ヲ選定スルモノトス

第九條　學生ノ願屬其他業務ニ關スル件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十條　學生ハ情願ヲ以テ隨意又ハ退校スルヲ許サス疾病其他ノ事故ニヨリ修得若クハ卒業ノ目的ナキ者ハ原所管ヘ復歸セシムルコトアルヘシ

第十一條　士官下士學生學期ノ末ニ於テ校長ハ修學中ノ成績ヲ調査シ列序ヲ定メ修得證則書ヲ與シ兵卒學生學期ノ末ニ於テ終末試驗ヲ施行シ及第スル者ニハ卒業證書ヲ附與ス

第十二條　士官學生ハ校外ニ下士兵卒學生ハ校內ニ住居セシム

但下士學生中現今營外居住ノ者ニ限リ校外ニ居住セシム

第十三條　蹄鐵術所要ノ馬匹ハ陸軍乘馬學校ノ校馬治療術所要ノ馬匹ハ府下陸軍諸學校及各隊ノ重症病馬ヲ以テ充ツルモノトス

但蹄鐵術所要ニ限リ近衛第一師團或馬隊軍大學校陸軍士官學校校馬ヲ以テ之ニ充ツルヲ得

第十四條　學生所要ノ書籍、器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第十五條　獸醫部士官候補生ニ關スル事項ハ陸軍獸醫部現役士官補充條例ニ據ル

附則

第十六條　明治二十一年（六月）勅令第四十二號陸軍蹄鐵學舍條例同第五十號陸軍重症病馬治療所官制ハ廢止ス

第二款　經理學校

勅令　明治二十三年十一月一日第二百六十五號　陸軍經理學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍經理學校條例

第一條　陸軍經理學校ハ陸軍監督及陸軍軍吏ヲ養成スル所トス

第二條　本校ノ教育ヲ分テ監督教育科及軍吏教育科トス

第三條　本校ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍省經理局長ノ管理ニ屬ス

第四條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　二等軍吏

副官　一二等軍吏

教官　參謀中少佐若クハ大尉

同　二三等監督、監督補

同　騎兵科大尉

同　一二等軍吏

同　陸軍教授及陸軍技師

第五條　校長ハ陸軍省經理局長ニ隸シ校務ヲ總理シ教育ノ方法ヲ規畫シ及學生教育ノ責ニ任ス

第六條　副官ハ庶務ヲ擔任ス其下ニ陸軍屬ヲ置ク

第七條　教官ノ內參謀官ハ監督教育科軍吏ハ軍吏教育科ノ教授ヲ擔任シ其他ハ總テ兩教育科ノ教授ヲ擔任ス但教官ハ副官ニ從事セシムルコトアルヘシ

監督教育科

第八條　監督教育科ハ各兵科中尉ノ志願者ヲ募リ監督學生ト爲シ陸軍監督ニ必要ナル學術ヲ教授ス

一二等軍吏ニシテ學術才能衆ニ超ユル者ハ選抜シテ特ニ監督學生ト爲スコトヲ得

第九條　監督學生ノ修學期ハ二箇年トス

第十條　監督學生ノ入學時期並召集ニ係ル規則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十一條　監督學生ノ人員及入學試驗條例ハ經理局長ノ申稟ニ因リ毎年陸軍大臣之ヲ定ム

第十二條　監督學生ハ校外ニ居住シ通學セシム

修學上所要ノ器械及書籍消耗品ハ之ヲ貸與シ又ハ支給ス

第十三條　監督學生ノ名籍ハ原所管ニ存置シ尚ホ入學中ハ本校ノ管轄ニ屬ス故ニ自己ノ願屆等ハ總テ本校ノ官條ニ準ス又原所管ヨリ本人ニ達ス可キ諸件ハ必ス本校長ヲ經由スルモノトス

第十四條　監督學生修學中卒業ノ目途ナキ者ハ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十五條　監督學生ハ毎學年ノ末ニ大試驗ヲ施行シ第二學年ノ末ニ於テ及第スル者ニハ監督適任證書ヲ附與シ原所管ニ復歸セシメ所要ニ當リ列序ニ從ヒ陸軍監督補ニ任ス

中尉ニシテ右適任證書ヲ有スル者ハ本人ノ願ニ因リ所管地ノ監督部ニ於テ實務ヲ見學スルコトヲ許ス但其旅費ハ自辨トス

第十六條　監督學生修學中傷痍疾病ノ爲メ大試驗ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ詮議ノ上尚ホ若干月修學ヲ許シ又ハ特ニ本人ノ爲メニ大試驗ヲ施行スルコトアル可シ

軍吏教育科

第十七條　軍吏教育科ハ一等書記ノ內ヨリ選拔シ並各兵科曹長ノ志願者ヲ募リ軍吏學生ト爲シ陸軍軍吏ニ必要ナル學術ヲ教授ス

第十八條　營內居住ノ曹長ニ在リテハ入學中營外居住トス

第十九條　軍吏學生ノ修學期ハ十箇月トス

第二十條　第十條乃至第十四條及第十六條ハ軍吏學生ニ適用ス

第二十一條　軍吏學生ハ學期末ニ於テ大試驗ヲ施行シ及第スル者ニハ軍吏適任證書ヲ附與シ原所管ニ復歸セシメ所要ニ當リ列序ニ從ヒ本官ヲ免シ更ニ陸軍三等軍吏ニ任ス

曹長ニシテ右適任證書ヲ有スル者ハ本人ノ願ニ因リ所管地ノ監督部ニ於テ實務ヲ見學スルコトヲ許ス但其旅費ハ自辨トス

第三款　被服工長學舍

勅令　明治二十三年三月十八日第三十號　陸軍被服工長學舍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍被服工長學舍條例

第一條　陸軍被服工長學舍ハ陸軍省經理局長ノ管理ニ屬シ陸軍縫工長靴工長ト爲ルヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條　本舍ニ左ノ職員ヲ置ク

學舍長　陸軍一等軍吏

第三條　學舍長ハ陸軍省經理局長ニ隸シ舍務ヲ經理シ學生教官技術進歩ノ責ニ任ス

第四條　〔削除〕

第五條　〔削除〕

第六條　第二條ニ掲クル職員ノ外下士屬ヲ置ク教員ハ傭員及ヒ傭人ヲ以テ之ニ充ツ

第七條　〔削除〕

第八條　學生ハ現役豫備役後備役ノ務ニ在ル兵卒中志願ノ者ニシテ檢査合格ノ者ヨリ之ヲ採用ス

第九條　學生ハ修業期限ハ概子一箇年半トス

第十條　學生ノ人員及ヒ檢査格例ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ告達ス

第十一條　學生ハ舍內ニ居住セシメ修業用品ハ之ヲ貸與或ハ支給ス

豫備役後備役ノ務ニ在ル者ハ糧食被服及手當金ヲ給ス

第十二條　學生ノ願屆其他業務ニ關スル件ハ總テ學舍長ノ管理ニ屬ス

第十三條　學生修業中品行不正或ハ軍紀ヲ違守セス又ハ應々法則ヲ犯シ若クハ疾病其他ノ事故ヲ以テ卒業ノ目途ナキ者及ヒ勝來工長ノ任ニ堪ヘサル者ハ之ヲ退舍シ其現役ノ者ハ原隊ニ豫備役後備役ノ者ハ原籍ニ復歸セシム

第十五條　疾病ノ故ヲ以テ缺課多キモノハ醫師ノ診斷ニ依リ學舍長ノ意見ヲ以テ學期ヲ延ルコトアルヘシ但經理局長ノ認可ヲ請フヘシ

第十六條　學生卒業ノ上ハ縫工長靴工長適任證書ヲ授與シテ歸隊或ハ歸郷セシム

第十七條　學生從等ノ者ハ學期未滿ト雖モ工長適任證書ヲ與ヘ教員ノ助手ニ充ツルコトヲ得

第四款　被服廠

勅令　明治二十三年三月二十七日第五十八號　陸軍被服廠條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍被服廠條例

第一條　陸軍被服廠ハ東京ニ之ヲ置キ軍隊及官部ニ給スル被服地質ノ調査分配並豫備被服及地質ヲ貯藏スル所トス

第二條　被服廠ニ左ノ職員ヲ置ク

主管　一人

被服官　一等軍吏　一人　二三等軍吏　二人

第三條　主管ハ經理局長ニ隸シ廠務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

第四條　被服官ハ主管ノ命ヲ承ケ事務ニ服行ス

第五條　第二條ニ掲クル職員ノ外軍吏部下士若クハ屬ヲ置ク

第五款　軍醫學校

勅令　明治二十六年七月六日第六十七號　陸軍軍醫學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍醫學校條例

第一條　陸軍軍醫學校ハ衛生部上長官士官ヲ召集シテ學生トシ軍陣衛生學、軍陣醫學及之ニ聯係スル學術ヲ實驗講究セシメ且軍陣衛生試驗ヲ行フ所トス

第二條　本校ハ陸軍省醫務局長ノ管理ニ屬ス

第三條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　一人
副官　一人
教官　若干人
一等軍醫正
一等軍醫
衛生部上長官士官

第四條　校長ハ醫務局長ニ隷シ校務ヲ總理ス

第五條　副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍屬ヲ置ク

第六條　教官ハ其專門學科ノ教授及衛生試驗ヲ掌ル

第七條　學生ノ學期ハ四箇月以内トシ毎年二回召集ス其人員及時期ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第八條　學生ノ名籍ハ原所管ヲ離ルルコトナシト雖モ召集中ハ本校ノ管理ニ屬ス

第九條　學生召集中ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルコトヲ許サス疾病其他ノ事故ヲ以テ修得ノ目的ナキ者ハ原所管ニ復歸セシムルコトアルヘシ

附則

第十條　舊條例中衛生部士官候補生ニ係ル事項ハ明治二十六年七月三十一日迄舊條例ニ據ル

第六款　衛生會

勅令　明治二十一年十二月二十四日第九十五號　陸軍衛生會議條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍衛生會議條例

第一條　陸軍衛生會議ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍省醫務局長ニ隷シ陸軍ノ衛生事項ヲ議定スル所トス

第二條　會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長　一人
軍醫監
事務官（一等軍醫若クハ二等軍醫）　二人
議員

第三條　議長事務官ハ各本職アル者ヲ以テ兼補ス

第四條　議員ハ衛生部上長官ニシテ本職アル者ヲ以テ兼補ス但第五條第二項ノ事ヲ議スルニ方リ監督局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ各兵科並ニ醫務局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ陸軍教授陸軍技師ニ臨時議員ヲ命セラレンコトヲ陸軍大臣ニ具申シ陸軍大臣ニ於テ之ヲ命ス臨時議員ハ其議事ヲ了レハ直ニ解任スルモノトス

第五條　議事ヲ別テ二種トス

一　衛生部内又ハ醫學的ニ關スル事項

二　軍部一般ニ渉ル衛生ノ事項

第六條　議長ハ議事ヲ整理シ會議諸般ノ事務ヲ總理ス

第七條　事務官ハ會議ニ關スル庶務ヲ分擔ス

第八條　議事ニ當リ議長不在ナルトキハ議員中衛生部上長官ニシテ高級ノ者議長ノ代理ヲ爲スヘシ

第九條　議案ハ醫務局長ヨリ發スルモノ又ハ會議ノ立案ヨリ成ルモノトス但會議ノ立案ニ關ルモノハ豫メ醫務局長ノ承認ヲ受クヘシ

第十條　凡ソ議事ハ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十一條　議決ノ上ハ其議決書ヲ醫務局長ニ進達スルモノトス

第十二條　物件ノ試驗又ハ調査等設置ノ爲メ費用ヲ要スルトキハ其理由ヲ添シ豫算書ヲ添ヘテ醫務局長ニ具申スヘシ

第十三條　會議常用ノ器物品ハ醫務局ヨリ之ヲ支給ス

第七款　病院

陸軍省陸達　明治二十一年十一月二十九日第二百二十三號　明治八年（十月）達第九十七號　陸軍病院條例別冊ノ通改正ス

但明治十九年（三月）省令乙第十六號陸軍軍醫官職務章程廢止ス

陸軍病院條例目錄

第一章（缺）
第二章　衛戍病院
第三章　衛戍地外ノ病院
第四章　病室
陸軍病院條例

第一章（缺）

第一條　陸軍病院トハ衛戍病院及衛戍地外ノ病院ヲ總稱シ其他小部隊ノ駐屯地ニ在ル病室ヲ包含ス

第二條　平時陸軍病院ニ於テ治療ヲナスヘキ者左ノ如シ

一　營内居住ノ下士以下

二　營内居住ノ下士以下ニシテ現役、服役若クハ生徒ヲ免セラレ又ハ召集解散ノ際傷痍疾病ニ依リ歸鄉シ得サル者

三　營外居住ノ軍人軍屬ニシテ傷痍疾病ニ罹リ特ニ入院治療ヲ請求シタル者

第三條　第二條第一項ノ者ニ在テハ治療ニ關スル諸費ハ病院ノ費用トシ糧食ハ陸軍給與令第四章第二十六條第一項ニ據ル但一年志願兵條例第五條第二項ノモノハ此限ニアラス

第四條　第二條第二項ノ者並第三項ノ内公務ニ起因シタル者ニ在テハ治療ニ關スル諸費及糧食トモ病院ノ費用トス

第五條　第二條第三項ノ内公務ニ起因セサル者及一年志願兵條例第五條第二項ニ當ル者ノ治療ニ關スル諸費ハ定額ヲ納メシメ糧食ハ本人ヨリ陸軍給與令第九表ノ定額ニ依リ之ヲ辨償セシム但下士兵卒及生徒ニ在テハ其治療ニ關スル諸費ニ限リ病院ノ費用トス

第六條　軍人軍屬ニシテ演習若クハ行軍若クハ軍隊旅行中傷痍病ニ罹リタル者ヲ地方醫師若クハ地方病院ニ依託シタルトキ其診斷料治療費又ハ入院料ハ陸軍病院ヨリ實費ヲ支辨ス但本人ノ便宜ニ依リ地方醫師若クハ地方病院ノ治療ヲ受クル者ハ此限ニアラス

第七條　（刪除）

第八條　藥局アラサル地方又ハ調藥師アルモ止ムヲ得サル場合ニ在テハ軍人軍屬ニ限リ軍醫ノ處方箋ヲ以テ藥劑等ヲ特ニ請求シタルモノアルトキハ陸軍病院ヨリ之ヲ與フルコトヲ得但傷痍疾病公務ニ起因スルコトヲ證明スルモノノ他ハ其定額ヲ納メシム

第二章　衛戍病院

第九條　衛戍病院トハ衛戍地ニ在ル病院ニシテ某（地名）衛戍病院ト稱ス

第十條　衛戍病院ニハ教育所ヲ置キ看護學修業兵ヲ教育ス其規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條　各隊及官廳附ノ一二三等軍醫ハ所屬部隊ノ勤務ト所在地病院ノ勤務ニ服ス其病院勤務ニ於テハ病院專屬ノ醫官ト異ナルコトナシ

師團司令部所在地ノ歩兵聯隊附軍醫正ハ所屬部隊ノ勤務ト病院ノ勤務ニ服ス其病院勤務ニ就テハ院長ニ隷シ若干ノ病室ヲ分擔シテ治療其他事務ヲ掌理シ兼テ一等軍醫以下ノ勤務ヲ監視ス而シテ管掌ノ事ニ就テハ院長ニ對シ其責ニ任ス

第十二條　衛戍病院ニハ看病人廚工廚夫ヲ雇役ス其人員ハ別ニ定ム

第十三條　院長ハ衛戍司令官タル團隊長ニ隷シテ院内百般ノ事務ヲ總理シ患者ノ治療ヲ主宰シ軍紀風紀ヲ維持シ部下官僚ヲ指揮シテ各其職務ヲ分擔セシメ又下士以下ノ訓導教育ヲ掌リ且會計經理ノ事ヲ管理ス

第十四條　院長ハ會計經理上ノ事ヲ問衛ニ勘査シ勉メテ諸事ヲ節略シ冗費ヲ省クヘシ而シテ毎月會計經理ノ書類ヲ實査スルモノトス

第十五條　院長ハ衛生及教育ノ事ニ就テハ所管軍醫長ノ指揮ヲ承ケ會計經理ノ事ニ關シテハ所管監督部長ノ區處ヲ承ク

第十六條　院長ハ事務ノ得失並ニ職員品ノ精粗適否ニ就テハ官僚ヲ會シ自カラ議長トナリ之ヲ議セシムルモノトス

第十七條　院長ハ治療其他事務ノ整否ヲ監察シ若シ不整頓ノ事ヲ認ムルトキハ主任者ヲ督責スヘシ

第十八條　院長ハ各隊及官廳附醫官ノ病院勤務表ヲ調製シ毎月五日ヲ限リ所管軍醫長（近衛各隊附醫官ノ分ハ近衛軍醫長）ニ進達スヘシ

院長ハ病院勤務ニ服スル各隊及官廳附醫官ノ才能伎倆其他勤務上ニ係ル事項ヲ詳悉シ考科ノ用ニ供スル爲メ毎年末之ヲ所管軍醫長（近衛各隊附醫官ノ分ハ近衛軍醫長）ニ開申スヘシ

第十九條　院長ハ院内患者ノ景況ヲ時々所管軍醫長ニ開陳シ又治療ノ方法ニ就キ軍醫長（近衛ノ患者ハ近衛軍醫長）ニ照議スルコトヲ得

第二十條　院長不在ノトキハ病院所在地ノ高級醫官之カ代理ヲナスヘキモノトス

第二十一條　一等軍醫ハ院長ノ指揮ヲ承ケ患者ノ治療院中ノ事務ヲ擔任ス

一等軍醫掌務ノ概目左ノ如シ

其一　病室ニ於テ掌ル事項

一　患者ノ治療
二　處方箋ノ監視
三　病床日誌ノ調製
四　月報及年報ニ係ル編纂材料ノ調査
五　病室内外洒掃ノ注意
六　患者ノ食物、入浴、散歩等ノ示定
七　擔當ノ病室附看護長ノ訓導看病人ノ教育及其勤務行狀ノ監視

其二　事務室ニ於テ掌ル事項

一　具申願書等文書ノ起草淨書
二　日記ノ記注及文書ノ受領送達
三　患者入退院ノ取扱
四　外來患者ノ診斷
五　診斷書ノ調製
六　院内一般ノ衛生及其調査並衛生報告ノ調製
七　病床日誌及處方箋ノ保存
八　繃帶材料ノ調製

九　看護學修業兵ノ教育ニ關スル事
十　院中人事ニ關スル事
十一　書籍ノ出納
十二　臨時副病院ノ開設ニ關スル事
十三　勤惰錄及門衛ノ監守

第二十二條　一等軍醫ハ治療ヲ擔任スト雖トモ大手術ヲ行フヘキ患者アルトキハ二等軍醫正若クハ他ノ一等軍醫ニ商議シタル後院長ニ照議ノ上之ヲ行フヘキモノトス但急ヲ要スル場合ニ在テハ此限ニアラス

第二十三條　一等軍醫ハ二三等軍醫ト混同シテ輪次二十四時間ノ當直ヲナスヘシ而シテ當直ノ醫官ハ午後各病室ヲ回診シ且臨時ノ事ヲ處理スルモノトス但當直人員ハ院長適宜之ヲ定ムヘシ

第二十四條　二三等軍醫ハ一等軍醫ヲ補助シ分擔ノ事務ニ服ス而シテ一等軍醫不在ノトキハ其事務ヲ代理ス

二三等軍醫ハ看護長以下ヲ監視シ患者ヲシテ病室ノ規則ヲ遵守セシムヘシ

病院專屬ノ二三等軍醫ハ毎朝軍醫回診前看護長ヲ隨ヘ擔當ノ室ヲ回診シ前日來ノ症狀ヲ病床日誌ニ記注シ置クモノトス

第二十五條　藥劑官ハ院長ノ指揮ヲ承ケ調劑及藥物器械等ニ係ル事務ヲ整理シ兼テ調劑手ノ訓導ヲ掌ル

藥劑官ハ輪次二十四時間ノ當直ヲナスヘシ但一名ナルトキハ院長適宜ニ之ヲ定ムヘシ

藥物及治療消耗品其他治療器械調劑器械等缺乏又ハ破損スルトキハ其買辨及修理スヘキ品目數額ヲ傳票ニ記載シ調印ノ上院長ノ檢印ヲ請ケ物品會計官吏ニ移スヘシ其物品ヲ受領シタルトキハ藥劑官掌務ノ概目左ノ如シ但師團司令部所在地外ノ病院ニ在テハ兼テ其所在地ニ於ケル各隊ノ調劑ヲ掌ル

一　藥物及治療消耗品ノ貯蓄出納及治療器械調劑器械ノ保存修理
二　調劑製藥及藥品鑑定、理化學的檢査
三　院內（東京衛戍病院ニ在テハ袋村病室ヲ包含ス）及所在地各部隊（熊本衛戍病院ニ在テハ沖繩分遣歩兵隊長崎分遣砲兵隊病室ヲ包含シ東京衛戍病院ニ在テハ砲兵射的學校要塞砲兵幹部練習所病室ヲ包含ス）ニ藥物及治療消耗品治療器械調劑器械ノ配與及器械ノ修理交換
四　藥物及治療消耗品治療器械調劑器械等ノ計算並報告
五　出師準備ノ物品ヲ突新スル事項
六　歯工ノ研磨修理ニ係ル事項
七　見習藥劑官及調劑手ノ訓導並勤務行狀ノ監視

第二十六條　軍吏ノ服務ハ別ニ定ムル所ニ據ルトヽ雖トモ病院ニ於ケル掌務ノ概目左ノ如シ

一　經費ニ係ル計算及統計報告
二　支出金ノ請求收入金ノ納付
三　患者自辨ノ治療ニ關スル諸費及糧食費ノ領收
四　藥物及治療消耗品、治療器械、調劑器械費辨修理
五　消耗品其他備附器具ノ買辨修理
六　糧食給與並傷病ニ關スル事
七　被服給與及買辨修理
八　厨夫洗濯夫及縫裁職工（師團司令部所在地外ノ病院ニ在テハ洗濯夫及縫裁職工ヲ除ク）ノ使役ニ關スル事
九　戰時用患者ノ被服器具等ノ保存並其被服器具及消耗品等ヲ平時ニ使用スル事項
十　病院附下士以下給與ニ關スル事項

第二十七條　下士以下ハ上官ノ命ヲ奉シ左ニ掲クル所ノ各項ニ就キ各長事ニ服ス

其一　看護長ノ職務ヲ別チ書記及補充用教育所附トスルトキハ其職務ハ左ノ如シ

一　書記看護長ハ文書ノ受領送達諸記錄ノ記注等ニ從事ス
二　病室附一等看護長ハ若干ノ病室ヲ擔當シ所屬二三等看護長ノ勤務行狀ヲ監視シ上官ノ命令ヲ傳達シ諸則ヲ遵奉セシメ看護ノ親疎病室ノ整頓ニ注意シ且看病人ノ教育ヲ掌リ並ニ看病人服裝ノ取締ヲナスヘシ又二三等看護長ハ所附看病人ノ勤務行狀ヲ監視シ上官ノ命令ヲ傳達シ諸則ヲ遵奉セシメ又患者ノ看護、諸物品ノ出納並保存、病室ノ清潔、看病人ノ教育等ニ從事ス
三　教育所附看護長ハ教場ヲ整頓シ備附器具ノ保存、諸物品ノ出納及看護學修業兵ノ取締ニ從事ス

其二　調劑手ノ職務ヲ別チ器械室附藥室附トス而シテ其職務ハ左ノ如シ

一　器械室附調劑手ハ治療器械調劑器械及補品等ノ出納並ニ之ニ係ル諸記錄ノ記注ニ從事ス
二　藥室附調劑手ハ調劑製藥ノ助手ヲナシ且藥物出納ニ係ル諸記錄ノ記注ニ從事ス

其三　軍吏部書記ハ醫部ノ記錄及其他計算等ニ從事ス

其四　看病人ハ看護長ノ命令ヲ確守シ患者ヲ看護シ且病室內外ノ洒掃、患者ノ食物配與等ニ從事ス

其五　歯工ハ治療器械及調劑器械ノ研磨及修理ニ從事ス

其六　厨夫ハ患者ノ炊爨ニ從事シ且師團司令部所在地ノ病院ニ在テハ看護學修業兵ノ炊爨ニモ亦從事スヘキモノトス

第三章　衛戍地外ノ病院

第二十八條　衛戍地外ノ病院ハ其所要地ニ置キ該地官衙ノ管轄ニ屬シ某（官衙）病院ト稱ス

第二十九條　院長以下ノ職務ハ第十一條ノ第一項及第十二條乃至第二十七條ヲ適用ス

第三十條　院長ハ第二十九條ノ外所在地部隊ノ衛生事務及衛生部下士以下ノ教成上ヲ監視シ且諸事ヲ盡一ナラシムルコトニ注意スヘシ而シテ其事項ニ就テハ所管軍醫長ノ指揮ヲ受ク

第四章　病室

第三十一條　病室ハ歩兵一聯隊ニ充タサル衛戍地及砲兵射的學校要塞砲兵幹部練習所沖繩分遣歩兵隊長崎分遣砲兵隊ニ置ク

第三十二條　病室ハ某（地名）衛戍病室ト稱ス但砲兵射的學校要塞砲兵幹部練習所沖繩分遣歩兵隊及長崎分遣砲兵隊ニ在テハ某校所（隊）病室ト稱スヘシ

第三十三條　病室ハ其地衛戍司令官タル隊長（砲兵射的學校要塞砲兵幹部練習所沖繩分遣歩兵隊長崎分遣砲兵隊病室ハ其長以下之ニ倣フ）ノ管轄ニ屬スルモノトス

第三十四條　病室ノ事務ハ所在地部隊ノ衛生部長之ヲ掌リ會計ノ事務ハ部隊ノ軍吏部員之ヲ掌ル（分遣隊ノ會計事務ハ該隊ニ之ヲ委托セシム）

第三十五條　〔削除〕

第三十六條　高級醫官ハ衛戍司令官タル隊長ニ隸シテ病室ノ事務ヲ總理シ患者ノ治療ヲ擔任シ軍紀風紀ヲ維持シ傷病ヲ指揮シテ各其職務ヲ分掌セシメ又下士以下ノ訓導教育ヲ掌リ且會計經理ノ事ヲ管理ス

砲兵射的學校要塞砲兵幹部練習所沖繩分遣歩兵隊長崎分遣砲兵隊病室ノ會計經理ハ其長之ヲ管理ス

第三十七條　高級醫官ハ衛生及教育ノ事ニ就テハ所管軍醫長ノ指揮ヲ承ケ會計經理ノ事ニ關シテハ所管監督部長ノ區處ヲ承ク

第三十八條　高級醫官ハ（衛戍地外ノ病室ヲ除ク）醫官ノ病室勤務表ヲ調製シ毎月五日ヲ限リ所管軍醫長ニ進達スヘシ

第三十九條　病室ニ於テ行ヒ難キ治療ヲ要スル患者アルトキハ最近ノ陸軍病院ニ之ヲ委托スルコトヲ得

第四十條　當直ハ患者ノ狀況ニ依リ所屬醫官便宜之ヲ爲スヘシ

第四十一條　病室事務ノ概目左ノ如シ

一　日記ノ記注及文書ノ收發送達
二　患者入退室ノ取扱
三　外來患者ノ診斷
四　診斷書ノ調製
五　衛生報告ノ調製
六　病床日誌及處方箋ノ調製並保存
七　書籍ノ出納勤惰錄ノ監守
八　蒸地療養及臨時副病室ノ開設ニ關スル事項
九　病室及所在地部隊ノ調劑藥物及治療消耗品、治療器械、調劑器械ニ關スル事項

十一　下士以下ノ訓導教育ニ關スル事項
十二　以上概目ノ外第十九條及第二十四條乃至第二十七條ニ準據スルコトヽ

第八款　東宮武官

勅令　明治二十四年六月十二日第六十一號

東宮武官ノ職制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東宮武官職制

第一條　東宮武官長武官ハ記ノ其定員左ノ如シ

東宮武官長	一人
陸軍將官	一人
陸軍佐官	一人
陸軍尉官	三人

第二條　東宮武官長ハ　皇太子殿下ニ常侍奉仕シ且東宮武官ハ　皇太子殿下ニ從フ

第三條　東宮武官ハ　皇太子殿下ニ常侍奉仕シ且他祭儀禮典宴會諸事ニ關スル事項ヲ輔翼シ儀禮祭儀ヲ輔助シ親兵演習行幸其軍務ナ輔翼シ儀禮祭儀ヲ輔助シ親兵演習行幸其他祭儀禮典宴會諸事ニ關從スルヲ任トス

第四條　東宮武官長武官ハ行啓祭儀饗宴會諸見等ノ事項ニ於テハ宮內省ノ規則ヲ遵奉スヘシ

第五條　東宮武官長ハ武官ノ勤務細則ヲ定ス

第九款　衛戍條例

勅令　明治二十一年五月十二日第三十號

陸軍衛戍條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

衛戍條例

第一條　陸軍軍隊ノ永久一地ニ駐留駐屯スルヲ衛戍ト稱シ其地所在ノ最高級隊長之カ司令官タルモノトス

第二條　各衛戍地ニハ其所用ニ應シ病院、武庫、監獄ヲ置キ衛戍司令官ノ管轄トス

第三條　衛戍司令官ハ衛戍地警備ノ責ニ任シ衛兵ノ部署及ヒ其人員ヲ定ム

第四條　近衛兵ノ駐屯スル地ニ在テ衛戍司令官警備ニ關シ必要ト認ムル時ハ之ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第五條　衛兵ハ衛戍司令官ノ管轄ニ屬セスト雖モ衛戍司令官ハ衛兵ヲ指揮シテ地方ノ事情ニ關スル緊要ノ事件ヲ報知セシメ又火急ノ事變ニ際シテハ命令ヲ下シ臨事セシムルコトヲ得

衛戍病院職官表

位置	上長官	士官	下士	計
東京	長 一(二)等軍醫正 一	二(三)等軍醫 二 一(二)等藥劑官 五 二(三)等藥劑官 一 一(二)等軍吏 四	一等看護長 二 二(三)等看護長 六 一(二)等調劑手 一 二(三)等調劑手 四	五十二
仙臺 大阪 廣島 熊本	長 一(二)等軍醫正 一	一等軍醫 一 二(三)等藥劑官 三 一(二)等軍吏 一	一等看護長 三 二(三)等看護長 十 一(二)等調劑手 一 二(三)等調劑手 二	二十七
佐倉 青森 金澤 姫路 松山 福岡 丸亀 小倉	長 二等軍醫正 一	一等軍醫 一 二(三)等軍醫 一 二(三)等藥劑官 一	一等看護長 一 二(三)等看護長 二 一(二)等調劑手 一 二(三)等調劑手 一 二(三)等書記 一	九

備考　佐倉ヨリ小倉ニ至ル十二箇ノ病院長ハ所在地歩兵聯隊附二等軍醫正之ヲ兼職ス

衛戍武庫職官表

位置	主管官	士官	下士	計
東京 仙臺 名古屋 大阪 廣島 熊本	主管 大尉 一	準士官	火工(下)長 工(下)長 工(下)長	五

衛戍監獄職官表

位置	大尉	中尉	少尉	一等軍醫	曹長	一(二)等軍曹	一(二)(三)等書記	一(二)(三)等看護長	看守卒	計
東京	長 一	副長 一		看守長 書記 一	六 三	三	一	一	十八	廿四
大阪	長 一	副長 一		看守長 書記 一	四 二	二	一	十六	廿八	
仙臺 廣島 名古屋 熊本	長 一			看守長 書記 一	三 二	二	一	八	十七	
松山 小倉	長 一			看守長 書記 一	二 一	一	一	五	十一	

備考　本表定員ノ外東京ニ在テハ上等監護一名火工(下)長一名鉦工(下)長一名ヲ增加スルコトヲ得

備考	主管			
佐倉 青森 金澤 姫路 松山 福岡 丸亀 小倉	上等監護 一	一(二)等軍曹 一 一(二)(三)等書記 一 一(二)(三)等看護長 一	火工(下)長 鉦工(下)長 一	三

備考　一　松山、小倉衛戍監獄ノ衛生事務ハ所在地病院附二三等軍醫ヲ以テ兼管セシム

二　仙臺名古屋ニ在テハ定員ノ外看守卒三名ヲ增加ス

第十款　屯田兵司令部

勅令

明治二十三年八月二十九日第百八十二號

屯田兵司令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

屯田兵司令部條例

第一條　屯田兵司令官ハ少將ヲ以テ之ニ補シ直ニ天皇陛下ニ隸シ屯田兵ヲ統率シ軍事ニ係ル諸件ヲ處理ス

第二條　司令官ハ屯田兵ノ出師準備ヲ整理シ部下軍隊ノ練成ニ就テハ其責ニ任ス

第三條　司令官ハ屯田兵ノ徵募補充及ニ開墾耕稼ノ事ヲ掌ル

第四條　司令官ハ不虞ノ侵襲ニ際シ北海道ノ防禦及陸軍諸官廳諸建築物ノ保護ニ任ス

北海道廳長官地方ノ靜謐ヲ維持スル爲メ兵力ヲ請求スル時事急ナレハ司令官直ニ之ニ應シテ後陸軍大臣及參謀總長ニ報告ス可シ若シ其事變危險ニシテ北海道廳長官ノ請求シ能ハサル例外ノ場合ニ在テハ司令官兵力ヲ以テ便宜事ニ從フコトヲ得

第五條　疾疫其他例外ノ場合ニ方リ司令官一時其部下軍隊ヲ移轉セシメントスル時主意ヲ要スレハ之ヲ實行シテ後陸軍大臣及參謀總長ニ報告ス可シ

第六條　司令官ハ北海道ニ在ル軍隊及陸軍官廳ニ於ケル風紀軍紀ヲ統監シ軍法會議及監獄ヲ管轄ス

第七條　司令官ハ軍政及人事ニ係ル事ニ就テハ陸軍大臣國防及出師計畫ニ係ル事ニ就テハ參謀總長ノ區處ヲ受ク司令官ハ此兩官ニ對シ各其主任ノ事ニ就キ定期又ハ臨時報告ヲ爲ス可キモノト

ス

軍隊給與皮移住給與並會計出師準備ノ事項ニ就テハ屯田兵監督部長タル監督ニ命令スルノ權ヲ有ス

第八條　司令官ハ隨時屯田兵隊ヲ檢閲シ毎年一回出師準備ノ事ニ關シテハ參謀總長ニ其他ノ事ニ就テハ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第九條　司令官赴任ノ節司令部所在地ノ地方長官始審裁判所長及檢事（上席ノ者）トハ三日以内互ニ訪問シ北海道ニ在ル控訴院長檢事長始審裁判所長檢事（上席ノ者）トハ三十日以内互ニ移文訪問ス可シ但官等卑キ者ヨリ先ンス可シ

第十條　屯田兵司令部ハ左ノ諸部ヨリ成ル

一　參謀部
二　副官部
三　法官部
四　軍醫部

第十一條　參謀部及副官部ノ將校ハ參謀長ノ監視ヲ受ケ各自擔任ノ事務ヲ司リ其司令官ニ具申ス可キ事ニ就テハ先ツ參謀長ノ承認ヲ得ヘキモノトス

第十二條　法官部理事軍醫長及屯田兵監督部長タル監督ヨリ司令官ニ具申ス可キ事ニ就テハ先ツ參謀長ニ開陳ス可シ

第十三條　本條例ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

屯田兵司令部職官表

區分／階級	少將	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	曹長	一等軍曹	二等軍曹	計
本部 司令官	一										一
本部 副司令官			一								一
本部 參謀部 參謀				一							一
本部 副官部 副官					副官一	副官三					八
本部 軍吏 書記							書記				一四
本部 軍醫部 長											
本部 軍醫部 部員											
本部 軍醫部 書記											
支部 法官部 理事											
支部 法官部 書記											
支部 法官部 技手											
支部 法官部 書記											
合計	一	一	四	一	一	三	一	一	一	二	二五
											四二

備考　一　軍醫部部員ノ内一名ハ藥劑官トス
二　書記ハ屬ヲ混用スルコトヲ得但各部（軍醫部ヲ除ク）定員ノ中數ヲ超ユルヲ得ス

勅令　明治二十六年十月三日第二百四十二號　陸軍監獄官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍監獄官官制

第一條　陸軍監獄ニ左ノ職員ヲ置ク

陸軍監獄長
陸軍監獄書記
陸軍監獄看守長
陸軍監獄看守

第二條　監獄長ハ奏任トシ監獄書記及監獄看守長ハ判任トシ監獄看守ハ判任官待遇トス

第三條　監獄長ハ衛戍司令官若クハ屯田兵司令官ニ隷シ監獄ノ事務ヲ掌理ス

第四條　監獄長ハ陸軍總制令ニ定ムル所ニ從ヒ監獄所屬員ヲ懲戒ス

第五條　監獄書記ハ監獄長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　監獄長事故アルトキハ上席監獄書記其ノ事務ヲ代理ス

第七條　監獄看守長ハ監獄長ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ監獄看守ヲ指揮監督ス

第八條　監獄看守ハ監獄看守長ノ命ヲ承ケ看守、護送及門衛等ノ事ニ服ス

第九條　監獄看守長及監獄看守既務ニ服スルトキハ刀ヲ帶ヒ制服ヲ着ス

第十條　監獄内ノ衛生事務ハ其ノ地所在ノ衛戍病院附軍醫及看護長ヲシテ之ヲ管掌セシム但札幌ニ在テハ屯田兵軍醫部附軍醫ヲシテ之ヲ管掌セシム

附則

第十一條　本令施行前ヨリ陸軍監獄ニ職ヲ奉スル下士卒ハ本令施行ノ日ヲ以テ現役滿期トス

下士ニシテ服役年數七年未滿ノ者ハ豫備役ニ七年以上十二年未滿ノ者ハ後備役ニ服セシム但明治二十四年勅令第百八十七號施行以前ニ任セラレタル軍吏部下士ニシテ服役九年未滿ノ者ハ豫備役ニ九年以上十二年未滿ノ者ハ後備役ニ服セシム

第十二條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

本令中監獄看守ニ係ル規程ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

第十二款　砲兵會議

勅令　明治二十六年十二月十六日第二百四十一號　陸軍砲兵會議條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲兵會議條例

第一條　陸軍砲兵會議ハ砲兵技術ニ關シ陸軍大臣ノ諮詢ニ應スル所トス

第二條　陸軍砲兵會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長　砲兵大佐
議員　砲兵上長官
臨時議員　各兵科各部上長官或ハ陸軍技師
審査官　砲兵中少佐大尉

第三條　前條ニ掲クル職員ノ外審査官ノ下ニ砲兵上等監護、砲兵下士並屬技手ヲ置ク

第四條　議長ハ陸軍大臣ニ隷シ議事ヲ整理シ會議一切ノ事務ヲ總理ス

第五條　審査官ハ審査試驗ノ事ヲ分擔シ其ノ分擔事項ニ關シテハ議事ニ列シ答辯説明ノ任ニ當リ且會議ノ事務ヲ處理ス

第六條　議員ハ他ニ本職アル者ヲ以テ兼補ス臨時議員ハ議事ノ必要ニ方リ陸軍大臣他ニ本職アル者ヲ以テ之ヲ命ス議事ノ必要ニ方リ陸軍大臣他ニ本職ルモノトス

第七條　議長不在ノトキハ議事ニ關シテハ議員中事務ニ關シテハ審査官中高級故參ノ者其ノ代理ヲナスヘシ

第八條　陸軍砲兵會議ハ砲兵技術ニ關シ必要ト認ムル事件ハ陸軍大臣ニ建議スルコトヲ得

第九條　陸軍砲兵會議ハ議事規則ヲ議定シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十條　總議員二分一以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス但緊急ノ場合ニ在テハ總議員三分一以上出席スルトキハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得

第十一條　議長ハ議事表決ノ數ニ預ルコトヲ得ス

第十二條　議事ハ出席議員ノ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十三條　試驗事ノ爲メ軍隊ヲ要スルトキハ議長ハ師團長及常備兵監ニ應シ之ヲ使用スルコトヲ得

第十四條　砲工兵兩科ノ技術ニ跨ル議案ニシテ砲工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討議セシムルノ必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニ在テハ陸軍大臣之ヲ特達ス

第十五條　合同會議ヲ開クトキハ砲工兵兩會議議長中高級故參ノ者議長トナリ下級ノ者ハ議員ニ列シ表決ニ預ルモノトス第二項ノ場合ニ於テハ高級故參ノ者モ亦同シ

議事ノ必要ニ依リ陸軍大臣ハ特ニ將官ヲ以テ議長ニ命スルコトヲ得但其ノ議事丁レハ直ニ解任スルモノトス

第十六條　合同會議ハ總テ本會議ノ規定ニ據ル

第十三款　工兵會議

勅令　明治二十六年十二月十六日第二百四十二號　陸軍工兵會議條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍工兵會議條例

第一條　陸軍工兵會議ハ工兵技術ニ關シ陸軍大臣ノ諮詢ニ應スル所トス

第二條　陸軍工兵會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長　工兵大佐
議員　工兵上長官
臨時議員　各兵科各部上長官或ハ陸軍技師
審査官　工兵中少佐大尉

第三條　前條ニ掲クル職員ノ外審査官ノ下ニ工兵上等監護、工兵下士並屬技手ヲ置ク

第四條　議長ハ陸軍大臣ニ隷シ議事ヲ整理シ會議一切ノ事務ヲ總理ス

第五條　審査官ハ審査試驗ノ事ヲ分擔シ其ノ分擔事項ニ關シテハ議事ニ列シ答辯説明ノ任ニ當リ且會議ノ事務ヲ處理ス

第六條　議員ハ他ニ本職アルモノヲ以テ兼補ス臨時議員ハ議事ノ必要ニ方リ陸軍大臣他ニ本職アルモノヲ以テ之ヲ命シ議事ヲ丁レハ直ニ解任スルモノトス

第七條　議長不在ノトキハ議事ニ關シテハ議員中審査官中高級故參ノ者其ノ代理ヲナスヘシ

第八條　陸軍工兵會議ハ工兵技術ニ關シ必要ト認ムル事件ハ陸軍大臣ニ建議スルコトヲ得

第九條　陸軍工兵會議ハ議事規則ヲ議定シ陸軍大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十條　總議員二分一以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス但緊急ノ場合ニ在テハ總議員三分一以上出席スルトキハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得

第十一條　議長ハ議事表決ノ數ニ預ルコトヲ得ス

第十二條　議事ハ出席議員ノ過半數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十三條　試驗等ノ爲メ軍隊ヲ要スルトキハ議長ハ師團長及常設兵監ニ照議シ之ヲ使用スルコトヲ得

第十四條　砲工兵兩科ノ技術ニ跨ル議案ニシテ砲工兵兩會議ノ議員ヲ合シ討議セシムルノ必要アルトキハ合同會議ヲ開クモノトス此場合ニ在テハ陸軍大臣之ヲ特選ス

第十五條　合同會議ヲ開クトキハ砲工兵兩會議議長中高級故參ノ者議長トナリ下級ノ者ハ議員ニ列シ表決ニ預ルモノトス第二項ノ場合ニ於テハ高級故參ノ者モ亦同シ

議事ノ必要ニ依リ陸軍大臣ハ特ニ將官ヲ以テ議長ニ命スルコトヲ得但其ノ議事了レハ直ニ解任スルモノトス

第十六條　合同會議ハ總テ本會議ノ規定ニ據ル

第十四款　憲兵條例

勅令　明治二十二年三月二日第四十三號

十八日

憲兵條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

憲兵條例目錄

總則

配置編制

職務

服役

附則

憲兵條例

總則

第一條　憲兵ハ陸軍兵ノ一ニシテ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ軍事警察行政警察司法警察ヲ掌ル其職務若クハ事務ニ際シ特ニ要スル服務ハ別ニ之ヲ定ム

第二條　憲兵ノ職掌軍事警察ニ係ル事ハ陸海軍大臣ニ詳シ行政警察司法警察ニ係ル事ハ內務大臣ニ詳シ司法警察ニ係ル事ハ司法大臣ニ詳ス

第三條　憲兵ハ行政警察ニ於テ正當ノ職權ヲ有スル警視總監府縣知事（東京府ヲ除ク）及檢察官ノ指示ヲ受ク

第四條　憲兵ハ其職務ニ於テ直ニ之ニ應スヘシ者ヨリ要求アルトキハ直ニ之ニ應スヘシ

第五條　憲兵ハ左ニ記載スル場合ニアラサレハ兵器ヲ用フルコトヲ得ス

第一　暴行ヲ受クルトキ

第二　其占守スル所ノ土地又ハ委托セラレタル場所若クハ人ヲ防衛スルニ兵力ヲ用フルノ外他ニ手段ナキトキ又ハ兵力ヲ以テセサレハ其抗拒ニ勝ツ能ハサルトキ

第六條　必要ノ場合ニ際シ內務大臣陸軍大臣合議シテ憲兵ヲ一時其管轄地外ニ分派スルコトヲ得

配置編制

第七條　憲兵ハ各府縣ニ配置ス其管轄地ハ府縣ノ管轄區域ニ依ル

第八條　東京ニ憲兵司令部ヲ置キ各府縣ニ憲兵隊ヲ置キ各管區ニ憲兵分隊ヲ置キ各巡察區ニ憲兵一伍若クハ數伍ヲ置ク

第九條　各府縣ノ憲兵隊ハ其管轄地ヲ分遣シテ憲兵巡察區ヲ定メ巡察區ヲ合セテ數箇ノ憲兵管區トス

第十條　憲兵管區ハ內務大臣憲兵司令官ニ諮問シテ之ヲ定メ巡察區ハ警視總監府縣知事（東京府ヲ除ク）憲兵隊長ニ諮詢シテ之ヲ定ムルモノトス

第十一條　憲兵司令部ノ職員左ノ如シ

憲兵司令官　憲兵大佐一名

副官　憲兵大中尉二名

軍吏　一二等軍吏一名

書記　憲兵下士五名

軍吏部下士　一二三等書記二名

第十二條　憲兵隊ノ編制左ノ如シ

本部

隊長　憲兵中少佐一名

副官　憲兵大中尉一名

軍吏　二三等軍吏一名

下副官　憲兵曹長一名

書記　憲兵下士三名

軍吏部下士　一二三等書記二名

分隊

分隊長　憲兵大中尉一名

書記　憲兵下士一名

伍長　憲兵下士若干名

憲兵上等兵　若干名

第十三條　憲兵上等兵五名ヲ以テ一伍トシ數伍ヲ以テ一分隊トシ數分隊ヲ以テ一隊トス

時宜ニ依リ一伍若クハ數伍ヲ乘馬兵トナス

第十四條　憲兵隊ハ地名ヲ冠シテ某憲兵隊ト稱ス

職務

第十五條　憲兵司令官ハ全國ノ憲兵隊ヲ統轄シ司令部ノ事務ヲ總理ス

第十六條　憲兵司令官非常若クハ緊要ノ事件アルヲ知リタルトキハ速ニ內務大臣陸軍大臣司法大臣ニ申報スヘシ

第十七條　憲兵司令官ハ軍紀風紀訓練教育職務服行ノ程度ヲ檢閱スル爲メ必要ト認ムル時機ニ於テ各憲兵隊ヲ巡視シ其狀況ヲ陸軍大臣ニ申報スヘシ

第十八條　憲兵隊長ハ部下ヲ監督シ其勤務方法ヲ指定シ隊中ノ事務ヲ總理ス

第十九條　憲兵隊長ハ地方ノ情勢ヲ審ニシ非常若クハ緊要ノ事件ヲ知リタルトキハ速ニ警視總監府縣知事（東京府ヲ除ク）及其地所在ノ檢事長上席檢事及憲兵司令官ニ申報スヘシ

第二十條　憲兵分隊長ハ管區ノ長トナリ管內ノ情勢ヲ審ニシ部下ヲ指揮シ管區ノ事務ヲ處理ス又管內ノ事情ハ常ニ地方警察官ト相互諜報スヘシ

第二十一條　憲兵伍長ハ憲兵上等兵ノ勤務ヲ指示監督シ且區內ヲ巡視シ其事情ヲ審ニスヘシ

第二十二條　憲兵上等兵ハ常ニ巡察區ヲ畫シテ巡察シ其事情ヲ審ニスヘシ但特ニ上官又ハ檢察官ノ命アルトキハ自他ヲ區畫スルノ限ニアラス

第二十三條　憲兵ノ勤務諸報告等ニ關ル細則ハ各主管大臣之ヲ定ム

士官以下補充

第二十四條　憲兵士官下士ノ補充ハ陸軍武官進級條例ニ據ルノ外各兵科士官下士ノ內ヨリ選任ス但二等軍曹ハ憲兵上等兵中一箇年以上其職務ニ服シタル者ヨリ選任スルコトヲ得

第二十五條　憲兵上等兵ハ現役豫備役及後備軍籍ニ在ル兵卒中志願ノ者ニシテ檢査合格ノ者ヨリ選用ス

第二十六條　憲兵下士上等兵ノ選任ニ係ル細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

服役

第二十七條　憲兵下士上等兵ハ任命ノ日ヨリ更ニ七箇年間現役ニ服スルモノトス

第二十八條　憲兵下士上等兵ハ服役滿期ノ後再服役ヲ請願スルコトヲ得再服役ハ三年ヲ以テ一期トシ年齡定限ニ至ルマテハ數次請願スルコトヲ得

第二十九條　再服役ヲ請願スル者ハ現ニ所屬ノ部隊ニ於テスルモノトス其分隊ニ在テハ分隊長ト書約シ憲兵隊本部ニ在テハ憲兵隊長ト書約シ憲兵司令部ニ在テハ憲兵司令官ト書約ス但分隊長憲兵隊長ニ在テハ憲兵司令官ノ認可ヲ請フヘシ

第三十條　再服役中轉隊若クハ轉職セシムルコトアリト雖モ從前ノ書約ハ新ニ屬スル所ノ部隊長ニ移ルモノトス

第三十一條　服役期限既ニ滿ツルト雖モ職時若クハ事變ニ際シテハ期限ヲ延スコトアルヘシ

第三十二條　服役終ルノ後ハ下士ハ前兵科ノ同等官ニ復任シ上等兵ハ前兵科ニ復シ後備役ニ編入シ通シテ十二箇年間服役セシム其服役十二箇年ヲ過クル者ハ之ヲ免除ス

第三十三條　憲兵下士上等兵服役中ハ自己ノ情願ヲ以テ免除セス但左ノ場合ニ於テハ特ニ之ヲ免除ス

第一　現役中本人ヲ要スルニアラサレハ一家ノ生計ヲ營ミ難キ事故ヲ生スルトキハ本人ノ願ニ依リ現役ヲ免ス

第二　現役中疾病若クハ傷痍ニ依リ現役ニ堪ヘサル者ハ其役ヲ免ス

第三　現役中疾病若クハ傷痍ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第三十四條　前條第一項第二項ニ當ル者ハ下士ハ前兵科ノ同等官ニ復任シ上等兵ハ前兵科ニ復シ後備役ニ編入ス

第三十五條　憲兵下士上等兵其職務ヲ解シタルニ因リ懲罰ノ處分ヲ受クルトキハ懲罰令第十五條ノ例ニ拘フス官職ヲ免スルコトヲ得

第三十六條　前條ニ依リ官職ヲ免シタル者及刑法又ハ懲罰令第十五條ニ依リ官職ヲ免シタル者ハ前兵科ニ復シ兵卒トナシ憲兵科服役年月ヲ通算シ十二箇年ニ滿タサル者ハ其年數ニ從ヒ現役豫備役又ハ後備役ニ服セシム其十二箇年ヲ過キタル者ハ之ヲ免除ス

第三十七條　第三十三條乃至第三十六條ニ當ル者アルトキハ憲兵司令官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ請ヒ現役又ハ兵役ヲ免ス

第三十八條　憲兵ノ將校現役ヲ退キ豫備後備若クハ退役ニ入ルトキハ原兵科ニ復スルモノトス其原兵科ナキモノハ歩兵科トス

附則

第三十九條　此條例ハ明治二十二年四月一日ヨリ施行ス

各府縣ニ配置スル憲兵隊ハ東京大阪二府ヲ除クノ外他ノ府縣ハ漸次之ヲ置キ其都度陸軍大臣之ヲ告示スヘシ

第四十條　當分ノ內憲兵少尉ヲ以テ分隊長ノ職ニ充ルコトヲ得

第四十一條　從前ノ憲兵卒ニシテ能ク其職務ニ適スル者ハ檢査ノ例ニ依フス憲兵上等兵ニ採用ス

ルコトヲ得

第十五款　軍馬補充署

勅令　明治二十六年五月三日第二十七號　陸軍馬補充署條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍馬補充署條例

第一條　軍馬補充署ハ軍馬ノ供給乘馬輓馬ノ育成ヲ掌ル所トス

第二條　軍馬補充署ハ本署及四育成所ヨリ成ル其名稱位置ハ左ノ如シ

一　本署　東京

二　三本木軍馬育成所　青森縣上北郡三本木村

三　鍛冶谷澤軍馬育成所　宮城縣玉造郡鳴泉村

四　青野軍馬育成所　兵庫縣加東郡河合村

五　福元軍馬育成所　鹿兒島縣谿山郡谷山村

第三條　軍馬補充署ニ左ノ職員ヲ置ク

本署

署長　騎兵大中佐

署員　騎兵大尉

育成所

所長　騎兵大尉若クハ技師

所員　騎兵中少尉若クハ技師

獸醫

軍吏

第四條　第三條ニ掲クル職員ノ外下士並扇ヲ置ク

第五條　署長ハ他ニ本職アル者ヲシテ兼務セシム

第六條　署長ハ陸軍大臣ニ隸シ軍馬育成所ヲ統轄シ署務ヲ總理ス

第七條　署員ハ署長ノ職務ヲ補佐シ本署ノ事務ヲ整理ス

第八條　所長ハ所內ノ事務及ヒ牧場事業ヲ整理シ幼駒育成ノ責ニ任ス

第九條　所員ハ所長ノ職務ヲ補佐ス

第十條　陸軍大臣ハ所要ニ應シ各軍馬育成所ノ支所ヲ設ケ所員ヲ以テ支所長ニ充ツルコトヲ得

附　則

第十一條　明治二十三年（三月）勅令第六十一號軍馬育成所官制ヲ廢止ス

第十六款　砲兵方面

勅令　明治二十六年十二月十六日第二百三十九號　砲兵方面條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砲兵方面條例

第一條　砲兵方面ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ陸軍所要兵器彈藥ノ購買貯藏保存修理交換及要塞備砲其ノ他之ニ關スル砲兵事業ヲ掌ル所トス

第二條　砲兵方面ハ第一方面第二方面トス第一方面ハ本署ヲ東京ニ置キ第一第二第三師管及北海道ヲ管轄シ第二方面ハ本署ヲ大阪ニ置キ第四第五第六師管ヲ管轄ス

第三條　師團司令部屯營所在ノ地ニ砲兵方面支署ヲ置キ其ノ他樞要ナル衛戍地ニ武庫ヲ置ク但武庫ハ支署ノ管轄トス

支署ハ四等ニ區分シ其ノ新設及等位並武庫ノ新設ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條　砲兵方面本支署ニ左ノ職員ヲ置ク

本署

本署長　砲兵大中佐

署員　砲兵少佐大中尉

軍吏

支署

支署長　砲兵中少佐大尉

署員　砲兵大中尉

軍吏

第五條　前條ニ掲クル職員ノ外本支署ニ砲兵上等監護砲兵科下士軍吏部下士及要塞所在地支署ニ技手ヲ置キ武庫ニ砲兵科下士ヲ置ク但支署及武庫附下士ニ在テハ駐地隊附下士ヲシテ其ノ業務ヲ兼ネシムルコトヲ得

第六條　本署長ハ陸軍大臣ニ隸シ砲兵方面ノ事務ヲ總理シ管掌ノ事項ニ就テハ其ノ責ニ任ス

前項ノ外第一方面本署長ハ特ニ全國要塞ノ新設若クハ補修ニ關スル砲兵事業ノ調査ニ任ス

第七條　支署長ハ本署長ニ屬シ砲兵方面ノ事務ヲ分擔シ管掌ノ事項ニ就テハ其ノ責ニ任シ且所在地砲兵工廠派出所ノ事業ヲ管掌ス

師團屯田兵及要塞ノ兵器彈藥ノ事ニ就テハ當該師團長屯田兵及要塞司令官ノ命ヲ受ク

第八條　署員軍吏ハ本支署長ノ命ヲ受ケ各事務ヲ分擔シ其ノ責ニ任ス但要塞所在地支署附軍吏ハ工兵方面支署附ヲシテ兼務セシム

第九條　武庫附下士ハ支署長ノ統轄ニ屬スト雖モ其ノ職務ニ就テハ尙ホ所在地衛戍司令官ノ監督ヲ受ク

第十條　砲兵方面所管ノ兵器彈藥ハ之ヲ分チ本須及支須トシ本須ハ本署及一二等支署ニ貯藏シ支須ハ各支署及武庫ニ貯藏ス

第十一條　砲兵方面所管ノ兵器彈藥ハ之ニハ衛兵ヲ置キ尙ホ所要ニ應シ下士又ハ定番人ヲ置クコトヲ得但場地ノ便宜ニ依リ衛兵ヲ要セサルトキハ本署長ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ定ム

新ニ衛兵ヲ置クトキハ本署長又ハ支署長ヨリ該地衛戍司令官ニ請求スルモノトス

要塞備付ノ兵器彈藥ハ砲臺監守ヲシテ之ヲ監守セシム

第十二條　兵器彈藥庫附近ノ地ニ騎兵警戒ノ事アレハ本署長又ハ支署長ヨリ該地衛戍司令官ニ照告シ守衛ヲ殿ニスヘシ

附　則

第十三條　要塞條例制定ニ至ルマテ本署長及支署長ハ其ノ所管要塞ノ防務ニ參與セシムルコトアリ

第十七款　砲兵工廠

勅令　明治二十六年十二月十六日第二百四十三號　砲兵工廠條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砲兵工廠條例

第一條　砲兵工廠ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ陸軍所要ノ兵器彈藥ヲ製造修理シ及海軍所要ノ火藥ヲ製造スル所トス

第二條　砲兵工廠ハ之ヲ東京及大阪ニ置キ其ノ製造所ヲ設クルコト左ノ如シ

東京砲兵工廠

小銃製造所

銃包製造所

砲具製造所

目黑火藥製造所

板橋火藥製造所

岩鼻火藥製造所

大阪砲兵工廠

火砲製造所

砲架製造所

彈丸製造所

火具製造所

第三條　兵器ノ修理ハ東京大阪ニ在テハ直ニ工廠ニ於テ之ヲ執行シ其ノ他ハ砲兵方面支署所在地ニ工廠ノ派出所ヲ置キ方面支署長ヲシテ其ノ事ヲ管掌セシム但其ノ經費ハ總テ工廠ノ負擔トス

第四條　砲兵工廠ニ左ノ職員ヲ置ク

提理

副提理

檢査官

製造所長

所員

軍醫

軍吏

技師

第五條　第四條ニ掲クル職員ノ外屬技手ヲ置ク但之ニ代ユルニ砲兵上等監護及砲兵科下士ヲ用ヰルコトヲ得

第六條　提理ハ陸軍大臣ニ隸シ工廠ノ事務ヲ總理シ特ニ工廠ニ關スル建築工事ヲ掌リ管掌ノ事務ニ於テハ其ノ責ニ任ス

東京砲兵工廠提理ハ砲兵工科學舍ヲ管理ス

第七條　副提理ハ提理ヲ補佐シ特ニ經理事務ヲ擔任ス

第八條　檢査官ハ製造ノ兵器彈藥及其ノ材料ノ檢査ヲ掌ル

第九條　製造所長ハ製造所ノ工務ヲ擔任シ所員ハ所長ノ命ヲ受ケ所務ニ從事ス

東京砲兵工廠製造所長ハ砲兵工科學舍ノ實業教授ヲ擔任ス

第十條　砲兵方面支署所在地ノ工廠派出所ニハ屬ヲ分派シ方面支署長ノ命ヲ受ケ兵器修理ニ關スル費用及材料ノ出納ヲ掌ラシム

第十一條　軍用制式ノ兵器彈藥ハ陸軍大臣ノ許可ヲ經ルニアラサレハ製造スルコトヲ得ス但海軍造兵廠長ヨリ要求スル火藥並砲兵會議議長ヨリ試驗用ノ爲メ要求スルモノハ此限ニアラス

第十二條　官廳又ハ人民ヨリ物品ノ製造ヲ依賴スルトキハ軍用ノ製造事業ニ妨ケナキ限リハ之ニ應スルコトヲ得

第十三條　工廠及製造所附近ノ地ニ騎兵警戒ノ事アレハ提理ヨリ衛戍司令官ニ照告シテ衛兵ノ派遣ヲ請フコトヲ得

附　則

第十四條　速發銃並海岸砲製造中各工廠ニ佐官一人ヲ置ク

第十八款　砲兵工科學舍

勅令　明治二十六年十二月十六日第二百四十四號　陸軍砲兵工科學舍條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲兵工科學舍條例

第一條　陸軍砲兵工科學舍ハ東京砲兵工廠ニ置キ提理ノ管理ニ屬シ砲兵隊工兵門ノ工術ヲ教授シ火工下士及技工鐵工木工鍛工諸長ニ任用ス可キモノヲ教成スル所トス

第二條　火工ハ砲兵隊上等兵中尙ホ現役二十箇月以上アルモノヲ選拔分遣シテ學生トナシ他ノ諸工ハ現役六箇月以上ヲ經タル各兵隊本中諸職ノ

者ヲ選抜シテ生徒トナス
但諸工生徒ニ在テハ時宜ニ因リ一般人民ヨリ採用スルコトアル可シ
第三條　學舍ニ左ノ職員ヲ置ク
舍長　砲兵大尉
教官　砲兵大中尉
第四條　前條ニ掲クル職員ノ外砲兵科衛生部軍吏部下士及陸軍助教ヲ置ク
第五條　學舍ニハ軍醫及軍吏ヲ置カス東京砲兵工廠附ヲシテ其ノ事務ヲ掌ラシム
第六條　舍長ハ東京砲兵工廠提理ニ隷シ舍務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任シ且教官ヲ兼ヌ
第七條　教官ハ副官ニ從事シ學術ノ教授ヲ分擔シ殊ニ學生及生徒ノ身上ニ就テハ日常瑣末ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルモノトス
助教ハ專ラ國語授業ノ事ヲ擔任セシム
第八條　學期ハ學生ニ在テハ概子一箇年トシ生徒ニ在テハ概子二箇年半トス但修業中疾病又ハ止ムヲ得サル事故アリヤ定期ノ學術ヲ修得シ能ハサル者ハ延期スルコトヲ得
第九條　學生及生徒各工科專門ノ實業ハ東京砲兵工廠ニ於テ之ヲ教授ス學舍ノ内務ハ概子軍隊内務ノ規定ニ依ル
第十條　生徒召募ノ方法及學生生徒ノ入員ハ陸軍大臣之ヲ定メテ告達ス
第十一條　師團長ハ召募ノ告達ニ依リ學生ニ在テハ砲兵隊長ヲシテ身體行狀學術等ヲ調査シ火工術ニ適當ノ者ヲ選抜セシメ入舍期十日前マテニ其ノ名簿ニ履歴書ヲ添ヘ提理（東京砲兵工廠提理以下之ニ倣フ）ニ送達セシム
生徒ニ在テハ各隊長ヲシテ志願者中行狀方正ニシテ檢査格ニ適スル者ヲ選抜セシメ其ノ名簿ヲ提理ニ送達セシム
第十二條　學生所用ノ書籍器具機械雜具消耗品及修業用ノ原料ハ貸與又ハ支給スルモノトス
第十三條　生徒修業ノ費用其ノ他被服食料旅費等ハ一切官給トシ且手當金ヲ給ス
第十四條　學生分遣入舍中願届等ニ關スル事件ハ總テ提理ノ管理ニ屬ス
第十五條　學生及生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退舍スルヲ許サス然レトモ傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ依リ卒業ノ目途無キ者ハ退舍セシム其ノ踐卒ヨリ入舍ノ生徒ニ在テハ永久服役ニ堪ヘサル者ヲ除クノ外總テ原兵科ニ復シ舊所管ニ於テ前役（入舍中ノ日數ヲ包含ス）ヲ通算シ定規ノ年限間現役又ハ豫備役又ハ後備役ニ服セシム
第十六條　學期末ニ於テ終末試驗ヲ施行シ及第スル者ニハ卒業證書ヲ附與シ學生ニ在テハ其ノ試驗成績表ヲ提理ヨリ師團長ヲ經テ聯隊長ニ移ス
第十七條　學生ハ卒業後原隊ニ復歸シ再服役ヲ許サレタル者ハ該隊ニ於テ缺員アル毎ニ火工二等軍曹ニ任シ生徒ハ卒業後直ニ工下長ニ任ス

第十九款　工兵方面

勅令

明治二十六年十二月廿二日第二百四十號
十六日第二百四十號
正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

工兵方面條例

第一條　工兵方面ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ要塞堡壘及附屬營繕築城修繕等其ノ他之ニ類スル工兵事業ヲ掌リ歩工兵ノ器具材料ヲ調辦シ且所屬地ヲ管轄スル所トス
第二條　工兵方面ハ本署、支署、本廠、支廠ヨリ成リ本署ハ東京ニ置キ各支署及本支廠ヲ統轄シ支署ハ要塞所在地ニ置キ專ラ管轄ノ事務ヲ擔任シ本廠ハ東京及大阪ニ支廠ハ各工兵隊所在地ニ置キ專ラ器具材料ノ保管ニ任ス但支署ハ三等ニ區分シ其ノ新設及等位ハ陸軍大臣之ヲ定ム
第三條　工兵方面本支署及本支廠ニ左ノ職員ヲ置ク

本署
本署長　工兵大中佐
署員　工兵少佐大中尉
軍吏

支署
支署長　工兵中少佐大尉
署員　工兵大中尉
軍吏

本廠
本廠長　工兵大中尉

支廠
支廠長　工兵大中尉

第四條　前條ニ掲クル職員ノ外本支署及本廠ニ工兵上等監護、工兵監護、技手及軍吏部書記ヲ支廠ニ工兵監護及軍吏部書記ヲ置キ總支署ニハ砲聲監守ヲ置ク
第五條　本署長ハ陸軍大臣ニ隷シ本署ノ事務ヲ總理シ管掌ノ事項ニ就テハ其ノ責ニ任シ且全國要塞ノ新設者クハ補修ニ關スル工兵事業ノ調査ニ任ス
第六條　支署長ハ本署長ニ屬シ支署ノ事務ヲ處理シ擔任ノ事項ニ就テハ其ノ責ニ任ス
第七條　本支廠長ハ本署長ニ屬シ廠務ヲ處理シ擔任ノ事項ニ就テハ其ノ責ニ任ス
第八條　署員軍吏ハ本支署長ノ命ヲ受ケ各事務ヲ分擔シ其ノ責ニ任ス

第九條　本署長ハ業務ノ繁閑ニ應シ必要ト認ルトキハ本支署ノ官僚ヲ彼是應用スルコトヲ得
附則
第十條　特種ノ技術ニ從事セシムル爲メ當分本署ニ技師二名ヲ置クコトヲ得
第十一條　工兵監護ハ當分工兵曹長ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
第十二條　要塞條例制定ニ至ル迄本署長ハ全國、支署長ハ其ノ所管要塞ノ防務ニ參與セシムルコトアリ
第十三條　工兵方面支廠ハ追テ設置スルモノトス

第二十款　師團監督部

勅令

明治二十三年三月二十七日第五十六號
裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

師團監督部條例

第一條　師團監督部ハ師團司令部所在ノ地ニ之ヲ置キ陸軍總領部陸軍經營部ヲ管理シ軍隊會計事務ヲ監督シ陸軍官衙會計事務ヲ監視シ總テ官金ノ收支官有物出納ニ關スル計算及物件（統砲彈藥工具材料及其他ノ兵器ハ除ク）ヲ檢査シ且管區内軍吏部士官下士ノ人事ヲ掌ル所トス
第二條　師團監督部ハ當該師團ノ名稱ヲ冠シ之ヲ某師團監督部ト稱ス
第三條　監督部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長　一二等監督	一人
課長　三等監督若クハ監督補	三人
部員　一二三等軍吏（近衛監督部ニ在テハ十人トス）	七人

第四條　監督部ニ三課ヲ置ク第一課ハ計算事務第二課ハ糧食被服事務第三課ハ建築陣營事務ヲ分掌ス
第五條　監督部ハ當該師管ヲ以テ事務ノ管區トス
但第一師管内近衛及第一師團監督部ニ於テ會計事務ヲ監視スル官衙ノ區域ハ陸軍大臣之ヲ定ム
第六條　監督部長ハ陸軍大臣ニ隷シ其部長タル監督ハ軍隊給與上及會計ニ關スル出師準備ノ事項ニ付テハ近衛都督師團長ノ命令ヲ承クヘシ監督部ハ出師若クハ師團及其他ノ演習ニ於テ必要アルトキハ師團長ニ隷屬ス
第七條　部長ハ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス
第八條　部長ハ管區内ノ會計上ニ就テ必要アルトキハ當該長官又ハ主任官吏ニ諮問シ其辯明ヲ求ムルコトヲ得
第九條　部長ハ管區内官衙及軍隊ニ係ル會計上ノ收支ヲ證認シ廢品賣却ヲ許可シ又必要ニ際シ官衙軍隊ノ金錢物件及帳簿ヲ檢査ス但軍隊ニ在テハ聞檢前師團長ノ承認ヲ經ルモノトス
第十條　課長ハ課務ヲ整理シ分掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス
第十一條　部員ハ課長ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス
第十二條　第三條ニ掲クル職員ノ外軍吏部下士ヲ置ク

第二十一款　經營部

勅令

明治二十三年三月二十七日第五十九號
十七日第五十九號
裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍經營部條例

第一條　陸軍經營部ハ師團及屯田兵監督部所在地ニ之ヲ置キ陸軍所屬ノ陣營所倉庫並地所ヲ管理建築修繕ノ事ヲ擔任シ且營繕ニ係ル總テノ經理ヲ掌ル所トス但砲兵工兵科ニ屬スルモノハ此限外トス
第二條　陸軍經營部ハ近衛師團監督部所在地ニ在ルモノヲ近衛師團經營部ト稱シ師團及屯田兵監督部所在地ニ在ルモノヲ某地陸軍經營部ト稱ス
第三條　經營部ニ左ノ職員ヲ置ク

主管　一等軍吏	一人
計算官　二三等軍吏	一人

第四條　主管ハ當該監督部長ニ隷シ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス
第五條　計算官ハ主管ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス
第六條　第三條ニ掲クル職員ノ外技手若クハ屬ヲ置ク

第二十二款　糧餉部

勅令

明治二十五年十一月二十二日第百三號
裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍糧餉部條例

第一條　陸軍糧餉部ハ師團監督部所在地ニ之ヲ置キ陸軍出師準備用糧秣ノ調辦貯藏新陳交換並ニ平時軍隊所要糧米糧秣ノ調辦及支ノ事ヲ掌ル所トス但必要ニ依リ師團監督部所在地外ノ衛戍地ニ其支部ヲ置クコトヲ得
第二條　陸軍糧餉部ハ近衛師團監督部所在地ニ在ルモノヲ近衛師團糧餉部ト稱シ他師團監督部所在地ニ在ルモノヲ某地陸軍糧餉部ト稱ス但支部ヲ置クトキハ某地陸軍糧餉部某地支部ト稱ス

第三條　糧餉部ニ左ノ職員ヲ置ク

主管　一人

糧餉官　一人

糧餉部支部ニ左ノ職員ヲ置ク

一三等軍吏

糧餉官　一人

但所在地隊附軍吏ヲ以テ兼務セシム

第五條　主管ハ當該監督部長ニ隷シ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

第六條　糧餉部支部糧餉官ハ主管ノ命ヲ承ケ其部務ヲ管掌ス

第七條　糧餉官ハ主管ノ命ヲ承ケ其事務ニ服ス

第八條　第三條及第四條ニ掲クル職員ノ外軍吏部下士ヲ置ク

附則

第九條　本條例ハ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

第二十三款　屯田兵監督部

勅令

明治二十三年八月二日　十九日第百八十三號

朕屯田兵監督部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

屯田兵監督部條例

第一條　屯田兵監督部ハ屯田兵司令部所在ノ地ニ之ヲ置キ陸軍經營部ヲ管理シ屯田兵隊會計事務ヲ監督シ屯田兵官衙ノ會計事務ヲ監視シ官金ノ收支官有物ノ出納ニ關スル計算及物件（兵器彈藥器具材料ハ除ク）ヲ檢査シ且屯田兵所在地內軍吏部士官下士ノ人事ヲ掌ル所トス

第二條　屯田兵監督部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長　一人

監督補　一人

副部長　二人

部員　一二等軍吏

第三條　部長ハ陸軍大臣ニ隷シ其部長タル監督ハ軍隊給養及移住給與並ニ會計ニ關スル出師準備ノ事項ニ付テハ屯田兵司令官ノ命令ヲ承ク可シ

監督部ハ出師若クハ演習ニ於テ必要アルトキハ屯田兵司令官ニ隷屬ス

第四條　部長ハ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

第五條　部長ハ監視監督ニ係ル會計上ニ就テ必要アルトキハ當該長官又ハ主任官吏ニ諮問シ其報告ヲ求ムルコトヲ得

第六條　部長ハ屯田兵官衙及軍隊ニ係ル會計上ノ檢査ヲ行ヒ委任經理金ノ收支ヲ認可シ廢品賣却ヲ許可シ又必要ニ際シ官衙及軍隊ノ金櫃物件及帳簿ヲ檢査ス但軍隊ニ在テハ關係前屯田兵司令官ノ承認ヲ經ルモノトス

第七條　部員ハ部長ノ指揮ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第八條　副部員ハ上官ノ命ヲ承ケ主務ニ服ス

第九條　第二條ニ掲クル職員ノ外軍吏部下士ヲ置ク

第十條　本條例ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

第二十四款　臨時中央金櫃部

勅令

明治二十七年六月七日第六十二號

朕臨時陸軍中央金櫃部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時陸軍中央金櫃部條例

第一條　臨時陸軍中央金櫃部ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ東京ニ置キ臨時陸軍經費ニ關スル收入支出及其ノ計算報告ノ事ヲ掌ル所トス

第二條　臨時陸軍中央金櫃部ニ左ノ職員ヲ置ク

金櫃部長　一人

計算官　一等軍吏　一人

二、三等軍吏　五人

第三條　金櫃部長ハ陸軍省經理局長ニ隷シ其ノ指揮監督ヲ承ケ金錢收支ニ就テハ經理局第三課長ノ命令ヲ承クヘシ

第四條　金櫃部長ハ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ就テハ其ノ責ニ任ス

第五條　計算官ハ金櫃部長ノ指揮ヲ承ケ部務ヲ分掌ス

第六條　第二條職員ノ外ニ一、二、三等書記若クハ雇ヲ置キ其ノ定員ハ通シテ十人トス上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第二十五款　千住製絨所

勅令

明治二十六年十月三十日第百四十一號

朕千住製絨所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

千住製絨所官制

第一條　千住製絨所ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ陸軍所用ノ絨布製造ノ事ヲ掌ル

官廳又ハ人民ヨリ絨布ノ製造ヲ依囑スルトキハ陸軍所用ノ絨布製造事業ニ妨ケナキ限リハ之ニ應スルコトヲ得

第二條　千住製絨所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　一人

技師　一人

雇　四人

技手　三人

第三條　所長ハ奏任トス陸軍大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ所長ノ指揮監督ヲ承ケ製絨ノ事ヲ監理ス

第五條　雇ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ製絨ノ事ニ從フ

附則

第七條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第十一章　參謀本部

勅令

明治二十六年十月三日第百七號

朕參謀本部條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

參謀本部條例

第一條　參謀本部ハ國防及用兵ノ事ヲ掌ル所トス

第二條　陸軍大將若クハ陸軍中將一人ヲ參謀總長ニ親補シ　天皇ニ直隷シ軍隊ノ軍務ニ參畫シ又參謀本部ヲ統轄セシム

第三條　參謀總長ハ國防計畫及用兵ニ關スル條規ヲ筵案シ親裁ノ後軍令ニ屬スルモノハ之ヲ陸軍大臣ニ移シ奉行セシム

第四條　參謀總長ハ陸軍參謀將校ヲ統督シ其教育ヲ監督シ陸軍大學校、陸地測量部及在外國公使館附陸軍武官ヲ統轄ス

第五條　參謀本部次長ハ參謀總長ヲ輔佐シ部務整理ノ責ニ任ス

第六條　參謀本部ニ副官部ヲ置キ部內ノ庶務、會計經理ノ事ヲ管掌シ兼テ陸軍文庫ヲ管理ス

第七條　參謀本部ニ第一局、第二局及編纂課ヲ置キ其各局課長ヲシテ左ニ掲クル事務ヲ分擔シ其責ニ任セシム

第一局

動員計畫ノ調査

平戰兩時國隊編制ノ起案

兵器材料彈藥裝具ノ審議

戰時諸條規ノ起案

運輸交通ノ調査及計畫

第二局

作戰計畫ノ調査

要塞位置ノ撰定及其兵器彈藥ノ審議

國隊布置ノ審議

外國軍事ノ調査

外國地理ノ調査及其地圖ノ輯集

編纂課

內外兵要地誌及政誌ノ編纂

戰史ノ編纂

外國書ノ飜譯

第八條　豫メ擔任ヲ定メサル事項ハ臨時局課ヲ指定シ若クハ局課員ニ下命シ其事ニ與ラシム

第九條　參謀本部職員ノ定員ハ別表定ル所ニ據ル

參謀本部職員定員表

| | | |

勅令

明治二十一年五月朕陸軍參謀本部條例十二日第二十五號

（改定）參謀職制陸地測量部條例（改定）制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

參謀職制

第一條　參謀將校ハ高等將帥ノ職務ヲ輔佐シ殊ニ職術及ヒ戰略ニ關スル機務ヲ參畫スルヲ任トス

第二條　參謀將校ハ參謀總長之ヲ統轄シ參謀本部監軍部近衛及ヒ師團參謀部ニ於テ服事セシム

第三條　參謀本部ノ參謀將校ハ參謀總長ニ隸シ出師ノ計畫國防及作戰ノ計畫並外國軍事ノ調査ニ係ル事務ヲ分擔ス

第四條　監軍部ノ參謀將校ハ監軍ニ隸シ部事ヲ擔任ス

第五條　近衛及師團參謀將校ハ都督師團長ニ隸シ該司令部ノ事務殊ニ師團出戰整備並機動演習ニ關スル事務ヲ整理スルヲ任トス

參謀官定員表

官衙＼官等	大佐	中佐	少佐	大尉	計
參謀本部	二	十	六	十八	
監軍部	一	一	一	三	
近衛師團參謀部	七	七	七	二十一	
合計	四十二				

備考

一　本表定員ノ外陸軍大學校長同校兵學教官陸軍省總務局第三課長屯田兵本部參謀及各國公使館附將校東宮武官佐尉官各一名ハ參謀本部附屬參謀將校トス

二　戰時ハ各師團參謀部ニ大尉一名ヲ增加スルカ爲メ參謀本部ノ人員ヲ減スルコトヲ得而テ此缺員ハ必要ナレハ出征將校ヲ以テ之ヲ補フコトヲ得

第六條　參謀本部附屬參謀將校ハ其所屬長官ニ謀シ各其定ムル所ノ職務ニ服ス

第七條　參謀ノ職ニ補シ得ル者ハ諸兵科ノ大尉以上ヲ以テスルヲ例トシ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ選拔ス

其一　陸軍大學校ヲ卒業シタル參謀適任ノ將校ニシテ卒業後一年以上隊附服務ヲナシタルモノ

其二　全軍中才能衆ニ秀タル將校ニシテ本職ニ適任ナルモノ

第八條　參謀將校ハ時々軍隊ニ轉任セシメ其技倆卓越ナレハ所要ニ應シ再ヒ參謀部ニ轉入セシム

第九條　參謀將校ヲシテ職務ニ完熟セシムル爲メ參謀本部監軍部ノ參謀將校ト近衛及師團參謀將校トハ便宜交任セシムルヲ法トス

第十條　參謀將校ノ進級ハ陸軍武官進級條例ニ依テ之ヲ律ス

第一款　大學校

勅令

明治二十四年八月十二日第百七十一號

朕陸軍大學校條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍大學校條例

第一條　陸軍大學校ハ陸軍各兵科ノ士官ヲ選拔シテ高等兵學ヲ教授シ參謀其他樞要ノ職務ニ充ツヘキ者及ヒ高等指揮官トナルヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　參謀大佐

副官　各兵科大尉（教官ヲ兼ヲシムルコトヲ得）

庶長　騎兵科副官

獸醫

軍吏

兵學教官

同　參謀佐尉官

同　海軍參謀佐尉官或ハ海軍佐官若クハ海軍大尉

教官　各兵科佐官若クハ大尉

同　監督部上長官若クハ監督補

同　陸軍部上長官若クハ一等軍醫

同　獸醫（校附獸醫ヲ以テ兼勤セシム）

同　陸軍教授

第三條　第二條職員ノ外下士及ヒ屬若干ヲ置ク

第四條　校長ハ參謀總長ニ謀シテ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第五條　副官ハ事務ヲ分掌シ庶長ハ校庶ニ屬スル一切ノ事ヲ擔任ス

第六條　兵學教官及ヒ教官ハ學術ノ教授ヲ分擔シ

又時トシテハ疏譯ニ從事セシムルコトアリ

第七條　本校學生ハ左ノ資格ヲ具フル者ヲ撰拔シ毎年二十五名以内ヲ入學セシム

各兵科ノ中少尉ニシテ二年以上（五月雇日調）隊務ニ服シ身體強健、勤務精勵、氣節アツテ識量ニ富ミ且學術才幹卓越ニシテ將來充分發達スヘキ判斷力ヲ有スル者

第八條　聯隊長（獨立隊ニ在テハ其隊長校團其他ニ在テハ其所屬長以下倣之）ハ前條ノ資格アル者ヲ撰拔シ學生候補名簿ヲ製シ順序ヲ經テ所管長官ニ呈ス同長官ハ之ヲ取捨シテ撰拔順次名簿（兵科及階級ニ關セス）ヲ製シ候補名簿ヲ併セテ六月雇日限リ參謀總長ニ進達ス

第九條　聯隊長ハ學生候補者ノ性行才能ニ關シテハ特ニ擔保ノ責ニ任ス

第十條　參謀總長ハ候補者ノ學力ヲ檢定スル爲メニ試驗委員ヲ設ケテ校長ヲ委員長トナシ以テ左ノ試驗ヲ行フ

其一　初審試驗

其二　再審試驗

初審試驗ハ候補者ノ學識如何ヲ檢定スルモノニシテ毎年七月間旭ヲ封緘シ所管長官ニ送付ス同長官ハ候補者ヲ集メ參謀或ハ次官ノ監視ヲ以テ之カ答解ヲ筆記セシメ八月十五日マテニ參謀總長ニ進達ス但該試驗ハ全國同日ニ行フモノニシテ參謀總長豫メ其日時ヲ示定ス

再審試驗ハ其學力ノ活用如何ヲ檢定スルモノニシテ參謀總長受驗人名ヲ示定ス各所管長官ハ其受驗者ヲ大學校ニ派遣ス

學生ノ試驗課目ハ參謀總長ノ移牒ニ由リ毎年二月陸軍大臣之ヲ告示ス

第十一條　參謀總長前條ノ試驗ヲ以テ優劣者ヲ決定シ入學ヲ命ス

第十二條　學生ノ入學期ハ十二月上旬ヲ以テシ本校ノ修學期限ヲ三箇年トス乃チ毎年十二月ヨリ翌年十一月マテヲ逐次ニ第一第二第三年ト稱ス但疾病ノ爲メニ缺課多キモノニ在リテハ更ニ一箇年滯學ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條　校長ハ學生入學ノ後ニ其資格不適合ト認ル者アルトキハ參謀總長ニ具狀ス參謀總長ハ之ヲ賞罰隊ニ退學セシムルコトナシ但入學中學生ノ名籍ハ原所管ヲ離ルルコトアルヘシ

第十四條　學生ハ校外ニ居住シ通學セシム

學生ノ名籍ハ原所管ヲ離ルルコトナシ但入學中願屆其他業務上ニ關シテハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十五條　學生ノ學用品ハ自辨トス但授業ノ種類ニ由リ物件ヲ支給シ或ハ之ヲ貸與スルコトアルヘシ

第十六條　學生ナシテ毎年七八月ノ際ニ隊附服務セシメ第三學年者ニアリテハ砲兵射的學校及要塞砲兵聯隊ニ派遣シ野戰及要塞砲兵射擊術及其用法ヲ實地ニ研究セシム但第二學年者ニアリテハ尚ホ其年附屬セシ軍隊ノ秋季演習ニ從事セシム

學生ハ隊附服務中勤務上ニ關シテハ其隊長ニ謀シ砲兵射的學校及要塞砲兵聯隊派遣中研究ノ事項ニ關シテハ該校長若クハ該隊長ノ指揮ヲ受クルモノトス

第十七條　學生隊附服務中ハ當該隊長學生ニ對シ懲罰ヲ科スルノ權ヲ有ス

當該隊長ハ學生隊附服務ヲ終リタル後砲兵射的學校長竝ニ要塞砲兵聯隊長ハ學生研究ヲ終リタル後各其成蹟ヲ校長ニ申報ス

第十八條　校長ハ各學期ノ終ニ於テ武官教官ヲ會集シ學生ノ修學結果及ヒ技倆ヲ審査シ第一第二學年者ニアリテハ其修學結果ヲ第三學年者ニアリテハ技倆證明書並優劣順次名簿ヲ參謀總長ニ呈ス

第十九條　學生ノ卒業者ニハ卒業證書及ヒ之ヲ表彰スヘキ徽章ヲ附與ス

第二十條　學生卒業ノ上ハ隊附ノ者ニアリテハ直チニ原隊ニ復歸セシメ隊外ノ者ニアリテハ其所管ニ復歸ノ後直チニ隊附ヲ命ス

陸軍大學校學生候補名簿

所管職官姓名	族籍	年齢	陸軍出身	戰役	賞罰	隊附服務年月數

隊長所見

體格　何ヶ
性質　何ヶ
才品　何ヶ
能行　何ヶ
學術　何ヶ
勤務　何ヶ
言語　何ヶ
特有技能　何ヶ

本職ノ所見トシテ記載スル件々ハ特ニ擔保ノ責ニ任ス仍テ茲ニ記名ス

年　月　日　聯(大)隊長　姓　名印

右陸軍大學校學生候補ニ選拔スルコトヲ確認ス

年　月　日　所管長官　姓　名印

隊長所見ハ專ラ本條例第九條乃至第十一條ノ精神ニ基キ記載スルモノニシテ其書式ハ概子考科表要則ノ要旨ニ從ヒ組織風采動作等其他細事ニ至ルマテ其爲人ノ如何ヲ一見克ク細密ニ識別シ得ルヤウ如何ニ緊要ナルヲ記スヘシ學術ノ區別ニ於テ何學ハ上或ハ中ト記スルヤウ其他劣ノ程度ヲ列スルニ足ラサルヲ如キハ其學ノ程度ヲ普通學ハ高等中學卒業者ニ均シ或ハ漢學ハ左國史漢ヲ涉獵シ其大意ニ通シ又或ハ兵學ハ何等ヲ語シ之ヲ活用スルヲ得ルトカ記スルカ如シ他之ニ準ス且讖左アルモノハ之ヲ記スヘシ

第一款　陸地測量部

勅令

明治二十四年八月朕陸地測量部條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸地測量部條例

第一條　陸地測量部ハ陸地測量ヲ施行シ兵要地圖及一般ノ國用ニ充ツ可キ內國圖ヲ製造修正シ其他盡地ニ關スル事ヲ掌ル所トス

第二條　陸地測量部ニ三角科地形科及製圖科ヲ置キ各科ヲ數班ニ分チ又別ニ修技所ヲ置ク

第三條　陸地測量部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長　各科大佐

事務官　各科少佐及尉官

材料主管　各科大尉

軍吏　一（二）等軍吏

科長　各科中（少）佐

科係　各科中尉或少尉

班長　各科少佐或大尉

班員　各科大中少尉或相當陸地測量師及陸地測量手

修技所幹事　各科大尉

修技所教官　各兵科大中少尉或相當陸地測量師

修技所助教　陸地測量手

第四條　部長ハ參謀總長ニ隸シ部事ヲ整理シ及陸地測量官發成ノ責ニ任ス

第五條　事務官ハ部長ノ命ヲ受ケ部內ノ庶務ヲ掌ル其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第六條　材料主管ハ部長ノ命ヲ受ケ器具材料及圖籍ノ整理ニ任シ其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第七條　軍吏ハ部長ノ命ヲ受ケ會計一般ノ規定ニ據リ部內ノ會計物品ノ購買供給ヲ掌リ其下ニ書記或ハ陸軍屬ヲ置ク

第八條　三角科ハ量地ノ事ヲ掌シ三角測量及水準測量ノ基點ヲ設爲シ地形科ハ地形測量ヲ施行シ踏測量ヲ施行シテ原圖ヲ製造修正シ製圖科ハ踏地圖ヲ製造シテ製版印刷スルヲ掌ル

第九條　修技所ハ陸地測量官ヲ養成スルノ所ニシテ測量手タル學生及生徒ヲ置ク其教授科目ハ陸地測量部長之ヲ定ム

第十條　科長ハ部長ノ指揮監督ヲ受ケ班長以下ニ職務ヲ課シ各其科ノ整理ニ任ス

第十一條　科係ハ科長ノ命ヲ受ケ科內ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍屬或ハ陸地測量手ヲ置ク

第十二條　班長ハ科長ノ命ヲ受ケ其班員以下ニ職務ヲ課シ各班ノ事業ヲ管理ス

第十三條　班員ハ上官ノ命ヲ受ケ各其業務ヲ分掌ス

第十四條　科長及班長ハ陸地測量官ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十五條　修技所幹事ハ部長ノ命ヲ受ケ學生及生徒ノ養成ニ任シ所內ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士或ハ陸地測量手ヲ置ク

第十六條　修技所教官及助教ハ部長ノ命ヲ受ケ學術科ノ教授ヲ分掌ス

第十七條　修技所教官ハ定員ノ外他ニ本職アル者ヲ以テ兼勤セシメ若クハ學識アル者ヲ選ヒテ之ニ囑托スルヲ得

附則

第十八條　本條例施行前ヨリ陸地測量部ニ出仕スル准士官及各兵下士ハ當分使用スルコトヲ得

第十二章　監軍部

勅令

明治二十年五月三日朕監軍部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

監軍部條例

第一條　監軍部ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍軍隊練成ノ察一ヲ規畫セシム

第二條　監軍部ニ監軍一人ヲ置キ大將若クハ中將ヲ以テ之ニ親補シ直ニ天皇陸下ニ隸ス

第三條　監軍部ニ參謀ヲ置キ幕僚ヲ參謀部及副官部ニ分ツ

第四條　幕僚ニ參謀長一人ヲ置キ少將若クハ大佐ヲ以テ之ニ補ス

第五條　參謀部ニ中（少）佐及大尉各一人副官部ニ少佐大尉各一人ヲ置キ其下ニ書記五人ヲ附ス

第六條　監軍ノ下ニ騎兵監一人ヲ置キ少將若クハ騎兵大佐ヲ以テ之ニ補シ野戰砲兵監一人ヲ置キ少將若クハ砲兵大佐ヲ以テ之ニ補シ要塞砲兵監一人ヲ置キ少將若クハ砲兵大佐ヲ以テ之ニ補シ工兵監一人ヲ置キ少將若クハ工兵大佐ヲ以テ之ニ補シ輜重兵監一人ヲ置キ輜重兵大（中）佐ヲ以テ之ニ補ス

第七條　將校學校監ノ下ニ騎兵監ノ下ニ副官二人

ヲ置キ騎兵少佐及騎兵大中尉ヲ以テ之ニ補シ各砲兵監ノ下ニ副官二人宛ヲ置キ砲兵少佐及砲兵大中尉ヲ以テ之ニ補シ工兵監ノ下ニ副官二人ヲ置キ工兵少佐及工兵大中尉ヲ以テ之ニ補シ輜重兵監ノ下ニ副官二人ヲ置キ輜重兵大中尉ヲ以テ之ニ補ス

第八條　士官學校戶山學校幼年學校教導團及將校生徒試驗常置委員ハ直ニ監軍ニ隸ス

第九條　騎兵監ハ本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ陸軍乘馬學校ヲ管轄ス

第十條　野戰砲兵監ハ野戰砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ砲兵會議砲兵射的學校ヲ管轄ス

第十一條　要塞砲兵監ハ要塞砲兵ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ砲兵會議砲工學校要塞砲兵幹部練習所ヲ管轄ス

第十二條　工兵監ハ本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌リ工兵會議砲工學校ヲ管轄ス

第十三條　輜重兵監ハ本科ニ關スル事項ヲ調査研究審議シ並ニ立案スルコトヲ掌ル

第十四條　監軍ハ勅ヲ奉シ檢閱使トシテ軍隊ノ檢閱ヲ行フ其法陸軍軍隊檢閱條例ニ詳悉ス

第一款　將校生徒試驗委員

勅令

明治二十五年十一月朕陸軍將校生徒試驗委員條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　試驗委員ハ陸軍將校生徒ノ學術試驗ヲ施行スルモノニシテ之ヲ二種ニ分ツ

一　常置委員

二　臨時委員

第二條　常置委員ハ士官候補生、幼年學校生徒及一年志願兵志願者ノ試驗問題ヲ起草シ而シテ士官候補生、幼年學校生徒、一年志願兵志願者ノ試驗ヲ實施シ其成績ヲ調査研究シ其結果ヲ監軍ニ隸ス其職員左ノ如シ

委員長　大佐

委員　中少佐大尉

特ニ委員中ノ一人ニ命シ試驗ニ關スル事務ヲ取扱ハシム

第三條　前條委員長以下他ニ本職アル者ヲ以テ之ニ兼補ス

第四條　臨時委員ハ各試驗場ニ就キ士官候補生、幼年學校生徒、一年志願兵志願者ノ試驗ヲ實施スル者ニシテ試驗ノ都度各師團長（近衛師團長ヲ除ク以下同シ）其管下將校（佐官或ハ大尉）中ヨリ所要ノ人員ヲ選定シテ之ヲ命ス但近衛師團ノ臨時委員ハ第一師團ノ臨時委員ニ於ル志願者ノ試驗ハ第一師團ノ臨時委員之ヲ行フ

第五條　師團長ハ臨時委員ヲ指揮シテ試驗ヲ實施セシメ監軍ニ對シテ其責ニ任ス

第六條　常置委員長ハ常置委員ニ各種ノ試驗事務ヲ分任セシメ之ヲ監督整理シ監軍ニ對シテ其責ニ任ス

第七條　第二條ニ掲クル各種試驗ノ時期ニ際シ士官又ハ陸軍教授若クハ陸軍助教若干名ニ命シ常置委員長ノ下ニ在テ試驗ノ事ニ從ハシム

第八條　各種試驗ノ時期ニ際シ書記トシテ下士若クハ陸軍屬若干名ヲ試驗委員ノ下ニ屬スルコトヲ得

第二款　砲工學校

勅令

明治二十二年五月三日陸軍砲工學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲工學校條例

第一條　陸軍砲工學校ハ砲工兵少尉ニシテ二箇年以上隊務ニ服シ其勤務ニ慣熟シタル者ヲ分遣シテ學生トナシ以テ各本科專門ノ勤務ニ必要ナル學術ノ教育ヲ完全ナラシムルヲ以テ目的トス

第二條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　砲兵若クハ工兵大佐

副官　砲兵若クハ工兵大中尉（參謀佐官若クハ大尉砲兵科佐官若クハ大尉騎兵大尉陸軍教授）

教官　軍吏

第三條　校長ハ野戰砲兵監及要塞砲兵監工兵監ニ隸シテ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第四條　副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ砲工兵科下士若クハ陸軍屬ヲ置ク

第五條　教官ハ學術教授ノ擔任ニ又時トシテ翻譯ノ事ニ從ハシム

第六條　軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク

第七條　學期ハ概ネ十二月ニ始リ修學期ヲ二箇年トス但疾病ノ故ヲ以テ休課多キ者ハ尚ホ留學ヲ命スルコトアルヘシ

第八條　學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第九條　學生分遣ノ告達アレハ近衛都督師團長ハ入校期十日前ニ其兵籍ニ考科表ヲ添ヘテ砲工學

校長ニ送達スヘシ

第十條　學生ノ願屆其他業務ニ關スル事件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十一條　學生ハ校外ニ居住セシム而シテ各自所要ノ書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第十二條　校長ハ毎學年ノ終リニ於テ教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ以テ修得證明書ヲ作リ之ニ署名捺印シ野戰砲兵學生ハ野戰砲兵監ニ要塞砲兵學生ハ要塞砲兵監ニ工兵學生ハ工兵監ニ進達シ各監ハ之ヲ監軍ニ呈ス又別ニ一本ヲ製シ師團長ヲ經テ之ヲ本人所屬ノ隊長ニ交附スヘシ

第十三條　本校ニ所要ノ馬匹及其材料ハ士官學校所要ノモノヲ兼用ス

第三款　士官學校

勅令

明治二十六年十二月十六日第二百三十三號　朕陸軍士官學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍士官學校條例

第一條　陸軍士官學校ハ陸軍各兵科ノ士官候補生ヲ召集シテ生徒トナシ初級士官タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　大佐

副官　大尉、中尉

教官　中(少)佐、少佐、大尉

馬術教官　軍醫、獸醫、陸軍教授

騎兵中隊長　騎兵大尉

中隊附士官　大尉　中尉

軍醫　獸醫

軍吏

第三條　校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第四條　副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ准士官及下士陸軍屬ヲ置ク

第五條　武官教官ハ各學科ノ教授ヲ分擔シ其中佐若クハ少佐ノ教官ヲ以テ科長トス

第六條　各科長中戰術軍制學科長ハ本科教授ノ外訓育ニ關スル術科ノ監督ヲ兼ヌルモノトス

第七條　馬術教官ハ諸生徒ノ馬術及騎兵科生徒ノ教練ニ任シ兼テ校服一切ノ事ヲ統ヘ馬匹ノ調教ヲ掌理ス其下ニ騎兵科下副官同下士ヲ置ク

第八條　文官教官ハ外國語學科ノ教授ヲ分擔ス尚ホ教授ノ外助教ヲ置ク

第九條　中隊長ハ專ラ訓育ノ事ヲ掌リ中隊附士官ヲシテ其諸科目ヲ分擔セシメ生徒ヲシテ諸勤務ニ熟セシメ且ツ內務及室內ノ整頓竝ニ生徒ノ行狀監視スルヲ任トス

第十條　中隊附士官ハ中隊長ノ下ニ在テ訓育ノ諸科目ヲ分擔シ殊ニ生徒ノ身上ニ就テハ日常須臾ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルヲ任トス但シ騎兵科士官ハ生徒ノ馬術及騎兵科生徒ノ教練上ニ就テハ馬術教官ニ隸ス

第十一條　中隊附士官ハ總テ校內ノ官舍ニ居住シ生徒ノ監視ニ便ナラシム

第十二條　各中隊ニ下副官及下士ヲ置キ下副官ハ中隊ノ庶務ヲ整理シ下士ハ武器、被服、諸給與、炊爨等ノ事ヲ掌ル但シ下士中ノ若干員ハ本文勤務ノ外輕術體操ノ助教ヲ分擔ス

第十三條　兵卒ヲ師團各隊ヨリ分遣セシメ生徒ノ使用ニ供フ

第十四條　軍醫ノ下ニ看護長獸醫ノ下ニ蹄鐵工長(下長)軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク

第十五條　生徒ノ學期ハ一年七箇月トシ毎年十二月上旬ニ始リ翌々年六月下旬ニ終ルモノトス

第十六條　生徒ハ二中隊ニ編制シ各中隊ハ同學期ノ生徒ヲ以テス

第十七條　生徒ノ教育ハ之ヲ分チ教授及訓育トシ其課程ハ士官學校長案ヲ具シ監軍ニ進達シ其認可ヲ得テ之ヲ定ム

第十八條　生徒ハ其長舊業ヨリ本隊ヲ離ルヽコトナシト雖モ入校中ハ總テ本校ノ管轄トス

第十九條　生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ據ル

第二十條　生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第二十一條　生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校歸隊セシム

其一　學術科ノ積習全カラスシテ實際動務練習ノ識力ニ乏シク卒業ノ目途ナキ者

其二　軍紀ヲ紊リ又ハ違法則ヲ犯ス者

其三　品行不正ニシテ悔悟ノ目途ナキ者

其四　自己ノ不攝生ヨリ疾病ヲ久シ・休業スル者

其五　長病ニ由リ卒業ノ目途ナキ者

第二十二條　校長ハ學期ノ終リニ於テ生徒ノ卒業試驗ヲ施行シ各教官及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ全學期中ノ諸結果ト卒業試驗ノ成績ヲ對照シ序列ヲ定メ考科表ヲ製シ監軍ニ進達シ監軍ノ認可ヲ得テ教則ニ定ムル所ノ課程卒業ノ證書ヲ附與ス

第二十三條　學期中ノ諸結果劣等ノ爲メ卒業試驗ヲ受クルヲ得ス若クハ卒業試驗ニ落第セシ者ハ本條例第二十一條ニ該ル

第二十四條　毎年七月中旬ヨリ九月上旬マテノ間ニ於テ凡ソ六週間生徒ニ休暇ヲ與フ此間校附諸官ハ教科書編纂訂正等ノ事ニ服ス

第二十五條　毎年六月全學期ヲ終リタル生徒ノ教授及訓育ニ任セシ教官及中隊長中隊附士官ハ九月上旬ヨリ十一月中旬マテノ間師團各隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

第二十六條　前條隊附勤務ヲ爲スニハ中隊長及中隊附士官ハ各本科ノ兵隊ニ限ルト雖モ教官ニ在テハ歩騎砲工輜重兵隊中ニ就キ己レノ屬スヘキ兵種ヲ希望スルコトヲ得

第二十七條　本校ニ所要ノ馬匹及其材料ヲ備フ其馬匹材料ハ他諸學校ニ兼用ス

第二十八條　生徒野營演習ノ際所要ニ依リ校園若クハ第一師團ノ諸隊ヲ使用スルコトヲ得

第四款　幼年學校

勅令

明治二十六年十二月十六日第二百三十四號　朕陸軍幼年學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍幼年學校條例

第一條　陸軍幼年學校ハ陸軍幼年生徒ニ概子學管中學ト同一ナル教授竝ニ軍人ノ豫備教育ヲ與ヘ陸軍各兵科ノ士官候補生ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　佐官

副官　大(中)尉

教官　陸軍教授

馬術教官　騎兵中尉

中隊長　大尉

中隊附士官　中尉

軍醫

軍吏

第三條　校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第四條　副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士及陸軍屬ヲ置ク

第五條　教官ハ各學科ノ教授ヲ分擔ス尚ホ教授ノ外助教ヲ置ク

第六條　馬術教官ハ生徒馬術ノ教練ニ任ス其下ニ騎兵科下士ヲ置ク

第七條　中隊長ハ專ラ訓育ノ事ヲ掌リ中隊附士官ヲシテ其諸科目ヲ分擔セシメ生徒ヲシテ諸勤務ニ熟セシメ且內務及室內ノ整頓竝ニ生徒ノ行狀監視スルヲ任トス

第八條　中隊附士官ハ中隊長ノ下ニ在テ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ殊ニ生徒ノ身上ニ就テハ日常須臾ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルヲ任トス

第九條　中隊附士官ハ總テ校內ノ官舍ニ居住シ生徒ノ監視ニ便ナラシム

第十條　各中隊ニ下副官及下士ヲ置キ下副官ハ中隊ノ庶務ヲ整理シ下士ハ武器、被服、諸給與、炊爨等ノ事ヲ掌リ且ツ輕術及體操ノ助教ヲ分擔ス

第十一條　軍醫ノ下ニ看護長軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク

第十二條　生徒ハ官費、半官費、自費ノ三種ニ分ツ官費生徒ハ一切ノ經費ヲ官給シ且手當金ヲ給ス半官費生徒ハ小被服賄料ノ經費自費生徒ハ被服經費一切ノ經費ヲ納メシム其金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十三條　職死シタル(平時公務ノ爲メ死亡シタル者モ亦之ニ準ス)將校同相當官、高等文官ノ孤兒ハ官費生徒トス

第十四條　前條ノ外官費生徒、半官費生徒自費生徒ト爲スヘキ者ハ監軍之ヲ裁定ス

第十五條　前條ノ區分ハ專ラ實績ノ多少ヲ察知シ之ニ據テ取捨スヘシト雖モ仍ホ左ニ列記スル者ハ特ニ顧慮スヘシ

其一　在職士官ノ子弟

其二　現職ニアラサル上長官ノ子弟

其三　死亡シタル將校同相當官ノ子弟

其四　前三項ニ均シキ高等文官ノ子弟

其五　在職上長官現職ニアラサル將官同相當官ノ子弟

其六　前項ニ均シキ高等文官ノ子弟

第十六條　生徒修學期限ハ三箇年トス而シテ其一年期ハ九月上旬ニ始マリ翌年七月上旬ニ終ル但最終ノ一年期ハ翌年五月中旬ニ終ル

第十七條　生徒ハ之ヲ二中隊ニ編成ス

第十八條　生徒ノ教育ハ之ヲ分チ教授及訓育トシ其課程ハ幼年學校長案ヲ具シ監軍ニ進達シ其認可ヲ得テ之ヲ定ム

第十九條　生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第二十條　第三年生徒中特ニ學術ニ長シ品行方正ニシテ他ノ望標トナルモノ若干員ヲ撰拔シ舍長ヲ命シ特別ノ徽章ヲ附セシム

第二十一條　校長ハ學期末ニ於テ生徒ノ卒業試驗ヲ施行シ各教官及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ全學期中ノ諸結果ト卒業試驗ノ成績ヲ對照シ序列ヲ定メ考科表ヲ製シ監軍ニ進達シ監軍ノ認可ヲ得テ教則ニ定ムル所ノ課程卒業ノ證書ヲ附與ス其學術品行共ニ優等ナル者ハ同時ニ二等軍曹ノ階級ニ進ムコトヲ得

第二十二條　生徒中定期內ニ卒業シ得サル者ト雖モ尚ホ望ミアル者ハ定期外一箇年延期修學セシ

ムルコトヲ得

第二十三條　生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校セシム

其一　學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

其二　軍紀ヲ紊リ又ハ屢〻法則ヲ犯ス者

其三　品行不正ニシテ悔悟ノ目途ナキ者

其四　病ニ由リ卒業ノ目途ナキ者

但自己ノ不攝生ヨリ生セサル長病ニシテ尚ホ卒業ノ見込アル者ハ特別ノ詮議ニ附スルコトヲ得

第二十四條　生徒中全學期ヲ終ルモ病氣其他ノ事故ニ因リ士官候補生ト爲スヲ得サル者ハ單ニ教則卒業ノ證書ヲ附與シ退校セシム

第二十五條　前三條ニ該ル者アルトキハ幼年學校長事由ヲ悉シ監軍ニ上申シ監軍之ヲ裁定處分ス

第二十六條　毎年七月中旬ヨリ八月下旬ノ間ニ於テ凡ソ三十日間生徒ニ休暇ヲ與フ此間校附諸官ハ教科書編纂訂正等ノ事ニ服ス

第二十七條　毎年六月上旬ヨリ八月下旬マテ中隊附士官若干ヲ師團本科ノ兵隊ニ派遣シ隊附勤務ヲナサシム

第二十八條　本校ニ所要ノ馬匹及其材料ハ士官學校所要ノモノヲ兼用ス

第五款　戸山學校

勅令

明治二十年十月十八日第五十四號

朕陸軍戸山學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍戸山學校條例

第一條　陸軍戸山學校ハ隊附將校下士ヲ分遣シ學生ヲ爲シ歩兵戰術、射撃、體操並ニ劍術ノ原理ヲ研究セシメ且其演習ニ關スル教則ヲ一定ナラシメ常ニ內外國ニ於ケル各科進歩ノ形況ヲ知悉シ教育一般ノ改良ヲ圖ルヲ目的トスル所トス

第二條　本校ニ戰術科射撃科體操科及教導大隊ヲ置ク

第三條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教官

歩兵大佐

歩兵大尉歩兵中尉

歩兵中少佐歩兵大尉歩兵中尉

一等軍醫

軍吏

軍醫

第四條　校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第五條　副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士及陸軍屬ヲ置ク

第六條　教官ハ各科ノ教授ヲ擔任シ教導大隊ノコトヲ兼攝ス

第七條　各科教官中高級ノ者一名ヲ其科長ト爲ス

第八條　教導大隊ノ大隊長ハ戰術科科長副官中隊長及中隊附士官ハ教官ヲ以テ之ヲ兼ネシム但學生ヲ以テ其幹部ノ一部ニ充ツルコトアルヘシ

第九條　教官ノ下ニ教官補曹長（准士官）及助教曹長一等軍曹ヲ置ク

第十條　軍吏ノ下ニ書記軍醫ノ下ニ看護長ヲ置ク

第十一條　戰術科ハ歩兵戰術活用上ノ教育ヲ以テナラシムルヲ目的トシ歩兵各聯隊ノ士官ヲ以テ其學生ト爲ス但時宜ニ依リ歩兵少佐若クハ工兵士官ヲ以テ其學生ト爲スコトアルヘシ

第十二條　射撃科ハ射撃ノ學理及銃ノ用法ヲ詳カニシ射撃ノ教官ヲ完全ナラシムルヲ目的トシ歩兵士官及歩兵要塞砲兵ノ下士ヲ以テ其學生ト爲ス但時宜ニ依リ騎兵士官ヲ以テ其學生ト爲スコトアルヘシ

第十三條　體操科ハ體操及劍術ノ原理ヲ詳悉シ其技術ヲ練磨セシムルヲ目的トシ歩騎砲工輜重兵科ノ下士ヲ以テ其學生ト爲ス

第十四條　教導大隊ハ學生練習ノ用ニ供スルモノトス其下士兵卒ハ歩兵各聯隊ヨリ之ヲ分遣セシム

前項ノ外教導大隊ニハ歩兵曹長同一二等軍曹ヲ常置シ校內ニ居住シ隊務ヲ分掌セシム

第十五條　戰術科學生ノ學期ハ一年一回トシ概ネ十二月ニ始マリ五月若クハ六月ニ終ル

射撃科學生ノ學期ハ一年一回トシ概ネ一月ニ始マリ七月ニ終ル

體操科學生ノ學期ハ一年二回トシ其第一回ハ概ネ九月ニ始マリ十二月若クハ一月ニ終リ第二回ハ概ネ二月ニ始マリ五月若クハ六月ニ終ル

第十六條　各科學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十七條　學生分遣ノ告達アレハ近衛都督「鎮台司令官」ハ部下ノ隊長（同立大隊アレハ大隊長獨立中隊ナレハ中隊長）ヲシテ士官下士中身體強壯行狀方正勤務勉勵ノ者ニシテ第十一條乃至第十三條ノ目的ニ適スヘキ者ヲ選定セシメ而シテ入校期十日前迄ニ其氏名ニ考科表ヲ添ヘ戸山學校長ニ送達スヘシ

第十八條　學生士官ハ校外ニ其下士ハ校內ニ居住セシム

學生所要ノ兵器器具器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

其下士ニ在テハ製具ハ之ヲ携帶セシムヘシ

第十九條　學生中ノ顯屬其他雜務ニ關スル件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ストアルヘシ

第二十條　學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス疾病其他ノ事故ヲ以テ修得ノ目的ナキ者ヲ退校歸隊セシムルハ例外トス

第二十一條　學期ノ終リニ於テ校長ハ教官ヲ集メテ會議ヲ開キ學生修學ノ成蹟ヲ調査シ士官ニアリテハ修得證明書ヲ作リ署名捺印シ下士ニアリテハ考科列序ヲ定メ都貫、師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交附スルモノトス

校長ハ更ニ學生修學ノ成蹟ヲ監軍ニ報告シ且ツ下士ニアリテハ其學術修學ノ證ヲ附與ス

第二十二條　學生下士ノ中學術優等ノ者ヲ選拔シテ員外助教ヲ命シ校內ニ居住セシム

員外助教ノ命ヲ受ケタル者ハ每學期ノ終リニ於テ其半數ノミ歸隊セシム

第二十三條　教導大隊ヘ分遣ノ下士及兵卒ハ四月若クハ五月ニ於テ其一半ヲ歸隊セシメ十一月ニ於テ之ヲ補充ス

第二十四條　各聯隊ヨリ分遣スル教導大隊ノ下士ハ常備現役尚ホ二箇年以上ノ期アル者若クハ二箇年以上服役セシムヘキ見込アル一二等軍曹ニシテ勤務勉勵身體強壯行狀方正學術優等ノ者ヲ選拔セシムヘシ

第二十五條　教導大隊ノ兵卒ハ常備現役尚ホ一年七箇月ノ期アル上等兵及一二等卒ニシテ勤務勉勵行狀方正身體強壯ノ者ヲ選拔分遣セシム

第二十六條　教導大隊分遣ノ下士兵卒ハ學生分遣中ニ於テハ歸省休暇等一切之ヲ許サス

第二十七條　教導大隊分遣ノ下士兵卒ハ教導大隊ニ編入スト雖モ名簿ハ原隊ニ之ヲ存シ武器裝具ハ之ヲ携帶セシムヘシ

第二十八條　教導大隊ノ下士兵卒ノ被服ニハ特別ノ徽章ヲ附著ス

第二十九條　教導大隊ノ內務ハ概ネ歩兵內務書ニ據リ施行スヘシ

第三十條　每年各科學生退校ノ後次學期マテノ間ニ於テ當該科教官將校中若干員ヲ歩兵聯隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

第六款　軍樂學舍

勅令

明治二十三年七月二十一日第百三十七號

朕陸軍軍樂學舍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍樂學舍條例

第一條　陸軍軍樂學舍ハ陸軍戸山學校ニ置キ各軍樂隊ノ樂生ヲ補充スル爲生徒ヲ養成シ且軍樂學術ノ進歩ヲ計ル所トス

第二條　陸軍軍樂學舍ノ定員ハ左ノ如シ

學舍長　一名

生徒隊長　一名

生徒隊次長　一名

一等軍樂長　一名

一二等軍樂長　一名

軍樂次長　三名

一等軍樂手　六名

二等軍樂手　二十七名

樂手補　十二名

樂生　一名

一二三等書記　一名

軍醫　一名

一二三等看護長　一名

第三條　學舍長ハ戸山學校長ニ隸シ舍務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第四條　生徒隊長ハ學舍長ヨリ之ヲ兼テ生徒ノ教育ヲ掌リ次長以下ヲシテ諸科目ヲ分擔セシム但時宜ニ依リ專任者ヲ置クコトアルヘシ

第五條　一二等軍樂手ノ定員ハ第二條ニ掲クル者ノ外軍樂生徒ノ人員ニ應シ一二等軍樂手ヲ選シ二十名ニ至ル迄ハ增員スルコトヲ得

第六條　軍醫ハ他ニ本職アル者ヲ以テ兼補ス

第七條　樂譜ヲ一定スル爲メ軍樂學舍軍樂手ノ內優等ナル者ヲ選ミ近衛及各師團軍樂手ト交換セシム

第八條　每年採用スヘキ軍樂生徒ノ人員及軍樂手ノ交換ハ陸軍大臣之ヲ定ム

生徒ノ召募及軍樂手交換ノコトハ其時々戸山學校長ヨリ監軍ニ上申シ監軍ハ之ヲ陸軍大臣ニ移ス

第九條　軍樂生徒ハ軍樂部ニ出身志願ノ者ヨリ採用ス

第十條　軍樂生徒ノ入學檢査格例ハ戸山學校長之ヲ定メ道廳府縣ニ通牒シ召募スルヲ例トス

第十一條　檢査合格ノ上ハ凡ソ一箇月間通學セシメ實試ノ上之ヲ採用ス此ノ場合ニ於テハ本人所轄ノ道廳府縣ニ通牒スルモノトス

第十二條　軍樂生徒ハ學ノ上ハ必ス陸軍ニ從事シ決シテ他志ナキノ誓約ヲ爲サシム

第十三條　軍樂生徒ノ修業期限ハ概ネ十五箇月トシ修學上ノ費用其他被服食料等總テ官費トシ且手當金若干ヲ給ス

第十四條　軍樂生徒修業中ハ隨意休暇ヲ許サス

第十五條　軍樂生徒修業中行狀不正或ハ軍紀ヲ遵守セス或ハ違法則ヲ犯シ又ハ傷痍疾病ニテ生徒タルニ堪ヘサル者又ハ卒業ノ目途ナキ者ハ軍樂生徒ヲ免ス

第十六條　軍樂學舍ノ內務ハ概ネ軍隊內務ノ規定ニ依ル

第十七條　學期末ニ於テ生徒ノ終末試驗ヲ施行ス（事故アル者ハ試驗ヲ延期スルコトアリ）此ノ試驗ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ付與シ樂生ヲ

命ス

第七款　乘馬學校

勅令　明治二十一年三月二十一日第十三號　朕陸軍乘馬學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍乘馬學校條例

第一條　陸軍乘馬學校ハ騎兵隊ノ士官下士ヲ分遣シテ學生トナシ本科專門ノ馬術ヲ訓練シ馬學ヲ習修セシムル所トス

第二條　本校ニ概ヲ置キ所要ノ馬匹ヲ備フ

第三條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　騎兵佐官
副官　騎兵大中尉
教官　騎兵大中尉　騎兵一二等獸醫
調馬手長　騎兵中少尉
軍吏
軍醫
獸醫

第四條　校長ハ騎兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第五條　副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ陸軍屬ヲ置ク

第六條　教官ハ學術ノ教授ヲ擔任ス

第七條　教官ノ下ニ助教ヲ置キ騎兵曹長ヲ以テ之ニ充ツ

第八條　調馬手長ハ校長ニ隸シ馬匹ノ調教其他校務一切ノ事ヲ統轄ス

第九條　調馬手長ノ下ニ調馬手ヲ置キ陸軍技手ヲ以テ之ニ充ツ

第十條　軍吏ノ下ニ書記若干員軍醫ノ下ニ看護長ヲ置ク

第十一條　學期ハ毎年概子九月ニ始リ翌年六月ニ終ルモノトス

第十二條　學生ノ人員ハ其ノ時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十三條　學生分遣ノ告達アレハ近衛都督師團長ハ部下ノ騎兵大隊長ヲシテ士官下士中身體强壯行狀方正勤務勉勵ノ者ヲ選定セシメ而シテ入校期十日前ニ其兵籍ニ考課表ヲ添ヘ乘馬學校長ニ送達スヘシ

第十四條　第一條ニ掲クル學生ノ外時宜ニ依リ教導團騎兵砲兵輜重兵生徒隊附士官下士及野戰砲兵隊輜重兵隊ノ士官下士ヲ分遣シテ學生トナスコトアルヘシ

第十五條　學生中ノ願屆其他業務ニ關スル事件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十六條　學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス疾病其他ノ事故ニ依リ修得ノ目的ナキ者ヲ退校歸隊セシムルハ此限ニアラス

第十七條　校長ハ學期ノ終リニ於テ教官ヲ集メ學生修學ノ成績ヲ調査シ學術成績表ヲ製シ騎兵監ニ呈シ士官ニアリテハ學術修得證明書ヲ作リ署名捺印シ下士ニアリテハ考科列序ヲ定メ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交附ス尚ホ下士ニハ學術修得ノ證ヲ附與ス

第十八條　學生士官ハ校外ニ其下士ハ校內ニ居住セシム

第十九條　學生所要ノ兵器馬匹馬具書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第二十條　學生下士ニ在テハ雜具ヲ貸與シ被服食料ハ原所管ヨリ之ヲ支給ス

第二十一條　每年學期ノ終ヨリ次學期ノ始マテノ間ニ於テ教官將校ノ若干員ヲ本科ノ兵隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

第八款　砲兵射的學校

勅令　明治二十年十二月二十五日第七十一號　朕陸軍砲兵射的學校條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲兵射的學校條例

第一條　陸軍砲兵射的學校ハ野戰砲兵隊ノ大中尉ヲ分遣シテ學生トナシ野戰砲兵ノ射擊術及用法ヲ訓練シ且其演習ニ關スル教則ヲ一定ナラシメ常ニ野戰砲兵ノ射擊術及戰術ヲ研究シ教育一般ノ改良進歩ヲ圖ルヲ目的トスル所トス

第二條　學生ノ訓練ニ供スル爲メ本校ニ教導中隊ヲ置ク

第三條　本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　砲兵佐官
副官　砲兵大尉
教官　砲兵少佐砲兵大尉　砲兵中尉
軍吏
軍醫
獸醫

第四條　校長ハ野戰砲兵監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第五條　副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ砲兵上等監護及下士ヲ置ク

第六條　教官ハ學術ノ教授ヲ擔任シ野戰砲兵ノ射擊術及用法ヲ調査研究シ且副官若クハ教導中隊長教導中隊附ヲ兼ネシム

第七條　軍吏ノ下ニ書記軍醫ノ下ニ看護長ヲ置ク

第八條　學期ハ毎年二回トシ第一學期ハ概子十一月下旬ニ始リ翌年二月ニ終リ第二學期ハ三月ニ始リ五月ニ終ルモノトス

第九條　學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス但時トシテ少佐ヲ以テ學生ニ換ヘ研究セシムルコトヲ得

第十條　學生分遣ノ告達アレハ近衛都督師團長官ハ部下ノ野戰砲兵聯隊長ヲシテ大中尉中身體强壯勤務勉勵ニシテ其學術ニ適當ト認ムル者ヲ選定セシメ而シテ入校期十日前ニ其兵籍ニ考科表ヲ添ヘ砲兵射的學校長ニ送達スヘシ

第十一條　學生中ノ願屆其他業務ニ關スル事件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十二條　學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退校スルヲ許サス疾病其他ノ事故ニ依リ修得ノ目的ナキ者ヲ退學歸隊セシムルハ此限ニ在ラス

第十三條　學期ノ終リニ於テ校長ハ教官ヲ集メテ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ以テ修得證明書ヲ作リ校長之ニ署名捺印シ野戰砲兵監ニ呈シ又別ニ一本ヲ製シ近衛都督師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交附スルモノトス

第十四條　學生士官ハ校外ニ住居セシム

第十五條　學生所要ノ兵器彈藥書籍器具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ

第十六條　第十六條教導中隊ノ下士兵卒ハ野戰砲兵各聯隊ヨリ分遣セシム

前項ノ外教導中隊ニハ砲兵曹長同一二等軍曹ヲ常置シ校內ニ居住シ隊務ヲ分掌セシム

第十七條　各聯隊ヨリ分遣スル教導中隊ノ下士ハ現役尚ホ一箇年以上ノ期アル一二等軍曹ニシテ勤務勉勵行狀方正學術優等ノ者ヲ選拔セシム其在校期ハ十一月下旬ヨリ五月マテトス

第十八條　教導中隊ノ兵卒ハ現役尚ホ一箇年以上ノ期アル上等及一二等卒ニシテ身體强壯行狀方正勤務勉勵ノ者ヲ選拔分遣セシム

第十九條　教導中隊兵卒ノ交換ハ毎年六月ニ於テ其全員凡三分二ヲ各聯隊ヨリ分遣シ在校兵卒ハ悉皆歸隊セシメ十一月ニ至テ殘餘三分一ヲ補充セシム

第二十條　教導中隊分遣ノ下士兵卒ハ學生分遣中ニ在テハ歸省休暇等一切之ヲ許サス

第二十一條　教導中隊分遣ノ下士兵卒ハ教導中隊ニ編入スト雖モ名籍ヲ原隊ニ存シ襲具及刀ハ之ヲ携帶セシムヘシ

第二十二條　教導中隊ノ下士兵卒ノ被服ニハ特別ノ徽章ヲ附著ス

第二十三條　教導中隊ノ內務ハ概子軍隊內務書ニ據リ施行スヘシ

第二十四條　每年二學期ノ終ヨリ第一學期ノ始マテノ間ニ於テ教官將校ノ若干員ヲ本科ノ兵隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

第九款　要塞砲兵幹部練習所

勅令　明治二十七年四月五日第三十八號　朕要塞砲兵幹部練習所條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

要塞砲兵幹部練習所條例

第一條　要塞砲兵幹部練習所ハ要塞砲兵隊ノ將校及下士ヲ分遣シテ學生トナシ射擊術觀測術及戰術ヲ訓練シ其演習ニ關スル教則ヲ一定ナラシメ常ニ射擊術觀測術及戰術ヲ研究シ教育一般ノ改良ヲ圖リ且ツ生徒中隊ヲ置キ要塞砲兵ニ充ツヘキ下士ヲ教育スル所トス

第二條　練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　砲兵佐官
副官　砲兵大中尉
教官　砲兵小佐砲兵大尉砲兵中尉
軍醫
軍吏

第三條　所長ハ要塞砲兵監ニ隸シ所務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第四條　副官ハ庶務ヲ掌リ其下ニ准士官及下士ヲ置ク

第五條　教官ハ學術ノ教授ヲ擔任シ射擊術觀測術及戰術ヲ調査研究シ且ツ副官及生徒中隊ノ中隊長中隊附ヲ兼ネシム

第六條　教官ノ下ニ助教ヲ置キ准士官及砲兵下士ヲ以テ之ニ充テ生徒中隊附ヲ兼ネシメ所內ニ居住セシム

第七條　軍醫ノ下ニ看護長軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク

第八條　學生ノ學期ハ毎年二回トシ第一期ハ九月初旬ニ始マリ十二月下旬ニ終リ第二期ハ二月初旬ニ始マリ五月下旬ニ終ルモノトス

第九條　學生ノ人員ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十條　學生ハ大中尉及一二等軍曹ヲ以テ之ニ充ツ但時宜ニ依リ少佐ヲ以テ學生トナスコトアルヘシ

第十一條　學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ部下ノ要塞砲兵聯隊長（獨立大隊及中隊ナレハ其隊長將備隊ニアリテハ其司令官以下倣之）ヲシテ適任ノ者ヲ撰定セシメ而シテ入所期十日前マテニ其兵籍簿ニ考科表ヲ添ヘ要塞砲兵幹部練習所長ニ於テ教官將校ノ若干員ヲ本科ノ兵隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

ニ送達スヘシ

第十二條　學生將校ハ所外ニ其下士ハ所內ニ居住セシム

第十三條　學生所要ノ兵器背嚢具雜具消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ其下士ニアリテハ被服裝具ヲ携帶セシム

第十四條　學生ノ業務ニ關スル願屆ハ所長ニ其他ハ所屬長官ニ差出スモノトス

第十五條　學生ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退所スルヲ許サス但疾病其他ノ事故ヲ以テ修得ノ目的ナキ者ハ退所セシムルコトアルヘシ

第十六條　學期末ニ於テ所長ハ各教官ヲ集メ學生修學ノ成績ヲ調査シ以テ修得證明書ヲ作リ所長之ニ署名捺印シ要塞砲兵監ニ呈シ又別ニ一本ヲ製シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ交付スルモノトス

第十七條　教育上軍隊ヲ要スルコトアルトキハ所長其理由ヲ添テ之ヲ要塞砲兵監ニ具申スヘシ

第十八條　生徒ハ華士族平民中要塞砲兵下士ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ之ヲ採用ス

第十九條　每年採用スヘキ生徒ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ監軍ニ移ス

第二十條　生徒召募ノ檢査格例ハ其時々監軍之ヲ定メ陸軍大臣ニ移ス

第二十一條　生徒ノ修業期限ハ每年概子四月ニ始マリ翌年十一月ニ終ルモノトス

第二十二條　生徒入學ノ上ハ自己ノ情願ヲ以テ退學スルヲ許サス必ス陸軍ニ從事シ決シテ他志ヲ抱キ誓約ヲナサシム

第二十三條　生徒修業中ハ一切歸省休暇ヲ許サス其行狀不正或ハ軍紀ヲ違守セス或ハ歷法則ヲ犯シ又ハ傷痍疾病ニテ生徒タルニ堪ヘサルカ若クハ卒業ノ目途ナキ者ハ退學セシム但傷痍疾病ニ係ル者ハ醫官ノ診斷ニ依テ處分ス

第二十四條　學期末ニ於テ卒業試驗ヲ施行シ及第セシ者ニハ卒業證書ヲ附與シ二等軍曹ニ任ス事故ノ爲メ試驗ヲ受クル能ハサルモノハ延期スルコトヲ得

第二十五條　前條二等軍曹ニ任スル者ノ兵役期限其他取扱ハ陸軍各兵科現役下士補充條例第二條及第七條乃至第十三條ヲ適用ス

第二十六條　生徒中隊ノ內務ハ概子軍隊內務書ノ規定ニ據ル

第二十七條　每年學期ノ終ヨリ次學期ノ始メマテニ於テ教官將校ノ內若干員本科ノ兵隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

第十款　教導團

勅令　明治二十三年三月二日　陸軍教導團條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍教導團條例

第一條　陸軍教導團ハ華士族平民中歩兵、騎兵、野戰砲兵、工兵、輜重兵科下士ニ出身志願ノ者ヲ選拔シテ生徒トシ下士タルニ必要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條　每年採用ス可キ生徒ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ監軍ニ移ス

第三條　本團ニ本部、歩兵、騎兵、野戰砲兵、工兵、輜重兵科ノ生徒隊並病院ヲ置ク左ノ如シ

第四條　本團ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

團長　歩兵佐官

副官　大(中)尉

病院長　二等軍醫正

生徒隊長　大尉

生徒隊附　大尉　中尉

歩兵生徒隊副官　中尉

軍醫

藥劑官

獸醫

軍吏

第五條　團長ハ監軍ニ隸シ本團ノ軍紀風紀ヲ維持シ教育一般ノ事ヲ總括シ且經理事務、召募事務及人事ヲ統轄シ歩兵生徒隊長ヲ兼ヌ

第六條　副官ハ團中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ准士官下士及陸軍屬若干員ヲ置ク

第七條　病院長ノ職務ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第八條　軍醫ノ下ニ看護長藥劑官ノ下ニ調劑手獸醫ノ下ニ蹄鐵工(下)長軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク

第九條　騎兵、野戰砲兵、工兵、輜重兵科ノ生徒隊長ハ團長ニ隸スト雖モ各科專門ノ教育ニ就テハ尙ホ當該兵監ニ屬ス

第十條　各生徒隊長ハ教育ノ事ヲ掌リ士官及下士ヲシテ其將科目ヲ分擔セシム

第十一條　生徒修業中ハ被服食料ハ官費トシ學科用書雜材料ハ官給若クハ貸與シ且手當金若干ヲ給ス

第十二條　本團生徒ノ學期ハ概子每年十二月ニ始リ各兵科ニ就キ其修業期限約子左ノ如シ

歩兵科　十六箇月

騎兵科　十八箇月

砲兵科　二十箇月

工兵科　二十箇月

輜重兵科　十八箇月

第十三條　本團生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其科目ハ歩兵科ニ在テハ團長騎兵、野戰砲兵、工兵、輜重兵科ニ在テハ各當該兵監ノ定ムル所ニ據ル

第十四條　生徒隊ノ內務ハ概子軍隊內務ノ規定ニ據ル

第十五條　生徒入團ノ上ハ自己ノ情願ヲ以テ退團スルヲ許サス而シテ必ス陸軍ニ從事シ決シテ他志ヲ抱キ誓約ヲナサシム

第十六條　生徒修業中ハ一切歸省休暇ヲ許サス而シテ行狀不正或ハ軍紀ヲ違守セス或ハ歷々法則ヲ犯シ又ハ傷痍疾病ニテ生徒タルニ堪ヘサルカ若クハ卒業ノ目的ナキ者ハ退團セシム但傷痍疾病ニ係ル者ハ醫官ノ診斷ニ依テ處分ス

第十七條　學期末ニ於テ生徒ノ終末試驗ヲ施行ス(事故アル者ハ試驗ヲ延期スルコトアリ)此試驗ニ及第セシ者ニハ本團教則卒業證書ヲ附與シ二等軍曹ニ任ス

第十八條　各學期末ヨリ次學期迄ノ間ニ於テ各生徒隊附ノ士官ヲ各本科ノ兵隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

第十三章　近衛師團司令部

令部

勅令　明治二十三年三月二日　近衛條例ヲ廢シ近衛師團司令部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

近衛師團司令部條例

第一條　近衛師團長ハ大中將ヲ以テ之ニ補シ直ニ天皇陛下ニ隸シ近衛師團ヲ統率シ軍事ニ係ル諸件ヲ總理ス

第二條　近衛師團長ハ主トシテ該下ノ護衛ニ任ス其他地方ニ係ル事件及裁判事件ヲ除クノ外其職務權限ハ他ノ師團長ト異ナルコトナク總テ師團司令部條例ノ規定ニ依ル

第三條　近衛師團司令部ハ左ノ諸部ヨリ成ル

一　參謀部
二　副官部
三　軍吏部
四　獸醫部

第四條　師團司令部條例第十三條及第十四條ハ近衛師團司令部ニ於テモ亦適用ス

近衛師團司令部職官表

區分	陸級	近衛師團長	本部 參謀部	本部 副官部	本部 軍吏	支部 軍醫部	支部 獸醫部	合計	備考
	大將								
	中將	一						一	
	大佐相當官								
	中佐相當官								
	少佐相當官		參謀長 一						
	大尉相當官		參謀 一	副官 一		軍醫長 一			
	中尉相當官			副官 一			獸醫長 一		
	少尉相當官			副官 一	一				
	曹長相當官					部員 二			
	一等軍曹相當官			書記 二	一			九	軍醫部々員ノ內一名ハ藥劑官トス
	二等軍曹相當官		書記 九		一(二)(三)等書記 二	書記 三	書記 一	一六	
	計	一	一六	四	四	六	二	二九	

第十四章　師團司令部

勅令　明治二十一年五月十二日　陸鎮第條例ヲ廢止シ師團司令部條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

師團司令部條例

第一條　師團長ハ中將ヲ以テ之ニ補シ直ニ皇帝陛下ニ隸シ師管內ニ在ル軍隊ヲ統率シ軍事ニ係ル諸件ヲ總理ス

第二條　師團長ハ師管內軍隊ノ出師準備ヲ整理シ又徵兵ノ事ヲ統轄ス

第三條　師團長ハ部下軍隊ノ練成ニ就テ其責ニ任ス但特科兵專門ノ事ハ當該兵監ノ責任ニ屬ス

第四條　師團長ハ不虞ノ使役ニ際シ師管內ノ防禦及陸軍諸官廳諸道築物ノ保護ニ任ス

府縣知事地方ノ靜謐ヲ維持スル爲メ兵力ヲ請求ニ係ル諸件ヲ總理ス

スル時事急ナレハ師團長直ニ之ニ應シテ後陸軍大臣及參軍ニ報告ス可シ若其事變危險ニシテ府縣知事ノ請求シ能ハサル例外ノ場合ニ在テハ師團長ハ兵力ヲ以テ便宜事ニ從フコトヲ得

第五條　疾疫其他例外ノ場合ニ方リ師團長一時其部下軍隊ヲ移轉セシメントスル時至急ヲ要スレハ之ヲ實行シテ後陸軍大臣及參軍ニ報告スヘシ

第六條　師團長ハ師管內ニ在ル軍隊及陸軍官廳ニ於ケル風紀軍紀ヲ統監シ軍法會議ヲ管轄ス

第七條　師團長ハ軍隊給養及會計ニ關スル出師準備ノ事項ニ付テハ師團監督部長タル監督ニ命令スルノ權ヲ有ス

第八條　師團長ハ軍政及人事ニ係ル事ニ就テハ陸軍大臣國防及出師計畫ニ係ル事ニ就テハ參軍教育ニ係ル事ニ就テハ參軍教育ニ對シ各其主任ノ事ニ就キ定期或ハ臨時報告ヲナスヘキモノトス

第九條　特科兵專門ノ事ニ付師團長意見アレハ直接ニ之ヲ當該兵監ニ告知スルヲ得

第十條　師團長ハ隨時ニ部下ノ軍隊ヲ檢閲シ每年教育期ノ終リ即チ機動演習ノ後ニ於テ全師團教育ノ結果能ク實戰ノ目的ニ適スルヤ否又其出戰整備完全ナルヤ否ニ就キ陸軍ヲ經テ奏上ス

第十一條　師團長赴任ノ節師團司令部所在地ノ府縣知事警視總監大審院長控訴院長檢事長始審裁判所長及檢事（上席ノ者）トハ三日以內互ニ訪問シ其師管內ノ府縣知事控訴院長檢事長及始審裁判所長及檢事（上席ノ者）トハ三十日以內互ニ移文訪問スヘシ但共ニ官等卑キ者ヨリ先ンス可シ

第十二條　師團司令部ハ左ノ諸部ヨリ成ル

一　參謀部
二　副官部
三　法官部
四　軍醫部
五　獸醫部

第十三條　參謀部及副官部ノ將校ハ參謀長ノ監視ヲ受ケ各自擔任ノ事務ヲ司リ其師團長ニ具申スヘキ事ニ就テハ先ツ參謀長ノ承認ヲ得ヘキモノトス

第十四條　法官部理事軍醫長獸醫長及師團監督部長タル監督ヨリ師團長ニ具申スヘキ事ニ就テハ先ツ參謀長ニ關聯スヘシ

師團司令部職官表

區分	階級	中將	大佐	少佐	大尉	中尉	少尉	准士官	書記	計
		相當官	相當官	相當官	相當官	相當官	相當官	相當官	相當官	
本部	師團長	一								一
	參謀部		參謀長一	參謀一						九
	副官部				副官一	副官一	副官二	書記		一六
	軍吏部									
支部	法官部	理事								四
	軍醫部		軍醫長一	部長二						八
	獸醫部				獸醫二					
合計		一	四	一三						一九三七

備考

一　理事錄事ノ定員ハ本表ニ掲クル如シト雖モ第一師團ニ於テハ理事二名錄事四名第四師團ニ於テハ錄事一名ヲ增加シ旅管ニ特ニ軍法會議ノ設ケアル師團ニ於ナハ理事一名ヲ減ス又各師團共ニ理事試補錄事見習各一名ヲ置クコトヲ得

二　軍醫部ヲ員ノ內一名ハ藥劑官トス

第一款　旅團司令部

勅令　明治二十一年五月廢旅團司令部條例制定十二月第二十八號

第一條　旅團司令部ハ少將ヲ以テ之ニ補シ部下ノ參兵ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

二聯隊及旅管ニ包括スル四大隊區司令部ヲ統轄ス

第二條　軍隊ノ訓練、風紀、軍紀、將校ノ教育、內務及糧食、被服、裝具、ノ事ハ聯隊長ノ責任ニシテ旅團長之ヲ統監ス但大隊戰術上ノ訓練ハ特ニ旅團長ノ監視スヘキモノトス

第三條　旅團長ハ他兵連合ノ野外演習ヲ監視シ支隊演習ヲ統轄シ旅團ヲ以テ戰術單位ト爲シタル訓練ニ任ス

第四條　旅團長ハ其旅管徵兵ノ事ヲ掌リ又大隊區ノ徵兵事務及召集事務ヲ統監ス

第五條　騷擾變亂ノ事アルニ際シ府縣知事ヨリ兵力ヲ請求スルトキ事急ニシテ指揮ヲ請フノ暇ナキトキハ直ニ之ニ應シテ後師團長ニ報告スヘシ

第六條　特ニ軍法會議ヲ設ケタル旅管ニ在テハ旅團長其軍法會議ヲ管轄ス

第七條　旅團司令部ニ副官大尉一名中尉若クハ少尉一名書記下士四名（近衛ニ在テハ二名）ヲ置ク但軍法會議ヲ管轄スル旅團司令部ニハ理事二名錄事三名ヲ置ク

第八條　本條例中地方ニ係ル事件ハ近衛旅團長ニ適用セス

第二款　大隊區司令部

勅令　明治二十一年五月廢大隊區司令部條例制定十二月第二十九號

第一條　各大隊區ニ司令部ヲ置ク其職員左ノ如シ

大隊區司令部條例

司令官　少佐一名
副官　大尉若クハ中尉一名
書記　下士五名（內一名ハ軍吏部下士）

監視區長　曹長二名乃至四名

第二條　大隊區司令官ハ旅團長ニ隸シ其大隊區內徵兵事務及召集事務ヲ掌ル

第三條　大隊區司令官ハ大隊區內ニ現在スル豫備後備ノ將校及相當官ノ身上異動其他願屆ニ關スル事ヲ掌ル

第四條　大隊區副官ハ司令部一般ノ事務ニ服シ且會計ノ事ヲ管理ス

第五條　大隊區書記ハ上官ノ指揮ニ從ヒ記注及計算ノ事ニ從フ

第六條　各大隊區司令部ノ位置左ノ如シ

麻布　横濱　高崎　長野
佐倉　水戸　本郷　宇都宮
仙臺　福島　新發田　柏崎
青森　盛岡　秋田　山形
名古屋　津　豐橋　靜岡
金澤　富山　岐阜　福井
大阪　和歌山　大津　京都
姫路　岡山　神戸　福知山
廣島　尾ノ道　山口　松江
丸龜　徳島　松山　高知
熊本　宮崎　大分　鹿兒島
小倉　佐賀　福岡　長崎

第七條　大隊區ヲ分チ二箇乃至四箇ノ監視區トス

第八條　監視區長ハ監視區內ニ駐劄シ豫備後備下士卒ヲ監視シ身上異動其他願屆ニ關スル事ヲ取扱ヒ大隊區司令官ニ報告ス

第九條　監視區ノ區域並ニ監視區長ノ駐劄地ハ師團長之ヲ定ム

第三款　警備隊區司令部

勅令　明治二十二年十二月二廢警備隊區司令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム十八日第百四十二號

第一條　警備隊區司令部ヲ置ク其職員左ノ如シ

司令官　中佐若クハ少佐一名
副官　大尉若クハ中尉一名
書記　下士三名

第二條　警備隊區司令官ハ警備隊司令官之ヲ兼攝ス

第三條　警備隊區司令官ハ旅團長ニ隸シ警備隊區內徵兵事務及召集事務ヲ掌ル

第四條　警備隊區司令官ハ警備隊區內ニ現在スル豫備後備將校同相當官ノ身上異動其他願屆ニ關スル事ヲ掌ル

第五條　警備隊區司令官ハ豫備隊區內ニ現在スル豫備後備下士兵卒ヲ監視シ傷病休兵ヲ監視ス

第六條　警備隊區副官ハ司令部一般ノ事務ニ服シ且會計ノ事ヲ管理ス

第七條　警備隊區書記ハ上官ノ指揮ニ從ヒ記注計算ノ事ニ從フ

第八條　警備隊區司令部位置ハ警備隊常屯ノ地トス

第十五章　海軍省

勅令　明治二十六年五月廢海軍省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム十九日第三十六號

海軍省官制

第一條　海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス

第二條　海軍大臣官房ニ主事二人ヲ置キ海軍上長官ヲ以テ之ニ補ス海軍大臣ノ命ヲ受ケ海軍大臣官房ノ事務ヲ掌リ又臨時命ヲ受ケ各局ノ事務ヲ助ク

第三條　海軍大臣秘書官ハ二人トシ一人ハ主事ヲ以テ之ヲ兼ネシメ一人ハ海軍士官ヲ以テ之ニ補ス海軍大臣ニ專屬シテ機密事務ヲ掌リ又命ヲ受ケ海軍大臣官房ノ事務ヲ助ク

第四條　海軍大臣官房ニ人事課ヲ置ク

人事課ニ於テハ武官文官ノ進退任免敍位敍勳及其他ノ人事並恩給ニ關スル事項ヲ掌ス

第五條　海軍省ニ參事官書記官ヲ置カス

第六條　海軍省ニ左ノ二局ヲ置ク

軍務局

經理局

第七條　軍務局ニ於テハ鎮守府艦團隊ノ建制、艦隊軍隊ノ編制、役務並一般ノ職務、教育、訓練、演習、檢閲、准士官下士卒ノ進退及其他ノ人事、兵員ノ徵募、軍紀風紀、懲罰、裁判、監獄、戒嚴、徵發、禮式、服制、海上保安、水路、望樓、艦船兵器彈藥ノ製造修理、兵器彈藥ノ經理、船舶機關艤裝兵裝、艦船ノ保安、工場及武庫ニ關スル事項ヲ管掌シ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第八條　經理局ニ於テハ豫算決算、會計給與、艦船營舍、被服糧食治療品通常物品ノ經理、官有財產ノ管理、家屋其他諸營造物ノ管繕、採炭及用度ニ關スル事項ヲ管掌シ金錢及物品ノ收支ヲ監督シ第一課第二課第三課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第九條　軍務局長ハ海軍將官ヲ以テ之ニ補シ經理局長ハ海軍主計總監ヲ以テ之ニ補ス但局長ハ便宜海軍大佐若クハ相當官ヲ以テ之ニ補スルコトヲ得

第十條　人事課長及各局中各課長ハ海軍上長官ヲ以テ之ニ補ス

第十一條　人事課及各局中各課ニ課僚ヲ置キ課長ノ命ヲ受ケ課務ニ從事セシム人事課ノ課僚ハ一人ヲ定員トシ海軍少佐若クハ海軍士官ヲ以テ之ニ補ス各局ノ課僚ハ海軍少佐若クハ相當官海軍士官又ハ主理ヲ以ヶ之ニ補ス但專務課僚ハ各局四人ヲ以テ定員トス

第十二條　本官制ニ依リ海軍高等武官ヲ以テ補スヘキ職ハ必要ノ場合ニ於テ文官又ハ文官ノ資格アル者ヲ以テ之ニ任スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其官等及俸給額ハ武官ニ準ス

第十三條　海軍省ニ海軍上等兵曹三人海軍機關師一人海軍船匠師一人屬五十四人技手十人錄事一人ヲ置キ海軍大臣官房各局課ニ分屬シテ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服セシム

錄事ハ東京軍法會議勤務ノ者ヲ以テ兼務セシム

勅令　第一款　司計部

明治二十六年五月十九日第四十二號　朕海軍司計部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍司計部條例

第一條　海軍司計部ハ東京及鎮守府所在ノ地ニ之ヲ置キ金錢出納及報告ノ事ヲ掌ル所トス

第二條　海軍司計部ハ東京ニ在ルモノヲ海軍中央司計部ト稱シ鎮守府所在ノ地ニ在ルモノヲ某地海軍司計部ト稱ス

第三條　海軍中央司計部ニ主管一人ヲ置キ海軍主計少監ヲ以テ之ニ補シ計算官一人ヲ置キ海軍大主計ヲ以テ之ニ補ス

第四條　各地海軍司計部ニ主管一人計算官一人ヲ置ク横須賀海軍司計部主管ハ海軍主計少監若クハ海軍大主計ヲ以テ之ニ補シ其他ノ司計部主管ハ海軍大主計ヲ以テ之ニ補シ計算官ハ海軍大主計若クハ海軍少主計ヲ以テ之ニ補ス

第五條　海軍中央司計部主管ハ海軍者經理局長ニ謀シ其部務ヲ整理ス

第六條　各地海軍司計部主管ハ當該鎮守府監督部長ニ謀シ其部務ヲ整理ス

第七條　各海軍司計部計算官ハ主管ノ命ヲ受ケ部務ニ服ス

第八條　海軍司計部ニ書記ヲ置キ各海軍司計部ヲ通シテ二十人トシ須要ニ應シ海軍大臣之ヲ配置ス

第九條　各海軍司計部書記ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

勅令　第二款　將官會議

明治二十二年五月十八日第七十五號　朕海軍將官會議條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍將官會議條例

第一條　海軍將官會議ハ東京ニ置キ海軍ニ於ケル重要ノ事項ヲ審議スル所トス

第二條　海軍將官會議ハ海軍大臣ヲ以テ議長トシ議員若干人ヲ置キ中將若クハ少將ヲ以テ之ニ補ス

第三條　議事ノ事項ニ依リ海軍大臣必要ト認ムル

ルトキハ議員ニアラサル將官機技總監軍醫總監主計總監ヲ以テ臨時議員トスル事ヲ得

第四條　海軍大臣事故アルトキハ上席將官ヲ以テ議長トス

第五條　議案ハ議長ヨリ下付ス議員ニ於テ議案ヲ提出セントスルトキハ議長ノ許可ヲ受クヘシ

第六條　海軍將官會議ノ事務ハ海軍大臣官房ニ於テ之ヲ處理ス

勅令　第三款　技術會議

明治二十六年五月二十日第五十三號　朕海軍技術會議條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍技術會議條例

第一條　海軍技術會議ハ東京ニ置キ海軍大臣ノ諮問ニ對シ軍艦ノ構造兵裝及其諸機關並ニ砲銃水雷彈藥劇烈藥ノ設計考案其他技術ニ關スル事項ヲ審議スル所トス

第二條　海軍技術會議議長ハ本職アル海軍將官ヲ以テ之ニ兼補ス但時宜ニ依リ本職アル海軍大佐ヲ以テ兼補スルコトヲ得

議長ハ海軍大臣ニ隸シ會議ノ事務ヲ總理ス

第三條　議長ハ議事ノ性質ニ依リ議員ノ一部ヲ以テ議事ヲ開クコトヲ得

第四條　海軍技術會議ニ幹事一人ヲ置キ海軍上長官若クハ士官ヲ以テ之ニ補ス

幹事ハ議案ノ調査及會議ノ事務ヲ管掌ス

第五條　議員ハ定數ナシ本職アル海軍上長官若クハ士官ヲ以テ之ニ兼補ス

第六條　海軍技術會議ニ書記二人ヲ置キ事務ニ服セシム

勅令　第四款　衛生會議

明治二十六年五月十九日第四十五號　朕海軍衛生會議條例ヲ裁可シ並ニ之ヲ公布セシム

海軍衛生會議條例

第一條　海軍衛生會議ハ東京ニ置ク

第二條　海軍衛生會議ハ海軍大臣ニ隸ス

第三條　海軍衛生會議ニ於テ議定スヘキ事項ノ概目ハ左ノ如シ

一　海軍一般ニ施行スヘキ衛生ニ關スル事項

二　流行病傳染病豫防法ノ海軍一般ニ關スル事項

三　治療法ニ關スル事項

四　藥品療用品ノ品種數額ニ關スル事項

五　軍人身體ノ査定法ニ關スル事項

六　軍人糧食ノ品種分量ニ關スル事項

七　軍醫官及軍醫候補生ノ採用教育法

八　軍醫官以下軍醫部人員服務ノ定則

第四條　海軍衛生會議ニ於テハ恩給賜恤金ニ關スル診斷書ヲ調査ス

第五條　海軍衛生會議ニ左ノ職員ヲ置ク

議長　一人　軍醫總監

議員　五人　軍醫監三人　內二人ハ本職アル者ヲ以テ兼補ス

大軍醫二人

第六條　海軍衛生會議議長ハ議事ヲ整理シ會議ノ事務ヲ總理ス

第七條　海軍衛生會議議長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケテ議案ヲ作リ及必要ト認ムルトキハ自ラ議案ヲ發シ議定ノ後其意見ヲ海軍大臣ニ具申スヘシ

第八條　海軍衛生會議議長ハ常ニ海軍衛生及醫學ニ關スル事項ヲ注視シ並軍醫官ヨリ出ス所ノ醫務衛生ニ關スル統計報告ヲ審査シ每年報告ヲ作リ海軍大臣ニ具スヘシ

第九條　海軍衛生會議議長ハ每年翌年度ニ於テ準備供給スヘキ藥品療養品ノ品種定額及其豫算金額ヲ定メ海軍大臣ニ具申スヘシ

第十條　海軍衛生會議議長ハ外國ニ航スル艦船ノ軍醫官ニ調査ヲ下スヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ海軍大臣ニ具申スルコトヲ得

第十一條　海軍衛生會議議員ハ議事ニ參與シ並議長ノ命ヲ受ケ議定スヘキ事項及諸報告統計ノ調査ヲ分擔ス

第十二條　本條例第五條ニ掲クル職員ノ外海軍衛生會議ニ藥劑監又ハ藥劑官一人ヲ置キ議長ノ命ヲ受ケ藥品療用品ノ調査ニ從事セシメ及看護手一人海軍書記六人ヲ置キ庶務ニ從事セシム

附則

第十三條　明治二十二年（四月）勅令第四十八號並明治二十三年（十月）勅令第二百四十三號ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

勅令　第五款　大學校

明治二十六年十一月十九日第二百十六號　朕海軍大學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍大學校條例

第一條　海軍大學校ハ海軍將校ニ高等ノ學術ヲ教授シ幅要ノ職ニ充ツヘキ者ヲ養成シ並ニ海軍機關官及軍醫官ニ高等ノ學術ヲ教授スル所トス

第二條　海軍大學校ノ學科ハ將校科、機關科及軍醫科ノ三トス

將校科ニ於ケル砲術、水雷術及航海術ハ其ノ一

科ヲ專修セシム

第三條　學生ノ學年ハ將校及機關官ハ一箇年半トシ軍醫官ハ一箇年トス

第四條　海軍大學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　海軍少將　一人
副官　海軍少佐若クハ大尉　一人
教頭　海軍佐官　一人
海軍佐官二人（內一人ハ教頭ヲ以テ兼補ス）
海軍大尉　二人
海軍機關監　一人
海軍大機關士　一人
教官
海軍少技監若クハ大技士　一人
海軍軍醫監　二人
海軍大軍醫　二人
海軍教授　四人
陸軍參謀若クハ陸軍各兵科ノ佐尉官二人（本職アル者ヲ以テ兼補ス）
主計長　海軍大主計　一人

前項定員ノ外本職アル者ヲシテ教官ニ兼務セシムルコトヲ得

第五條　校長ハ海軍大臣ニ隸シ校務ヲ管理シ及學術進歩ノ責ニ任ス

第六條　校長事故アルトキハ教頭其ノ職務ヲ代理ス

第七條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第八條　教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ノ事ヲ監督ス

第九條　教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第十條　主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十一條　海軍大學校ニ於テ教授スル海軍將校、機關官及軍醫官ヲ海軍大學校學生ト稱ス

前項學生ノ外選科生ヲ置キ任意ノ課目ヲ選修セシムルコトヲ得

第十二條　學生ハ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ選拔ス

將校科學生　海軍大尉ニシテ一箇年以上海上勤務ニ服シ身體强健且勤務勵精ニシテ才學精進ノ見込アル者

機關科學生　海軍大機關士ニシテ一箇年以上海上勤務ニ服シ身體强健且勤務勵精ニシテ才學精進ノ見込アル者

軍醫科學生　海軍大軍醫及海軍少軍醫ニシテ身體强健且勤務勵精ナル者

第十三條　學生選拔ノ規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十四條　學生ハ海軍大臣之ヲ命ス

第十五條　卒業試驗ニ及第シタル學生ニハ卒業證書ヲ授與ス

第十六條　學生ノ學用品ハ自辨トス但教業ニ要スル書籍及器械等ハ其ノ種類ニ依リ貸與スルコトアルヘシ

第十七條　海軍大學校ニ書記四人ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附則

第十八條　本令ハ明治二十六年十二月二日ヨリ施行ス但軍醫科學生ハ明治二十七年三月三十一日マテハ之ヲ置カス

勅令　明治二十六年十一月二日第二百十七號　海軍兵學校條例

十九日第二百十七號ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍兵學校條例

第一條　海軍兵學校ハ海軍將校ト爲ルヘキ生徒ヲ教育スル所トス

第二條　海軍兵學校ノ學科ハ砲術、水雷術、運用術、航海術、機關術及普通學トス

第三條　生徒ノ學年ハ四箇年トス

第四條　海軍兵學校ニ練習船ヲ附屬セシムルコトヲ得

第五條　海軍兵學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　海軍大佐　一人
副官　海軍大尉　二人
內一人ハ教官ヲ以テ兼補ス
頭
砲術教官　海軍少佐　一人
水雷術教官　海軍大尉　一人
運用術教官　海軍少佐　一人
航海術教官　海軍大尉　一人
機關術教官　海軍機關少監若クハ大機關士　一人
普通學教官　海軍大技監士　一人
監事長　海軍教授　一人
海軍少佐　一人
教官ヲ以テ兼補ス　九人
監事
內八人ハ教官ヲ以テ兼補ス
軍醫長　海軍軍醫少監　一人
軍醫　海軍少軍醫　一人
主計長　海軍大主計　一人
主計　海軍少主計　一人
本條砲術、水雷術、運用術、航海術教授ノ內一人ハ教頭ヲ以テ之ニ兼補ス

本條定員ノ外本職アル者ヲシテ教官ニ兼務セシムルコトヲ得

第六條　校長ハ海軍大臣ニ隸シ校務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及生徒教育ノ責ニ任ス

第七條　校長事故アルトキハ教頭其ノ職務ヲ代理ス

第八條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第九條　教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ノ事ヲ監督ス

第十條　教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第十一條　監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ヲ監督シ其ノ紀律ヲ維持シ及其ノ敎育ノ事ヲ掌ル

第十二條　監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十三條　軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル

第十四條　軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十五條　主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十六條　主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十七條　第五條ニ掲クル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍上等兵曹　教員　三人
海軍機關師　教員　一人
海軍下士　二十八人（內十八人ハ教員）
海軍書記　五人
海軍卒　六十人

第十八條　生徒ハ年齡滿十六年以上十九年未滿ニシテ海軍將校タルコトヲ志願スル者ニ就キ身體檢査及學術試驗ヲ爲シ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ所要ノ人員ヲ採用ス

第十九條　左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス

一　有妻ノ者
二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
三　復權ヲ得サル家資分散者破產者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人

第二十條　生徒ノ召募及檢査格例ハ每年海軍大臣之ヲ告示ス

第二十一條　生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス

第二十二條　生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス

第二十三條　生徒ハ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ退校セシム

一　品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
二　試驗ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者
三　傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ免途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

附則

第二十四條　本令ハ明治二十六年十二月二十日ヨリ施行ス但明治二十六年十二月三十一日マテハ機關生徒ヲ置クコトヲ得

勅令　明治二十六年十一月二日第二百十八號　海軍機關學校條例

十九日第二百十八號

例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　海軍機關學校ハ之ヲ横須賀ニ置キ海軍機關官ト爲ルヘキ生徒ヲ教育シ並ニ海軍少機關士候補生ニ技術ヲ專修セシムル所トス

第二條　海軍機關學校ノ學科ハ本科及專科ノ二種トス

本科ハ生徒ノ修ムルモノトシ專科ハ造船造機及造兵ノ三科ニ別チ本科卒業後其ノ科ニ特選セラレタル海軍少機關士候補生ノ修ムルモノトス

第三條　專科ヲ修ムル海軍少機關士候補生ハ專科生ト稱ス

第四條　生徒ノ學年ハ四箇年トシ專科生ノ學年ハ二箇年トス

第五條　海軍機關學校ニ工場ヲ置キ實習ノ用ニ供ス

第六條　海軍機關學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長　海軍機關大監　一人
副官　海軍大機關士　一人
教頭　海軍機關少監　一人
教官　海軍機關少監　一人（教頭ヲ以テ兼補ス）
海軍大機關士　四人
監事長　海軍教授　四人
海軍機關少監　一人（教頭ヲ以テ兼補ス）
監事　海軍大機關士　四人（教官ヲ以テ兼補ス）
軍醫長　海軍大軍醫　一人
主計長　海軍大主計　一人
主計　海軍少主計　一人

前項定員ノ外本職アル者ニシテ教官ニ兼務セシムルコトヲ得

第七條　校長ハ海軍大臣ニ隸シ校務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及教育ノ責ニ任ス

第八條　校長事故アルトキハ教頭其ノ職務ヲ代理ス

第九條　副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス
第十條　教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ノ事ヲ監督ス
第十一條　教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス
第十二條　監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ專科生及生徒ヲ監督シ其ノ紀律ヲ維持シ其ノ體育ノ事ヲ掌ル
第十三條　監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス
第十四條　軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル
第十五條　主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル
第十六條　主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス
第十七條　第六條ニ掲クル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍機關師　教員	二人
海軍下士　教員	四人
海軍書記　教員	三人
海軍技手　教員	十一人（內七人ハ兼務）

第十八條　生徒ハ年齡滿十六年以上十九年未滿ニシテ海軍機關官タランコトヲ志願スル者ニ就キ身體檢査及學術試驗ヲ爲シ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ所要ノ人員ヲ採用ス
第十九條　左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス
一　有妻ノ者
二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
三　復權ヲ得サル家資分散者破產者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人
第二十條　生徒ノ召募及檢査格例ハ每年海軍大臣之ヲ告示ス
第二十一條　生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス
第二十二條　生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス
第二十三條　生徒ハ左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退校セシム
一　品行不眞或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
二　試驗ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者
三　傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ中途役務ニ堪ヘシト認ムル者
第二十四條　專科生ハ須要ニ應シ海軍少機關士候補生ヨリ海軍大臣之ヲ特選ス
第二十五條　專科生ノ學用品ハ自辨トス但授業ニ要スル書籍及器械等ハ其ノ種類ニ依リ貸與スルコトアルヘシ
第二十六條　海軍機關學校ニ機關工練習所ヲ附屬セシム
第二十七條　機關工練習所ハ掌機工及掌罐工ト爲ルヘキ機關手及火夫ヲ教育スル所トス
第二十八條　機關工練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

長	海軍機關少監
教官	海軍大機關士
部長	海軍大機關士
	三人

第二十九條　機關工練習所教官ハ所長ノ命ヲ承ケ各內一切ノ事務ヲ掌理シ紀律ヲ維持シ及教育ノ責ニ任ス
第三十條　機關工練習所教官ハ所長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス
第三十一條　部長ハ所長ノ命ヲ承ケ部員ノ紀律ヲ維持シ其ノ行狀技倆ヲ熟知シ且部員ニ係ル事務ヲ掌理ス
第三十二條　第二十八條ニ掲クル職員ノ外機關工練習所ニ左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍機關師　教員	二人
海軍下士	六人（內三人教員）
海軍卒	九人

第三十三條　機關工練習所ニ於テ教育スル海軍機關手及火夫ハ機關工練習生ト稱ス
第三十四條　機關工練習生ト爲ルヘキ者ハ海軍機關手及三等火夫以上ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者タルヘシ
一　年齡三十五年未滿ニシテ身體强健ナル者
二　一箇年以上海上勤務ニ服シタル者但四等火夫ヨリ起算ス
三　品行方正ニシテ技能アリ掌機工若クハ掌罐工タルニ堪フヘキ者
四　卒業後七箇年間現役ニ服スヘキ者
五　試驗ニ合格シタル者
第三十五條　機關工練習生卒業シタルトキハ掌機工證狀若クハ掌罐工證狀ヲ授與ス其ノ證狀ハ試驗ノ成績ニ依リ各二等ニ分ツ
前項ノ證狀ヲ得タル者ハ掌機工又ハ掌罐工ト稱ス
第三十六條　掌機工及掌罐工ニハ臂章ヲ附與シ且加俸ヲ給ス
第三十七條　海軍機關學校ニ技手練習所ヲ附屬セシム
第三十八條　技手練習所ハ鎮守府造船部及海軍造兵廠ノ職工ニシテ造船造機及造兵ノ技手出願志願者ヲ生徒ト爲シ之ヲ教育スル所トス
第三十九條　技手練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

長	海軍少技監若クハ海軍大技士
	海軍少技監若クハ海軍大技士
	海軍大技士若クハ海軍少技士
	一人
	二人

前項定員ノ外本職アル者ヲ以テ教官ニ兼補スルコトヲ得
第四十條　技手練習所長ハ校長ノ命ヲ承ケ所內一切ノ事務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及教育ノ責ニ任ス
第四十一條　技手練習所教官ハ所長ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス
第四十二條　第三十九條ニ掲クル職員ノ外技手練習所ニ教員トシテ技手二人ヲ置ク
第四十三條　技手生徒ト爲ルヘキ者ハ左ノ諸項ニ適合スル者タルヘシ
一　年齡滿二十一年以上三十年未滿ノ者
二　品行方正ニシテ將來技手タルニ堪フヘキ見込アル者
三　鎮守府造船部及海軍造兵廠ニ於テ三百日以上現業ニ服シタル者
四　身體檢査及學術試驗ニ合格シタル者
五　卒業後滿十箇年間海軍ニ從事スヘキ者
第四十四條　左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ技手生徒ニ採用セス
一　徵兵令第二十八條ニ該ル者
二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
三　復權ヲ得サル家資分散者破產者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人
第四十五條　技手生徒ニシテ卒業證書ヲ有スル者ハ海軍技手トナルヘキ資格アルモノトス
第四十六條　技手生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス
第四十七條　第十七條第三十二條及第四十二條ニ掲クル職員ハ海軍機關學校及兩練習所ニ通シテ勤務セシムルコトヲ得

附則

第四十八條　本令ハ明治二十六年十二月二十日ヨリ施行ス
第四十九條　明治二十三年勅令第二百五十三號海軍機關學校條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止シ該校練習生ハ此ノ際志願ニ依リ直ニ機關工練習生ニ採用ス
第五十條　海軍造船工學校官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止シ該校生徒ハ技手生徒トス

第八款　造船造兵監督官

勅令

明治二十六年五月二十四日第五十四號

朕造船造兵監督官條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

造船造兵監督官條例

第一條　海軍造船造兵ノ事ヲ造船監督官造兵監督官ヲ置キ其事業ヲ監督セシメ會計官ヲ置キ其會計事務ヲ整理セシメ監督助手ヲ置キ監督事務ヲ補助セシム
第二條　造船造兵監督官ハ海軍上長官若クハ士官ヲ以テ之ニ補シ會計官ハ海軍大主計若クハ少主計ヲ以テ之ニ補シ監督助手ハ准士官下士若クハ技手ヲ以テ之ニ充ツ
第三條　造船造兵監督官會計官監督助手ハ定員ヲ定メス豫算定額內ニ於テ造船造兵事業ノ程度ニ應シ須要ノ人員ヲ置ク
第四條　造船造兵監督官會計官ハ海軍省軍務局長ノ指揮監督ヲ受ケ監督助手ハ監督ノ命ヲ受ケ各其事務ニ服ス

勅令

明治二十六年五月十九日第四十四號

朕海軍造兵廠條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍造兵廠條例

第一條　海軍造兵廠ハ兵器爆製物ヲ製造修理購買シ各鎮守府ニ供給スル所トス
第二條　海軍造兵廠ニ製造科檢査科會計課及倉庫ヲ置ク
第三條　製造科ハ兵器ノ計畫製造修理並爆製物ノ製造ヲ掌ル
第四條　檢査科ハ兵器並爆製物ノ檢査試驗保管出納輸送ヲ掌ル
第五條　會計課ハ金錢ノ收支物件ノ購買處分ヲ掌ル
第六條　倉庫ハ製造材料ノ準備保管出納ヲ掌ル
第七條　海軍造兵廠ニ左ノ職員ヲ置ク

廠長	海軍上長官　一人
製造科長	海軍技監　一人
製造科主幹	海軍機關士、海軍技士、技師五人
檢査科長	海軍少佐或ハ少技監　一人
檢査科主幹	海軍軍醫、海軍機關士、海軍技士、技師　四人
會計課長	海軍主計少監或ハ大主計　一人
倉庫主管	海軍大主計　一人
軍醫	海軍軍醫官　二人（但一人ハ海軍衛生會議議員ヨリ之ヲ兼ス）

教官

海軍少技監若クハ海軍大技士	一人
海軍大技士若クハ海軍少技士	二人

第八條　廠長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケ廠務ヲ總理ス

第九條　科課長及主管ハ廠長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ整理ス

第十條　主幹ハ科長ノ命ヲ受ケ科務ヲ分掌ス

第十一條　第七條ニ掲クル職員ノ外海軍上等兵曹五人技手二十二人書記十八人ヲ置キ各上官ノ命ヲ受ケ服務ス

第十款　鎮守府監督部

勅令　明治二十六年五月朕鎮守府監督部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎮守府監督部條例

第一條　鎮守府監督部ハ鎮守府所在ノ地ニ置キ當該鎮守府ノ會計ヲ掌理シ鎮守府管區內ニ在ル艦團隊及諸官廳ノ會計事務ヲ監督シ金錢物品ノ出納ヲ檢査スル所トス

第二條　鎮守府監督部ハ所在軍港地名ヲ冠稱ス

第三條　各鎮守府所在地ニ建築科衣糧庫艦營需品庫ヲ置キ之ヲ鎮守府監督部ニ屬セシム

建築科衣糧庫艦營需品庫ハ所在軍港地名ヲ冠稱ス

第四條　各地監督部ニ部長一人ヲ置キ海軍主計大監ヲ以テ之ニ補ス

第五條　各地監督部ニ部員三人ヲ置ク横須賀鎮守府監督部ハ海軍主計少監若クハ海軍大主計一人及海軍大少主計ノ內二人ヲ以テ之ニ補シ其他ノ監督部ハ海軍大主計一人及海軍大少主計ノ內二人ヲ以テ之ニ補ス

第六條　部長ハ海軍大臣ニ隸シ艦團隊ノ給與及會計ニ關スル出師準備ノ事項ニ付テハ當該鎮守府司令長官ノ命ヲ受クヘシ

部長ハ出師、演習若クハ檢閱ニ於テ必要アルトキハ當該鎮守府司令長官ニ隸ス

部長ハ軍事上必要ナル建築ニ就テハ當該鎮守府司令長官ノ監視ヲ受クヘシ

第七條　部長ハ部務ヲ總理ス

第八條　部長ハ會計上ニ付必要アルトキハ所轄長又ハ主任官吏ノ辯明ヲ求ムルコトヲ得

第九條　部長ハ檢査ノ事實ニ依リ正當ナラスト認メタル事項ニ付テハ主任官吏ニ申聞シ辯明又ハ更訂セシムルコトヲ得

第十條　部長ハ出納官吏ニ於テ計算書及證據書類ノ提出ヲ怠リタルモノアルトキハ所轄長若クハ主任官吏ニ通告シ期限ヲ定メ提出セシムルコトヲ得

第十一條　部長ハ管區內諸官廳及艦團隊ニ係ル會計上ノ調査ヲ行ヒ必要アルトキハ其金錢物件及帳簿ヲ檢査ス但艦團隊ニ在テハ先ツ鎮守府司令長官ノ承認ヲ經ルモノトス

第十二條　部長ハ當該鎮守府ニ於テ事業ノ執行ヲ計畫シ經費若クハ物品工事及運搬ノ請求ヲ爭又ハ隨意契約ヲ施行セントスルトキハ其議ニ參與ス

第十三條　部員ハ部長ノ命ヲ受ケ部務ニ服ス

第十四條　各地監督部ヲ通シテ書記二十五人技手三人ヲ置キ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服セシム

第十五條　建築科ハ鎮守府所屬ノ土地家屋、電線ヲ管理シ建築修繕、港內浚渫ノ事ヲ掌ル所トス

第十六條　衣糧庫ハ被服糧餌ヲ準備供給スル所トス

第十七條　橫須賀衣糧庫ハ前條ニ掲クル外被服糧餌ノ調辨貯藏ヲ掌リ及各地衣糧庫ニ其供給ヲ爲ス但各地衣糧庫ニ於テ調辨スルコトヲ便宜トスル場合ニ於テハ海軍大臣ハ特ニ品種ヲ定メ其衣糧庫ヲシテ之ヲ調辨セシムルコトヲ得

第十八條　艦營需品庫ハ艦營需品ヲ準備供給シ當該鎮守府所屬ノ各地炭庫ヲ管理ス

第十九條　橫須賀艦營需品庫ハ前條ニ掲クル外艦營需品ノ調辨貯藏ヲ掌リ及各地艦營需品庫ニ其供給ヲ爲ス但各地艦營需品庫ニ於テ調辨スルコトヲ便宜トスル場合ニ於テハ海軍大臣ハ特ニ品種ヲ定メ其艦營需品庫ヲシテ之ヲ調辨セシムルコトヲ得

第二十條　建築行ニ主管一人ヲ置キ技師ヲ以テ之ニ充ツ

第二十一條　衣糧庫艦營需品庫ニ主管各一人ヲ置ク橫須賀衣糧庫主管橫須賀艦營需品庫主管ハ海軍主計少監若クハ海軍大主計ヲ以テ之ニ補シ其他ノ衣糧庫主管艦營需品庫主管ハ海軍大主計ヲ以テ之ニ補ス

第二十二條　建築科及各庫主管ハ當該鎮守府監督部長ニ隸シ建築科若クハ各庫ノ事務ヲ整理ス

第二十三條　建築科ニ技師ヲ置ク其人員ハ各地建築科ヲ通シテ五人トス

第二十四條　技師ハ各其主管ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

第二十五條　各地建築科ヲ通シテ書記七人技手十八人ヲ置キ各地衣糧庫ヲ通シテ海軍上等主帆一人海軍主帆六人書記十人ヲ置キ各地艦營需品庫ヲ通シテ海軍上等兵曹四人海軍機關師三人海軍船匠師三人海軍機關手一人海軍船匠手一人書記七人ヲ置キ各其上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服セシム

第二十六條　各地炭庫ニ書記一人ヲ置キ艦營需品庫主管ノ命ヲ受ケ石炭出納ノ事ニ服セシム

第十六章　海軍軍令部

勅令　明治二十六年五月朕海軍軍令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍軍令部條例

第一條　海軍軍令部ヲ東京ニ置ク出師作戰沿岸防禦ノ計畫ヲ掌リ鎮守府及艦隊ノ參謀將校ヲ監督シ又教育訓練ヲ監視ス

第二條　海軍大將若クハ海軍中將ヲ以テ海軍軍令部長ニ親補シ天皇ニ直隸シ艦隊ノ機務ニ參シ部務ヲ管理セシム

第三條　戰略上事ノ海軍軍令ニ關スルモノハ海軍軍令部長ノ管知スル所ニシテ之カ參畫ヲ爲シ親裁ノ後平時ニ在テハ之ヲ海軍大臣ニ移シ戰時ニ在テハ直ニ之ヲ鎮守府司令長官艦隊司令長官ニ傳令ス

第四條　海軍軍令部長ハ勅ヲ奉シ檢閱使ト爲リ鎮守府及艦隊ノ檢閱ヲ行フ

第五條　海軍軍令部ニ副官二人ヲ置キ一人ハ海軍大尉ヲ以テ之ニ補シ一人ハ本職アル海軍大尉ヲ以テ之ヲ兼ネシメ命令ノ傳達及庶務ヲ掌理セシム

第六條　海軍軍令部ニ左ノ二局ヲ置キ部事ヲ分擔セシム

第一局

一　出師作戰、沿岸防禦ノ計畫、艦隊軍隊ノ編制及軍港要港ニ關スル事項

第二局

一　教育訓練ノ監視、諜報及編纂ニ關スル事項

第七條　各局ニ局長各一人ヲ置キ第一局ハ海軍大佐ヲ以テ之ニ補シ各局ニ局員ヲ置キ第一局ハ海軍少佐二人海軍大尉四人ヲ以テ之ニ補シ第二局ハ海軍少佐一人海軍大尉四人ヲ以テ之ニ補シ又第二局ニハ局員ノ外海軍機關少監若クハ海軍大機關士一人ヲ置キ局務ニ服セシム

前項ニ掲クル職員ノ外第一局ニ局員ニ陸軍佐尉官二人ヲ置キ參謀將校ヲ以テ之ニ兼補ス

第八條　海軍軍令部出仕將校トシテ臨時海軍佐官或ハ海軍大尉四人ヲ置キ部務ニ服セシムルコトヲ得

第九條　公使館附將校トシテ海軍佐官或ハ海軍大尉八人ヲ置キ海軍軍令部長之ヲ管ス

第十條　海軍軍令部ニ海軍軍令部長之ヲ管ス海軍大尉ヲ以テ之ニ補シ海軍文庫主管一人ヲ置キ海軍ニ必要ナル圖書ノ蒐集保存ヲ掌ラシム

第十一條　前項條ニ掲クルノ外海軍編修一人海軍編修書記五人ヲ置キ第二局ニ屬シ書記三人及技手一人ヲ置キ部務ニ服セシム

第一款　水路部

勅令　明治二十一年六月二十六日朕海軍水路部官制ヲ廢シ水路部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水路部條例

第一條　水路部ハ水路ヲ測量シ兵要及一般ノ海國誌ヲ調製シ水路誌ヲ編纂シ圖誌ノ配布其他航海ノ保安ニ關スル事項ヲ掌ル所トス

第二條　水路部ニ測量科圖誌科會計課ヲ置ク

第三條　水路部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長　海軍佐官　一人
測量科長　海軍少佐　一人
圖誌科長　海軍少佐或ハ大尉　一人
測量班長　海軍少佐或ハ大尉　三人
測量士　海軍尉官或ハ技士　九人
圖誌科員　海軍尉官　一人
會計課長　書記　一人

第四條　部長ハ海軍軍令部長ニ隸シ部事ヲ整理シ其責ニ任ス

第五條　部長ハ其名ヲ以テ水路告示ヲ發シ及外國海軍水路部ト直接通信スルコトヲ得

第六條　測量科長ハ左ノ事項ヲ掌ル

一　各班ヲ部署シ測量教令ヲ下ス事

二　各班測量原圖ノ精査及保管ニ關スル事項

三　各班水路記事ノ調査ニ關スル事項

四　測量費豫算ニ關スル事項

五　測量費豫算ニ關スル報告統計整理ニ關スル事項

第七條　測量科長ハ須要ナル方面ノ測量ニハ班長以下ヲ指揮シテ之ニ從事ス

第八條　測量班長ハ各班ニ長トシテ一方面ノ測量事業ヲ主幹シ測量原圖ヲ調整シ其水路記事及報告書ノ記述ニ從事ス

第九條　測量士ハ各班ニ分屬シテ其業ニ服ス

第十條　測量士ハ時宜ニ依リ一方面ノ測量ニ主幹タラシムルコトアル可シ

第十一條　（削除）

第十二條　圖誌科長ハ左ノ事項ヲ掌ル

一　測量原圖又ハ外國ノ海圖ニ依リ海國及航海ニ必要ナル圖誌ヲ調整刊行スル事

二　水路誌燈塔表其他水路ニ緊要ノ書類ヲ編述又ハ譯輯シテ刊行スル事

三　水路告示ヲ起案スル事
四　内外諸國書ヲ調査シ及國誌ヲ增補又ハ改正スル事
五　國誌ノ驛實準備及拂下ニ關スル事項
六　國誌ヲ各鎮守府ニ配賦シ及新舊國誌ヲ交換スル事
七　外國ト國誌ヲ交換スル事
八　國誌ヲ保管スル事
九　國誌ノ經費豫算ニ關スル事項
十　國誌ニ係ル報告統計整理ニ關スル事項

第十三條　國誌掛課ハ科長ノ命ヲ承ケ國誌ニ關スル事業ヲ分掌ス

第十四條　〔削除〕

第十五條　〔削除〕

第十六條　會計課長ハ會計ノ事務及物品ノ保管出納ヲ掌ル

第十七條　第三條ニ掲クル職員ノ外海軍編修一人海軍編修書記一人書記六人技手二十人ヲ置キ上官ノ命ヲ受ケ部務ニ服セシム

第十八條　〔削除〕

第十九條　〔削除〕

第十七章　鎮守府

勅令　明治二十六年五月十九日第三十九號

朕鎮守府條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎮守府條例

第一條　各軍港ニ鎮守府ヲ置ク

鎮守府ハ其所在ノ地名ヲ冠稱ス

第二條　鎮守府ハ出師ノ準備兵備品ノ供給軍港要港ノ防禦海軍區ノ警備軍艦ノ製造修理兵員ノ徵募團練ヲ掌ル所トス

第三條　鎮守府ニ司令長官一人ヲ置キ海軍將官ヲ以テ之ニ補シ天皇ニ直隸シ所屬ノ軍艦團隊ヲ統率シ軍事ヲ統理シ又海軍大臣ノ命ヲ受ケ所管ノ軍政ヲ總理ス

第四條　司令長官ハ陛下ノ軍紀風紀ヲ統監ス

第五條　司令長官ハ軍港内ニ在ル陛下ノ一艦ニ其旗章ヲ掲揚ス

第六條　司令長官ハ陛下ノ艦船ヲ所管海軍區及隣區内ニ派遣スルコトヲ得又練習ノ爲メ五日以内ノ日數ヲ以テ軍隊ヲ陸路二十里以内ニ派遣スルコトヲ得

第七條　司令長官ハ軍港内一般ニ關スルコトニ於テハ其軍港内ニアル他管ノ軍艦ヲ指揮スヘシ又戰時事變ニ際シテハ軍港内ニアル他管ノ軍艦長員ヲ以テ軍港ノ守備ニ供スルコトヲ得

第八條　司令長官ハ疾疫及其他緊急ノ場合ニ方リ一時陛下ノ兵員ヲ移轉セシムルヲ必要トスルトキ之ヲ處分シテ後海軍大臣及軍令部長ニ報告スヘシ

第九條　司令長官ハ陛下ノ職員事故アルトキハ他ノ職員ヲシテ代理セシムルコトヲ得但艦船隊ノ職員ハ此限ニアラス

第十條　司令長官ハ陛下ノ准士官以下ヲ陛下艦團隊其他各部ニ轉乘若クハ轉勤セシムルコトヲ得

第十一條　司令長官ハ部下ノ運送船曳船小蒸氣船等ニ乘員ヲ要スルトキハ陛下人員ニ臨時乘組ヲ命スルコトヲ得

第十二條　司令長官ノ庶務トシテ左ノ職員ヲ置ク

參謀長
參謀
總書
機關長
軍醫長
主理

第十三條　參謀長ハ司令長官ノ命ヲ受ケ鎮守府一般ノ事ニ參シ特ニ出師ノ準備軍港要港ノ防禦海軍區ノ警備水雷機關團練ニ關スル事ヲ掌ル

第十四條　參謀ハ參謀長ノ命ヲ受ケ服務ス

第十五條　總書ハ司令長官ノ命ヲ受ケ機密事務ヲ掌リ又參謀長所管ノ事務ヲ助ク

第十六條　機關長ハ司令長官ノ命ヲ受ケ鎮守府所管艦團隊ノ機關ニ關スル事ヲ掌ル

第十七條　軍醫長ハ司令長官ノ命ヲ受ケ鎮守府及所管艦團隊ノ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第十八條　主理ハ司令長官ノ命ヲ受ケ法律ニ關スル事ヲ掌ル

第十九條　鎮守府ニ機關部造船部測器庫武庫水雷庫兵器工場病院及監獄ヲ置ク

第二十條　機關部ハ鎮守府所屬艦船ヲ統轄シ其保安及就役ノ準備ヲ掌ル

第二十一條　造船部ハ艦船及其附屬具ノ製造修理及購製ヲ掌ル造船材料倉庫主管ヲ置キ其事務ヲ分擔セシム

第二十二條　測器庫ハ測器及航海ニ關スル圖書ノ準備供給ヲ掌リ及氣象ノ觀測ヲ爲ス

第二十三條　武庫ハ砲銃彈藥及火具ノ準備供給ヲ掌ル

第二十四條　水雷庫ハ水雷ノ準備供給ヲ掌ル

第二十五條　兵器工場ハ兵器火具ノ修理ヲ掌ル

第二十六條　病院ハ治療及治療品ノ調製貯藏供給看護手看病夫ノ教育ヲ掌ル

第二十七條　第十九條ニ掲クル部庫工場及病院ニ左ノ職員ヲ置ク

豫備經部
部長
副官　但奚及佐世保鎮守府ニハ之ヲ置カス
機關長
造船部
部長
科長　但佐世保鎮守府ニハ造船科長ヲ置カス
主幹
各庫及兵器工場
主管

第二十八條　鎮守府ニ知港事副知港事ヲ置ク知港事ハ司令長官ノ命ヲ受ケ所屬諸船ヲ統轄シ港則ヲ維持シ海運海標及敵襲防火等ノ事ヲ掌ル副知港事ハ知港事ヲ助ク但奚及佐世保鎮守府ニハ副知港事ヲ置カス

第三十條　鎮守府ニ臨時機雷委員ヲ置キ海軍上長官以下若干名ヲ以テ之ニ充ツルコトアルヘシ

第三十一條　本條例ニ掲クル外屬員トシテ別任官ヲ置ク

第三十二條　各鎮守府職員ノ官等及定員ハ別ニ定ムルモノノ外左ノ表ニ依ル

各鎮守府職員表

横須賀鎮守府	參謀	參謀長	海軍大佐
		參謀	海軍少佐
		總書	海軍大尉或ハ大主計
		機關長	海軍機關大監
		軍醫長	海軍醫大監
		主理	海軍法官或ハ主理ヲシテ兼ネシム
	豫備經部	豫備經部長	海軍大佐
		副官	一
		機關長	海軍機關長ヲシテ兼ネシム
	造船部	造船部長	豫備經部長ヲシテ兼ネシム
		知港事	海軍大尉
		副知港事	海軍大尉
		造船科長	海軍大技監
		造船科主幹	海軍少技監
		造機科長	海軍機關技士
		造機科主幹	海軍機關少監或ハ少技監
		造船材料倉庫主管	海軍少技監或ハ技士
	測器庫主管		海軍少佐或ハ大尉
	技士	但測器庫水雷庫武庫及病院ニハ之ヲ置カス	海軍大佐
	病院	病院長	海軍少佐
		軍醫	海軍大尉或ハ大主計
		藥劑官	海軍機關大監
		部長主管及病院長ハ司令長官ノ命ヲ受ケ其他ノ職員ハ部長主管若クハ病院長ノ命ヲ受ケテ事務ニ服ス	海軍醫大監
		監獄官ノ官制ハ別ニ之ヲ定ム	海軍法官或ハ主理ヲシテ兼ネシム
		第二十八條　造船部ニ造船材料倉庫主管ヲ置キ部長ノ命ヲ受ケ造船材料ノ購買受却貯藏出納ノ事ヲ掌ラシム	海軍大尉
		第二十九條　鎮守府ニ知港事副知港事ヲ置ク知港事ハ司令長官ノ命ヲ受ケ所屬諸船ヲ統轄シ港則ヲ維持シ海運海標及敵襲防火等ノ事ヲ掌ル副知港事ハ知港事ヲ助ク但奚及佐世保鎮守府ニハ副知港事ヲ置カス	海軍大尉
		第三十條　鎮守府ニ臨時機雷委員ヲ置キ海軍上長官以下若干名ヲ以テ之ニ充ツルコトアルヘシ	海軍上等長官 七
		第三十一條　本條例ニ掲クル外屬員トシテ別任官ヲ置ク	海軍機關師 三
		第三十二條　各鎮守府職員ノ官等及定員ハ別ニ定ムルモノノ外左ノ表ニ依ル	海軍船匠師 三
			海軍上等看護手 一
			海軍上等主幹 一
			海軍一等下士 十三
			海軍二等下士 十三
			海軍三等下士 八
			雇手 七十七

守府	武庫主管	武庫附	海軍少佐或ハ大尉	一
	水雷庫主管	水雷庫附	海軍少佐或ハ大尉	一
	兵器工場主管	兵器工場附	海軍機關少監或ハ少技監	二
病院	病院長		軍醫長ナシテ兼子シム	
	軍醫		海軍軍醫少監	一
	藥劑官		海軍軍醫少監	七
			書記	二
			海軍一等卒	二十六
			海軍二等卒	六十八
			海軍三等卒	十七
			海軍四等卒	二十
吳鎮守府	幕僚	參謀長	海軍大佐	一
		秘書	海軍大尉或ハ大主計	一
		機關長	海軍機關大監	一
		軍醫長	海軍軍醫大監	一
		主理	海軍軍法會議主理ナシテ兼子シム	一
	豫備艦部	豫備艦部長	海軍大佐或ハ少佐	一
		機關長	幕僚機關長ナシテ兼子シム	一
	知港事		豫備艦部長ナシテ兼子シム	
	海軍中將司令長官			
	造船部	造船部長	海軍大技監	一
		造船科長	海軍少技監	一
		造船科主幹	海軍機關技士	一
		造機科長	海軍機關少監或ハ少技監	四
		造機科主幹	海軍機關大技士或ハ技士	三
		造船材料倉庫主管		
	測器庫主管	測器庫附	海軍大尉	一
	武庫主管	武庫附	海軍大尉	一
	水雷庫主管	水雷庫附	海軍大尉	一
	兵器工場主管	兵器工場附	海軍大尉	一
病院	病院長		海軍大佐或ハ少佐	一
	軍醫		海軍軍醫少監	一
	藥劑官		海軍藥劑官	四
			書記	二
			海軍上等兵曹	六
			海軍機關師	三
			海軍船匠師	三
			海軍上等看護手	一
			海軍上等主計	一
			海軍一等下士	十四
			海軍二等下士	八
			海軍三等下士	三
			技手	二十四
			書記	十六
			海軍一等卒	三十二
			海軍二等卒	九
			海軍三等卒	十八
			海軍上等兵曹	四
			海軍機關師	一
			海軍上等看護手	一

也保鎮守府	海軍少將司令長官			
	豫備艦部	豫備艦部長	海軍大佐或ハ少佐	一
		機關長	幕僚機關長ナシテ兼子シム	
	知港事		豫備艦部長ナシテ兼子シム	
	造船部	造船部長	海軍大技監或ハ少技監	一
		造船科主幹	海軍少監或ハ大技士	一
		造機科長	海軍機關技士	一
		造船材料倉庫主管	海軍大尉ナル本職アル海軍技士ナシテ兼子シム	一
	測器庫主管	測器庫附	海軍大尉	一
	武庫主管	武庫附	海軍大尉	一
	水雷庫主管	水雷庫附	海軍大尉	一
	兵器工場主管	兵器工場附	海軍大技士	一
病院	病院長		海軍大佐或ハ少佐	一
	軍醫		海軍軍醫大監	一
	藥劑官		海軍藥劑官	四
			海軍上等主計	一
			海軍一等下士	十四
			海軍二等下士	七
			海軍三等下士	三
			技手	十
			書記	十
			海軍一等卒	三十二
			海軍二等卒	九
			海軍三等卒	十二
			海軍四等卒	十二

一上級者ニ闕員アルトキ其次級以下ノ人員ハ其闕員ヲ超過セサル限リ定員ヲ超ユルモ妨ナシ

第一款　造船支部

勅令　明治二十六年五月十九日第四十號　朕吳鎮守府造船支部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

吳鎮守府造船支部條例

第一條　小野濱ニ吳鎮守府造船支部ヲ置キ艦船ヲ製造修理及艤裝スル所トス

第二條　吳鎮守府造船支部ニ左ノ職員ヲ置ク

造船支部長　海軍少技監　一人
製造主幹　海軍技士　三人
會計課長　海軍大主計　一人
造船材料支庫主管　會計課長ヲ以テ之ニ兼補ス　一人

第三條　支部長ハ吳鎮守府司令長官ノ命ヲ受ケ工場ヲ總理シ製造主幹ハ支部長ヲ助ケ工事ヲ分擔ス

第四條　會計課長ハ金錢及物品會計ヲ掌理ス

第五條　造船材料支庫主管ハ支部長ノ命ヲ受ケ造船材料ノ出納ヲ經理ス

第六條　第二條ニ掲クル職員ノ外海軍大軍醫一人海軍看護手一人書記八人技手九人看病夫一人ヲ置ク

海軍大軍醫ハ工場ノ衛生ヲ掌リ海軍看護手・書記及技手看病夫ハ各上官ノ命ヲ受ケ其主務ニ服ス

第七條　臨時須要ニ從ヒ海軍上等兵曹海軍機關師及海軍船匠師各一人ヲ置キ吳鎮守府職員ヨリ兼務セシムルコトヲ得

第二款　病院

海軍省達　明治二十二年四月二十二日第九十七號　海軍病院條例ヲ定ムルコト左ノ如シ

海軍病院條例

第一條　海軍病院ハ鎮守府衛生會議ニ屬シ鎮守府所在ノ地ニ之ヲ置ク

第二條　鎮守府衛生會議議長ハ鎮守府衛生會議議員及海軍病院軍醫以下ヲ指揮シテ醫務ヲ統理ス

第三條　鎮守府衛生會議議員タル軍醫大監ハ治療掛ノ長トシテ患者治療ノ事ヲ掌リ會議議長事故アルトキハ其代理ヲ爲ス

第四條　鎮守府衛生會議議員タル軍醫少監ハ治療掛ノ副長トシテ掛長ヲ助ク

第五條　鎮守府衛生會議附藥劑官ハ調劑掛ノ長トシテ調劑分析ノ事ヲ掌ル

第六條　海軍病院ニ軍醫若干人ヲ置ク其數ハ鎮守府所管ノ兵數ニ應シ之ヲ定ム

第七條　海軍病院附軍醫ハ衛生會議議長ノ指揮ヲ受ケ患者治療ノ事ヲ掌リ又各所ニ派出シテ醫務衛生ノ事ニ服ス

第八條　海軍病院ノ會計及庶務ハ鎮守府主計部病院課長之ヲ掌理ス

第九條　鎮守府主計部病院課長ハ海軍病院ノ會計庶務ヲ掌理スト雖モ定規アル日常ノ事件ハ衛生會議議長ノ告知ニ依リ處分スヘシ

第十條　海軍病院ニ於テハ軍醫候補生及看護手看病夫ノ教育ヲ務ス

第十一條　海軍病院ニハ定員トシテ看護手主府看病夫府夫若干人ヲ置ク

第十二條　看護手看病夫ハ衛生會議議長ノ命ヲ受ケ看護調劑ノ事ニ服ス

第十三條　主府府夫ハ病院課長ノ命ヲ受ケ庶務ノ事ニ服ス

第十四條　軍醫以下ハ衛生會議議長ノ命アルトキハ會議ニ關スル事務ニ服スヘキモノトス

第十五條　艦營其他各所ニ要スル藥品療用品ハ海軍病院ヨリ供給ス

第十六條　計算課派出員ハ藥品療用品供給ノ事務ヲ掌リ藥劑官ハ藥品療用品ノ保管及現品供給ノ事ニ於テハ病院課長ヲ補助ス

第十七條　看護手看病夫ハ藥劑官ノ命ヲ受ケ藥品療用品保管供給ノ事ニ服ス

第三款　監獄

勅令　明治二十六年五月廿九日第四十三號　海軍監獄官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍監獄官官制

第一條　海軍監獄ニ左ノ職員ヲ置ク

海軍監獄長
海軍監獄書記
海軍監獄看守長
海軍監獄看守

第二條　監獄長ハ奏任トシ書記看守長ハ判任トシ看守ハ判任待遇トス其官等俸給ハ別表ニ依ル

監獄長ハ三人書記ハ六人看守長ハ十人ヲ以テ定員トス

第三條　監獄長ハ海軍士官及主理ヨリ之ヲ選任ス

第四條　書記看守長ハ海軍准士官並服役滿期下士官及雇事ヨリ之ヲ選任ス

看守ニシテ職務ニ勉勵シ相當ノ學識アリ五年以上其職ヲ奉シタル者ハ書記若クハ看守長ニ任スルコトヲ得但普通試驗ヲ經ルニ非レハ他ノ判任官ニ任スルコトヲ得ス

官等俸給	高等官					判任官待遇
官名	六等	七等	八等	三等	四等	五等
海軍監獄長	一級俸年俸七百圓	二級俸年俸六百圓	三級俸年俸五百圓			
海軍監獄書記				一級俸月俸廿五圓	三級俸月俸廿五圓	五級俸月俸十五圓
海軍監獄看守長				二級俸月俸三十圓	四級俸月俸二十圓	六級俸月俸十二圓
海軍監獄看守						一級俸月俸十圓　二級俸月俸九圓　三級俸月俸八圓　四級俸月俸七圓

監獄長一級俸ヲ受ケ七年以上職務ニ勉勵シ功勞アル者ハ年俸八百圓ニ至ルマテ增俸ヲ爲スコトヲ得看守十年以上勤續スル者ハ月俸十二圓ヲ給スルコトヲ得

第五條　看守採用ノ規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

第六條　監獄長ハ鎮守府司令長官ノ命ヲ受ケ所屬員ヲ指揮監督シ監獄ノ事務ヲ掌理ス

第七條　監獄長ハ必要ノ場合ニ於テ看守長若クハ看守ヲシテ書記ノ事務ヲ取扱ハシメ又書記ヲシテ看守長ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第八條　書記ハ庶務會計及給與ノ事務ニ服ス

第九條　看守長ハ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮ス

第十條　看守ハ在監人ノ看守護送門衛ニ任シ其他監獄ノ事務ニ服ス

第十一條　看守長看守監務ニ服スルトキハ刀ヲ帶ヒ制服ヲ著スヘシ

補則

第十二條　書記看守長ハ本令施行ノ際ニ限リ第四條ノ規定ニ拘ラス海軍監獄ニ在テ書記ヲ勤メ獄務ニ經驗アル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第四款　海兵團

勅令　明治二十二年四月廿六日第四十六號　海兵團條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海兵團條例

第一條　海兵團ハ鎮守府所在ノ地ニ置キ艦團隊其他各部定員ノ補缺ニ充ツヘキ現役下士卒ヲ教育訓練シ軍港內ノ守衛ヲ要スル場所ニ守兵ヲ派出シ新兵ヲ徵募シ豫備兵後備兵ヲ招集スル所トス

海兵團ハ所屬鎮守府ノ名ヲ冠シテ某海兵團ト稱ス

第二條　艦船隊團ノ勤務ヲ免シタル下士卒ハ海兵團ニ入營セシムルモノトス

第三條　海兵團ノ下士卒ハ分テ若干分隊トシ其機關部ニ屬スルモノハ別ニ若干部ニ分ツ

第四條　海兵團ノ職員ハ左ノ如シ

團長	一人
副長	一人
分隊長	若干人
徵募官	二人
分隊士	若干人
機關長	一人
機關士	若干人
軍醫長	一人
軍醫	若干人
主計長	一人
主計	若干人

大佐
少佐
大尉
大尉
少尉
機關少監
軍醫少監
主計少監

第五條　團長ハ軍港司令官ニ隸シ部下ヲ督督シ軍紀風紀ヲ維持シ團中ノ事務ヲ總理シ下士卒ヲ教育訓練スルヲ任トス

第六條　團長ハ徵募ノ事務ニ於テハ直ニ司令長官ノ指揮ヲ受クヘシ

第七條　副長ハ團長ヲ補佐シ團長ノ命令ヲ執行シ團中ノ定則ヲ維持シ團長事故アルトキハ其代理ヲ爲ス

第八條　分隊長ハ其隊員ノ軍紀風紀ヲ維持シ之ヲ教育訓練スルコトヲ掌ル

分隊士ハ分隊長ノ命ヲ受ケ其主務ニ從事ス

第九條　徵募官ハ兵籍ヲ主管シ徵兵令ニ關スル事務及後備兵後備兵ノ招集簡閱點呼ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條　機關長ハ其部下ノ軍紀風紀ヲ維持シ之ヲ教育訓練スルコトヲ任トシ又附屬艦船ノ機關ニ關係ル事ヲ掌ル

機關士ハ機關部員ノ部長ト爲リ機關長ヲ助ケ其主務ニ從事ス

第十一條　機關士ハ機關部員ノ部長ト爲リ機關長ヲ助ケ其主務ニ從事ス

第十二條　軍醫長ハ團中ノ醫務衛生ヲ掌ル

第十三條　軍醫ハ軍醫長ヲ助ケ其主務ニ從事ス

第十四條　主計長ハ會計給與及庶務ヲ掌ル

第十五條　主計ハ主計長ヲ助ケ其主務ニ從事ス

第十六條　第四條ニ掲クル職員ノ外定員トシテ准士官下士卒若干人ヲ置ク

第五款　水雷隊

勅令　明治二十二年四月十六日第四十七號　水雷隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水雷隊條例

第一條　軍港要港ニ漸次水雷隊ヲ置ク

第二條　水雷隊ハ海軍區ノ區域ニ依リ各鎮守府ヲシテ管轄セシム

第三條　水雷隊ニ司令ヲ置ク佐官ヲ以テ之ニ補スシテ管理シ紀律ヲ維持シ長學術進歩ノ責ニ任ス

第四條　教官ハ所長ノ命ヲ承ケ教授ヲ擔任ス

第五條　先任教官ハ所長ヲ補佐シ所長ノ命令ヲ執

第四條　軍港ノ水雷隊司令ハ軍港司令官ニ隸シ要港ノ水雷隊司令ハ直ニ其所管鎮守府司令長官ニ隸シ部下ヲ督督訓練シ水雷水雷艇其他ノ要具ヲ整備シ近海ノ水路ニ熟知シ軍港要港ノ守備ニ任ス

第五條　水雷隊ハ佐尉官機關士軍醫主計准士官下士卒若干名ヲ以テ編制ス其定員ハ軍港要港ノ形勢ニ應シテ別ニ之ヲ定ム

第六款　砲術練習所

勅令　明治二十六年十一月十九日第二百十九號　海軍砲術練習所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍砲術練習所條例

第一條　海軍砲術練習所ハ之ヲ横須賀軍港ニ置キ海軍將校及海軍上等兵曹ニ砲術ヲ教授シ並ニ砲兵及砲術教員ト爲ルヘキ海軍兵曹及水兵ヲ教育シ且砲術ノ進歩ヲ圖ル所トス

第二條　海軍砲術練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	海軍少佐　一人
教官	海軍少佐　一人 海軍大尉　五人
分隊長	海軍大尉　五人教官ヲ以テ兼補ス
分隊士	海軍少尉　四人
軍醫長	海軍大軍醫　一人
軍醫	海軍少軍醫　一人
主計長	海軍大主計　一人
主計	海軍少主計　一人

第三條　所長ハ横須賀鎮守府司令長官ニ隸シ所務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ長學術進歩ノ責ニ任ス

第四條　教官ハ所長ノ命ヲ承ケ教授ヲ擔任ス

第五條　先任教官ハ所長ヲ補佐シ所長ノ命令ヲ執

行シ所内ノ定則ヲ維持シ所長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第六條　分隊長ハ隊員ノ紀律ヲ維持シ其ノ行狀技倆ヲ熟知シ且隊員ニ係ル事務ヲ掌理ス

第七條　分隊士ハ分隊長ノ命ヲ承ケ服務ス

第八條　軍醫長ハ所長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル

第九條　軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條　主計長ハ所長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十一條　主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條　第二條ニ掲ル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍上等兵曹　教員　八人

海軍下士　三十三人内十七人教員

海軍卒　八十九人

前項職員ノ外書記一人ヲ置キ編修ニ從事セシムルコトヲ得

第十三條　海軍砲術練習所ニ於テ砲術ノ教授ヲ受ル海軍將校及海軍上等兵曹ハ左ノ諸項ノ一ニ該ル者タルヘシ

一　海軍大學校將校科ヲ卒業シタル者

二　海軍大尉以上ニシテ志願ノ者

三　海軍少將

四　海軍上等兵曹ニシテ海軍砲術練習所ニ於テ砲術ヲ修得シタル者

前項ノ外進級資格ヲ有スル海軍少尉候補生ヲ入學セシムルコトヲ得

第十四條　海軍砲術練習所ニ於テ教育スル海軍兵曹及水兵ヲ砲術練習生ト稱ス

第十五條　砲術練習生ハ掌砲兵タランコトヲ志願スル者砲術教員ト爲スヘキ者及砲術復習ヲ志願スル者ニ就キ採用ス

第十六條　掌砲兵ト爲ルヘキ者ハ海軍三等兵曹以下三等水兵以上ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者タルヘシ

一　身體強健、視力完全且品行方正ナル者

二　一箇年以上海上勤務ニ服シタル者但四等水兵ヨリ起算ス

三　卒業後五箇年間現役ニ服スヘキ者

四　試驗ニ合格シタル者

第十七條　砲術教員ト爲スヘキ者ハ一等掌砲證狀ヲ有スル海軍兵曹若クハ一等水兵ニシテ卒業後三箇年間現役ニ服スヘキ者ノ中ヨリ所長之ヲ選拔ス

第十八條　砲術復習ヲ志願スル者ハ身體強健、視力完全且品行方正ニシテ尚掌砲兵タルニ適合シ卒業後三箇年間現役ニ服スヘキ者ニアラサレハ採用セス

第十九條　砲術練習生卒業シタルトキハ掌砲證狀ヲ授與ス其ノ證狀ハ試驗ノ成績ニ依リ二等ニ分ツ

掌砲證狀ヲ有スル者ハ掌砲兵ト稱ス

第二十條　砲術教員ト爲スヘキ砲術練習生卒業シタルトキハ砲術教員適任證書及掌砲證狀ヲ授與ス

第二十一條　掌砲證狀若クハ砲術教員適任證書ヲ有スル者ニハ臂章ヲ授與シ且加俸ヲ給ス

第二十二條　掌砲證狀ノ有效期限ハ滿三箇年トス砲術教員適任證書ノ有效期限ハ滿五箇年トシ其ノ期滿レハ臂章ヲ除キ且加俸ヲ止ム

第二十三條　海軍砲術練習所ニ練習用トシテ船艇ヲ附屬ス

第二十四條　海軍砲術練習所ニ於テ商船學校生徒ニ砲術ヲ教授スルコトヲ得

附　則

第二十五條　砲術練習艦條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第七欵　水雷術練習所

勅令

明治二十六年十一月二日　勅海軍水雷術練習所條例ヲ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍水雷術練習所條例

第一條　海軍水雷術練習所ハ之ヲ横須賀軍港ニ置キ海軍將校、海軍機關官及海軍上等兵曹ニ水雷術ヲ教授シ並ニ掌水雷兵、水雷工又ハ水雷術教員ト爲ルヘキ海軍下士卒ヲ教育シ且水雷術ノ進歩ヲ圖ル所トス

第二條　海軍水雷術練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　海軍大佐　一人

海軍少佐　一人

教官　海軍少尉　四人

海軍大尉　四人

海軍大機關士二人

分隊長　四人教官ヲ以テ兼補ス

分隊士　海軍少尉　四人

軍醫長　海軍大軍醫　一人

軍醫　海軍少軍醫　一人

主計長　海軍大主計　一人

主計　海軍少主計　一人

第三條　所長ハ横須賀鎮守府司令長官ニ隸シ所務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及學術ニ參與シ其ニ任ス

第四條　教官ハ所長ノ命ヲ承ケ教授ヲ擔任ス

第五條　先任教官ハ所長ヲ補佐シ所長ノ命令ヲ執行シ所内ノ定則ヲ維持シ所長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第六條　分隊長ハ隊員ノ紀律ヲ維持シ其ノ行狀技倆ヲ熟知シ且隊員ニ係ル事務ヲ掌理ス

第七條　分隊士ハ分隊長ノ命ヲ承ケ服務ス

第八條　軍醫長ハ所長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル

第九條　軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條　主計長ハ所長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十一條　主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條　第二條ニ掲ル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍上等兵曹　教員　八人

海軍下士　三十三人内十七人教員

海軍卒　八十九人

前項職員ノ外書記一人ヲ置キ編修ニ從事セシムルコトヲ得

第十三條　海軍砲術練習所ニ於テ砲術ノ教授ヲ受ル海軍將校及海軍上等兵曹ハ左ノ諸項ノ一ニ該ル者タルヘシ

一　海軍大學校將校科ヲ卒業シタル者

二　海軍大尉以上ニシテ志願ノ者

三　海軍少將

四　海軍上等兵曹ニシテ海軍砲術練習所ニ於テ砲術ヲ修得シタル者

前項ノ外進級資格ヲ有スル海軍少尉候補生ヲ入學セシムルコトヲ得

第十四條　海軍砲術練習所ニ於テ教育スル海軍兵曹及水兵ヲ砲術練習生ト稱ス

第十五條　砲術練習生ハ掌砲兵タランコトヲ志願スル者砲術教員ト爲スヘキ者及砲術復習ヲ志願スル者砲術教員ト爲スヘキ者ハ海軍三等兵曹以下三等水兵以上ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者タルヘシ

一　身體強健、視力完全且品行方正ナル者

二　一箇年以上海上勤務ニ服シタル者但四等水兵ヨリ起算ス

三　卒業後五箇年間現役ニ服スヘキ者

四　試驗ニ合格シタル者

第十七條　砲術教員ト爲スヘキ者ハ一等掌砲證狀ヲ有スル海軍兵曹若クハ一等水兵ニシテ卒業後三箇年間現役ニ服スヘキ者ノ中ヨリ所長之ヲ選拔ス

第十八條　砲術復習ヲ志願スル者ハ身體強健、視力完全且品行方正ニシテ尚掌砲兵タルニ適合シ卒業後三箇年間現役ニ服スヘキ者ニアラサレハ採用セス

第十九條　砲術練習生卒業シタルトキハ掌砲證狀ヲ授與ス其ノ證狀ハ試驗ノ成績ニ依リ二等ニ分ツ

掌砲證狀ヲ有スル者ハ掌砲兵ト稱ス

第二十條　砲術教員ト爲スヘキ砲術練習生卒業シタルトキハ砲術教員適任證書及掌砲證狀ヲ授與ス

第二十一條　掌砲證狀若クハ砲術教員適任證書ヲ有スル者ニハ臂章ヲ授與シ且加俸ヲ給ス

第二十二條　掌砲證狀ノ有效期限ハ滿三箇年トス砲術教員適任證書ノ有效期限ハ滿五箇年トシ其ノ期滿レハ臂章ヲ除キ且加俸ヲ止ム

第二十三條　海軍砲術練習所ニ練習用トシテ船艇ヲ附屬ス

第二十四條　海軍砲術練習所ニ於テ商船學校生徒ニ砲術ヲ教授スルコトヲ得

附　則

第二十五條　砲術練習艦條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第七欵　水雷術練習所

勅令

明治二十六年十一月二日　勅海軍水雷術練習所條例ヲ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍水雷術練習所條例

第一條　海軍水雷術練習所ハ之ヲ横須賀軍港ニ置キ海軍將校、海軍機關官及海軍上等兵曹ニ水雷術ヲ教授シ並ニ掌水雷兵、水雷工又ハ水雷術教員ト爲ルヘキ海軍下士卒ヲ教育シ且水雷術ノ進歩ヲ圖ル所トス

第二條　海軍水雷術練習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　海軍大佐　一人

海軍少佐　一人

教官　海軍少尉　四人

海軍大尉　四人

海軍大機關士二人

分隊長　四人教官ヲ以テ兼補ス

分隊士　海軍少尉　四人

軍醫長　海軍大軍醫　一人

軍醫　海軍少軍醫　一人

主計長　海軍大主計　一人

主計　海軍少主計　一人

第三條　所長ハ横須賀鎮守府司令長官ニ隸シ所務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及學術ニ參與シ其ニ任ス

第四條　教官ハ所長ノ命ヲ承ケ教授ヲ擔任ス

第五條　先任教官ハ所長ヲ補佐シ所長ノ命令ヲ執行シ所内ノ定則ヲ維持シ所長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス

第六條　分隊長ハ隊員ノ紀律ヲ維持シ其ノ行狀技倆ヲ熟知シ且隊員ニ係ル事務ヲ掌理ス

第七條　分隊士ハ分隊長ノ命ヲ承ケ服務ス

第八條　軍醫長ハ所長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル

第九條　軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條　主計長ハ所長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル

第十一條　主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條　第二條ニ掲ル職員ノ外左ノ諸員ヲ置キ上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

海軍上等兵曹　教員　八人

海軍下士　三十三人内十七人教員

海軍卒　八十九人

前項職員ノ外書記一人ヲ置キ編修ニ從事セシムルコトヲ得

第十三條　海軍砲術練習所ニ於テ砲術ノ教授ヲ受ル海軍將校及海軍上等兵曹ハ左ノ諸項ノ一ニ該ル者タルヘシ

一　海軍大學校將校科ヲ卒業シタル者

二　海軍大尉以上ニシテ志願ノ者

三　海軍少將

四　海軍上等兵曹ニシテ海軍砲術練習所ニ於テ砲術ヲ修得シタル者

前項ノ外進級資格ヲ有スル海軍少尉候補生ヲ入學セシムルコトヲ得

第十四條　海軍砲術練習所ニ於テ教育スル海軍兵曹及水兵ヲ砲術練習生ト稱ス

第十五條　砲術練習生ハ掌砲兵タランコトヲ志願スル者砲術教員ト爲スヘキ者及砲術復習ヲ志願スル者ニ就キ採用ス

第十六條　掌水雷兵ト爲ルヘキ者ハ海軍三等兵曹以下三等水兵以上又水雷工ト爲ルヘキ者ハ海軍三等兵曹以下三等水兵以上又水雷工ト爲ルヘキ者ハ海軍三等兵曹以下三等鍛冶手以下三等鍛冶以上ニシテ左ノ諸項ニ適合スル者タルヘシ

一　身體強健、視力完全且品行方正ナル者

二　一箇年以上海上勤務ニ服シタル者但四等水兵及四等鍛冶ヨリ起算ス

三　卒業後五箇年間現役ニ服スヘキ者

四　試驗ニ合格シタル者

第十七條　水雷術教員ト爲スヘキ者ハ一等掌水雷證狀ヲ有スル海軍兵曹若クハ一等水兵ニシテ卒業後三箇年間現役ニ服スヘキ者ノ中ヨリ所長之ヲ選拔ス

第十八條　水雷術復習ヲ志願スル者ハ身體強健、視力完全且品行方正ニシテ尚掌水雷兵タルニ適合シ卒業後三箇年間現役ニ服スヘキ者ニアラサレハ採用セス

第十九條　水雷術練習生卒業シタルトキハ掌水雷證狀若クハ水雷工證狀ヲ授與ス其ノ證狀ハ試驗ノ成績ニ依リ各二等ニ分ツ

掌水雷證狀ヲ有スル者ハ掌水雷兵ト稱シ水雷工證狀ヲ有スル者ハ水雷工ト稱ス

第二十條　水雷術教員ト爲スヘキ水雷術練習生卒業シタルトキハ水雷術教員適任證書及掌水雷證狀ヲ授與ス

第二十一條　掌水雷證狀、水雷工證狀若クハ水雷術教員適任證書ヲ授與シタル者ニハ臂章ヲ附與シ且加俸ヲ給ス

第二十二條　掌水雷證狀ノ有效期限ハ滿五箇年トシ水雷術教員適任證書ノ有效期限ハ滿三箇年トス其ノ期滿レハ臂章ヲ除キ且加俸ヲ止ム

第二十三條　海軍水雷術練習所ニ練習用トシテ船艇ヲ附屬ス

第二十四條　水雷術練習艦條例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第八欵　新原採炭所

勅令

明治二十六年五月二日　勅新原採炭所官制改正ノ件ヲ茲ニ之ヲ公布セシム

新原採炭所官制

第一條　新原採炭所ハ海軍預備炭山ヲ管轄シ海軍需要ノ石炭ヲ採掘スル所トス

第二條　新原採炭所ニ所長一人ヲ置キ海軍大機關士ヲ以テ之ニ補シ若クハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　所長ハ佐世保鎮守府司令長官ノ命ヲ受ケ所務ヲ整理ス

第四條　新原採炭所ニ書記三人技手一人ヲ置ク所長ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

第十八章　艦隊

勅令

明治二十七年六月　勅艦隊條例ノ改正ヲ茲ニ之ヲ公布セシム

艦隊條例

第一條　軍艦三艘以上ヲ以テ編制スル兵力ヲ艦隊ト稱ス

第二條　艦隊ハ之ヲ常置シ又ハ臨時編制ス其ノ名稱ハ特ニ勅命ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　艦隊ニハ水雷艇及運送船等ヲ附スルコト

ヲ得

第四條　常置シタル艦隊平時ノ巡航區域ハ本邦周海トス但二艦隊以上ヲ常置スル時ハ各其ノ巡航區域ヲ定ム

第五條　艦隊ニ司令長官ヲ置キ大將、中將若クハ少將ヲ以テ之ニ補ス

第六條　大將若クハ中將ノ司令スル艦隊ハ其ノ下ニ司令官ヲ置キ少將若クハ大佐ヲ以テ之ニ補ス

第七條　司令長官、司令官ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク

參謀長	參謀	總書	航海長	機關長	軍醫長
大將司令長官タルトキ	少將若クハ大佐一	少佐 大尉	主計少監 大主計	一	大佐	機關大監	軍醫大監
中將司令長官タルトキ	大佐 一	少佐 大尉	一	大主計	一	少佐	機關大監	軍醫大監
少將司令長官タルトキ	大佐 一	大尉	二	大主計	一	少佐	一	一
司令官幕僚		大尉	二	大主計	一			

艦隊ニハ主理ヲ置キ又外國ニ航スルトキハ時宜ニ依リ譯官トシテ文官ヲ幕僚ニ附屬セシムルコトヲ得

第八條　司令長官ハ天皇ニ直隸シ陛下ノ軍艦ヲ統率シ軍事ヲ統理シ海軍大臣ノ命ヲ承ケ所管ノ軍政ヲ總理ス

第九條　司令長官ハ陛下ノ軍紀風紀ヲ統監ス

第十條　司令長官ハ幕僚ヲ率ヒテ旗艦ニ乘組ムヘシ但旗艦ニ故障アルトキ又ハ指揮上一時他艦ニ移ルヲ必要ト認ムルトキハ其ノ間他艦ニ移ルコトヲ得

第十一條　司令長官ノ職務執行ハ其ノ將旗ヲ旗艦ニ掲ケタル時ニ始マリ之ヲ卸シタル時ニ終ル

第十二條　司令長官ハ陛下ノ艦船ヲ分遣スルコトヲ得

第十三條　司令長官ハ陛下ノ艦船ヲ分遣スルトキハ陛下ノ司令官若クハ先任艦長ヲシテ其ノ指揮ヲ受ラシメ其ノ職權內ノ事ヲ委任スルコトヲ得

第十四條　司令長官ハ針路ヲ指定シ其ノ安全ニ對シテハ自ラ責ニ任スヘシ

司令官若クハ先任艦長艦隊ヲ引率スルトキモ亦同シ

第十五條　司令長官艦隊ヲ引率シテ航行スルトキノ職員ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第十六條　司令長官ハ陛下ノ候補生並ニ准士官以下ヲ陛下ノ艦船間ニ轉乘セシムルコトヲ得

第十七條　司令長官ハ戰時若クハ事變ニ際シ國法內ニ在ル他官ノ軍艦兵員ヲ指揮スルコトヲ得但軍務內ニ於テハ此ノ限ニアラス

第十八條　司令長官ハ事情之ヲ必要ト認メ且時機切迫指令ヲ仰クノ暇ナキトキハ遠航區域外ニ陛下ノ艦船ヲ差遣スルコトヲ得

第十九條　司令官ハ幕僚ヲ率ヒテ司令長官ノ指定スル旗艦ニ乘組ム其ノ陛下ニ屬スル艦船ヲ指揮スヘシ

第二十條　司令官（司令官ヲ置カサルトキハ先任艦長若クハ參謀長）ハ司令長官死亡シ後任者未タ定ラサルトキ若クハ事故ニ依リ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ其ノ職務ヲ代行スヘシ

第二十一條　司令長官、司令官幕僚ノ中航海長、機關長、軍醫長ヲ置カサルモノハ旗艦ノ航海長、機關長、軍醫長ヲシテ其ノ職務ニ參與セシムルコトヲ得

第二十二條　參謀長ハ司令長官ノ職務ヲ補佐シ其ノ職務ニ參シ艦隊一般ニ係ル事ヲ整理ス

第二十三條　司令長官ノ幕僚タル參謀ハ參謀長ノ指揮ヲ承ケ職務ス

第二十四條　司令官ノ幕僚タル參謀ハ司令官ノ指揮ヲ承ケ職務ス

第二十五條　司令長官ノ幕僚タル總書ハ參謀長ノ指揮ヲ承ケ艦隊ノ庶務ヲ掌ル

第二十六條　司令官ノ幕僚タル總書ハ先任參謀ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

第二十七條　航海長ハ司令長官ノ指揮ヲ承ケ艦隊ノ航海ニ關スル事ヲ掌リ各艦航海長ノ職務ヲ監督ス

第二十八條　機關長ハ司令長官ノ指揮ヲ承ケ艦隊ノ機關ニ關スル事ヲ掌リ各艦機關長ノ職務ヲ監督ス

第二十九條　軍醫長ハ司令長官ノ指揮ヲ承ケ艦隊ノ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌リ各艦軍醫長ノ職務ヲ監督ス

第三十條　主理ハ海軍治理法ニ依リ職務ヲ執行シ司令長官ノ指揮ヲ承ケ艦列警察其ノ他軍事司法ニ關スル事ヲ掌ル

第十九章　軍艦

勅令　明治二十二年七月二十三日第九十九號　陸軍艦條例ヲ廢可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍艦條例

第一條　軍艦ハ鎮守府ヲ本營トス

第二條　軍艦艦隊ニ編入中ハ艦隊司令長官ニ屬スト雖モ其本營ヲ變セス艦隊ヨリ除隊或ハ艦隊解隊シタルトキハ別ニ命令ナクシテ其本營ニ歸スルモノトス

第三條　軍艦艦隊ニ編入セラレ又ハ豫備練習測量其他特別ノ役務ニ服スルトキハ之ヲ在役艦ト稱ス

第四條　軍艦戰鬪航海ノ準備整頓シ役務ノ命ヲ待ツトキハ之ヲ豫備艦ト稱ス

第五條　軍艦製造艤裝修理中ニ在ルトキ又ハ戰鬪航海ノ準備整ハサルトキハ之ヲ非役艦ト稱ス

第六條　軍艦ノ定員ハ上長官士官兵士官下士及卒ヲ以テ組織ス

第七條　軍艦ニハ前條ニ掲クル定員ノ外少尉候補生、少機關士候補生及少主計候補生ヲ乘組マシメ又練習若クハ實地研究ノ爲メ士官、兵士官、下士及卒ニ臨時乘組ヲ命スルコトヲ得

第八條　軍艦鎮守府司令長官又ハ艦隊司令長官司令官ノ旗艦タルトキハ定員ニ下士卒若干員ヲ增加スルコトヲ得

第九條　軍艦在役艦タルトキハ定員ヲ充實シ他ノ軍艦ニ屬シタルトキ又ハ豫備艦或ハ非役艦タルトキハ定員中適宜ノ人員ヲ置キ或ハ之ヲ置カサルコトアリ

第十條　軍艦ノ定員中左ノ職員ハ高等武官ヲ以テ之ニ補ス

艦長　大佐若クハ少佐若クハ大尉

副長　少佐若クハ大尉（少佐若クハ大尉ヲ以テ艦長ニ補スル艦ニハ之ヲ置カス）

砲術長　大尉（少佐若クハ大尉ヲ以テ艦長ニ補スル艦ニハ之ヲ置カス）

水雷長　大尉（水雷ノ設置大ナラサル艦ニハ之ヲ置カス）

航海長　大尉

分隊長　大尉

機關長　機關少監若クハ大機關士

軍醫長　大軍醫（艦隊司令長官ノ旗艦ニ在テハ軍醫少監ヲ以テ之ニ補スルコトアリ）

主計長　大主計（艦隊司令長官ノ旗艦ニ在テハ主計少監ヲ以テ之ニ補スルコトアリ）

分隊士　少尉（大尉ヲ以テ艦長ニ補スル艦ニハ之ヲ置カス）

航海士　少尉（水雷ノ設置大ナラサル艦ニハ之ヲ置カス）

水雷主機　大機關士若クハ少機關士

機關士　大軍醫若クハ少軍醫

軍醫　大主計若クハ少主計

主計　職員ノ定員ハ軍艦ノ構造及兵備ニ應シ別ニ之ヲ定ム

練習測量其他特別ノ役務ニ服スル軍艦ニ在テハ水條ニ掲クル職員ノ外役務ニ必要ノ職員ヲ置クコトアリ

皇族軍艦ノ職員ニ補セラルヽトキハ職員ノ外大尉一名ヲ置クコトアリ

第十一條　艦長ハ所管長官ニ隸シ乘員ヲ統率訓練シ兵備ヲ整頓シ艦ノ保安ヲ負擔シ一切ノ艦務ヲ統理ス

第十二條　艦長ハ部下職員事故アリ代理者ナキトキ臨時他ノ職員ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第十三條　副長ハ艦長ヲ補佐シ艦長ノ命令ヲ執行シ艦內ノ定則ヲ維持シ一切ノ艦務ヲ整理ス

第十四條　砲術長ハ主管ノ兵備ヲ整頓シ砲術ノ教授ヲ監督ス

第十五條　水雷長ハ主管ノ兵備ヲ整頓シ水雷ノ教授ヲ監督ス

第十六條　航海長ハ航海及水路諸事ヲ擔任シ主管ノ器具物品ヲ整頓シ艦內貯積ノ方法ヲ監督ス

第十七條　分隊長ハ隊員ノ軍紀風紀ヲ維持シ之ヲ訓練練習シ職務運用防火其他各部署ノ主務ヲ掌理シ分隊ノ兵器及要具ヲ整頓ス

第十八條　砲術長水雷長航海長分隊長ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此場合ニ於テハ當直士官ト稱シ其主務ヲ掌理シ艦ノ保安ヲ負擔ス

第十九條　機關長ハ機關ヲ整頓シ機關ニ係ル一切ノ事ヲ擔任シ機關部職員ヲ訓練練習ス

第二十條　軍醫長ハ醫務衛生ヲ掌ル

第二十一條　主計長ハ會計給與及庶務ヲ掌ル

第二十二條　航海士ハ航海長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十三條　分隊士ハ分隊長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十四條　航海士分隊士ハ交番當直ノ勤務ニ服ス此場合ニ於テハ副直士官ト稱シ當直士官ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十五條　水雷主機ハ機關長ノ監督ヲ受ケ負形

水雷及電氣艦ニ係ル艦國ヲ管理ス

第二十六條　艦國士ハ艦國長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十七條　軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十八條　主計ハ主計長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ掌理ス

第二十九條　艦長缺員中ハ副長其職務ヲ執リ艦長事故アルトキハ副長其代理ヲ爲ス又副長ヲ置カサル艦ニ在テ艦長事故アルトキハ先任將校其代理ヲ爲ス

第三十條　副長事故アルトキハ先任將校其代理ヲ爲シ副長ヲ置カサル艦ニ在テハ先任將校副長ノ職務ヲ擔任ス

第三十一條　航海長事故アルトキハ航海士其代理ヲ爲シ分隊長事故アルトキハ分隊士其代理ヲ爲シ艦國長事故アルトキハ艦國士其代理ヲ爲シ軍醫長事故アルトキハ軍醫其代理ヲ爲シ主計長事故アルトキハ主計其代理ヲ爲ス

第三十二條　艦國隊附屬ノ軍艦ニ在テハ乘組將校又ハ本艦國隊ヨリ臨時乘組タル將校ノ中先任ノ者其艦一切ノ命令ヲ掌トリ艦ノ保安ヲ負擔スルモノトス

第一十章　司法省

勅令　明治二十六年十月三日第百四十三號　朕司法省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

司法省官制

第一條　司法大臣ハ各裁判所及檢事局ヲ監督シ檢察事務ヲ指揮シ恩赦及復權ニ關スル事項其ノ他諸般ノ司法行政事務ヲ管理ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノノ外左ノ事務ヲ掌ル

一　裁判所ノ設立廢止及管轄區域並其ノ變更ニ關スル事項

二　裁判所附屬吏員及鑑識士ノ身分ニ關スル事項

第三條　司法省專任參事官ハ四人專任書記官ハ二人ヲ以テ定員トス

第四條　司法省ニ民刑局ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム

一　民事、刑事及其ノ他ノ法律命令ニ關スル事項

二　裁判及檢察ノ事務ニ關スル事項

三　恩赦及復權ニ關スル事項

第五條　民刑局長ハ勅任トス

第六條　司法省屬ハ八十人ヲ以テ定員トス

第七條　司法省ニ技手二人ヲ置ク

附　則

第八條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第一款　裁判所

法律　明治二十三年二月八日第六號　朕裁判所構成法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此ノ法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス（全文ハ第三類裁判所構成法ニ出ツ）

第二十一章　文部省

勅令　明治二十六年十月三日第百四十四號　朕文部省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省官制

第一條　文部大臣ハ教育學問ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノノ外左ノ事務ヲ掌ル

一　公立學校職員ノ進退身分ニ關スル事項

二　教員檢定ニ關スル事項

三　教科用圖書ニ關スル事項

四　教員退隠料及遺族扶助料ニ關スル事項

第三條　文部省專任參事官ハ五人專任書記官ハ二人ヲ以テ定員トス

文部省參事官ハ通則ニ掲クル職務ノ外學事ノ視察及學校檢閲ノ事ヲ掌ル

第四條　文部省ニ左ノ二局ヲ置ク

專門學務局

普通學務局

第五條　專門學務局長及普通學務局長ハ勅任トス

第六條　專門學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　大學校及高等專門學校ニ關スル事項

二　中學校ニ關スル事項

三　專門學校及技藝學校ニ關スル事項

四　以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項

五　東京圖書館、天文臺等ニ關スル事項

六　學位及之ニ類スル稱號ニ關スル事項

七　學術技藝ノ保護奬勵ニ關スル事項

八　學士會院ニ關スル事項

第七條　普通學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　師範學校ニ關スル事項

二　小學校ニ關スル事項

三　高等女學校ニ關スル事項

四　幼稚園及育嬰學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校ニ關スル事項

五　圖書館、教育博物館及教育會ニ關スル事項

六　通俗教育ニ關スル事項

七　學齢兒童ノ就學ニ關スル事項

八　郡視學及市町村學務委員ニ關スル事項

第八條　文部省ニ技師二人ヲ置ク學校建築ニ關スル事ヲ掌ル

第九條　文部省屬ハ八十人ヲ以テ定員トス

附　則

第十條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

勅令　明治二十六年八月十日第八十三號　朕帝國大學官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國大學官制

第一條　帝國大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

總長

書記官

書記

第二條　總長ハ一人勅任トス文部大臣ノ監督ヲ承ケ帝國大學令ノ規定ニ依リ帝國大學一般ノ事ヲ掌リ所屬職員ヲ統督ス

總長ハ高等官ノ進退ニ關シテハ文部大臣ニ具狀シ判任官ニ關シテハ之ヲ專行ス

第三條　書記官ハ專任一人奏任トス總長ノ命ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理ス

第四條　書記ハ判任トス庶務會計ニ從事ス

帝國大學及分科大學書記ハ通計五十二人ヲ以テ定員トス

第五條　第一條職員ノ外帝國大學ニ舍監四人ヲ置キ教授助教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

舍監ハ總長ノ命ヲ承ケ寄宿生ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第六條　各分科大學ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

教授

助教授

助手

書記

第七條　教授ハ奏任又ハ勅任トス各分科大學ニ置ク所ノ講座ヲ擔任シ學生ヲ教授シ其ノ研究ヲ指導ス

教授ニシテ分科大學長及醫科大學醫院長ニ補セラレタル者ハ講座ヲ擔任セサルコトアルヘシ

專任教授ハ七十五人ヲ以テ定員トシ其ノ勅任トナス者ハ十二人以内トス

第八條　助教授ハ奏任トス教授ヲ助ケテ授業及實驗ニ從事ス

專任助教授ハ三十五人ヲ以テ定員トス

第九條　助手ハ判任トス教官ノ指揮ヲ承ケ學術技藝ニ關スル職務ニ服ス

助手ハ八十人ヲ以テ定員トス

第十條　第六條職員ノ外各分科大學ニ學長一人ヲ置キ其ノ分科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

分科大學長ハ帝國大學令ノ規定ニ依リ帝國大學總長監督ノ下ニ於テ各其ノ分科大學ノ事ヲ掌ル

第十一條　醫科大學附屬醫院ニ醫院長ヲ置キ醫科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

醫院長ハ帝國大學總長監督ノ下ニ於テ醫院ノ事務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第十二條　理科大學附屬東京天文臺ニ天文臺長ヲ置キ理科大學教授ヨリ文部大臣之ヲ補ス

天文臺長ハ帝國大學總長監督ノ下ニ於テ東京天文臺ノ事ヲ掌理ス

第十三條　本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

第二款　直轄諸學校

勅令　明治二十六年八月二十四日第八十六號　朕文部省直轄諸學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省直轄諸學校官制

第一條　文部省直轄諸學校ハ高等師範學校女子高等師範學校高等商業學校第一高等中學校第二高等中學校第三高等中學校第四高等中學校第五高等中學校東京工業學校東京美術學校及東京盲啞學校トス

諸學校通則第一條ニ依リ文部大臣ノ管理ニ屬スル高等中學校ハ山口高等中學校及廣兒島高等中學遊士館トシ總テ此ノ官制ノ規定ニ依ラシム

第二條　高等師範學校ニ附屬尋常中學校及附屬小學校ヲ置キ附屬音樂學校及東京教育博物館ヲ附設ス

第三條　女子高等師範學校ニ附屬高等女學校附屬小學校及附屬幼稚園ヲ置ク

第四條　東京工業學校ニ附屬職工徒弟學校ヲ置ク

第五條　文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教授

助教授

書記

第六條　校長ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ管理シ所屬職員ヲ監督ス

第七條　教授ハ奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル
助教授ハ判任トス教授ノ職務ヲ助ク
第八條　書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス
第九條　高等師範學校及女子高等師範學校ニ舍監ヲ置ク他ノ學校ニ於テ舍監ヲ置クノ必要アルトキハ教官ヨリ兼任セシム
舍監ハ奏任トス校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル
第十條　高等師範學校及女子高等師範學校ニ第五條及第九條職員ノ外左ノ職員ヲ置ク
教諭
助教諭
訓導
第十一條　教諭ハ奏任トス附屬尋常中學校及附屬高等女學校ノ生徒ヲ教授シ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス
助教諭ハ判任トス教諭ノ職務ヲ助ク
第十二條　訓導ハ判任トス附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌リ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス
第十三條　女子高等師範學校保姆ヲ置ク判任トス
附屬幼稚園幼兒ノ保育ヲ掌ル
第十四條　東京盲啞學校ニ教授助教授ヲ置カス訓導ヲ置ク判任トス生徒ノ授業ヲ掌ル
第十五條　專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得
第十六條　文部大臣ハ高等師範學校女子高等師範學校高等中學校及東京工業學校教官ノ中ヨリ各其ノ附屬學校主事東京教育博物館主事附屬幼稚園主事專門學部主事ヲ命シ其ノ事務ヲ掌ラシムルコトヲ得
第十七條　文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス
附　則
第十八條　本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

勅令

明治二十六年十一月十日第二百八號朕札幌農學校ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　札幌農學校ハ文部省直轄學校トス
第二條　文部大臣ハ便宜北海道廳長官ニ委任シテ札幌農學校ヲ監督セシムルコトヲ得
第三條　札幌農學校職員ノ定員ハ左ノ如シ但兼任ハ此ノ限ニアラス
校長　一人
教授　六人
助教授　十人
書記　六人
附　則
第四條　本令ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス
第五條　明治二十四年勅令第百四十二號、同年勅令第百四十三號及明治二十六年勅令第九十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

勅令

明治二十七年三月朕明治二十六年勅令第二百八號施行延期ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十六年勅令第二百八號（札幌農學校ノ件）ノ施行ハ明治二十八年四月一日マテ延期ス

第三欵　東京圖書館

勅令

明治二十四年七月二十四日第百三十八號朕東京圖書館官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京圖書館官制

第一條　東京圖書館ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ內外古今ノ圖書記錄ヲ蒐集保存シ及衆庶ノ閱覽參考ノ用ニ供スル所トス
第二條　東京圖書館ニ左ノ職員ヲ置ク
館長　一人　奏任
司書　七人　判任
書記　二人　判任
第三條　館長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ館務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス
第四條　司書ハ館長ノ命ヲ承ケ圖書ニ關スル事務ヲ掌ル
第五條　書記ハ館長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス
（削除）
第六條　文部大臣ハ館務上ノ須要ニ依リ東京圖書館ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其委員ハ文部大臣之ヲ命ス
附　則
第七條　本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

第四欵　震災豫防調査會

勅令

明治二十五年六月二日朕震災豫防調査會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

震災豫防調査會官制

第一條　震災豫防調査會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ震災豫防ニ關スル事項ヲ攻究シ其施行方法ヲ審議ス
第二條　震災豫防調査會ハ事務ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得
第三條　震災豫防調査會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス
一　會長　一人
二　幹事　一人
三　委員　二十五人
第四條　會長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ委員ハ理學及工學專門ノ者ヨリ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス
幹事ハ委員ノ內ヨリ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス
第五條　調査上必要アルトキハ震災豫防調査會ニ臨時委員ヲ置クコトヲ得
臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス
第六條　會長ハ震災豫防調査ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス
第七條　幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス
第八條　震災豫防調査會ノ職員ニハ一箇年三百圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得
但特別ノ調査ヲ擔任シ勤勞著シキ者アルトキハ本條制限以外ノ手當ヲ給スルコトヲ得
第九條　震災豫防調査會ニ書記ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承ケ議事ノ筆記及庶務ニ從事ス
書記ハ定員二人トシ文部屬ヲ以テ之ニ充ツ
第十條　調査上必要アルトキハ會長ハ臨時屬員ヲ使用スルコトヲ得

第五欵　學士會院

勅令

明治二十三年十月二十四日第二百六十四號朕東京學士會院規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京學士會院規程

第一條　東京學士會院ハ學藝ノ品位ヲ高クシ以テ教化ノ裨補ヲ謀ランカ爲ニ設クル所ニシテ文部大臣ノ管轄ニ屬ス
第二條　東京學士會院ハ書德碩學ノ中ヨリ選出セラレタル會員ヲ以テ組織ス其選出ノ方法及人員左ノ如シ
一　帝室ノ特選ニ依ル會員十五名
一　會員ノ推選ニ依ル會員二十五名
會員ノ推選ニ依ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經ルヲ要ス
會員ハ終身トス
第三條　東京學士會院會員ハ各自專攻ノ學科ニ就キ論載ヲ述ヘ又學藝及教化ニ關スル事項ニ就キ報告スルモノトス
第四條・東京學士會院ハ學藝及教化ニ關スル事項ニ就キ文部大臣ヨリ諮問アルトキハ審議復申スルモノトス又會員各自意見アルトキハ會院ニ於テ審議シ文部大臣ニ開陳スルコトヲ得
第五條　東京學士會院會員滿六十歲以上ノ者十名以內ヲ限リ特ニ各年金三百圓ヲ賜フコトアルヘシ
第六條　東京學士會院ニ會長一人幹事二人ヲ置ク」
會長幹事ハ會員ノ互選ヲ以テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム其任期ハ各一年トス但再選セラルルコトヲ得
第七條　會長ハ文部大臣ノ監督ヲ受ケ院務ヲ統理シ議事アルトキハ議長ノ任ニ當ルモノトス會長事故アルトキハ幹事ノ內一人ヲ指定シテ其職務ヲ代理セシム
幹事ハ會長ヲ補佐シテ院務ヲ掌理ス
第八條　（削除）
第九條　東京學士會院ニ書記二人ヲ置キ文部屬ヲ以テ之ニ兼補ス書記ハ會長及幹事ニ屬シテ庶務ニ從事ス
第十條　東京學士會院ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ會則ヲ設クルコトヲ得

第二十二章　農商務省

勅令

明治二十六年十月三十日第百四十六號朕農商務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農商務省官制

第一條　農商務大臣ハ農、商、工、水産、林野、鑛山、發明、意匠、商標及地質ニ關スル事務ヲ管理ス
第二條　大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノノ外內外博覽會及褒賞ニ關スル事務ヲ掌ル
第三條　農商務省專任參事官、專任書記官ハ各二人ヲ以テ定員トス
第四條　農商務省ニ左ノ局所ヲ置ク
農務局
商工局
山林局
鑛山局
特許局
地質調査所
第五條　農務局長、商工局長及山林局長ハ勅任トシ鑛山局長、特許局長及地質調査所長ハ奏任トス

地質調査所長ハ局長又ハ技師ヲシテ之ヲ兼子シム

第六條　農務局ニ於テハ農事、蠶絲、獸畜、畜産、家畜衛生、狩獵及水産ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條　商工局ニ於テハ商、工、度量衡及商事會社ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條　山林局ニ於テハ官有森林原野及民有森林ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條　鑛山局ニ於テハ鑛業ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條　特許局ニ於テハ發明、意匠及商標ニ關スル事務ヲ掌ル

特許局ニ圖書館ヲ置キ審判及審査ニ關スル圖書、見本及雛形ヲ保管セシム

第十一條　地質調査所ニ於テハ地質、土性、地形及分析ニ關スル事務ヲ掌ル

第十二條　特許局ニ專任審判官一人專任審査官五人審査官補十人ヲ置ク

審判官ハ奏判ノ事ヲ掌ル

審査官ハ奏任トス審査ノ事ヲ掌ル

審査官補ハ判任トス審査ノ事務ヲ助ク

第十三條　農商務省ニ專任技師三十人專任技手五十五人ヲ置ク

第十四條　農商務省局ハ百六十五人ヲ以テ定員トス

附則

第十五條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第一款　大小林區署

勅令　明治二十六年十月三十日第百四十七號　朕大小林區署官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大小林區署官制

第一條　大林區署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　官林ノ植業ニ關スル事項

二　官林ノ產物賣拂ニ關スル事項

三　官林ノ境界調査及分合ニ關スル事項

四　官林ノ賣拂及貸渡ニ關スル事項

五　小林區署業務監督ニ關スル事項

第二條　大林區署ニ左ノ職員ヲ置ク

林務官

林務官補

書記

第三條　各大林區署長ハ一人林務官ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條　林務官ハ奏任トシ各大林區署ヲ通シテ二十八人ヲ以テ定員トス大林區署ニ分屬シ署務ニ從事ス

第五條　林務官補ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ七十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス

第六條　書記ハ判任トシ各大林區署ヲ通シテ九十六人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　小林區署ハ大林區署ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　官林ノ保護ニ關スル事項

二　官林ノ植樹及土功ニ關スル事項

三　官林ノ產物採取及賣拂ニ關スル事項

四　官林ノ測量及製圖ニ關スル事項

第八條　小林區署ニ左ノ職員ヲ置ク

營林主事

營林主事補

森林監守

第九條　營林主事ハ判任トシ各小林區署ヲ通シテ三百八十七人ヲ以テ定員トス小林區署長トナリ上官ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ管理ス

第十條　營林主事補ハ判任トシ各小林區署ヲ通シテ六百八十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス

第十一條　森林監守ハ判任トシ各小林區署ヲ通シテ七百二十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ官林ノ保護ニ從事ス

第十二條　農商務大臣ハ事務ノ必要ニ依リ小林區署職員ヲ大林區署ニ臨時勤務セシムルコトヲ得

第十三條　大林區署ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

第十四條　小林區署ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

附則

第十五條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

大林區署名稱位置管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
青森大林區署	陸奥國青森	青森縣
秋田大林區署	羽後國秋田	秋田縣

第二款　鑛山監督署

勅令　明治二十六年十月三十日第百四十八號　朕鑛山監督署官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鑛山監督署官制

第一條　鑛山監督署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鑛山監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　鑛山監督署ニ左ノ職員ヲ置ク

鑛山監督官

技師

書記

技手

第三條　鑛山監督官ハ奏任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ四人ヲ以テ定員トス鑛山監督署長トナリ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ各鑛山監督署ヲ通シテ六人ヲ以テ定員トス各監督署ニ分屬シ署長ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス

第五條　書記ハ判任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ二十四人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ各鑛山監督署ヲ通シテ三十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス

第七條　鑛山監督署ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

附則

第八條　本令ハ明治二十六年十月十日ヨリ施行ス

鑛山監督署名稱位置管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
東京鑛山監督署	武藏國東京	東京府福島縣宮城縣新潟縣埼玉縣茨城縣群馬縣栃木縣千葉縣山梨縣長野縣
秋田鑛山監督署	羽後國秋田	秋田縣山形縣岩手縣青森縣
大阪鑛山監督署	攝津國大阪	大阪府兵庫縣奈良縣和歌山縣京都府滋賀縣三重縣岐阜縣愛知縣石川縣福井縣富山縣新潟縣
福岡鑛山監督署	筑前國福岡	福岡縣佐賀縣長崎縣大分縣熊本縣宮崎縣鹿兒島縣沖繩縣

第三款　農事試驗場

勅令　明治二十六年四月七日第十八號　朕農事試驗場官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

農事試驗場官制

第一條　農事試驗場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　農產ノ增殖及其ニ關スル試驗

二　巡回講話

三　土質、種子、肥料、飼料等ノ分析鑑定

第二條　農事試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク

技師

技手

書記

第三條　場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ掌ル專任技師ハ二十人ヲ以テ定員トス

第五條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ニ從事ス專任技手ハ七人ヲ以テ定員トス

第六條　書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス專任書記ハ八人ヲ以テ定員トス

第七條　農商務大臣ハ必要ト認ムル地ニ農事試驗支場ヲ置キ農事試驗場職員ヲ派シ本場ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第八條　農事試驗場及支場ノ名稱位置及管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

農商務省告示

明治二十六年七月十九日第八號

農事試驗場本支場ノ管轄區域左ノ通定ム

本場管轄區域（東京府　千葉縣　神奈川縣　茨城縣　栃木縣　埼玉縣　群馬縣　愛知縣　山梨縣　岐阜縣　長野縣　靜岡縣）

宮城支場管轄區域（山形縣　宮城縣　福島縣　秋田縣　岩手縣　北海道　青森縣）

石川支場管轄區域（新潟縣　富山縣）

大阪支場管轄區域（京都府　兵庫縣　奈良縣　和歌山縣　三重縣）

農事試驗場大阪支場

農事試驗場宮城支場

農事試驗場石川支場

農事試驗場廣島支場

農事試驗場熊本支場

廣島支場管轄區域（島根縣　岡山縣　廣島縣　山口縣）

德島支場管轄區域（德島縣　香川縣　愛媛縣　高知縣）

熊本支場管轄區域（長崎縣　福岡縣　大分縣　佐賀縣　熊本縣　宮崎縣　鹿兒島縣　沖繩縣）

農商務省告示

明治二十六年十月三十一日第十五號

農事試驗場大阪支場外五支場ノ事務自今左ノ場所ニ於テ之ヲ取扱フ

農事試驗場大阪支場　大阪府志紀郡柏原村大字市村

農事試驗場宮城支場　宮城縣名取郡茂ヶ崎村大字長町

石川縣石川郡松任町大字八ッ矢町

廣島縣田沼郡祇園村大字北下安

德島縣名東郡加茂名村大字東名東

熊本縣託麻郡出水村大字黒髮

第四款　水産調査所

明治二十六年四月十一日第二十一號

朕水産調査所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水産調査所官制

第一條　水産調査所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一　水産動植物ノ調査

二　漁具漁船及漁法ノ調査

三　漁場ノ調査

四　水産物ノ繁殖製造及漁撈ノ試驗

五　製鹽ノ調査及試驗

六　水産物販路ノ調査

七　漁業村落及統計ノ調査

八　水産ニ關スル慣行ノ調査

第二條　水産調査所ニ事務官一人ヲ置キ農商務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ

事務官ハ所中諸般ノ事務ヲ管理ス

第三條　農商務大臣ハ左ノ事項ヲ審議セシムル爲メ水産調査所ニ水産調査委員會ヲ設ク

一　水産ニ關スル調査及試驗ノ事項

二　調査及試驗ノ委託ニ關スル事項

三　調査費ノ用途

四　沿洋漁業ニ關スル事項

五　水産業保護ニ關スル事項

六　其他農商務大臣ノ諮詢スル事項

第四條　水産調査委員會ハ委員長一人委員十二人及臨時委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條　事務官委員長委員及臨時委員ハ官吏其他ニ就キ學識又ハ經驗アル者ノ中ヨリ選定シ農商務大臣ノ參請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第六條　委員會ハ水産ニ關スル意見ヲ農商務大臣ニ具申スルコトヲ得

第七條　農商務大臣ハ委員會ノ意見ヲ聞キ內外ノ學識經驗アル者又ハ學會若クハ會社組合等ニ委託シ水産ニ關スル事項ヲ調査シ若クハ試驗セシムルコトヲ得

第八條　農商務大臣ハ第四條及第七條ノ者ニ手當ヲ給與シ又ハ報酬スルコトヲ得

第九條　水産調査所ニ專任書記一人ヲ置ク

書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

勅令

明治二十六年四月四日第十七號

朕第四回內國勧業博覽會事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第四回內國勧業博覽會事務局官制

第一條　第四回內國勧業博覽會事務局ハ明治二十八年京都市ニ開設スヘキ博覽會ニ關スル一切ノ事務ヲ管理ス

本局ハ農商務省中ニ之ヲ置ク

第二條　第四回內國勧業博覽會事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁	一人
副總裁	一人
書記官長	一人
事務官長	二人

事務官	若干人
書記官	若干人
評議員	若干人
書記	若干人

第三條　總裁ハ皇族勅ニ依リ之ニ任ス副總裁ハ農商務大臣書記官總長ハ勅任官事務官長事務官ハ勅任又ハ奏任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記官及評議員ハ官吏其他ニ就キ學識又ハ經驗アル者ノ中ヨリ選定シテ之ニ充ツ

書記ハ官吏又ハ其他ノ者ヲ以テ之ニ充テ其判任官ニ非サル者ノ取扱ハ判任官ニ類ス

第四條　副總裁ハ事務ヲ分掌セシムル爲メ便宜課ヲ設ケ審査ヲ分掌セシムル爲メ部ヲ設ケ各課各部ニ其長ヲ置キ且審査部ニ審査幹事ヲ置クコトヲ得

第五條　課長ハ事務官ヲ以テ之ニ充テ部長審査幹事ハ審査官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條　副總裁ハ所部ノ官吏ヲ統督シ局務ヲ總判ス

第七條　審査總長以下職員ノ進退ハ總テ副總裁ノ請議ニ依リ內閣總理大臣奏請裁可ヲ經內閣ニ於テ之ヲ命ス但書記ハ副總裁之ヲ命ス

判任官又ハ傭員ヲ以テ書記ニ充ルトキハ副總裁其所屬長官ト協議ヲ經ヘシ

第八條　副總裁ハ本會ノ事務ニ關シ諸規則ヲ定メ及警視總監北海道廳長官府縣知事ニ指令又ハ訓令スルコトヲ得

第九條　副總裁ハ內外ノ學識經驗アル者ヲ選定シ學藝其他ノ要件ヲ諮問シ若クハ審議調査セシムルコトヲ得

第十條　副總裁ハ本會ノ經費豫算定額內ヲ以テ傭員ヲ使用シ又ハ第二條ノ職員及第九條ノ者ニ賞與シ又ハ報酬スルコトヲ得

第十一條　事務官長ハ副總裁ノ命ヲ承ケ一切ノ事務ヲ掌理ス

第十二條　事務官ハ副總裁又ハ事務官長ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十三條　審査總長ハ副總裁ノ命ヲ承ケ出品物ノ審査及之ニ關スル事務ヲ總理ス

第十四條　審査官ハ審査總長ノ命ヲ承ケ出品物ノ審査及之ニ關スル事務ヲ分掌ス

第十五條　評議員ハ副總裁ノ命ヲ承ケ重要ノ事項ヲ審議ス

第十六條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ各其庶務ニ從事ス

第二十三章　遞信省

勅令

明治二十六年十月三十日第百四十九號

朕遞信省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遞信省官制

第一條　遞信大臣ハ鐵道、郵便、電信、船舶、海員、航路、航路標識、郵便爲替及郵便貯金ニ關スル事務ヲ管理シ水陸運輸及電氣事業ヲ監督ス

第二條　遞信省勅任參事官ハ三人專任書記官ハ五人ヲ以テ定員トス

第三條　遞信省ニ左ノ三局ヲ置ク

鐵道局

通信局

管船局

第四條　鐵道局長、通信局長及管船局長ハ勅任トス

鐵道局長ハ鐵道技監ヲシテ之ヲ兼ネシム

第五條　鐵道局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　官設鐵道ノ敷設、保存及運輸ニ關スル事項

二　私設鐵道ノ許否及監督ニ關スル事項

三　官設鐵道ノ歲入、歲出、豫算、決算、出納及需用物品購買、保管及出納ニ關スル事項

第六條　遞信局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　郵便、小包郵便、郵便爲替及郵便貯金ニ關スル事項

二　電信、電話及其ノ附設保存ニ關スル事項

三　陸運及電氣事業ノ監督ニ關スル事項

第七條　管船局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　船舶、海員、航路標識及內外航路ニ關スル事項

二　水運及保護海事會社ノ監督ニ關スル事項

第八條　遞信省ニ鐵道技監二人ヲ置ク鐵道局ニ屬シ鐵道技術官ヲ指揮監督シ鐵道事業ヲ掌理ス

第九條　遞信省ニ鐵道事務官七人ヲ置ク專任トス鐵道局ニ屬シ其ノ事務ヲ分掌ス

第十條　遞信省ニ專任技師五人專任鐵道技師十八人ヲ置ク

第十一條　遞信省屬ハ二百六十四人ヲ以テ定員トス

第十二條　遞信省ニ鐵道書記四百三十三人ヲ置ク判任トス鐵道局ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ事務ニ從事ス

第十三條　遞信省技手ハ三十三人鐵道技手ハ百二十一人ヲ以テ定員トス

第十四條　遞信省ニ鐵道書記補二百七十人ヲ置ク判任トス鐵道局ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ鐵道書記ノ事務ヲ助ク

第十五條　遞信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ鐵道事務取扱ノ部所ヲ置キ鐵道局員ヲ分派スルコト

ヲ得

附　則

第十六條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

勅令

明治二十六年十月三十日第百五十號　臨時鐵道敷設及鐵道線路調査ノ事務ヲ掌理セシムル爲遞信省ニ左ノ職員ヲ置キ鐵道局ニ屬セシム

鐵道技師　一人
鐵道書記　十三人
鐵道技手　三十九人
鐵道書記補　五十三人
附　則　百二十一人

本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第一款　郵便爲替貯金管理所

勅令

明治二十四年七月二十四日第百四十八號　郵便爲替貯金管理所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便爲替貯金管理所官制

第一條　郵便爲替貯金管理所ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ郵便爲替資金郵便貯金ヲ管理シ及郵便爲替郵便貯金ノ檢査計算ニ關スル事務ヲ掌理スル所トス

第二條　郵便爲替貯金管理所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
書記
書記補

第三條　郵便爲替貯金管理所長ハ奏任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中ノ事務ヲ掌理ス

第四條　（削除）

第五條　書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記等記計算ノ事務ニ從事ス

第六條　書記補ハ判任トス書記ノ事務ヲ助ク

第七條　書記書記補ハ五百四十人ヲ以テ定員トス

第八條　遞信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ郵便爲替貯金管理支所ヲ設キ其ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

附　則

第九條　本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第百十三號郵便爲替貯金局官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第二款　航路標識管理所

勅令

明治二十六年十月三十日第百五十四號　航路標識管理所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

航路標識管理所官制

第一條　航路標識管理所ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ航路標識ノ工事及其ノ保守ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　航路標識管理所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
技師
書記
技手
看守

第三條　所長ハ一人奏任トス遞信省高等官ナシテ之ヲ兼子シム遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ四人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ所中ノ事務ヲ分掌ス

第五條　書記ハ判任トシ十八人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ二十人ヲ以テ定員トス所長ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ工事ニ從事ス

第七條　看守ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ航路標識ノ看守ニ從事ス其ノ定員ハ左ノ如シ

一等燈臺
二等燈臺　各三人
三等燈臺
四等燈臺
五等燈臺
六等燈臺
等外燈臺　各二人
燈船　二人
霧笛號　二人

遞信大臣ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ前項定員ノ外航路標識看守豫備員十五人以内ヲ置クコトヲ得

附　則

第八條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第三款　船舶司檢所

勅令

明治二十四年七月二十四日第百五十號　船舶司檢所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

船舶司檢所官制

第一條　船舶司檢所ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ海員水先人ノ試驗、審問、船舶ノ檢査、測度、新造船ノ工事監督ヲ掌ル所トス

第二條　船舶檢査所ハ東京大阪長崎函館其他遞信大臣必要ト認ムル地ニ之ヲ置ク

第三條　船舶司檢所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
司檢官
司檢官補
書記

第四條　所長ハ司檢官ヲ以テ之ニ充ツ遞信大臣ノ命ヲ承ケ所中全部ノ事務ヲ掌理ス

第五條　司檢官ハ奏任トシ專任十人ヲ以テ定員トス各船舶司檢所ニ分屬シ所長ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌シ若クハ管船局ノ課長ヲ兼子課務ヲ掌理ス

第六條　司檢官補ハ判任トシ十五人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第七條　書記ハ判任トシ專任八人ヲ以テ定員トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

附　則

第八條　本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

遞信省令明治二十四年八月三日第十一號　船舶司檢所ノ名稱位置左ノ通相定メ本月十六日ヨリ開始ス

東京船舶司檢所　武藏國東京市
大阪船舶司檢所　攝津國大阪市
長崎船舶司檢所　肥前國長崎市
函館船舶司檢所　渡島國函館市

第四款　電話交換局

勅令

明治二十四年七月二十四日第百五十二號　電話交換局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

電話交換局官制

第一條　電話交換局ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ電話交換ノ業務ヲ執行スル所トス

第二條　電話交換局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長
技師
書記
技手

第三條　局長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ四人ヲ以テ定員トス局長ノ指揮ヲ承ケ局中ノ事務ヲ分掌ス

第五條　書記ハ判任トシ十九人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　技手ハ專任十九人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ電話交換ノ工事ニ從事ス

第七條　電話交換局ノ名稱及位置ハ遞信大臣之ヲ定ム

第八條　遞信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ電話交換支局ヲ設置シ其ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

附　則

第九條　本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

第五款　商船學校

勅令

明治二十四年五月五日第四十五號　商船學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商船學校官制

第一條　商船學校ハ東京ニ置キ遞信大臣ノ管理ニ屬シ航海、運用、機械ノ學術及技藝ヲ教授スル所トス

第二條　大阪商船學校分校ヲ置キ簡易ノ學術及技藝ヲ教授ス

第三條　商船學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
幹事
教授
分校長
助教
書記

第四條　校長ハ一人奏任トス遞信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ校務ヲ掌理ス

第五條　幹事ハ一人教授之ヲ兼任ス校長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第六條　專任教授ハ五人奏任現任校長ノ次等以下トス校長ノ監督ヲ承ケ生徒ノ教授ヲ掌ル

第七條　分校長ハ各一人助教之ヲ兼任ス校長ノ指揮ヲ承ケ分校ノ事務ヲ掌理ス

第八條　助教ハ十三人判任トス校長又ハ分校長ノ監督ヲ承ケ教授ノ職掌ヲ佐ク

第九條　書記ハ六人判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第六款　郵便電信學校

勅令

明治二十四年七月二十四日第百五十四號　東京郵便電信學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京郵便電信學校官制

第一條　東京郵便電信學校ハ遞信大臣ノ管轄ニ屬シ郵便電信事業上須要ノ學術及技藝ヲ教授スル所トス

第二條　東京郵便電信學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長
幹事
教授
助教
書記

第三條　校長ハ一人遞信省高等官之ヲ兼任ス遞信大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理ス

第四條　幹事ハ一人教授之ヲ兼任ス校長ノ監督ヲ承ケ庶務會計ヲ掌理シ校長事故アルトキ其職務ヲ代理ス

第五條　教授ハ奏任トシ五人ヲ以テ定員トス校長ノ監督ヲ承ケ生徒ノ教授ヲ掌ル

第六條　助教ハ判任トシ八人ヲ以テ定員トス校長ノ監督ヲ承ケ教授ノ職掌ヲ助ク

第七條　書記ハ判任トシ六人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

附則

第八條　本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

第七款　郵便電信局

勅令　明治二十六年十月三日第百五十二號

朕郵便及電信局官制ヲ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便及電信局官制

第一條　郵便及電信局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便、電信ノ業務ヲ執行スルコトヲ掌ル

第二條　郵便及電信局ヲ分テ一等郵便電信局、二等郵便電信局、三等郵便電信局及三等郵便局トス

第三條　一等郵便電信局ニ於テハ管轄內ノ各郵便電信局、郵便局、電信局ヲ監督ス

遞信大臣ノ指定シタル一等郵便電信局ニ於テハ電信建築ノ事務ヲ兼掌ス

遞信大臣ハ二等郵便電信局、二等郵便局ヲシテ其ノ指定シタル區域內ノ三等郵便電信局、三等郵便局監督事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトアルヘシ

遞信大臣ハ必要ナリト認ムル地ニ郵便及電信ノ支局ヲ置キ郵便電信ノ業務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第四條　一等郵便電信局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長
郵便電信書記
電信建築技手
郵便電信書記補

電信建築ノ事務ヲ兼掌スル一等郵便電信局ニハ前項職員ノ外電信建築技師ヲ置ク

第五條　二等郵便電信局、二等郵便局、二等電信局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長
郵便電信書記
郵便電信書記補

第六條　三等郵便電信局、三等郵便局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

第七條　一等郵便電信局長ハ奏任トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス

第八條　電信建築技師ハ局長ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ掌理ス

第九條　二等郵便電信局長、二等郵便局長及二等電信局長ハ判任トシ郵便電信書記ヲシテ之ヲ兼ネシム所轄一等郵便電信局長ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第十條　三等郵便電信局長及三等郵便局長ハ判任トス上官ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第十一條　郵便電信書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ局務ニ從事ス

第十二條　電信建築技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第十三條　郵便電信書記補ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記ノ事務ヲ助ク

第十四條　一等郵便電信局長ハ各局ヲ通シテ十八人電信建築技師ハ七人ヲ以テ定員トス

第十五條　郵便電信書記ハ各局ヲ通シテ千八百四十五人ヲ以テ定員トス

第十六條　電信建築技手ハ各局ヲ通シテ百九十五人ヲ以テ定員トス

第十七條　郵便電信書記補ハ各局ヲ通シテ三千百十一人ヲ以テ定員トス

第十八條　一等郵便電信局ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

第十九條　二等郵便電信局、二等郵便局、二等電信局、三等郵便電信局、三等郵便局ノ名稱、位置及其ノ管轄區域ハ遞信大臣之ヲ定ム

附則

第二十條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

明治二十四年勅令第百五十一號郵便電信局官制ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

一等郵便電信局名稱位置管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
東京郵便電信局	武藏國東京	東京府埼玉縣千葉縣山梨縣
大阪郵便電信局	攝津國大阪	大阪府奈良縣和歌山縣
京都郵便電信局	山城國京都	京都府滋賀縣
横濱郵便電信局	武藏國横濱	神奈川縣靜岡縣
神戸郵便電信局	攝津國神戸	兵庫縣岡山縣鳥取縣
長崎郵便電信局	肥前國長崎	長崎縣佐賀縣
札幌郵便電信局	石狩國札幌	北海道
新潟郵便電信局	越後國新潟	新潟縣
名古屋郵便電信局	尾張國名古屋	愛知縣岐阜縣三重縣
熊本郵便電信局	肥後國熊本	熊本縣福岡縣大分縣
仙臺郵便電信局	陸前國仙臺	宮城縣福島縣山形縣
廣島郵便電信局	安藝國廣島	廣島縣島根縣山口縣
宇都宮郵便電信局	下野國宇都宮	栃木縣群馬縣茨城縣
長野郵便電信局	信濃國長野	長野縣
青森郵便電信局	陸奥國青森	青森縣岩手縣秋田縣
金澤郵便電信局	加賀國金澤	石川縣富山縣福井縣
多度津郵便電信局	讃岐國多度津	香川縣愛媛縣高知縣徳島縣
鹿兒島郵便電信局	薩摩國鹿兒島	鹿兒島縣宮崎縣沖縄縣

第八款　鐵道會議

勅令　明治二十五年六月二十日第五十一號

朕鐵道會議規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道會議規則

第一條　鐵道會議ハ遞信大臣ノ監督ニ屬シ其諮詢ニ應シ左ノ事項ヲ審議スルモノトス

一　鐵道敷設法第十五條ニ掲クル事項

二　新設鐵道ノ線路及設計並工費豫算

三　私設鐵道買收ノ方法順序

四　汽車發着ノ度數及運賃定率ニ關スル事項

五　技術上ノ規程ニ關スルモノヲ除ク外鐵道運輸規則及鐵道警察規則ニ關スル事項

六　其他遞信大臣ノ諮詢スル事項

第二條　鐵道會議ハ鐵道ニ關スル事項ニ付主任各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條　鐵道會議ハ事務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ遞信大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第四條　鐵道會議ハ議長一人議員二十人臨時議員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

遞信省及鐵道廳高等官四人陸軍省及參謀本部高等官二人大藏省海軍省農商務省內務省高等官各一人ハ議員中ニ加フヘキモノトス

第五條　議長ハ勅任官ヲ以テ之ニ充ツ

高等官ノ內ヨリ命スヘキ議員及臨時議員ハ所屬大臣ノ奏請ニ依リ其他ノ議員及臨時議員ハ遞信大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

議員ノ任期ハ三年トス但滿期ノ後再任セラルルコトヲ得

第六條　議長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ其決議ヲ遞信大臣及主任各省大臣ニ具申ス

第七條　議長事故アルトキハ其指名シタル議員ヲシテ事務ヲ代理セシム

第八條　鐵道會議ニ幹事一人ヲ置キ奏任官ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ議長ノ指揮ヲ受ケテ庶務ヲ整理ス

第九條　議長、議員、臨時議員及幹事ニハ一箇年五百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十條　鐵道會議ニ書記ヲ置ク議長幹事ノ指揮ヲ受ケ議事ノ筆記及庶務ニ從事ス

書記ハ逓信局又ハ鐵道廳ノ吏員ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條　書記ニハ一箇年二百圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第二十四章　會計檢査院

法律

明治二十二年五月九日第十五號勅令

會計檢査院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

會計檢査院法目錄

第一章　組織

第二章　職權

第三章　附則

會計檢査院法

第一章　組織

第一條　會計檢査院ハ天皇ニ直隷シ國務大臣ニ對シ特立ノ地位ヲ有ス

第二條　會計檢査院ハ院長一員部長三員檢査官十二員ヲ置キ之ヲ會計檢査官トシ別ニ書記官二員檢査官補二十四員及屬若干員ヲ置ク

第三條　院長ハ勅任トシ部長ハ勅任又ハ奏任トシ檢査官書記官及檢査官補ハ奏任トシ屬ハ判任トス

第四條　院長ハ院務ヲ總理シ部長ハ部務ヲ掌理ス院長事故アルトキハ上席ノ部長ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第五條　會計檢査院ニ三部ヲ設ケ各部部長一員檢査官四員ヲ以テ檢査ノ事務ヲ分掌ス

第六條　會計檢査官ハ勅令ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

會計檢査官ハ刑事裁判若ハ懲戒裁判ニ依ルニアラサレハ其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラルルコトナシ

會計檢査官ニ關ル懲戒ノ條規ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條　父子兄弟ハ同時ニ會計檢査官トナルコトヲ得ス

第八條　會計檢査官ハ他ノ官職ヲ兼テ及帝國議會又ハ地方議會ノ議員トナルコトヲ得ス

第九條　會計檢査院ノ議事ハ總會議又ハ部會議ヲ以テ決ス總會議ハ院長ヲ以テ議長トシ部會議ハ部長ヲ以テ議長トス

議事ハ多數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十條　左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ以テ議決ス

一　第十五條ニ依リ上奏ヲ爲シ又ハ天皇ノ下問ニ奉答スルトキ

二　第十四條ニ依リ報告書ヲ確定スルトキ

三　第十七條ニ依リ意見ヲ陳述スルトキ

四　檢査事務ノ規程計算證明ノ樣式及提出ノ期限ヲ定メ又ハ之ヲ改正スルトキ

五　其ノ他院長ニ於テ總會議ニ付スルノ必要アリト認メタルトキ

第十一條　計算檢査ノ判決ハ凡テ會議ニ於テス其ノ總會議ニ於テスルト部會議ニ於テスルトハ會計檢査院長ノ定ムル所ニ依ル

第二章　職權

第十二條　會計檢査院ハ官金ノ收支官有物及國債ニ關ル計算ヲ檢査確定シテ會計ヲ檢査ス

第十三條　會計檢査院ノ檢査ヲ要スルモノ左ノ如シ

一　總決算

二　各官廳及官立諸營造ノ收支及官有物ニ關ル決算

三　政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及公立私立諸營造ノ收支ニ關ル決算

四　法律勅令ニ依リ特ニ會計檢査院ノ檢査ニ屬セシムル決算

第十四條　會計檢査院ハ豫決第七十二條ニ依リ決算ヲ檢査確定スルト同時ニ左ノ諸項ニ付報告書ヲ作ルヘシ

一　總決算及各省決算報告書ノ金額ト各出納官吏ノ提出シタル計算書ノ金額ト符合スルヤ否ヤ

二　歳入ノ賦課徴收及出ノ使用官有物ノ得喪沿革議興及利用ハ各々其ノ豫算ノ規程又ハ法律勅令ニ適フコトナキヤ否ヤ

三　豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニシテ議會ノ承諾ヲ受ケサルモノナキヤ否ヤ

第十五條　會計檢査院ハ各年度ノ會計檢査ノ成績ヲ上奏シ其ノ成績ニ就テ法律又ハ行政上ノ改正ヲ必要トスヘキ事項アリト認ムルトキハ併セテ意見ヲ上奏スルコトヲ得

第十六條　會計檢査院ハ各官廳中一部ニ屬スル計算ノ檢査及責任解除ヲ其ノ部ニ委託スルコトヲ得但シ其ノ檢査ノ成績ハ該部ヲシテ之ヲ會計檢査院ニ報告セシムヘシ

前項ノ委託ニ拘フス會計檢査院ハ時宜ニ依リ其ノ所管ノ官廳ヲシテ計算書ヲ送付セシメ之カ檢査ヲ行フコトアルヘシ

第十三條第三項但書及公立私立諸營造ノ決算ニ就テモ亦本條ヲ適用スルコトヲ得

第十七條　金庫ノ出納及簿記上ニ關ル各省ノ命令ニ付會計檢査院ハ其ノ發布ノ前通知ヲ受ケ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

會計檢査院ハ收入及支出ニ關ル規則ヲ定メ及既定ノ規則ヲ改正スル各省ノ命令ニ付其ノ發布ノ前通知ヲ受ク

第十八條　會計檢査院ハ計算書及計算證明ノ樣式並ニ其ノ提出及排問ニ對スル答辯ノ期限ヲ定ム

第十九條　會計檢査院ハ各官廳ヲシテ檢査上必要ナル簿書及報告ヲ提出セシメ及主任官吏ノ辯明書ヲ求ムルコトヲ得

會計檢査院長ハ檢査上必要ト認ムルトキハ主任官吏ヲ派遣シ實地檢査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ本屬長官ニ通知シ該長官ハ主任官吏ヲシテ檢査ニ立會ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十條　會計檢査院ハ出納官吏ノ計算書及證憑書類ヲ檢査シ正當ナリト判決シタルトキハ該官ニ對シ認可狀ヲ付シ其ノ責任ヲ解除ス若必要ナル場合ニ於テハ之ヲ排問シ辯明又ハ正誤ヲ爲サシメ仍正當ナラスト判決シタルトキハ本屬長官ニ移牒シテ處分ヲ爲サシム

第二十一條　會計檢査院ノ判決ニ據リ辯償ノ責ヲ負フ者ハ天皇ノ恩赦ニ由ルノ外本屬長官之ヲ減免スルコトヲ得ス

第二十二條　出納官吏計算書及證憑書ノ提出ヲ怠リ又ハ樣式ヲ守ラサルトキハ會計檢査院ハ本屬長官ニ移牒シテ懲戒處分ヲ要求スルコトヲ得

第二十三條　政府ノ機密費ニ關ル計算ハ會計檢査院ニ於テ檢査ヲ行フ限ニ在ラス

第二十四條　會計檢査院ハ認可狀ヲ附スルノ後ト雖其ノ附シタル日ヨリ五箇年以内ニ於テハ出納官吏ヨリ之ヲ請求スルカ又ハ計算書ノ誤謬脱漏二重記載アルコトヲ發見シタルトキハ再審ヲ爲スコトヲ得但シ詐僞ノ證憑ヲ發見シタルトキハ五箇年後ト雖再審ヲ爲スコトヲ得

出納官吏ハ會計檢査院再審ノ判決ニ對シテ再審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章　附則

第二十五條　會計檢査院ノ事務章程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

勅令

明治二十二年九月二十四日第百六號

會計檢査院事務章程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計檢査院事務章程目錄

第一章　部課

第二章　會議

第三章　職員及權限

第四章　行務

會計檢査院事務章程

第一章　部課

第一條　會計檢査院ニ第一第二第三部ヲ設ケ各部ニ第一第二第三第四課ヲ設ク

各課ノ課長ハ檢査官ヲ以テ之ニ充ツ檢査官補及屬若干員ヲ分屬セシム

第二條　會計檢査院全般ニ關ル事務又ハ臨時ノ事務ヲ處理スル爲ニ特ニ委員若ハ分科ヲ設クルコトヲ得

第二章　會議

第三條　會計檢査院ノ會議ハ會計檢査官ヲ以テ組織ス

第四條　總會議ハ院長之ヲ開キ部會議ハ部長之ヲ開ク

第五條　總會議ハ現員會計檢査官三分ノ二以上部會議ハ半數以上出席スルニアラサレハ議事ノ効力ヲ有セス

出席會計檢査官前項ノ數ニ滿タサルトキハ檢査官補ヲ以テ補充スルコトヲ得

檢査官補ヲ以テ補充スルハ出席會計檢査官ノ數三分ノ一以内ニ限ル

第六條　總會議及部會議ハ課長ノ資閲ヲ經タル檢査官補ノ報告書若ハ會計檢査官ノ提出シタル文書ヲ以テ議案トス

第三章　職員及權限

第七條　院長ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ內閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條　院長ハ內閣總理大臣ヲ經テ所部官吏ノ級位級俸昇等及恩給ヲ上奏シ又ハ普通ノ成規ニ依リ增俸賞與ヲ行フ

第九條　檢査官ハ奏任四等以上トシ檢査官補ハ奏任四等以下トス

第十條　會計檢査官ノ外各官吏ノ懲戒ハ普通ノ規定ニ依ル

第十一條　左ノ事項ハ院長ノ職權ニ屬ス

第一　各部及各課管理ノ事務ヲ定ム

第二　職員ノ配置事務ノ分配及共同擔任ノ事ヲ命ス

第三　檢査官補ニ總會議出席ヲ命ス

第四　臨時書記官ニ擔命シテ檢査官補ノ事務ヲ行ハシム但議事ニ出席セシムルコトヲ得ス

第五　特ニ委員又ハ分科ヲ設ケ取調ヲ爲サシム

第六　委任以下ノ官吏ニ派出檢査ヲ命ス

第七　檢査ノ執行認可狀ノ交付ニ關ル細則ヲ定ム

第八　議事ニ關ル細則ヲ定ム

第九　會議ニ付スルヲ要セサル事件ヲ處分ス

第十　庶務及會計ニ關ル規程ヲ定ム

第十二條　院長ハ部ヨリ提出スル文書ニ付テ主意又ハ事實ノ變更ヲ必要トスルトキハ主管部長及課長ノ同意ヲ得ルヲ要ス若其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ總會議ニ付スヘシ

第十三條　院長ハ總會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ實行ヲ停止シ十四日以内ニ之ヲ再議ニ付スルコトヲ得

再議ノ議決ニ對シテハ復之ヲ停止スルコトヲ得ス

第十四條　總會議又ハ部會議ノ議決ニ成ル所ノ文書ニシテ其ノ主意又ハ事實ノ變更ニ屬セス其ノ條理ヲ明暢ナラシムル爲ニ文章ヲ修正スルニ止マルモノハ院長部長ヨリ之ヲ改ムルコトヲ得

第十五條　院長ハ部長ヨリ提出スル文書ニシテ其ノ總會議又ハ部會議ノ議決ニ由ラサル事件ニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條　院長ハ其ノ職權ニ屬スル事務ニ付總會議ノ意見ヲ諮問スルコトヲ得

第十七條　院長ハ檢査ノ續騐ヲ期スル爲ニ各部ヨリ提出スル計算書及證憑書ニ付其ノ一部ノ稽査ヲ行フヘシ

第十八條　左ノ事項ハ部長ノ職權ニ屬ス

第一　所管ノ課長ヨリ提出スル所ノ文書ヲ稽査シ又ハ之ヲ部會議ニ付シテ後院長ニ提出シ其ノ院長ニ提出スルヲ要セサルモノハ自ラ之ヲ處分ス

第二　檢査官補ニ部會議出席ヲ命ス

第三　部中檢査官以下主任ノ事務ヲ一時相互ニ幫助セシメ又ハ院長ノ認定ヲ經テ分擔事務終結期限ノ猶豫ヲ認許ス

第四　部中職員ノ行務ヲ監督シ院長ニ報告ス

第十九條　部長ハ課長ヨリ提出スル文書ニ付テ主意又ハ事實ノ變更ヲ必要トスルトキハ主任課長ノ同意ヲ得ルヲ要ス若シ其ノ同意ヲ得サルトキハ之ヲ部會議ニ付シ又ハ院長ノ許可ヲ得テ之ヲ總會議ニ提出スヘシ

第二十條　部長ハ部會議ノ議決ヲ不當ト認ムルトキハ其ノ實行ヲ停止シ院長ノ許可ヲ得テ十四日以内ニ總會議ニ提出スルコトヲ得

第二十一條　部會議ノ議決ニ成ル所ノ文書ニシテ其ノ主意又ハ事實ノ變更ニ屬セス其ノ條理ヲ明暢ナラシムル爲ニ文章ヲ修正スルニ止マルモノハ部長尊ヲ之ヲ改ムルコトヲ得

第二十二條　部長ハ課長ヨリ提出スル文書ニシテ其ノ部會議ノ議決ニ由ラサル事件ニ付再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十三條　部長疾病事故ニ由リ不在ナルトキハ院長ノ命ニヨリ他ノ部長之ヲ代理ス

第二十四條　課長ハ課務ヲ幹理ス

第二十五條　課長ハ課中檢査官補ノ調製スル文書ヲ查閲シ其ノ適當ヲ認シ又ハ意見ヲ付シテ部長ニ提出シ又ハ再調査ヲ爲サシムルコトヲ得

課長ハ課ヨリ提出スル文書ニ付其ノ本章程ニ於テ特ニ檢査官補ノ責任ニ屬スルモノノ外ハ院長及部長ニ對シテ其責ニ任ス

第二十六條　課長疾病事故ニ由リ不在ナルトキハ院長ノ命ニ依リ部中他ノ課長之ヲ代理ス

第二十七條　課長ハ其ノ擔當スル事務ノ範圍内ニ於テ會計檢査院法第十四條及第十五條ニ依リ院ヨリ提出スヘキ檢査報告書又ハ行務成績書ニ掲載スヘキ事項ト認ムルモノヲ摘記シ之ヲ部長ニ提出スヘシ

第二十八條　檢査官補ハ計算書證憑書ノ檢査報告ヲ爲シ審査書其ノ他文書ノ起草ヲ掌ル

檢査官補ハ各計算書ヲ對照シ及證憑書類ヲ檢査シ其ノ不當ノ件ハ遺漏ナク之ヲ摘出シタルコトヲ證明スヘシ

第二十九條　檢査官補ハ總會議又ハ部會議ニ於テ其ノ報告ノ事件ニ就キ説明ヲ爲ス

第三十條　檢査官補ハ院長若ハ部長ノ命ニ依リ檢査官ノ闕席ヲ補充スル爲ニ總會議又ハ部會議ニ出席シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

第三十一條　書記官ハ院長官房ノ事務其ノ他院中ノ庶務會計ヲ幹理ス

第三十二條　屬ハ各部課ニ屬シ調査ニ從事シ又ハ書記官ニ屬シ庶務會計ニ從事ス

第四章　行務

第三十三條　會計檢査院ハ行務年度ヲ定メ院長定ムル所ノ行務監督規程ニ據リ其ノ年度中ニ於テ執行スヘキ事務ノ程度及各員擔任ノ事項ヲ定ム

第三十四條　會計ノ檢査ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ執行ス

第一　命令官決算ノ檢定

第二　出納官吏計算ノ檢査判決

命令官決算ノ檢定ハ總決算各官決算報告書及其ノ證憑書ニ據リ之ヲ執行ス

出納官吏計算ノ檢査判決ハ各官吏ノ提出シタル

計算書及證憑書ニ據リ之ヲ執行ス

右ノ外會計檢査院法第十三條第三第四ニ關ル決算ノ檢査判決ハ其ノ主管者ヨリ提出シタル計算書及證憑書ニ據リ之ヲ執行ス

第三十五條　會計檢査官ハ父子兄弟ノ提出シタル計算書ヲ檢査シ及其ノ判決ニ與ルコトヲ得ス

第三十六條　會計檢査院ハ檢査ノ成績ニ依リ摘發シタル事項ニ付當該官吏ニ審理書ヲ發付シ答辯又ハ正誤セシム

第三十七條　會計檢査院ハ閲務大臣ニ對シ文書ヲ以テ質問ヲ爲シ又ハ注意ヲ要求スルコトヲ得ルモ審理書ヲ發スルコトヲ得ス

第三十八條　審理書ニハ左ノ事項ヲ掲ク

第一　不合規ノ件ニ對スル批評

第二　將來ノ措置ニ對スル注意

第三　不明瞭ノ件ニ對スル推問

第三十九條　會計檢査院ハ第一回ノ審理書ニ對スル答辯又ハ正誤ヲ以テ仍不充分ナリト認定シタルトキハ再三審理書ヲ發ス

檢査ノ後計算ヲ正當ナラスト認定シタルトキ命令官ニ對シテハ之ヲ本屬長官ニ通牒シ出納官吏ニ對シテハ判決書ヲ發ス

第四十條　出納官吏ニ認可狀又ハ判決書ヲ交付シタルトキハ會計檢査院ハ其ノ謄本ヲ以テ大藏大臣ニ通知スヘシ

第四十一條　判決書ヲ發シタルトキハ會計檢査院ハ速ニ本屬長官ニ移牒シテ其ノ處分ヲ要求スヘシ

第四十二條　會計檢査院前項ノ要求ニ對スル本屬長官ノ處分ヲ以テ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ由ヲ行務成績書ニ載セ上奏スヘシ

第四十三條　會計檢査院法第二十四條ニ依リ再審ニ關ル出納官吏ノ請求ヲ受理スルハ左ノ場合ニ限ル

第一　計算又ハ事實ニ錯誤アリトスルトキ

第二　脫漏又ハ二重記載アリトスルトキ

第三　新ニ證憑書ヲ發見シタルトキ

第四　正當ナリサル證憑書ニ據リ判決シタリトスルトキ

第五　判決ヲ以テ法律命令ニ違反セリトスルトキ

第四十四條　再審ノ場合ニ於テハ前ニ條件ノ檢査ヲ擔當セサリシ他ノ部ニ移シテ審査セシムヘシ

第四十五條　會計檢査院ハ檢査上參考ノ爲ニ各地方官廳ヲシテ其ノ地ノ物價ヲ定期若ハ臨時ニ報告セシムルコトヲ得

第二十五章　行政裁判所

法律

明治二十三年六月二日　勅行政裁判法ヲ鑑可シ茲ニ之ヲ公布セシム（全文ハ第一類行政裁判ニ出ツ）

勅令

明治二十三年八月二日　勅行政裁判所處務規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　行政訴訟各事件ノ掛評定官ハ行政裁判所長官ノ指定ニ依ル

第二條　行政裁判法第八條ニ依リ評定官ヲシテ裁判長タラシムルトキハ同法第七條第二項ノ順序ニ從ヒ之ヲ命スヘキモノトス

第三條　裁判長ハ一事件毎ニ審判準備ノ爲メ掛評定官中ノ一名若ハ二名ニ單理員ヲ指命スルコトヲ得

第四條　裁判長行政裁判法第三十八條第二項ノ場合ニ於テ好問ヲ官廳ニ渡シタルトキハ書記ヲシテ訴訟ノ記錄ニ之ヲ記入セシム

第五條　毎年七月十一日ヨリ九月十日マテノ間ハ行政裁判所ニ於テ緊急ノ事項ト認ムルモノヽ外既ニ著手シタル訴訟ヲ中止シ並ニ新ナル訴訟ニ著手セス

第六條　行政裁判所ノ總會議ハ評定官總員三分ノ二以上列席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　總會議ノ議事ハ長官之ヲ整理ス若シ長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス

第八條　行政裁判所ハ訴訟ノ呼出狀及其他ノ書類ヲ使丁若ハ郵便ヲ以テ送達シ又ハ通常裁判所ニ囑託シテ送達セシムルコトヲ得

第九條　行政裁判所ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ其職權ニ屬スル事件ニ付告示ヲ發スルコトヲ得

第十條　行政裁判所長官ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ事務取扱ノ順序方法ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

書記ノ職務ニ關スル規程ハ行政裁判所之ヲ定ム

勅令

明治二十三年六月二日　勅行政裁判所評定官ノ員數並書記ノ員數及職務ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　行政裁判所評定官ノ定員ハ十一人トス

行政裁判所所書記ノ定員ハ十五人トス

第二條　行政裁判所書記ハ行政裁判法其他法律勅令ニ於テ特定シタル事務ヲ取扱フ

第三條　行政裁判所書記ハ往復合計記錄其他庶務ニ從事ス

第四條　行政裁判所書記ハ行政裁判所長官ノ命令ニ從フ

審判ニ關シテハ裁判長ノ命令ニ從フ

第二十六章　警視廳

勅令　明治二十六年十月三十日第百五十九號　警視廳官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警視廳官制

第一條　警視總監

警視

技師

消防司令長

警察醫長

典獄

警部

警視補

技手

消防士

警察醫

監獄書記

看守長

消防機關士

第二條　警視總監ハ一人勅任トス

第三條　警視ハ二十六人消防司令長、警察醫長及典獄ハ各一人奏任トス

第四條　警部、警視補、消防士、警察醫、監獄書記、看守長及消防機關士ハ判任トス

警部、警視補、消防士、警察醫、監獄書記、看守長及消防機關士ハ通シテ四百二十人ト

シ其ノ各官ノ定員ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ警視總監之ヲ定ム

第五條　技師技手ハ警視廳ノ須要ニ依リ俸給豫算定額內ニ於テ之ヲ置クコトヲ得

第六條　警視總監ハ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ東京府下ノ警察消防及監獄ノ事務ヲ管理ス

第七條　警視總監ハ各省ノ主務ニ關スル警察事務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ高等警察事務ニ就テハ內閣總理大臣及內務大臣ノ指揮監督ヲ承ク

第八條　警視總監ハ東京府下ノ警察事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ管內一般又ハ其ノ一部ニ命令ヲ發スルコトヲ得

第九條　警視總監ハ其ノ主務ニ就テハ東京府下ノ郡長島司及町村長ヲ指揮監督ス

第十條　警視總監ハ所部ノ官吏ヲ監督シ奏任官ノ進退ハ內務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十一條　警視總監ハ所部ノ奏任官ノ懲戒ヲ內務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十二條　警視總監ハ廳中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十三條　警視總監事故アルトキハ第一部長其ノ職務ヲ代理ス

前項ノ場合ニ於テ第一部長事故アルトキハ內務大臣ニ於テ警視廳ノ高等官ノ一人ヲシテ警視總監ノ職務ヲ代理セシム

第十四條　警視廳ニ總監官房ヲ置ク

總監官房ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課

一　各部署成案ノ審査及副署ニ關スル事項

二　官吏ノ進退及身分ニ關スル事項

三　公文ノ編纂、保存、統計及書籍ノ管守ニ關スル事項

四　文書ノ往復及官印廳印ノ管守ニ關スル事項

五　他課及各部署ノ主務ニ屬セサル事項

第二課

一　經費豫算、決算及金錢出納ニ關スル事項

二　金錢物品出納ノ檢査ニ關スル事項

三　需用物品ノ調度及地所建物ニ關スル事項

四　官有及保管ノ金錢物品及不用品ニ關スル事項

第十五條　總監官房各課長ハ警視、課員ハ警視補ヲ以テ之ニ充ツ

課長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ其ノ課ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス課員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課ノ庶務ニ從事ス

第十六條　警視廳ニ左ノ部署ヲ置ク

第一部

第二部

第三部

第四部

消防署

監獄署

第十七條　第一部ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課

一　新聞紙雜誌及政治風俗ニ關スル出版物並政社集會ニ關スル事項

第二課

一　外國人ニ關スル事項

第十八條　第二部ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課

一　犯罪ノ捜査、刑餘人、無賴徒、變死傷者其ノ他公安ニ關スル事項

二　失踪者、癲癇者、不具子弟、棄兒、迷兒及戶口民籍ニ關スル事項

三　遺流失物埋藏物等ニ關スル事項

第二課

一　警衛ニ關スル事項

二　警察署警察分署派出所等ノ廢置及其ノ職員ノ配置ニ關スル事項

三　巡査召募及其ノ教習ニ關スル事項

第十九條　第三部ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課

一　營業及風俗警察並銃砲火藥刀劍等ニ關スル事項

第二課

一　交通警察並田野森林河海堤防取締及水火災豫防等ニ關スル事項

第二十條　第四部ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課

一　衛生警察ニ關スル事項

第二課

一　警察監獄ニ關スル醫務及分析等ニ關スル事項

第二十一條　第一部長、第二部長及第三部長ハ警視、第四部長ハ警察醫長ヲ以テ之ニ充ツ

部長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第一部、第二部及第三部ノ課長ハ警部又ハ警視、課員ハ警部、警視廳巡査又ハ警察醫、課員ハ警視

第四部ノ課長ハ警視廳巡査又ハ警察醫、課員ハ警視

第二十二條　部長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ其ノ部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第二部長ハ警察事務ニ付警察署長以下ヲ指揮スルコトヲ得

課長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課務ヲ處理シ課員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ庶務ニ從事ス

第二十三條　消防署ニ於テハ水火消防ニ關スル事項ヲ掌ル

第二十四條　警視總監ハ東京市內ニ消防分署ヲ配置ス

第二十五條　消防署長ハ消防司令長、署員ハ消防士、消防機關士ヲ以テ之ニ充ツ

消防署長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

消防分署長ハ消防士、分署員ハ消防士消防機關士ヲ以テ之ニ充ツ

第二十六條　消防署長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ其ノ署ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

消防分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ分署ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

消防士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ消防組ヲ指揮監督ス

消防機關士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ消防機關ノ運用ヲ掌ル

第二十七條　監獄署ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課

一　文書ノ授受、發送、保存及統計ニ關スル事項

二　在監人ノ出入、名簿、願訴、特赦、假出獄、給與品、差入品及所有貨物ニ關スル事項

三　作業工錢、器具材料及製品ニ關スル事項

四　第二課ノ主務ニ屬セサル事項

第二課

一　在監人ノ戒護、書信及接見ニ關スル事項

二　在監人ノ行狀及賞罰ニ關スル事項

第二十八條　警視總監ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ東京府下ニ監獄支署ヲ置クコトヲ得

第二十九條　監獄署長ハ典獄、第一課長及其ノ課員ハ監獄書記、第二課長及其ノ課員ハ看守長ヲ以テ之ニ充ツ

監獄署長事故アルトキハ警視總監ニ於テ警視廳官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

監獄支署長ハ監獄書記、支署員ハ監獄書記、看守長ヲ以テ之ニ充ツ

第三十條　監獄署長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ監獄ニ關スル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ニ關スル事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

課長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課務ヲ處理シ課員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス

看守長ハ前項職務ノ外看守ヲ指揮監督ス

第三十一條　東京府下ニ二十三警察署ヲ置ク其ノ管轄區域ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

東京府下ニ一水上警察署ヲ置ク

警視總監ハ警察署ノ下ニ幾官分署ヲ置クコトヲ得

第三十二條　警察署長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ
警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ
必要ノ場合ニ於テハ警部ヲ以テ分署長ニ充ツルコトヲ得
第三十三條　警察署長、警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署ノ事務ヲ管理シ部下ノ官吏ヲ監督ス
署員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署ノ事務ニ從事シ巡査ヲ指揮監督ス
第三十四條　警視廳職員ノ外監獄署ヲ置ク列任官ノ待遇トス

警察署管轄區域表

署名	管轄區域
麹町警察署	麹町區
神田警察署	神田區
日本橋警察署	日本橋區
京橋警察署	京橋區
芝警察署	芝區
麻布警察署	麻布區
赤坂警察署	赤坂區
四谷警察署	四谷區
牛込警察署	牛込區
小石川警察署	小石川區
本郷警察署	本郷區
下谷警察署	下谷區
浅草警察署	浅草區
本所警察署	本所區
深川警察署	深川區
品川警察署	荏原郡
新宿警察署	南豊島郡 東多摩郡
板橋警察署	北豊島郡ノ内 板橋町　下練馬村　中新井村　赤塚村　高田村　大泉村　志村　石神井村　練馬村　上練馬村　王子村　長崎村　巣鴨村　日暮里村　滝ノ川村　岩淵村
千住警察署	南足立郡 南葛飾郡ノ内 南綾瀬村　守島村　本田村　隅田村 北豊島郡ノ内 南千住町　三河島村　尾久村
小松川警察署	南葛飾郡ノ内 西葛西村　瑞穂村　小岩村　小松川村　平井村　大島村　鹿本村　砂村　新宿町　葛西村　江戸川村　篠崎村　一ノ江村　小松江村　水元村　奥戸村　柴又村　金町村
八王子警察署	南多摩郡
府中警察署	北多摩郡
青梅警察署	西多摩郡

第三十五條　巡査及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル
附則
第三十六條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

第二十七章　貴族院事務局

勅令　明治二十三年七月十日第百二十一號　貴族院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貴族院事務局官制

第一條　貴族院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長	一人
書記官　專任	六人
屬	十五人
守衛長	一人
守衛番長	三人

第二條　書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス
局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム
第三條　書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記錄筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス
第四條　書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス
第五條　屬ハ判任トス書記官長之ヲ定ムル所ニ依リ各其事務ニ從フ
第六條　守衛長ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ院中ノ取締ニ任ス
第七條　守衛番長ハ判任トス守衛長ヲ助ケ守衛ヲ指揮シ守衛長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第二十八章　衆議院事務局

勅令　明治二十三年七月十日第百二十二號　衆議院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

衆議院事務局官制

第一條　衆議院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長　專任	一人
書記官	六人
屬	十五人
守衛長	一人
守衛番長	三人

第二條　書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス
第三條　書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記錄筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス
第四條　書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス
第五條　屬ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ
第六條　守衛長ハ判任トス守衛番長以下ヲ部署シ院中ノ取締ニ任ス
第七條　守衛番長ハ判任トス守衛長ヲ助ケ守衛ヲ指揮シ守衛長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第二十九章　北海道廳

勅令　明治二十四年七月二十四日第百十一號　北海道廳官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道廳官制

第一條　北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク

長官	一人
書記官	三人
警部長	一人
財務長	一人
參事官	三人
技師	六人
典獄	一人
屬	十五人
技手	一人
警部	三人
監獄書記	一人
看守長	一人
監獄看守	三人

第二條　長官一人勅任トス
第三條　書記官二人警部長一人財務長一人參事官二人典獄一人奏任トス
第四條　屬警部監獄書記看守長監獄看守ハ判任トス
郡區書記ヲ通シテ五百五十七人ヲ以テ定員トス
前項各官ノ定員ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム
第五條　技師技手ハ道廳ノ須要ニ依リ判任官待遇定員內ニ於テ本年勅令第八十四號技術官俸給令ニ依リ之ヲ置クコトヲ得
第六條　長官ハ內務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ北海道ノ拓地殖民並部內ノ行政事務ヲ總理ス
第七條　長官ハ屯田兵ノ開墾授產ノ事ヲ監督シ並北海道鐵道ヲ管理ス
第八條　長官ハ北海道ノ事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍內ニ於テ管內一般又ハ其一部ニ區令ヲ發スルコトヲ得
第九條　（削除）
第十條　長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ

又ハ特護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ師團長旅團長及屯田兵司令官ニ移牒シ出兵ヲ請フコトヲ得

第十一條　長官ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ內務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十二條　長官ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ內務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十三條　〔削除〕

第十四條　長官ハ廳中及其所轄官廳ノ處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第十五條　北海道廳ニ長官官房ヲ置ク

第十六條　長官官房ニ書記若干名ヲ置ク屬ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條　長官官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　官吏ノ進退身分ニ關スル事項

二　文書ノ往復

三　官印廳印ノ管守

四　記錄編輯統計報告ニ關スル事項

五　外國人ニ關スル事項

第十八條　長官事故アルトキハ上席書記官其職務ヲ代理ス

第十九條　道廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲メニ左ノ三部一署ヲ置ク

內務部

一　學務衛生社寺ニ關スル事項

二　兵事戶籍賞賜恤及區町村費ニ關スル事項

三　農工商務ニ關スル事項

四　地理山林ニ關スル事項

五　水陸運輸ニ關スル事項

六　漁獵ニ關スル事項

七　河港堤防道路橋梁排水灌漑ニ關スル事項

八　官衙ノ建築修繕ニ關スル事項

九　他部ノ主掌ニ屬セサル事項

警察部

一　高等警察及行政警察ニ關スル事項

財務部

一　金錢物品ノ管理出納ニ關スル事項

二　豫算決算ニ關スル事項

三　租稅ノ賦課徵收ニ關スル事項

監獄署

一　道廳監獄ニ關スル事項

第二十條　書記官ハ內務部長、警察部長ハ警察部長、財務長ハ財務部長、典獄ハ監獄署長ト爲リ各長官ノ指揮ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第二十一條　參事官ハ長官ノ諮詢ニ應シ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル

參事官ハ長官ノ命ヲ承ケ內務部各課長トナリ又ハ臨時各部課ノ事務ヲ助クルコトアルヘシ

第二十二條　技師ハ長官又ハ部長ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十三條　各部署中便宜課ヲ設ケ各課ニ課長一人ヲ置キ部署長ノ指揮ヲ承ケ課務ヲ掌理ス

課長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ但技師ヲ以テ之ニ充ツルコトアルヘシ

第二十四條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十五條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十六條　警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察事務ヲ分掌シ部下ノ巡査ヲ指揮監督ス

第二十七條　監獄書記ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

典獄事故アルトキハ上席書記長官ノ命ヲ承ケ其職務ヲ代理ス

第二十八條　看守長ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ獄囚ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス

第二十九條　監獄醫ハ典獄ノ指揮ヲ承ケ獄囚ニ係ル醫務ニ從事ス

第三十條　〔削除〕

第三十一條　巡査及看守ニ關スル規定ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十二條　每郡若クハ數郡及區ニ警察署ヲ置キ各警察署ノ部內ニ警察分署ヲ配置ス

警察署長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充ツ警察分署長ハ戶長ヲ以テ之ニ充ツ但土地ノ情況ニ依リ特ニ警察署又ハ分署ヲ設置シ警部ヲ以テ其署長ニ充ツルコトヲ得

第三十三條　監獄支署若干ヲ置キ書記ヲ以テ其長ニ充ツ

第三十四條　各郡區職員ヲ置ク左ノ如シ

郡長

區長

郡書記

區書記

第三十五條　郡長ハ每郡若クハ數郡ニ一人、區長ハ每區ニ一人ヲ置ク但函館區長ハ書記官ノ內一人之ヲ兼任ス

第三十六條　郡長區長ハ奏任トス長官ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部內ニ執行シ部內ノ行政事務ヲ掌理ス

第三十七條　郡區書記ハ判任トス郡區長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十八條　地方官官制中警察官及郡長郡書記ニ

係ル條項ニシテ本令ニ抵觸セザルモノハ北海道廳警察官及郡區長並郡區書記ニモ之ヲ適用ス

附　則

第三十九條　本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

第一款　北海道集治監

勅令

明治二十四年七月二十四日第百八號

朕北海道集治監官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　北海道集治監ニ左ノ職員ヲ置ク

典獄

分監長

書記

看守長

監獄醫

第二條　典獄一人奏任トス北海道廳長官ノ指揮監督ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌理ス

第三條　典獄ハ所屬ノ官吏ヲ監督シ判任官以上ノ進退ハ北海道廳長官ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第四條　〔削除〕

第五條　〔削除〕

第六條　典獄ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所屬官吏ヲ懲戒ス其判任官以上ニ係ルモノハ北海道廳長官ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第七條　分監長四人奏任トス各分監ノ長トナリ典獄ノ指揮監督ヲ承ケ分監ノ事務ヲ掌理ス

本監及分監ノ廳設並其位置ハ內務大臣之ヲ定ム

第八條　典獄事故アルトキハ上席分監長北海道廳長官ノ命ヲ承ケ其事務ヲ代理ス

第九條　書記ハ判任トス本監及分監ニ分屬シ典獄又ハ分監長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條　看守長ハ判任トス本監及分監ニ分屬シ典獄又ハ分監長ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス

第十一條　監獄醫ハ判任トス本監及分監ニ分屬シ典獄又ハ分監長ノ命ヲ承ケ監獄ニ係ル醫務ニ從事ス

第十二條　書記看守長及監獄醫ハ通シテ百十二人ヲ以テ定員トス

第十三條　看守ニ係ル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ルル

第十四條　事務ノ分課並處務ノ規程ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第十五條　〔削除〕

附　則

第十六條　本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

內務省告示

明治二十四年七月三十日第三十五號

北海道集治監官制第七條第二項ニ據リ本監ヲ樺戶ニ置キ分監ヲ空知、釧路、網走ニ設置ス

第三十章　地方廳

勅令

明治二十六年十月三日第百六十二號

朕地方官官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方官官制

第一條　各府縣ニ左ノ職員ヲ置ク

知事

書記官

警部長

收稅長

參事官

技師

典獄

屬

技手

警部

收稅屬

監獄書記

看守長

第二條　知事ハ一人勅任トス

第三條　書記官、警部長、收稅長、參事官及典獄ハ各一人奏任トス

第四條　屬、警部、收稅屬、監獄書記及看守長ハ判任トシ各府縣ヲ通シテ左ノ人員ヲ以テ定員トス

屬、警部、監獄書記、看守長　六千九百七十人

收稅屬　三千七百五十人

右、警部、監獄書記及看守長ノ每府縣ノ定員ハ內務大臣之ヲ定メ其ノ各官ノ定員ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ知事之ヲ定ム

收稅屬ノ每府縣ノ定員ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五條　技師、技手ハ府縣ノ須要ニ依リ俸給豫算定額內ニ於テ之ヲ置クコトヲ得

第六條　知事ハ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部內ノ行政事務ヲ管理ス

第七條　知事ハ部內ノ行政事務ニ付其ノ職權若ク

ハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ府縣令ヲ發スルコトヲ得

第八條　知事ハ郡長又ハ島司ノ處分若クハ命令ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分若クハ命令ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第九條　知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲兵備ヲ要スルトキハ師團長又ハ旅團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第十條　知事ハ所部ノ官吏ヲ監督シ奏任官ノ功過ハ內務大臣若クハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第十一條　知事ハ所部ノ奏任官ノ懲戒ヲ內務大臣若クハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十二條　知事ハ廳中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十三條　知事事故アルトキハ書記官其ノ職務ヲ代理ス

前項ノ場合ニ於テ書記官事故アルトキハ內務大臣ニ於テ府縣高等官ノ一人ヲシテ知事ノ職務ヲ代理セシム

知事ハ府縣ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十四條　知事ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡長又ハ島司ニ委任スルコトヲ得

第十五條　各府縣ニ知事官房ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム

一　官吏ノ進退及身分ニ關スル事項

二　文書ノ往復ニ關スル事項

三　官印府縣印ノ管守ニ關スル事項

第十六條　各府縣ニ左ノ部署ヲ置ク

內務部
警察部
收稅部
監獄署

第十七條　內務部ニ四課ヲ置キ事務ヲ分掌セシム

內務大臣ノ認可ヲ經テ課ヲ增減スルコトヲ得

第一課

一　議員選擧及府縣會、郡會、市町村會其ノ他公共組合會等ノ會議ニ關スル事項

二　府縣稅、備荒儲蓄並郡市町村ノ經濟ニ關スル事項

三　右ノ外他課ノ主務ニ屬セサル事項

第二課

一　土木ニ關スル事項

二　官有地及土地收用ニ關スル事項

第三課

一　學務、農工商務、兵事、社寺及戶口民籍ニ關スル事項

東京府ニ於テハ右ノ外衛生ニ關スル事項

第四課

一　府縣費ノ會計ニ關スル事項

二　府縣稅及備荒儲蓄ノ收支出納ニ關スル事項

第十八條　警察部ニ於テハ高等警察、行政警察及衛生ノ事務ヲ掌ル

第十九條　收稅部ニ於テハ國稅ノ賦課、徵收並間接國稅犯則者處分及徵稅費ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十條　監獄署ニ於テハ監獄ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十一條　書記官ハ內務部長、警部長ハ警察部長、收稅長ハ收稅部長、典獄ハ監獄署長トナリ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第二十二條　內務部長事故アルトキハ知事ニ於テ府縣高等官ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第二十三條　參事官ハ知事ノ命ヲ承ケ企畫立案ヲ掌ル

參事官ハ知事ノ命ヲ受ケ內務部ノ課長トナリ又ハ臨時部課ノ事務ヲ助クルコトアルヘシ

第二十四條　警察部、收稅部及監獄署ニ分課ヲ設クルコトヲ要スルトキハ知事之ヲ定メ主務大臣ニ報告スヘシ

第二十五條　內務部各課長ハ廳ヲ以テ之ニ充ツ但技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

課長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課務ヲ處理ス

第二十六條　廳ハ內務部各課及知事官房ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十七條　警部ハ警察部又ハ警察署若クハ警察分署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌シ部下ノ巡査ヲ指揮監督ス

第二十八條　收稅廳ハ收稅部又ハ收稅署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十九條　監獄書記ハ監獄署又ハ監獄支署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十條　看守長ハ監獄署又ハ監獄支署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス

第三十一條　各郡市ニ警察署ヲ置ク但郡市ノ區域ニ依リソシテ警察署ヲ置クノ必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

知事ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ警察署ノ下ニ警察分署ヲ置クコトヲ得

沖繩縣ノ警察區域ハ郡ニ依ル

第三十二條　警察署長及警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

警察署長及警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第三十三條　巡査及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ム

第三十四條　府縣內須要ノ地ニ收稅署ヲ配置ス其ノ配置及管轄區域ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條　收稅署長ハ收稅屬ヲ以テ之ニ充ツ

收稅署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第三十六條　知事ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ須要ノ地ニ監獄支署ヲ置クコトヲ得

監獄支署長ハ監獄書記ヲ以テ之ニ充ツ

監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ支署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第三十七條　府縣職員ノ外監獄醫ヲ置ク判任官ノ待遇トス

第三十八條　東京府ノ警察及監獄ニ關スル事項ハ警視廳官制ニ依ル

第三十九條　郡職員ヲ置クコト左ノ如シ

郡長
郡書記

第四十條　明治十一年第十七號布告郡區町村編制法第五條ニ依リ數郡ニ郡長一人ヲ置キタル地方ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ要スルトキ及同條ニ依リ新ニ數郡ニ郡長一人ヲ置クコトヲ要スルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郡制ヲ施行シタル地方ニ於テハ每郡ニ郡長一人ヲ置ク

第四十一條　郡長ハ奏任トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部內ニ執行シ部內ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第四十二條　郡長ハ行政事務ニ就テ其ノ部內ノ町村長ヲ指揮監督ス

第四十三條　郡長ハ郡書記ノ任免ヲ知事ニ具申ス

第四十四條　郡長ハ法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付郡令ヲ發スルコトヲ得

第四十五條　郡長事故アルトキハ上席郡書記其ノ職務ヲ代理ス

第四十六條　郡長ハ郡ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第四十七條　郡書記ハ判任トス其ノ定員ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ知事之ヲ定ム

第四十八條　郡書記ハ郡長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十九條　勅令ヲ以テ指定スル所ノ島地ニ特ニ島廳ヲ置ク

第五十條　各島廳ニ左ノ職員ヲ置ク

島司
島廳書記

第五十一條　島司ハ一人奏任トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部內ニ執行シ部內ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第五十二條　島司ハ法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付島廳令ヲ發スルコトヲ得

第五十三條　島司ハ島廳書記ノ任免ヲ知事ニ具申スルコトヲ得

第五十四條　島司ハ行政事務ニ就テ其ノ部內町村ノ吏員ヲ指揮監督ス

第五十五條　島司事故アルトキハ上席島廳書記其ノ職務ヲ代理ス

第五十六條　島司ハ島廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第五十七條　島廳書記ハ判任トス其ノ定員ハ其ノ府縣判任官ノ定員內ニ於テ知事之ヲ定ム

第五十八條　島廳書記ハ島司ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

第五十九條　本令ハ明治二十六年十二月一日ヨリ施行ス

勅令

明治二十七年三月二十六日第三十一號

岡山縣管下ニ於テ數郡ニ郡長一人ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

岡山縣管下ニ於テ左ニ列記スル郡ニ郡長ヲ置ク左ノ如シ

一　赤坂郡及磐梨郡　郡長一人
一　都宇郡及和氣郡　郡長一人
一　川上郡及上房郡　郡長一人
一　阿哲郡及賀茂郡　郡長一人
一　真島郡及大庭郡　郡長一人
一　西西條郡、西北條郡、東南條郡及東北條郡　郡長一人
一　勝南郡及勝北郡　郡長一人
一　吉野郡及英田郡　郡長一人
一　久米北條郡及久米南條郡　郡長一人
一　邑久郡及上道郡　郡長一人

附則

本令ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

第一款　收稅署

勅令　明治二十六年十月三日勅令第百六十四號

其ノ管轄ノ區域ノ變更ハ之ヲ公布セシム

國稅官署ノ事務及其ノ管轄區域ニ關スル件ヲ稅務監督局長ニ委任シ之ヲ公布セシム

勅令　明治二十六年十月三日勅令第百六十五號

國稅官署ノ事務ハ自今收稅部ニ於テ之ヲ取扱ヒ國稅官署及國稅分署ノ事務ハ自今收稅部長收稅部長收稅部長之ヲ行フヘシ

附則

本令ハ明治二十六年十一月一日ヨリ施行ス

勅令　明治二十六年十月三日勅令第百六十四號

府縣收稅署ノ位置及其ノ管轄區域ノ變更ハ之ヲ公布セシム

附則

本令ハ明治二十六年十一月一日ヨリ施行ス

府縣收稅署位置及管轄區域表

府縣	位置	管轄區域
東京	芝	芝區、麻布區、赤坂區、伊豆七島、小笠原島
	四谷	麹町區、牛込區、四谷區、赤坂區
	麻布	小石川區、本郷區、神田區
	新大橋	日本橋區、深川區
	浅草	浅草區、下谷區、本所區
	品川	荏原郡
	淀橋	西多摩郡、北多摩郡
	板橋	北豐島郡
	千住	南足立郡
	小松川	南葛飾郡
	青梅	西多摩郡
	八王子	西多摩郡
	府中	北多摩郡
京都	京都	京都市、愛宕郡、葛野郡
	伏見	乙訓郡、紀伊郡、宇治郡、久世郡
	木津	相樂郡、綴喜郡
	亀岡	南桑田郡
	周山	北桑田郡
	園部	船井郡
	福知山	天田郡
	綾部	何鹿郡
	舞鶴	加佐郡
	宮津	與謝郡
	峯山	中郡、竹野郡、熊野郡
	船橋	南巨、北巨
	中ノ島	西區、北區
大阪	上福島	西成郡
	天王寺	東成郡、住吉郡
	池田	豐島郡、能勢郡
	佐太	島上郡、島下郡
	堺	堺市、大鳥郡、泉郡
	岸和田	南郡、日根郡
	富田林	丹北郡、上石川郡、安宿郡、錦部郡、古市郡、丹南郡、八上郡
	八尾	郡山、北郡、渋川郡、大縣郡、若江郡、河內郡、茨田郡、交野郡、讃良郡
	牧方	茨田郡、交野郡、讃良郡
神奈川	横濱	横濱市、久良岐郡
	神奈川	橘樹郡、都筑郡
	横須賀	三浦郡
	藤澤	高座郡、愛甲郡
東京	大宮	大住郡、淵邊郡
	松田	足柄上郡
	小田原	足柄下郡
	厚木	愛甲郡
	中野	津久井郡
千葉	浦賀	浦賀市、八郡
	西宮	葛飾郡、武郡
	伊井	川邊郡
	三田	布施郡
	明石	明石郡、美嚢郡
	武庫	加東郡、加西郡、多可郡
	加古川	加古郡、印南郡
	姫路	姫路市、飾東郡、飾西郡
	田原	神東郡、神西郡
	龍野	揖東郡、揖西郡
	赤穗	赤穗郡、佐用郡
	山崎	宍粟郡
	豐岡	城崎郡、美含郡、出石郡、朱多郡
	和田山	養父郡、朝來郡
	村岡	七美郡、二方郡
兵庫	柏原	氷上郡
	篠山	多紀郡
	洲本	津名郡
	市村	三原郡
長崎	長崎	長崎市、西彼杵郡
	大村	東彼杵郡
	諫早	北高來郡
	島原	南高來郡
	平戸	北松浦郡
	福江	南松浦郡
	武生水	壱岐郡、石田郡
	厳原	上縣郡、下縣郡
新潟	新潟	新潟市
	新發田	北蒲原郡
	新津	中蒲原郡
	巻	西蒲原郡
	三條	南蒲原郡
	出川	東蒲原郡
	與板	三島郡
	長岡	古志郡
埼玉	小千谷	北魚沼郡
	六日町	南魚沼郡
	十日町	中魚沼郡
	相崎	刈羽郡
	安塚	東頸城郡
	高田	中頸城郡
	糸魚川	西頸城郡
	村上	岩船郡
	相川	佐渡郡、加茂郡、羽茂郡
千葉	浦和	北足立郡、南埼郡
	川越	入間郡、高麗郡
	松山	比企郡、横見郡
	大宮	秩父郡
	本庄	兒玉郡、賀美郡、那珂郡
	熊谷	大里郡、榛澤郡、幡羅郡、男衾郡
	忍	北埼玉郡
	岩槻	南埼玉郡
	杉戸	北葛飾郡、中葛飾郡
千葉	千葉	千葉郡、市原郡
	松戸	東葛飾郡

濃	佐倉	印旛郡、南相馬郡、下埴生郡
	佐原	香取郡
	銚子	海上郡、匝瑳郡
	東金	山武郡、武射郡
	茂原	長柄郡、上埴生郡
	大多喜	夷隅郡
	木更津	望陀郡、周淮郡、天羽郡
	北條	安房郡、平郡、朝夷郡、長狭郡
茨城	水戸	水戸市、東茨城郡
	笠間	西茨城郡
	菅谷	那珂郡
	太田	久慈郡
	松原	多賀郡
	鉾田	鹿島郡
	麻生	行方郡
	土浦	新治郡
	谷田部	筑波郡
	江戸崎	信太郡、河内郡
	下館	真壁郡
	古河	結城郡、猿田郡、豊田郡
栃木	足利	足利郡、梁田郡
	佐野	安蘇郡
	栃木	下都賀郡
	鹿沼	上都賀郡
	宇都宮	河内郡
	黒岡	芳賀郡
	矢板	塩谷郡
	境	西茨城郡、猿島郡
	取手	北相馬郡
群馬	前橋	前橋市、東群馬郡、西勢多郡
	富岡	西群馬郡、片岡郡
	藤岡	甘楽郡、多胡郡、西甘楽郡
	館林	北甘楽郡
	安中	碓氷郡
	中之條	吾妻郡
	沼田	利根郡、北勢多郡
	太田	新田郡
	桐生	山田郡
	館林	邑楽郡
	伊勢崎	佐位郡、那波郡
埼玉	大宮	那賀郡
	熊谷	北埼玉郡
	浦和	南埼玉郡
	川越	南足立郡、北足立郡
	川口	南足立郡
	秩父	秩父郡
	飯能	入間郡
	小川	比企郡
	本庄	賀美郡
	熊谷	大里郡
	忍	埼玉郡
	羽生	北埼玉郡
	粕壁	南埼玉郡
	春日部	北足立郡
	大宮	那賀郡
千葉	佐倉	印旛郡、南相馬郡、下埴生郡
	佐原	香取郡
	銚子	海上郡、匝瑳郡
	東金	山武郡、武射郡
	茂原	長柄郡、上埴生郡
	大多喜	夷隅郡
	木更津	望陀郡、周淮郡、天羽郡
	北條	安房郡、平郡、朝夷郡、長狭郡
茨城	水戸	水戸市、東茨城郡
	笠間	西茨城郡
	菅谷	那珂郡
	太田	久慈郡
	松原	多賀郡
	鉾田	鹿島郡
	麻生	行方郡
	土浦	新治郡
	谷田部	筑波郡
	江戸崎	信太郡、河内郡
	下館	真壁郡
	古河	結城郡、猿田郡、豊田郡
栃木	足利	足利郡、梁田郡
	佐野	安蘇郡
	栃木	下都賀郡
	鹿沼	上都賀郡
	宇都宮	河内郡
	黒岡	芳賀郡
	矢板	塩谷郡
群馬	前橋	前橋市、東群馬郡、西勢多郡
	富岡	西群馬郡、片岡郡
	藤岡	甘楽郡、多胡郡、西甘楽郡
	館林	北甘楽郡
	安中	碓氷郡
	中之條	吾妻郡
	沼田	利根郡、北勢多郡
	太田	新田郡
	桐生	山田郡
	館林	邑楽郡
	伊勢崎	佐位郡、那波郡
埼玉	大宮	那賀郡
	熊谷	北埼玉郡
	浦和	南埼玉郡
	川越	南足立郡、北足立郡
	川口	南足立郡
	秩父	秩父郡
	飯能	入間郡
	小川	比企郡
	本庄	賀美郡
	熊谷	大里郡
	忍	埼玉郡
	羽生	北埼玉郡
	粕壁	南埼玉郡
	春日部	北足立郡
	大宮	那賀郡
千葉	佐倉	印旛郡、南相馬郡、下埴生郡
	佐原	香取郡
	銚子	海上郡、匝瑳郡
	東金	山武郡、武射郡
	茂原	長柄郡、上埴生郡
	大多喜	夷隅郡
	木更津	望陀郡、周淮郡、天羽郡
	北條	安房郡、平郡、朝夷郡、長狭郡
茨城	水戸	水戸市、東茨城郡
	笠間	西茨城郡
	菅谷	那珂郡
	太田	久慈郡
	松原	多賀郡
	鉾田	鹿島郡
	麻生	行方郡
	土浦	新治郡
	谷田部	筑波郡
	江戸崎	信太郡、河内郡
	下館	真壁郡
	古河	結城郡、猿田郡、豊田郡
栃木	足利	足利郡、梁田郡
	佐野	安蘇郡
	栃木	下都賀郡
	鹿沼	上都賀郡
	宇都宮	河内郡
	黒岡	芳賀郡
	矢板	塩谷郡
群馬	前橋	前橋市、東群馬郡、西勢多郡
	富岡	西群馬郡、片岡郡
	藤岡	甘楽郡、多胡郡、西甘楽郡
	館林	北甘楽郡
	安中	碓氷郡
	中之條	吾妻郡
	沼田	利根郡、北勢多郡
	太田	新田郡
	桐生	山田郡
	館林	邑楽郡
	伊勢崎	佐位郡、那波郡
埼玉	大宮	那賀郡
	熊谷	北埼玉郡
	浦和	南埼玉郡
	川越	南足立郡、北足立郡
	川口	南足立郡
	秩父	秩父郡
	飯能	入間郡
	小川	比企郡
	本庄	賀美郡
	熊谷	大里郡
	忍	埼玉郡
	羽生	北埼玉郡
	粕壁	南埼玉郡
	春日部	北足立郡
	大宮	那賀郡
茨城	大田原	那須郡
栃木	宇都宮	河内郡、上都賀郡、下都賀郡、山都賀郡、芳賀郡、塩谷郡
	足利	足利郡、梁田郡
	佐野	安蘇郡
	栃木	下都賀郡
	鹿沼	上都賀郡
	黒岡	芳賀郡
	矢板	塩谷郡
群馬	前橋	前橋市、東群馬郡、西勢多郡
	富岡	西群馬郡、片岡郡
	藤岡	甘楽郡、多胡郡、西甘楽郡
	館林	北甘楽郡
	安中	碓氷郡
	中之條	吾妻郡
	沼田	利根郡、北勢多郡
	太田	新田郡
	桐生	山田郡
	館林	邑楽郡
	伊勢崎	佐位郡、那波郡
埼玉	大宮	那賀郡
	熊谷	北埼玉郡
	浦和	南埼玉郡
	川越	南足立郡、北足立郡
	川口	南足立郡
	秩父	秩父郡
	飯能	入間郡
	小川	比企郡
	本庄	賀美郡
	熊谷	大里郡
	忍	埼玉郡
	羽生	北埼玉郡
	粕壁	南埼玉郡
	春日部	北足立郡
	大宮	那賀郡
千葉	佐倉	印旛郡、南相馬郡、下埴生郡
	佐原	香取郡
	銚子	海上郡、匝瑳郡
	東金	山武郡、武射郡
	茂原	長柄郡、上埴生郡
	大多喜	夷隅郡
	木更津	望陀郡、周淮郡、天羽郡
	北條	安房郡、平郡、朝夷郡、長狭郡
茨城	水戸	水戸市、東茨城郡
	笠間	西茨城郡
	菅谷	那珂郡
	太田	久慈郡
	松原	多賀郡
	鉾田	鹿島郡
	麻生	行方郡
	土浦	新治郡
	谷田部	筑波郡
	江戸崎	信太郡、河内郡
	下館	真壁郡
	古河	結城郡、猿田郡、豊田郡
栃木	足利	足利郡、梁田郡
	佐野	安蘇郡
	栃木	下都賀郡
	鹿沼	上都賀郡
	宇都宮	河内郡
	黒岡	芳賀郡
	矢板	塩谷郡
群馬	前橋	前橋市、東群馬郡、西勢多郡
	富岡	西群馬郡、片岡郡
	藤岡	甘楽郡、多胡郡、西甘楽郡
	館林	北甘楽郡
	安中	碓氷郡
	中之條	吾妻郡
	沼田	利根郡、北勢多郡
	太田	新田郡
	桐生	山田郡
	館林	邑楽郡
	伊勢崎	佐位郡、那波郡
埼玉	大宮	那賀郡
	熊谷	北埼玉郡
	浦和	南埼玉郡
	川越	南足立郡、北足立郡
	川口	南足立郡
	秩父	秩父郡
	飯能	入間郡
	小川	比企郡
	本庄	賀美郡
	熊谷	大里郡
	忍	埼玉郡
	羽生	北埼玉郡
	粕壁	南埼玉郡
	春日部	北足立郡
	大宮	那賀郡

愛知	名古屋	名古屋市
	熱田	愛知郡
	鳴川	東春日井郡
	枇杷島	西春日井郡
	小折	丹羽郡、葉栗郡
	稲澤	中島郡
	津島	海東郡、海西郡
	中田	知多郡
	知立	碧海郡
	西尾	幡豆郡
	岡崎	額田郡
	挙母	西加茂郡
	足助	東加茂郡
	田口	北設楽郡
	新城	南設楽郡
	御油	宝飯郡
	豊橋	渥美郡
	宮岡	八名郡
三島	下田	加茂郡、那賀郡
	三島	賀茂郡、田方郡
静岡	沼津	駿東郡
	吉原	富士郡
	江尻	庵原郡
	静岡	静岡市、有渡郡、安倍郡
	藤枝	志太郡、益津郡
	静波	榛原郡
	掛川	佐野郡、城東郡
	森	周智郡
	見付	磐田郡、豊田郡、山名郡
	浜松	敷知郡、長上郡、浜名郡
	気賀	引佐郡、麁玉郡
山梨	甲府	甲府市、西山梨郡
	日下部	東山梨郡
	石和	東八代郡
	鰍澤	南巨摩郡、西八代郡
	龍王	中巨摩郡
	韮崎	北巨摩郡
	谷村	南都留郡
	猿橋	北都留郡
大津	大津	滋賀郡
滋賀	長浜	東浅井郡
	水口	甲賀郡
	八幡	蒲生郡
	愛知川	神崎郡、愛知郡
	彦根	犬上郡
	長濱	坂田郡、東浅井郡
	木ノ本	伊香郡、西浅井郡
	今津	高島郡
岐阜	岐阜	郡部は岐阜市、厚川郡、各務郡、小鵜郡、山県郡
	笠松	羽島郡、中島郡
	尚須	海西郡、下石津郡
	高田	多賀郡、上石津郡
	大垣	安八郡、不破郡
	揖斐	大野郡、池田郡
	北方	本巣郡、席田郡
	上有知	武儀郡
	八幡	郡上郡
	大田	加茂郡
	御嵩	可兒郡
	土岐津	土岐郡

宮	宮城	仙臺市、宮城郡
	黑川	名取郡
	吉岡	黑川郡、加美郡
長野	飯山	下水內郡
	長野	上水內郡
	中野	下高井郡
	須坂	上高井郡
	鹽崎	埴科郡、更級郡
	大町	北安曇郡
	豐科	南安曇郡
	松本	東筑摩郡
	諏訪	西筑摩郡
	飯田	下伊那郡
	伊那	上伊那郡
	上諏訪	諏訪郡
	上田	小縣郡
	岩村田	北佐久郡
	臼田	南佐久郡
	中洲川	栗那郡
	高山	大野郡、益田郡、吉城郡
城	古川	志田郡、玉造郡
	涌谷	遠田郡
	築館	栗原郡
	佐沼	登米郡
	本吉	本吉郡
	石卷	牡鹿郡、桃生郡
	大河原	柴田郡、刈田郡
	角田	伊具郡、亘理郡
福	福島	信夫郡
	飯坂	伊達郡
	二本松	安達郡
	郡山	安積郡
	須賀川	岩瀨郡
	田島	南會津郡
	若松	北會津郡
	喜多方	耶麻郡
	阪下	河沼郡
	高田	大沼郡
	棚倉	東白川郡
	白河	西白河郡
島	石川	石川郡
	三春	田村郡
	平	菊多郡、磐前郡、磐城郡
	宮岡	標葉郡、楢葉郡
	中村	行方郡、宇多郡
茨	水戸	水戸市、西茨城郡、北茨城郡、那珂郡
	花卷	佐竹郡、東茨城郡、西茨城郡
	木澤	勝澤郡、江刺郡
	一關	西磐井郡、東磐井郡
	盛	氣仙郡
	遠野	西閉伊郡、南閉伊郡
	宮古	東閉伊郡、中閉伊郡、北閉伊郡
	久慈	南九戶郡、北九戶郡
	福岡	二戶郡
栃	宇都宮	河內郡、芳賀郡
	佐野	西安蘇郡、東安蘇郡
	足利	西足利郡、東足利郡
	栃木	栃木市、足利郡、上都賀郡、下都賀郡
	烏山	那須郡
	大田原	南那須郡、北那須郡
	黑羽	黑羽郡
	高根沢	塩谷郡
	鹿沼	安蘇郡
	日光	日光郡
	佐野	上佐野郡
	足利	下佐野郡
群	前橋	勢多郡
	桐生	新田郡
	伊勢崎	佐位郡
	高崎	群馬郡
	藤岡	甘樂郡
	富岡	多野郡
	吾妻	吾妻郡
	沼田	利根郡
	中之條	西群馬郡
	渋川	北群馬郡
	前橋	上野國
埼	浦和	埼玉郡
	大宮	足立郡、大宮市、埼玉郡
	川越	入間郡
	熊谷	大里郡
	秩父	秩父郡
	川越所	北足立郡
	川本	比企郡
	深谷	榛沢郡
	岡部	賀美郡
	本庄	那珂郡
	小川	兩郡
	高麗	高麗郡
	飯能	入間郡
	所沢	北足立郡
	鶴ヶ淵	西足立郡
	春日部	葛飾郡
	粕壁	埼玉郡
	忍	行田郡
	熊谷	大里郡
	秩父	秩父郡
千	千葉	千葉郡
	佐倉	印旛郡
	成田	香取郡
	小見川	海上郡
	銚子	匝瑳郡
	東金	山武郡
	大多喜	夷隅郡
	勝浦	長生郡
	木更津	望陀郡
	佐貫	君津郡
	館山	安房郡
	勝山	朝夷郡
	小湊	長狹郡
	佐倉	印旛郡
	成田	香取郡
	小見川	海上郡
	銚子	匝瑳郡
	東金	山武郡
	大多喜	夷隅郡
	勝浦	長生郡
	木更津	望陀郡
	佐貫	君津郡
	館山	安房郡
	勝山	朝夷郡
	小湊	長狹郡

岡山	金川	勝田郡、赤坂郡
	本庄	和氣郡、磐梨郡
	西大寺	邑久郡、上道郡
	妹野	兒島郡
	倉敷	都宇郡、浅尾郡
	玉島	浅口郡
	笠岡	小田郡、後月郡
	幾地	下道郡、賀陽郡
	高梁	上房郡、川上郡
	新見	哲多郡、阿哲郡
	久世	大庭郡、真島郡
	津山	苫西西條郡、西北條郡、東西條郡、東北條
	勝間田	勝南郡、勝北郡
	英田	英田郡、吉野郡
	弓削	久米西條郡、久米北條郡
廣島	廣島	廣島市
	吳	安芸郡
	竹日市	佐伯郡
	可部	沼田郡、高宮郡、山縣郡
	吉田	高田郡
鳥取	鳥取	鳥取郡
	岩美	岩美郡
	尾濃	御津郡、世羅郡
	國山	深津郡、沼隈郡、安那郡
	府中	蓮田郡、品治郡、神石郡、甲奴郡
	三次	三次郡、三谿郡
	庄原	双可郡、三上郡、恵蘇郡
山口	居代	大島郡
	岩國	玖珂郡
	室積	熊毛郡
	徳山	都濃郡
	三田尻	佐波郡
	山口	吉敷郡
	舟木	厚狭郡
	大田	美祢郡
	深川	大津郡
	萩	阿武郡、見島郡
	豆府	赤間關市、豊浦郡
和歌山	和歌山	和歌山市、名草郡、海部郡
	岩出	那賀郡

歌山	西條	加茂郡
	粉河	伊都郡
	尾濃	御園郡、世羅郡
	國山	深津郡、沼隈郡、安那郡
	府中	蓮田郡、品治郡、神石郡、甲奴郡
徳島	三次	三次郡、三谿郡
	庄原	双可郡、三上郡、恵蘇郡
	居代	大島郡
	岩國	玖珂郡
	室積	熊毛郡
	徳山	都濃郡
	三田尻	佐波郡
	山口	吉敷郡
	舟木	厚狭郡
	大田	美祢郡
	深川	大津郡
	萩	阿武郡、見島郡
	豆府	赤間關市、豊浦郡
香川	高松	高松市、山田郡、香川郡
	坂出	阿野郡、綾歌郡
	丸亀	那珂郡、多度郡
	觀音寺	三豊郡、豊田郡
	土庄	小豆郡
	長尾	大内郡、寒川郡、三木郡
愛媛	松山	松山市、温泉郡、和氣郡、浮穴郡、久米郡

愛媛	今治	越智郡、野間郡
	四條	新居郡、周布郡、宇摩郡
	川之江	宇摩郡
	久枝町	上浮穴郡
	郡中	下浮穴郡、伊予郡
	大洲	喜多郡
	八幡浜	西宇和郡
	卯ノ町	東宇和郡
	宇和島	南宇和郡、北宇和郡
高知	安芸	安芸郡
	赤岡	香美郡
	後免	長岡郡
	高知	高知市、土佐郡
	伊野	吾川郡
	須崎	高岡郡
	中村	幡多郡
福岡	福岡	福岡市、御笠郡、那珂郡、糟田郡、粕屋
	東郷	宗像郡
	直方	遠賀郡
	直方	鞍手郡
岡	吉井	浮羽郡
	今宿	怡土郡、志摩郡、早良郡
	吉井	生葉郡、竹野郡
	久留米	久米留市、御井郡、御原郡、山本郡
	大川	三潴郡
	下濃川	山門郡
	三池	三池郡
	福島	上妻郡、下妻郡
	小倉	企救郡
	香春	田川郡
	行橋	京都郡、仲津郡
	八屋	築城郡、上毛郡
大	玉津	西重東郡
	國崎	東國東郡
	日出	速見郡
	大分	大分郡
	白杵	北海部郡
	佐伯	南海部郡
	三重	大野郡

分	竹田	直入郡
	森	玖珠郡
	豆田	日田郡
	中津	下毛郡
	四日市	宇佐郡
佐賀	佐賀	佐賀市、佐賀郡
	神埼	神埼郡
	鳥栖	基肄郡、三根郡、養父郡
	小城	小城郡
	唐津	東松浦郡
	伊萬里	西松浦郡
	武雄	杵島郡
	嬉野	藤津郡
熊本	熊本	熊本市、飽田郡、託麻郡、字土郡
	宮瀬	玉名郡
	阿蘇	山鹿郡、山本郡、菊池郡、合志郡
	宮崎	阿蘇郡
	鹿兒	上益城郡、下益城郡
	八代	八代郡、葦北郡
	人吉	球磨郡
	玉名	玉名郡、鹿本郡、菊池郡、阿蘇郡、人吉郡

宮崎	町山口	天草郡	
	宮崎	宮崎郡、北那珂郡	
	飫肥	南那珂郡	
	都城	北諸縣郡	
	小林	西諸縣郡	
	高岡	東諸縣郡	
	高鍋	兒湯郡	
	延岡	東臼杵郡	
鹿兒島	高千穗	西臼杵郡	
	鹿兒島	鹿兒島市、鹿兒島郡、谿山郡、北大隅郡	
	知覽	給黎郡、揖宿郡、川邊郡、薩摩郡、黃島、黑島、竹島、口之島、臥蛇島、平島、中之島、悪石島、諏訪之瀬島、宝島、除ク	
	伊集院	阿多郡、日置郡	
	限ノ城	薩摩郡、高城郡、南伊佐郡、甑島郡	
	出水	出水郡	
	大口	北伊佐郡、菱刈郡	
鹿兒島	加治木	姶良郡、桑原郡、西囎唹郡	
	岩川	東囎唹郡、南囎唹郡	
	鹿屋	肝屬郡、南大隅郡	
	種子島	熊毛郡、馬渡郡	
	大島	大島郡、川邊郡ノ内、硫黃島、黑島、竹島、口之島、臥蛇島、平島、中之島、悪石島、諏訪之瀬島、宝島	

第二款　尋常師範學校

勅令

明治二十四年十一月十六日第二百十七號

尋常師範學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

尋常師範學校官制

第一條　尋常師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長
教諭
助教諭
舍監
訓導
書記

第二條　教諭助教諭舍監訓導及書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但教諭ノ中一人ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第三條　學校長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督シ兼テ其府縣内ニ於ケル小學教育ニ關スル事務ヲ視察ス

第四條　教諭ハ生徒ノ教育ヲ掌ル

第五條　助教諭ハ教諭ノ職掌ヲ助ク

第六條　舍監ハ教諭助教諭ノ中ヨリ之ニ兼任ス舍監ハ學校長ノ命ヲ承ケ寄宿舍ニ關スル事ヲ掌ル

第七條　訓導ハ附屬小學校兒童ノ教育ヲ掌ル

第八條　書記ハ學校長ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

第九條　教諭助教諭舍監訓導及書記ノ人員及俸額ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條　府縣知事ハ教諭ノ中ヨリ附屬小學校主事ヲ命シ校務ヲ掌ラシム

附則

第十一條　本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

第八類　官規

第一章　試驗、任用、補充、勤續

第一款　試驗

勅令

明治二十六年十月三日第百九十七號

文官試驗規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文官試驗規則目錄

第一章　總則
第二章　文官高等試驗
第三章　文官普通試驗
附則

文官試驗規則

第一章　總則

第一條　文官試驗ハ別ニ規程ヲ設クルモノノ外本令ニ依リ之ヲ行フ

第二條　文官試驗ヲ分チテ文官高等試驗及文官普通試驗ノ二種トス

第三條　文官試驗ヲ行フヘキ期日及場所ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ公告シ東京以外ノ地ニ於テ行フ試驗ニ在リテハ仍其ノ地方ノ新聞紙一種以上ニ公告スヘシ

第四條　年齡滿二十年以上ノ男子ニシテ左ノ諸項ノ一ニ該當セサル者ハ文官試驗ヲ受クルコトヲ得

一　重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニアラス
二　定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
三　破產者クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第五條　文官試驗ヲ受ケテ合格シタル者ニハ合格證書ヲ付與ス

第六條　不正ノ方法ニ因リ試驗ヲ受ケント企テタル者及試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ其ノ期ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス試驗合格證書ヲ受領シタル後是等ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格證書ヲ無效トス

第七條　文官試驗ヲ出願スル者ニハ手數料トシテ高等試驗ニ在リテハ金十圓、普通試驗ニ在リテハ金二圓ヲ納メシム

第二章　文官高等試驗

第八條　文官高等試驗ハ毎年一回東京ニ於テ文官高等試驗委員之ヲ行フ

第九條　文官高等試驗ヲ分チテ豫備試驗及本試驗トス豫備試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ本試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十條　豫備試驗ハ受驗人尋常中學校以上ノ官立公立學校ヲ卒業シ又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ本試驗ヲ受クルニ相當ナル學科ヲ修メタル者ト認ムヘキヤ否ヲ考試スルヲ以テ目的トス

第十一條　豫備試驗及迅速作文試驗ハ論文試驗ノ一ニ代ル口述試驗及迅速作文試驗ノ二次トス口述試驗及迅速作文試驗ハ論文試驗ニ合格シタル者ニ就キ之ヲ行フ

前項ノ口述試驗及迅速作文試驗ハ試驗委員ニ於テ便宜其ノ一ヲ省略スルコトヲ得

第十二條　帝國大學法科大學、東京大學法學部、文學部及舊司法省法學校正則部ノ卒業證書ヲ有スル者ハ豫備試驗ヲ免ス

第十三條　本試驗ハ受驗人學理上ノ原則及現行法令ニ通曉シ并ニ其ノ修得シタル學術ヲ實務ニ應用スルノ能力アルヤ否ヲ考試スルヲ以テ目的トス

第十四條　本試驗ハ左ノ科目ヲ用ヰテ之ヲ行フ

一　憲法
二　刑法
三　民法
四　行政法
五　經濟學
六　國際法

以上ノ科目ハ試驗ノ際選擇取捨スルコトヲ得ス

一　財政學
二　商法
三　刑事訴訟法
四　民事訴訟法

以上ノ科目ハ受驗者ヲシテ其ノ中ニ就キ豫メ一科目ヲ選擇セシメ之ヲ試驗ス

第十五條　本試驗ハ分チテ筆記試驗及口述試驗トス筆記試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ口述試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條　豫備試驗及本試驗ノ合格者ヲ定ムル方法ハ試驗委員ノ議定スル所ニ依ル

第十七條　文官高等試驗ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章　文官普通試驗

第十八條　文官普通試驗ハ各官廳ノ願ニ應シ其ノ屬ノ文官普通試驗委員之ヲ行フ

第十九條　文官普通試驗ノ科目ハ尋常中學校ノ科程ヲ標準トシ各官廳所掌ノ事務ヲ斟酌シテ文官普通試驗委員之ヲ定メ文官高等試驗委員ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條　文官普通試驗ニ關スル細則ハ文官普通試驗委員之ヲ定メ文官高等試驗委員ニ報告スヘシ

附則

第二十一條　本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

閣令

明治二十七年五月七日第二號

文官高等試驗細則左ノ通定ム

文官高等試驗細則

第一條　文官高等試驗ヲ受ケント欲スル者ハ書式ニ照シ試驗願書ニ履歷書及試驗論文ヲ添ヘ公告シタル期日マテニ文官高等試驗委員長ニ差出スヘシ但明治二十六年勅令第百九十七號文官試驗規則第十二條ニ該當スル者ハ試驗論文ヲ要セス

前項ノ期日ハ文部ト共ニ一箇月前ニ官報ヲ以テ

公告スヘシ

第二條　試驗論文ハ公告シタル文題ニ就キ其ノ一ニ付テ擇ミ漢字交リ文ヲ用ヰ自ラ楷書ヲ以テ之ヲ書スヘシ

第三條　試驗手數料ハ登記印紙ヲ用ヰ試驗願書ニ貼付スヘシ但試驗ヲ受ケサルコトアルモ之ヲ還付セス

第四條　試驗願書履歷書及論文ハ出願ノ取消ヲ求メタルモ之ヲ還付セス

第五條　論文試驗ニ合格シタル者ニハ文官高等試驗委員長ヨリ口述試驗及迅速作文試驗ヲ行フヘキコト並ニ其ノ期日及場所ヲ二十日前ニ官報ヲ以テ公告シ仍之ヲ本人ニ通知スヘシ

第六條　本試驗ノ筆記試驗ハ二日前ニ其ノ科目及期日ヲ定メテ之ヲ行ヒ其ノ口述試驗ハ筆記試驗全ク終リタル後更ニ期日ヲ定メテ之ヲ行フ

前項筆記試驗ノ期日ハ豫備試驗ニ合格シタル者及文官試驗規則第十二條ニ該當スル試驗出願者ニ通知シ口述試驗ノ期日ハ筆記試驗ニ合格シタル者ニ通知シ仍官報ヲ以テ公告スヘシ

第七條　迅速作文及筆記試驗ハ受驗人總員ヲ一室又ハ數室ニ入レ問題ヲ付シ文官高等試驗委員監視シテ之ヲ行フ但受驗人一人ナルトキハ文官高等試驗委員二人以上監視ス

答案ハ楷書又ハ行書ヲ以テ明瞭ニ記スヘシ

第八條　口述試驗ハ豫備試驗ト本試驗トニ拘ラス文官高等試驗委員三人以上列席シテ受驗人一人毎ニ試問シテ即時答辯ヲ爲サシム

第九條　受驗人ハ試驗室内ニ於テ互ニ雑話シ又ハ喧騒スルコトヲ得ス

第十條　受驗人ハ書類其ノ他受驗ノ材料トナルヘキモノヲ携帶シテ試驗室内ニ入ルコトヲ得ス

第十一條　受驗人ハ問題ニ付質問シ又ハ試驗場ニ於テ書籍ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得ス

第十二條　受驗人ハ文官高等試驗委員長ノ指示其ノ他試驗委員ノ命令ヲ遵守スヘシ

第十三條　受驗人試驗期日ニ出席セス又ハ試驗中途ニ退室シタルトキハ其ノ期ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十四條　文官高等試驗委員長ハ文官高等試驗委員會議表決ノ數ニ入ラス但可否同數ナルトキハ文官高等試驗委員長之ヲ決ス

第十五條　文官高等試驗委員試驗ノ成績ヲ査定シタルトキハ之ヲ文官高等試驗委員長ニ報告スヘシ其ノ報告期限ハ文官高等試驗委員長豫メ之ヲ定ム

第十六條　文官高等試驗合格者ノ氏名ハ官報ヲ以テ公告ス

第十七條　文官高等試驗ニ國ヲ必要ナル手續ハ文官高等試驗委員長之ヲ定ム

文官高等試驗出願書式（用紙美濃紙）

印紙

族籍
氏名
生年月

何府縣何國何郡市何町村何番地（何某方）
履歷書式（用紙美濃紙）

族籍
氏名
生年月

太籍
一何府縣何國何郡市何町村何番地戶主又ハ何某男兄弟伯叔父等
現住所
一何府縣何國何郡市何町村何番地（何某方）試驗出願中現住地ヲ錄シタルトキハ其ノ時々屆出ヘシ
學歷
一何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ所修ノ科目大略何々
一何年何月ヨリ何地官公私立何學校ニ入リ何學科ヲ修業シ何年何月卒業ス
職業
一何年何月何官廳ニ於テ何々事命何々歷任等

勅令

明治二十六年十一月二日第二百十三號　外交官及領事官試驗規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外交官及領事官試驗規則

第一條　外交官及領事官試驗ハ須要ニ應シ外務省ニ於テ外交官及領事官試驗委員之ヲ行フ

第二條　外交官及領事官試驗ヲ行フヘキ期日ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第三條　年齡滿二十年以上ノ男子ニシテ左ノ諸項ノ一ニ該當セサル者ハ外交官及領事官試驗ヲ受クルコトヲ得

一　罰金刑ヲ受シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ其ノ限ニアラス

一　刑法
二　民法
三　財政學
四　商法
五　刑事訴訟法
六　民事訴訟法
七　外交史

以上ノ科目ハ受驗者ケシテ其ノ中ニ就キ豫メ一科目ヲ選擇セシメ之ヲ試驗ス

第九條　第二次試驗ハ分チテ筆記試驗及口述試驗トス筆記試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ口述試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十條　出願人ハ願ニ依リ英語、佛語又ハ獨逸語ノ外他ノ外國語ヲ試驗スルコトアルヘシ

前項ノ試驗ヲ受ケント欲スル者ハ其ノ旨豫メ出願書ニ記載スヘシ

第十一條　外交官及領事官試驗ヲ出願スル者ニハ手數料トシテ金十圓ヲ納メシム

第十二條　不正ノ方法ニ因リ試驗ヲ受ケント企テタル者及試驗ニ國スル規程ニ違背シタル者ハ其ノ期ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス試驗合格ノ後是等ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無效トス

第十三條　試驗合格者ヲ定ムル方法ハ試驗委員ノ議定スル所ニ依ル

試驗合格ノ有效期限ハ合格後外交官又ハ領事官ニ任用セラレタル者ヲ除ク外一箇月間トス

第十四條　外交官及領事官試驗ニ關スル細則ハ外務大臣之ヲ定ム

外務省令

明治二十七年六月二十二日第七號　明治二十六年勅令第二百十三號外交官及領事官試驗規則施行細則ノ左通相定ム

外交官及領事官試驗規則施行細則

第一條　外交官及領事官試驗規則第四條ニ依リ差出スヘキ出願書及履歷書ハ別記甲號雛形及乙號雛形ニ依リ調製スヘシ

第二條　前條ノ出願書及履歷書ハ試驗期日十日前ニ差出スヘシ

第三條　受驗者ニシテ試驗當日開試ノ時期ニ出席セサル者ハ當期ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第四條　外交官及領事官試驗規則第八條ニ掲クル受驗者ノ選擇科目ハ別ニ記載シ出願書ニ添ヘ差出スヘシ

現ニ受驗者官廳（奉職ノ者ハ所屬長官ノ證可證書ヲ要ス

第五條　外交官及領事官試驗規則第六條ニ依リ第二次試驗ノ召集ヲ受ケサル者ハ第一次試驗ニ合格セサルモノトス

第六條　外交官及領事官試驗規則第九條ニ依リ第二次口述試驗ノ召集ヲ受ケサル者ハ第二次筆記試驗ニ合格セサル者トス

甲號雛形（用紙美濃紙但譯文用紙ハ西洋紙美濃紙ノ幅員ニ均シキモノ）

試驗願書

姓
生年月日
滿何年何月何日

私儀外交官及領事官試驗相受度候ニ付同規則第四條ニ掲クル書類相添此段奉願候也

（外交官及領事官試驗規則第十條ニ依リ英、佛、獨逸ノ外他ノ外國語試驗志願ノ者ハ其旨ヲ追書ニ記載スヘシ）

太籍
現住所

年月日

一　憲法
二　行政法
三　經濟學
四　國際公法
五　國際私法

以上及科目ハ試驗ノ際選擇取捨スルコトヲ得ス

一　外國語　第四條ノ譯文ニ用ヰタル國語
二　公文書類　邦文
三　口述要領筆記　邦文
四　第二次試驗ハ左ノ科目ヲ用ヰテ之ヲ行フ

第八條　第二次試驗ハ左ノ科目ヲ用ヰテ之ヲ行フ

一　憲法
二　行政法
三　經濟學
四　國際公法
五　國際私法

以上及科目ハ試驗ノ際選擇取捨スルコトヲ得ス

外交官及領事官試驗委員長宛　　姓名印

乙號雛形（用紙美濃紙但譯文用紙ハ西洋紙美濃紙ノ幅員ニ均シキモノ）

履歷書

何府縣華士族平民
戶主又ハ某嗣子若クハ何男　姓名
生年月日
滿何年何箇月

一　父（何府縣華士族平民「官位」何某「亡」）
一　母（同上　何某「亡」女某「亡」）
一　養父（同上　何某「亡」女某「亡」）
一　養母（同上　何某「亡」女某「亡」）
一　妻（同上　何某「亡」女某）
一　子某（男女）
一　本籍（何府縣何國何郡何町村何番地）
一　現住地（同上）
一　學歷（何年何月ヨリ何地何官公私立學校ニ入リ何學科ヲ修業何年何月卒業ス）
一　職業（何年何月ヨリ何地何會社又ハ何某ニ雇ハレ何何ノ職務ニ從事シ何年何月解雇又ハ辭職）
一　任免（何年何月何官廳何官拜命何年何月增俸、轉官、辭職、免職ノ年月）
一　賞罰（賞狀寫及懲罰文寫）

右ノ通

年月日　　姓名印

外務省令

明治二十七年二月一日第二號

明治二十六年勅令第百八十七號外交官領事官及書記生任用令第七條第二項ニ依リ公使館書記生及領事館書記生試驗規則左ノ通相定ム

公使館書記生及領事館書記生試驗規則

第一條　公使館書記生及領事館書記生試驗ヲ受ケント欲スル者ハ試驗期日十日前ニ甲號雛形ニ依リ調製シタル出願書及乙號雛形ニ依リ調製シタル履歷書並ニ英文又ハ佛文ヲ以テ記載シタル其譯文及醫師ノ體格檢査ヲ經タル證明書ヲ添ヘ外務省文官普通試驗委員ニ差出スヘシ

前項ノ書類ハ總テ出願人ノ自筆タルヘシ

第二條　公使館書記生及領事館書記生試驗ハ前條ノ書類ニ就キ試驗ヲ受クルニ足ルヘキ者ト認メタル者ヲ召集シテ之ヲ行フ

委員ニ於テ認メタル者ヲ召集シテ之ヲ行フ

第三條　公使館書記生及領事館書記生試驗ヲ分チテ第一次試驗及第二次試驗トス第一次試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ第二次試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第四條　第一次試驗ハ左ノ科目ヲ用ヰテ之ヲ行フ

一　往復文　邦文ニ第一條ノ譯文ニ用ヰタル國語
　　外國文

第五條　第二次試驗ハ左ノ科目ヲ用ヰテ之ヲ行フ

一　策跡　楷、行、草
二　數學　加、減、乘、除、分數、比例
三　簿記　官用簿記
四　會計法及會計規則
五　公使館及領事館費用條例
以上ノ科目ハ試驗ノ際選擇取捨スルコトヲ得ス

一　歷史　本邦及外國近世史
二　統計　本邦輸出入品及其產地
三　國際公法
四　刑法
五　商法
以上ノ科目ハ受驗者ヲシテ其中ニ熟キ得メ一科目ヲ選擇セシメ之ヲ試驗ス

第六條　第二次試驗ニ於テ其試驗ヲ受クヘキ科目中ノ一ヲ選ヒ口述試驗ヲ行フ

第七條　出願人ノ願ニ依リ英語又ハ佛語ノ外他ノ外國語ヲ試驗スルコトアルヘシ

前項ノ試驗ヲ受ケント欲スル者ハ其旨豫メ出願書ニ記載スヘシ

第八條　公使館書記生及領事館書記生試驗ヲ出願スル者ハ手數料トシテ金貳圓ヲ納ムヘシ

第九條　試驗合格者ヲ定ムル方法ハ試驗委員ノ議定スル所ニ依ル

試驗合格ノ有效期限ハ公使館書記生又ハ領事館書記生ニ任用セラレタル者ヲ除クノ外六箇月間トス

第十條　本令ニ規定セサルモノハ明治二十六年勅令第二百十三號外交官及領事官試驗規則ニ依ル

甲號雛形（紙美濃紙但譯文用紙ハ西洋紙美濃紙ノ幅員ニ均シキモノ）

試驗願書

姓名
生年月日
滿何年何箇月

私儀公使館書記生及領事館書記生試驗相受度候ニ付同規則第一條ニ掲クル書類相添此段願候也

年月日

本籍
現住所
姓名印

外務大臣宛

乙號雛形（用紙美濃紙但譯文用紙ハ西洋紙美濃紙ノ幅員ニ均シキモノ）

履歷書

何府縣華士族平民
戶主又ハ某嗣子若クハ何男　姓名
生年月日
滿何年何箇月

一　父（何府縣華士族平民「官位」何某「亡」）
一　母（同上　何某「亡」女某「亡」）
一　養父（同上　何某「亡」女某「亡」）
一　養母（同上　何某「亡」女某「亡」）
一　妻（同上　何某「亡」女某）
一　子某（男女）
一　本籍（何府縣何國何郡何町村何番地）
一　現住地（同上）
一　學歷（何年何月ヨリ何地何官公立學校ニ入リ何學科ヲ修業何年何月卒業ス）
一　職業（何年何月ヨリ何地何會社又ハ何某ニ雇ハレ何何ノ職務ニ從事シ何年何月解雇又ハ辭職）
一　任免（何年何月何官廳何官拜命何年何月增俸、轉官、辭職、免職ノ年月）
一　賞罰（賞狀寫及懲罰文寫）

右ノ通

年月日　　姓名印

內務省訓令

明治二十五年三月十七日第四號

內務省ニ委員ヲ設ケ本省ニ於テ施行ス尋常試驗ハ各地方廳ニ委員ヲ置キ施行スヘシ

但高等試驗ト雖トモ時宜ニヨリ地方廳ニ於テ施行スルコトアルヘシ尤問題及試驗成績等ハ本省ニ於テ撰定スヘシ

第四條　尋常試驗ハ施行前其地方廳ニ於テ豫メ問題取調本省ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　試驗合格者高等試驗者ハ內務省ヨリ尋常試驗者ハ其廳府縣ヨリ及第證書ヲ付與スヘシ

尤合格者ト雖トモ其期ニ需要ノ人員ハ合格者中ヨリ選拔シテ之ヲ定ム其選ニ當ラサル合格者ハ及第證書付與ノ日ヨリ三年ノ後ハ證書ノ效ヲ有セス

第六條　官司權宮司撰擧ノ節ハ高等試驗合格證書寫ヲ添本大臣ヘ差出スヘシ

第七條　願宜主典ハ其地方長官限リ申付其都度本大臣ヘ報告スヘシ

第八條　試科目ヲ分ツ左ノ如シ

高等試驗科目

六國史（問題取調書取）　合義解　同上
延喜式　同上　萬葉集　同上
法曹至要抄　同上　考證一組
作文二題（宮命體公文體）

尋常試驗科目

古事記（講義書取）　土佐日記　同上
職原抄　同上　祝詞式　同上
作文二題（祝詞公文體）

第九條　本試驗合格證書所持ノ者ハ官國幣社神職中缺員相當ノ位置ヘ神補又ハ再補スルコトヲ得

第十條　左ニ掲クルモノハ試驗ヲ要セス直ニ宮司權宮司ニ補スルコトヲ得

一　其神社神統又ハ祚新前十代以上其神社ヘ奉仕セシ祖立ル者及ヒ其子孫
二　其神社祭祀ノ一族臣下ノ內祭神在世ニ於テ功蹟顯著更來ニ著名アル者ノ從來
三　滿三年以上判任官八級俸以上奉職セシ者
四　皇典講究所學階一等司業以上ノ者
五　該神社所在地ノ有力者
六　將新前王來神宮ノ功ニ依リ官ノ褒賞ヲ受ケタル者

但以上六項ニ該當スル者ト雖トモ現時ノ性行其他不適當ト認ムルモノハ採用ノ限ニアラス

七　神宮權禰宜以上在職ノ者

第十一條　左ニ掲クルモノハ試驗ヲ要セス直ニ禰宜主典ニ申付ルコトヲ得

一　維新前五代以上該神社ヘ奉仕セシ者及ヒ其子孫
二　滿二年以上判任官以上奉職セシ者
三　皇典講究所學階五等司業以上ノ者

但性行其他不適當ト認ムルモノハ前同斷

四　神宮寮以上在職ノ者

第十二條　本規則施行前ヨリ在職ノ者ハ試驗ヲ要セス其現職ニ在ルコトヲ得

但明治二十五年三月以前ニ於テ滿五年以上官國幣社神職ヲ勤メ選職シタル者ハ試驗ヲ要セス前職同都若クハ其以下ノ神職ニ補スルヲ得

第十三條　官幣小社級上宮別格官幣社靖國神社神職ハ本規則ニ不拘從來ノ取扱ニ據ル

第十四條　採用スヘキ人員及職名試驗期日等ハ其時々官報又ハ新聞紙其他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

行ス

第十五條　本規則ハ明治二十五年四月一日ヨリ施

遞信省令（明治二十三年八月十五日第十六號　明治二十三年七月勅令第百三十號ニ據リ鐵道書記補、郵便電信書記補及郵便爲替貯金書記補試驗規則左ノ通之ヲ定ム）

鐵道書記補、郵便電信書記補及郵便爲替貯金書記補試驗規則

第一條　年齢滿十七歲以上四十五歲以下ニシテ一年以上鐵道郵便電信又ハ郵便爲替貯金・業務ニ從事シタル者ハ書記補ノ試驗ニ應スルコトヲ得

第二條　鐵道局郵便電信局郵便電信局並ニ郵便爲替貯金管理所ニ於テ書記補ノ任用ヲ要スル時ハ其局所長ハ第一條ニ適合スル者ニ就キ別ニ定ムル試驗手續ニ依リ試驗ヲ執行シタル上其成績ヲ遞信大臣ヘ申出ツヘシ

遞信大臣ハ遞信官文官普通試驗委員ニ下附シテ之ヲ點檢セシメ合格者中所要ノ人員ヲ採用スルモノトス

第三條　遞信省規定ノ電氣通信技術員養成規則ニ依リ電氣通信技術ノ傳習ヲ卒業シ六箇月以上其業務ニ從事シタル者ハ試驗ヲ要セス直ニ書記補ニ任用スルコトヲ得

司法省令（明治二十四年五月十五日第三號　判事檢事登用試驗規則左ノ通相定ム）

判事檢事登用試驗規則目錄

第一章　試驗委員
第二章　受驗資格
第三章　第一回試驗
第四章　實地修習
第五章　第二回試驗

判事檢事登用試驗規則

第一章　試驗委員

第一條　判事檢事登用試驗委員ハ委員長一名委員數名ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條　判事檢事登用試驗委員長及委員ハ大審院控訴院ノ判事檢事司法省高等官ノ中ヨリ試驗擧行毎ニ司法大臣之ヲ命ス

第三條　判事檢事登用試驗委員長ハ委員ヲ監督シ試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス

第四條　試驗委員附屬ノ書記ハ司法屬又ハ裁判所書記ノ中ヨリ試驗擧行毎ニ司法大臣之ヲ命ス

第二章　受驗資格

第五條　判事檢事登用試驗ヲ受クルコトヲ得ル者ハ成年以上ノ男子ニシテ左ニ記載シタル者ニ限ル

一　官立學校及司法大臣ニ於テ指定シタル公私立學校ニ於ヲ三年以上法律學ヲ修メタル證書ヲ有スル者

二　外國ノ大學校又ハ之ト同等ナル學校ニ於テ法律學ヲ修メ卒業證書ヲ有スル者

第六條　裁判所構成法第六十六條ニ該ル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第三章　第一回試驗

第七條　第一回試驗ハ司法省ニ於テ之ヲ行フ試驗ノ期日ハ試驗委員長之ヲ定メ官報ヲ以テ公告ス

第八條　試驗志願者ハ其志願書ニ左ノ證書ヲ添ヘ之ヲ試驗委員長ニ差出スヘシ

一　履歷書

二　身分年齢及兵役ニ關スル證明書

三　第五條ニ定メタル要件ハ證明書

試驗志願者ハ試驗手數料トシテ金十圓ヲ納ムヘシ但其手數料ハ登記印紙ヲ用ヰ之ヲ志願書ニ貼付スヘシ

手數料ハ志願者ヲ取下ケ又ハ試驗ヲ受ケサルトキト雖モ之ヲ還付セス

第九條　試驗ハ受驗者ノ學識ヲ試驗スルヲ以テ目的トシ筆記試驗ハ民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ各法ニ就キ之ヲ施行ス

第十條　筆記試驗ハ民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ各法ニ就キ之ヲ施行ス

第十一條　試驗委員筆記答案ヲ調査シタル後口述試驗ヲ爲スニ足ルヘキモノト認メタルトキハ口述試驗ノ爲メ志願者ヲ呼出スヘシ

第十二條　口述試驗ハ民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ中少クトモ三科目ニ就キ之ヲ施行ス

第十三條　受驗者ノ及第落第及及第者ノ優劣ハ筆記試驗口述試驗ノ成績ニ對スル委員過半數ノ意見ニ從テ之ヲ決ス

及第落第ニ付テノ意見數相半スルトキハ落第ト看做スヘシ

第十四條　志願者口述試驗ニ臨席シタルトキハ試驗ハ成立タサルモノトス

第十五條　試驗委員長ハ及第者ノ氏名及其試驗ノ成績ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第十六條　帝國大學法律科卒業生ニシテ司法官ノ任用ヲ望ム者ハ第八條ノ規程ヲ準用シ志願書ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第四章　實地修習

第十七條　試補ハ區裁判所及地方裁判所並其檢事局ニ於テ一名若ハ數名ノ判事又ハ檢事ニ附屬シテ事務ヲ修習スヘシ

第十八條　修習事務直接ノ指揮監督ハ地方裁判所長之ヲ爲ス檢事ノ事務ヲ修習スルトキハ檢事正之ヲ爲ス

裁判所長若ハ檢事正ハ毎年末ニ試補ノ職務上及職務外ノ行狀並執務ニ關ル成績ノ證明書ヲ作リ控訴院長檢事長ヲ經由シテ之ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第十九條　試補ハ修習目錄ヲ作リ其取扱ヒタル事件ヲ記載スヘシ

此目錄ハ毎月直接指揮監督者ニ差出シ檢閲ヲ受クヘシ

第二十條　試補ノ疾病又ハ兵役履行ノ爲メ修習ヲ缺キタル日數一箇年間二箇月以内ハ修習日數ニ算入ス

賜暇其他ノ原因ニ由リ修習ヲ缺キタル日數一箇年間一箇月以内亦同シ

第一項第二項ノ場合併起スルトキハ通計シテ二箇月以内ニ非サレハ算入スルコトヲ得ス

第二十一條　試補ノ直接指揮監督者ハ試補職務上ノ義務ヲ忘リ又ハ職務上若ハ職務外ニ於テ其身分ニ適セサル行狀アルトキハ之ヲ論告スヘシ此場合ニ於テハ指揮監督者ハ論告ヲ爲シタルコトヲ試補ノ履歷ニ記入スヘシ

第二十二條　試補職務上若ハ職務外ノ行狀其職務ヲ執ルニ不適當ナルカ又ハ其修習ノ進歩不十分ニシテ第二回試驗ニ及第ノ見込ナキトキハ直接指揮監督者ハ控訴院長檢事長ヲ經由シテ之ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

司法大臣前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ試補ヲ免スルコトアルヘシ

第五章　第二回試驗

第二十三條　第二回試驗ハ控訴院ニ於テ之ヲ行フ

試驗ノ場所ハ司法大臣之ヲ定メ試驗ノ期日ハ試驗委員長之ヲ定ム

第二十四條　試補第二回試驗ヲ受クルニハ直接指揮監督者ヲ經由シテ志願書ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

志願書ニハ修習目錄ト陸海軍ノ現役ヲ終ヘ又ハ之ヲ免セラレタルコトヲ證明スル書面トヲ添フヘシ

第二十五條　司法大臣ハ第二回試驗ヲ受クヘキ試補ノ氏名ヲ試驗委員長ニ通知シ試驗ヲ行ハシム

第二十六條　第二回試驗ハ受驗者ノ實務ニ習熟タルヤ否ヲ試驗スルヲ以テ主タル目的トシ筆記口述ノ二種トス

第二十七條　試驗委員ハ試補ニ筆記試驗ノ爲メ二件以上ノ訴訟記錄ヲ付與スヘシ

第二十八條　受驗者ハ付與セラレタル訴訟記錄ニ就キ事實及理由ヲ詳示シタル判決案ヲ答案トシテ差出スヘシ

答案ハ二十日ノ期間内ニ之ヲ差出スヘシ若シ此期間内ニ答案ヲ差出ササルトキハ試驗ハ成立タサルモノトス

第二十九條　口述試驗ハ民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ中少クトモ三科目ニ就キ之ヲ施行ス

又訴訟記錄ニ就キ問ヲ發シ之ニ答ヘシムヘシ其記錄ハ試驗期日ノ三日前ニ之ヲ付與ス

第三十條　左ノ場合ニ於テハ司法大臣ハ試驗委員長ノ報告ニ因リ試補ヲ免ス

一　第二回試驗ニ及第セサルトキ

二　第二回試驗ノ成立タサルトキ

第三十一條　前條第二ノ場合ニ於テ試補已ニ五ヶ月ヲ得サル事故アリシコトヲ證明シ試驗委員之ヲ正當ト認メタルトキハ其旨ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

司法大臣前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ其試補ニ一回ヲ限リ次期ノ試驗マテ引續キ修習ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第三十二條　第一回試驗ニ關ル第十一條及第十三條乃至第十五條ノ規程ハ第二回試驗ニモ亦之ヲ適用ス

司法省告示（明治二十六年十二月十四日第九十一號　判事檢事登用試驗規則第五條ニ依リ私立學校ヲ指定スルコト左ノ如シ）

明治法律學校　日本法律學校　東京法學院
和佛法律學校　明治法律學校
東京專門學校
慶應義塾
國學院
同志社
專修學校

司法省令（明治二十四年五月十五日第四號　裁判所書記登用試驗規則目錄）

第一章　試驗
第二章　實地修習

裁判所書記登用試驗規則

第一章　試驗

第一條　裁判所書記登用試驗ハ文官試驗ニ關ル勅令ノ外本則ノ規程ニ從フ

第二條　試驗ハ各控訴院ニ於テ之ヲ行フ

第三條　試驗委員ハ控訴院判事檢事書記長又ハ其管内地方裁判所ノ判事檢事ノ中ヨリ司法大臣之ヲ命ス

試驗委員長ハ委員中官等最モ高キ者ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　試驗ハ作文筆寫書取算術簿記ノ外民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ中ニ就キ之ヲ施行ス

第五條　試驗委員長ハ受驗者ノ申立アルトキハ地方裁判所ニ於テ兼記試驗ヲ受ケシムルコトヲ得
此場合ニ於テ試驗問題ノ答案ハ其裁判所ノ官吏監督シテ之ヲ作ラシム

第六條　試驗委員兼記答案ヲ調査シタル後口述試驗ヲ爲スニ足ルヘキモノト認メタルトキハ口述試驗ノ爲メ受驗者ヲ呼出スヘシ

第七條　受驗者口述試驗ニ關席シタルトキハ試驗ハ成立タサルモノトス

第八條　試驗ニ及第シタル者ニハ試驗委員長及試驗委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス

第九條　試驗委員長ハ及第者ノ氏名及其試驗ノ成績ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第二章　實地修習

第十條　試驗ニ及第シタル者ハ裁判所書記見習ヲ命セラルルコトヲ得
裁判所書記見習ハ區裁判所及地方裁判所並其檢事局ニ於テ實地修習ヲ爲スヘシ

第十一條　實地修習ノ順序ハ控訴院長檢事長協議シテ之ヲ定ム

第十二條　實地修習ノ指揮監督ハ地方裁判所長若ハ檢事正又ハ區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事若ハ檢事之ヲ爲ス
指揮監督者ハ修習ノ事務ヲ直接ニ指示スヘキ官吏ヲ定ムヘシ

第十三條　裁判所書記見習職務上ノ雜務ヲ忘リ又ハ職務上若ハ職務外ニ於テ其身分ニ適セサル行狀アルトキハ指揮監督者之ヲ驗告スヘシ

第十四條　裁判所書記見習職務上若ハ職務外ノ行狀其職務ヲ執ルニ不適當ナルカ又ハ其修習ノ進歩不十分ナリト認ムルトキハ指揮監督者ハ控訴院長檢事長ニ之ヲ報告スヘシ

第十五條　指揮監督者ハ裁判所書記見習其指揮監督ニ係ル修習ヲ終リタルトキハ修習ニ關ル證明書ヲ作リ修習ノ成績並職務上及職務外ノ行狀ヲ記載シテ之ヲ控訴院長檢事長ニ差出スヘシ
若シ行狀ニ就キ驗告シタルコトアルトキハ其旨ヲ證明書ニ附記スヘシ
控訴院長檢事長ハ證明書ニ意見ヲ附シ之ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第十六條　本章ノ規程ハ試驗ヲ經スシテ裁判所書記見習トナリタル者ノ實地修習ニモ亦之ヲ適用ス

閣令

明治二十年七月二十日第二十號

郡區長ノ試驗ハ學術ニ關セス實務ヲ旨トシテ專ラ其地ノ狀勢民情及利害ニ通曉スル者ヲ選任スヘキ必要アルヲ以テ郡區長ノ試驗科目ハ當分ノ內地方ノ實況ヲ斟酌シテ內務大臣ノ指定スル所ニ依ル
但郡區長ハ高等試驗ヲ經タル者ニ非レハ他ノ高等官ニ轉スルコトヲ得ス

內務省令

明治二十年十二月二十九日第五號

郡區長ノ試驗ニ關シ左ノ條規ヲ定ム

第一條　郡區長ノ試驗ハ左ノ科目ヲ以テ內務省ニ於テ之ヲ行フ
一　就職スヘキ地方ノ風土慣例及物產
一　郡區長職務ニ必要ナル法令
一　郡區長職務ニ關スル公文ノ立案

第二條　郡區長ノ試驗ヲ受クルハ滿三十年以上ノ者タルヘシ但該地方ニ於テ五箇年以上奏任官又ハ郡區長ノ職ヲ奉シタル者ハ此限ニアラス

第三條　試驗出願者ハ願書ニ就職スヘキ地名ヲ記入シ履歷書ヲ取添ヘ北海道廳又ハ府縣廳ヲ經テ試驗委員長ニ差出スヘシ

第四條　試驗委員ハ內務大臣內務省ノ高等官若クハ他官廳ノ高等官ヨリ選テ之ヲ命シ又ハ囑託シ內務省總務局長ヲ以テ委員長トス

第五條　試驗委員ハ必要アル場合ニ於テハ同區ヲ選定シテ北海道廳長官府縣知事ニ送付シ該地方高等官三名以上ノ列席ニ於テ其座答ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條　試驗ノ手續ニ關スル細目ハ試驗委員長ノ定ムル所ニ依ル

第二款　文官任用

附陞叙年限

勅令

明治二十六年十月三日第百八十三號

朕文官任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文官任用令

第一條　奏任文官ハ別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノノ外左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス
一　文官高等試驗ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者
二　滿三年以上高等文官ノ職ニ在リタル者但特別任用ノ規程ニ依リ在職シタル者並ニ教官技術官ノ在職年數ヲ除ク
三　滿三年以上判事檢事ノ職ニ在ル者及在リタル者

第二條　判任文官ハ別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノノ外左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス
一　文官普通試驗ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者
二　文官高等試驗ヲ經タル者
三　官立公立學校ノ卒業證書ヲ有スル者
四　高等商業學校及附屬主計學校及官主計專修科ノ卒業證書ヲ有スル者並ニ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學又ハ經濟學ヲ教授スル私立學校ニ於テ本令施行前ニ卒業證書ヲ得タル者
五　滿三年以上文官ノ職ニ在リタル者但特別任用ノ規程ニ依リ在職シタル者並ニ教官技術官ノ在職年數ヲ除ク

第三條　教官及技術官ハ別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノノ外奏任官ニ在リテハ文官高等試驗委員判任官ニ在リテハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用ス

第四條　特別ノ學術技藝ヲ要スル行政官ハ別ニ試驗ヲ用ヰス奏任官ニ在リテハ文官高等試驗委員判任官ニ在リテハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ教官技術官ノ中若クハ試驗委員ニ於テ教官技術官タルノ資格アリト認ムル者ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

第五條　滿五年以上屬員トシテ同一官廳ニ勤續シタル者ハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ直ニ其ノ官廳ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

第六條　本令第三條、第四條及第五條其ノ他特別ノ規程ニ依リ任用セラレタル者ハ文官試驗ヲ經ルニアラサレハ其ノ各條又ハ其ノ規程ニ指定シタル以外ノ文官ニ任用スルコトヲ得ス

第七條　文官任用及銓衡ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第八條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス
明治二十年勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則、同年勅令第五十八號、同年勅令第百十號、同年勅令第六十三號、明治二十二年勅令第百十號、同年勅令第八號、同年勅令第百三十七號、明治二十三年勅令第百九十一號、明治二十四年勅令第百九十一號、同年勅令第三十一號、明治二十五年勅令第二十四號、同年勅令第二十八號、同年閣令第二十三號、同年閣令第二十五號、同年閣令第二十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

勅令

明治二十六年十月三日第百八十四號

朕文官任用令施行前ノ規程ニ依レル試補等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
明治二十年勅令第三十七號及同年閣令第二十五號ニ依リ行政官試補ニ採用セラルヘキ資格ヲ有シタル者ニシテ本年勅令第百八十三號文官任用令施行前高等文官タリシ者及同上ノ資格ヲ有シタル者ニシテ同令施行ノ際現ニ行政官試補若クハ判任文官タル者ハ別ニ試驗ヲ用ヰス奏任文官ニ任用スルコトヲ得

附則

本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

勅令

明治二十六年十月三日第百八十五號

朕屬員ヲ判任文官ニ任用スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
本年勅令第百八十三號文官任用令施行五箇月前ヨリ各官廳ニ於テ屬員トシテ引續キ事務ヲ執リタル者ハ文官任用令施行ノ後三箇月間ニ限リ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ直ニ其ノ官廳ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得但其ノ任用ノ際支給スヘキ俸給額ハ文官任用令施行ノ際ニ受ケタル俸給現額ヲ超ユルコトヲ得ス

勅令

明治二十六年十月三日第百八十七號

朕外交官領事官及書記生任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外交官領事官及書記生任用令

第一條　外交官及領事官ハ外交官及領事官試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ任用スルコトヲ得ス

第二條　本令ニ依リ初メテ外交官又ハ領事官ニ任用セラルル者ハ外交官補又ハ領事官補トス

第三條　外交官補及領事官補ハ滿二年以上外國ニ在勤シタル後ニアラサレハ其ノ他ノ外交官又ハ領事官ニ任用スルコトヲ得ス

第四條　本令ニ依リ任用シタル外交官及領事官ニシテ在職滿四年以上ノ者ハ外務省高等官ニ外務省高等官ニシテ在職滿四年以上ノ者ハ外交官又ハ領事官ニ任用スルコトヲ得
前項ニ依リ外交官又ハ領事官ニ任用スル者ニハ本令第二條ヲ適用セス

第五條　公使館書記生及領事館書記生ハ公使館書記生及領事館書記生試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ任用スルコトヲ得ス

第六條　本令ニ依リ任用シタル公使館書記生又ハ領事館書記生ニシテ在職滿二年以上ノ者ハ外務省判任官ニ外務省判任官ニシテ在職滿二年以上ノ者ハ公使館書記生又ハ領事館書記生ニ任用スルコトヲ得

第七條　外交官及領事官試驗規則ハ別ニ勅令ヲ以

テ之ヲ定ム

公使館書記生及領事館書記生試驗規則ハ外務大臣之ヲ定ム

第八條　特命全權公使辨理公使ハ本令ノ規程ニ拘ラス之ヲ任用スルコトヲ得

第九條　外務省留學生ハ別ニ試驗ヲ要セス公使館書記生又ハ領事館書記生ニ任用スルコトヲ得

外務省留學生ニ關スル規程ハ外務大臣之ヲ定ム

第十條　本令施行ノ際外務省高等官、外交官又ハ領事官ノ職ニ在ル者ハ第四條ノ制限ニ拘ラス任用スルコトヲ得

第十一條　本令施行ノ際外務省試補タル者又ハ試補ニ採用セラルヘキ資格ヲ有シテ公使館書記生又ハ領事館書記生タル者ハ別ニ試驗ヲ要セス外交官補又ハ領事官補ニ任用スルコトヲ得

第十二條　本令施行ノ際外務省判任官、公使館書記生又ハ領事館書記生タル者ハ第六條ノ制限ニ拘ラス任用スルコトヲ得

附　則

第十三條　公使館又ハ領事館ニ雇員トシテ現ニ在勤スル者ハ本令施行ノ後三箇月間ニ限リ別ニ試驗ヲ要セス公使館書記生又ハ領事館書記生ニ任用スルコトヲ得

第十四條　本令ハ貿易事務官ニ適用ス

第十五條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

明治二十二年閣令第五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

勅令

明治二十六年十月三十日第百八十八號　朕領事官特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

領事官特別任用令

第一條　領事館書記生ニシテ滿五年以上領事館ニ勤務シ三級以上ノ俸給ヲ受ル者ハ外交官及領事官試驗委員ノ銓衡ヲ經テ二等領事ニ任用スルコトヲ得

第二條　前條ニ依リ任用シタル者ハ一等領事ニ任用スルコトヲ得

第三條　本令ニ依リ任用シタル一等領事及二等領事ハ他ノ高等官ニ轉任スルコトヲ得ス

附　則

第四條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

明治二十五年勅令第十三號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

勅令

明治二十六年十月三十日第百八十九號　朕外交官領事官ノ臨時特別任用ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　明治二十六年勅令第百二十四號外交官及領事官、領事、交際官試補及副領事ハ其ノ在職年數ニ拘ラス本令第二條ニ依リ該官制ニ定ムル所ノ外交官又ハ領事官ニ任スルコトヲ得

第二條　公使館書記官ニシテ四級俸ヲ受クル者及領事ハ五等官相當ノ外交官又ハ領事官ニ任シ其ノ官等ニ敘スルコトヲ得

交際官試補及副領事ニシテ二級俸ヲ受クル者ハ六等官相當ノ外交官又ハ領事官ニ任シ其ノ官等ニ敘スルコトヲ得

附　則

第三條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

勅令

明治二十六年十一月九日第百八十九號　朕外交官領事官ノ臨時特別任用ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　明治二十六年勅令第百二十四號外交官及領事官、領事、交際官試補及副領事ハ其ノ在職年數ニ拘ラス本令第二條ニ依リ該官制ニ定ムル所ノ外交官又ハ領事官ニ任スルコトヲ得

第二條　公使館書記官ニシテ四級俸ヲ受クル者及領事ハ五等官相當ノ外交官又ハ領事官ニ任シ其ノ官等ニ敘スルコトヲ得

交際官試補及副領事ニシテ二級俸ヲ受クル者ハ六等官相當ノ外交官又ハ領事官ニ任シ其ノ官等ニ敘スルコトヲ得

附　則

第三條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

勅令

明治二十六年十一月九日第百八十一號　朕明治二十五年勅令第三十一號ニ依レル外務省試補任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十五年勅令第三十一號ニ依リ外務省試補タルノ資格ヲ有シ現ニ同省試補タル者ハ別ニ試驗ヲ用ヰス同省高等官ニ任用スルコトヲ得

外務省令

明治二十七年一月十七日第一號　明治二十六年勅令第百八十七號第九條ニ依リ公使館書記生又ハ領事館書記生ニ任用スヘキ外務省留學生規程左ノ通リ相定ム

外務省留學生規程

第一條　外務省留學生ハ支那語、朝鮮語、露西亞語又ハ西班牙語講習ノ爲外國ニ留學セシムルモノトス

第二條　外務大臣ハ外交官領事官又ハ貿易事務官ニ留學生ノ監督ヲ命シ留學中其ノ行爲ヲ監督セシムヘシ

第三條　外務省留學生ハ留學ノ地ニ到着ノ日ヨリ滿三年ヲ以テ卒業ノ期トス

監督官吏ノ具申ニ依リ語學上進セシ者ハ前項ノ期限ニ拘リス特ニ卒業ト認ムルコトアルヘシ

第四條　疾病又ハ已ムヲ得サル事故ノ爲前條ノ期限ニ於テ卒業スルコトヲ得サルトキハ特ニ其ノ期限ヲ猶豫スルコトアルヘシ

猶豫期限ヲ過キ仍ホ卒業スルコトヲ得サルトキハ其ノ情狀ニ依リ留學生ヲ免ス

第五條　左ノ場合ニ於テハ留學中支給シタル學費及往返ニ係ル旅費ヲ本人又ハ保證人ヨリ償還セシムヘシ

一　留學中怠慢又ハ不品行ニシテ留學生ヲ免セラレタルトキ

二　任官後五箇年以内ニ於テ退官シタルトキ

但疾病ニ依リ外務大臣ニ於テ其ノ職ニ堪ヘスト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　外務省留學生保證人ハ身元正シク相當ノ財產アル者二名ヲ要ス

保證人ノ内破產死亡其ノ他保證人ニ適セサル事故ノ生シタルトキハ更ニ他ノ保證人ヲ立ツヘシ

第七條　外務省留學生ハ採用試驗出願ノ時年齡滿十八年以上滿二十一年以下ニシテ左ノ諸項ノ一ニ該當セサル者ニ限ル

一　重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニアラス

二　定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

三　破產若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第八條　外務省留學生タラント欲スル者ハ別記甲號雛形ニ依リ調製シタル願書ニ履歷書及醫師ノ檢格驗査ヲ經タル證明書並支那語又ハ朝鮮語ヲ講習スヘキ者ハ漢文露西亞語又ハ西班牙語ヲ講習スヘキ者ハ露西亞文西班牙文英文又ハ佛文ノ内ヲ以テ起草シタル往復文ヲ添ヘ試驗期日十日前ニ外務省文官普通試驗委員ニ差出スヘシ

留學生募集ハ其講習スヘキ國語及人員ヲ定メ官報ヲ以テ公告ス

第九條　外務省留學生試驗ヲ出願スル者ハ手數料トシテ金一圓登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第十條　外務省文官普通試驗委員ハ前條ニ規定シタル出願書類ヲ調査シ適當ト認メタル者ヲ召集シ左ノ試驗ヲ施行スヘシ

一　第八條ニ掲クル出願人ノ起草シタルト同一ノ外國文ヲ以テ更ニ往復文二通ヲ起草セシムルコト

但尙ホ起草文ト同一ノ國語ヲ以テ對話ヲ試ムルコトアルヘシ

一　邦文ヲ以テ往復文二通ヲ起草セシムルコト

第十一條　不正ノ方法ニ因リ試驗ヲ受ケント企テタル者及試驗ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ其ノ期ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス試驗合格ノ後是等ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無效トス

既ニ留學生トナリ留學スヘキ地ニ赴キタル後前項ノ事實發覺セシ場合ハ留學生ヲ免スルノ外第五條ニ掲クル學費及旅費ヲ本人又ハ保證人ヨリ償還セシムヘシ

第十二條　第十條ノ試驗ニ合格シタルトキハ豫メ期限ヲ定メ別記乙號雛形ニ依リ調製シタル證書ヲ合格者ヨリ徵シ留學生ヲ命ス

試驗合格ノ有效期限ハ合格後留學生ニ採用セラレタル者ヲ除クノ外一箇月間トス

第十三條　外務省留學生ヲ命セラレタル者ハ疾病又ハ已ムヲ得サル事故ノ爲許可ヲ得タル者ノ外命令ヲ受ケタル日ヨリ四週間以内ニ其ノ留學スヘキ地ニ出發スヘシ

第十四條　外務省留學生ハ外國留學中學費トシテ一箇年歐米諸國ニ於テハ千二百圓以内亞細亞諸國ニ於テハ七百五十圓以内ヲ給ス

第十五條　前條ノ學費支給方ハ總テ明治二十六年勅令第百七十一號公使館領事館費用條例中規定ノ在勤俸ノ例ニ依ル

第十六條　外務省留學生ノ旅費ハ外國留學地往返其他外務大臣ノ命ニ依リ旅行スルトキ其ノ旅中一切ノ費用ニ充ツル爲之ヲ給ス

第十七條　旅費ハ支度料船車料及日當ノ三種トス

第十八條　支度料ハ留學ヲ命セラレ本邦ヨリ始メテ出發スル場合ニ限リ其ノ留學スヘキ地ノ情況ヲ斟酌シ左ノ範圍内ニ於テ相當ノ額ヲ定メテ之ヲ給ス

一　歐米諸國へ留學スル者ハ銀貨百圓以内

一　亞細亞諸國へ留學スル者ハ銀貨六十圓以内

第十九條　留學ヲ命セラレタル者出發前死去又ハ官ノ都合ニ由リ留學ヲ免シタルトキハ支度料ノ半額ヲ給ス

第二十條　船車料ハ汽船、汽車賃二等ノ實費ヲ給ス但汽船汽車ノ便ナキ地方ニ於テハ外務大臣ヨリ指定シタル標準ニ依リ人馬舟車賃ノ實費ヲ給ス

第二十一條　日當ハ出發ノ日ヨリ到着ノ日マテ其ノ日數ニ應シ左ノ割合ニ依リ陸路ニ在テハ全額海路ニ在テハ三分ノ一ヲ給ス但海陸兩路ニ跨ルノ日ハ全額ヲ給ス

一　歐米諸國　四圓五十錢

一　亞細亞諸國　三圓

第二十二條　船車料及日當支給方ニ關シ本令ニ規定セサルモノハ總テ明治二十六年勅令第百七十一號公使館領事館費用條例ニ依ル但同條例第二十條及第二十二條ハ適用セス

第二十三條　本令ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

（別記甲號雛形）

外務省留學生採用願

私儀何語學講習ノ外務省留學生志願ニ付試驗ノ上御採用相成度此段奉願候也

何府縣郡市町村番地族籍
年月日　本人姓名印
同　保證人姓名印
同　保證人姓名印

外務大臣宛

（別記乙號雛形）

印紙

誓

私儀外務省留學生ヲ命セラルルニ於テハ留學生規程ヲ遵守シ萬一同規程第五條ニ依リ學費及旅費ノ償還ヲ命セラレタル場合ニハ本人又ハ保證人ニ於テ速カニ悉皆償還可致候也

何府縣郡市町村番地
年月日　本人姓名印
同　保證人姓名印
同　保證人姓名印

外務大臣宛

勅令

明治二十五年二月二日第十四號

朝鮮國在勤弊部巡査任用及支給規則ヲ裁可ス

朝鮮國在勤弊部巡査任用及支給規則

第一條　朝鮮國在勤弊部及巡査ハ外務大臣之ヲ任命ス

第二條　朝鮮國在勤弊部ノ任用ハ一般判任官ノ任用法ニ從フ

朝鮮國在勤巡査ノ任用法ハ外務大臣之ヲ定ム

第三條　朝鮮國在勤弊部及巡査ハ同國駐劄帝國公使又ハ同國各地駐在帝國領事又ハ其代理者ノ指揮監督ニ屬ス

第四條　朝鮮國在勤弊部及巡査ハ引續三箇年間勤務スヘキモノトス

傷痍若クハ疾病ニシテ職務ニ從事スルコト能ハサルモノト認ムルトキハ外務大臣ハ前項ノ期限ニ拘ラス其辭職ヲ許可スルコトヲ得

第五條　朝鮮國在勤弊部巡査三箇年以上勤續シタルトキハ外務大臣ハ公務差支ナキ場合ニ限リ本人ノ願ニ依リ往復日數ヲ除キ弊部ハ三箇月巡査ハ二箇月以内賜暇歸朝ヲ許可スルコトヲ得

第六條　朝鮮國在勤巡査ニシテ其職務執行ニ關スル規則又ハ上官ノ命令ニ違背シ又ハ職務上怠慢アルトキハ公使又ハ領事ニ於テ其情狀ヲ審案シ月俸百分ノ一以上一箇月分以下ノ罰俸ヲ科ス但犯狀軽モ輕キ者ハ譴責ニ止ム

犯狀重クシテ公使又ハ領事ニ於テ其職ヲ免スルヲ相當ト認メタルトキハ其情狀ヲ外務大臣ニ具申スヘシ

第七條　前條ニ依リ罰俸ヲ科シタルトキハ月俸三分ノ一以内ノ額ヲ毎月俸給ヨリ控除シテ完納セシム

罰俸完納前ニ於テ本人其職ヲ免セラレ又ハ死亡シタルトキハ之ヲ追徵スルコトナシ

第八條　朝鮮國在勤弊部ノ月俸ハ明治二十四年勅令第八十三號判任官俸給令ニ依ル

朝鮮國在勤巡査ノ月俸ハ八圓乃至拾五圓トス但俸給支給方ハ前項ニ仝シ

第九條　朝鮮國在勤弊部及巡査ニハ月俸ノ外任地若クハ日ヨリ任地出發前日マテ在勤月手當ヲ給ス其金額左ノ如シ

弊部　一箇月貳拾圓乃至三拾圓

巡査　一箇月拾五圓乃至貳拾圓

第十條　臨時ノ須要ニ依リ朝鮮國在勤巡査ニ代用スル傭員ニハ月俸拾圓以内ヲ給シ在勤手當ヲ給セス

第十一條　朝鮮國在勤弊部及巡査ノ旅費ハ明治二十年閣令第十二號外國旅費規則ニ依ル但巡査ハ總テ傭員ノ例ニ倣フ

第十二條　旅費ハ弊部及巡査ノ赴任、官用歸朝、賜暇歸朝、任所發其他官務旅行ノトキニ限リ給スルモノトス

第十三條　朝鮮國在勤巡査又ハ其遺族ニハ左ノ諸項ニ依テ給助ヲ爲ス

第一　勤續四年ニシテ退職スル者ハ一時金貳拾五圓ヲ給ス四年以上九年マテハ一年毎ニ金拾圓ヲ增給ス勤續十年ニシテ退職ノ者ニハ一時金百圓ヲ給シ十年以上ハ一年毎ニ金拾五圓ヲ增給ス

同上ノ年限間勤續シテ死亡シタルトキハ各同上ノ金額ヲ其遺族ニ給ス

第二　職務ノ爲メ負傷又ハ疾病ニ係ル者ハ傷痍又ハ病症ノ輕重ニ依リ適宜療治料ヲ給ス

第三　職務ノ爲メ負傷シ終身不具トナリタル者ハ一時金百圓以上百五十圓以下ニ於テ適宜之ヲ給ス

第四　職務ノ爲メ死亡シタルトキハ第一項第貳ノ外一時金貳百圓ヲ其遺族ニ給ス

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ給助ヲ爲サス

第一　他ノ報酬ヲ受クヘキ官職ニ轉シタルトキ

第二　懲罰ニ依リ免職セラレタルトキ

第十四條　明治十九年外務省令第二號朝鮮國在勤巡査給與規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

勅令

明治二十六年十月三日第百九十一號

陸軍醫學校ノ等級種類等ニ依リ學校長及教諭一名ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第三條　奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ任免ハ文部大臣之ヲ發令宣行シ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ハ府縣知事之ヲ宣行ス

第四條　第二條第二項及第五條ノ例ニ依ル

勅令

明治二十六年十月三日第百九十四號

警視廳任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警視廳任用令

第一條　警視廳ニ左ノ所ノ規則ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得

滿四年以上警視廳主事補ノ職ニ在リタル者ハ文官普通試驗ヲ要セス山林部務ニ關スル判任官ニ任用スルコトヲ得

滿二年以上警視廳警守ノ職ニ在リタル者ハ警視廳主事補ニ任用スルコトヲ得

第二條　本令施行ノ際警視廳主事補又ハ警視廳警守タル者ニシテ引續キ其ノ職ニ在ル者ハ文官普通試驗ヲ要セス大小林區署ノ判任官ニ任用スルコトヲ得

任用ニ關スル明治二十三年勅令第百四十四號ノ改正ヲ裁可シ茲ニ公布セシム

第一條　稅關監吏及監吏補ハ大藏大臣定ムル所ノ試驗規則ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得

第二條　前條ニ依リ任用シタル稅關監吏及監吏補ハ文官普通試驗ヲ要セス稅關局ニ任スルコトヲ得

附則

第三條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

勅令

明治二十六年九月九日第九十六號

朕帝國大學及文部省直轄諸學校雇外國人ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國大學及文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アルトキハ帝國大學總長及直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得

勅令

明治二十四年十二月十二日第二百四十四號

朕公立中學校專門學校技藝學校學校技藝學校職員名稱待遇及任免ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

公立中學校高等女學校專門學校技藝學校職員名稱待遇及任免

第一條　公立中學校高等女學校專門學校技藝學校職員ノ名稱左ノ如シ

學校長

教諭

助教諭

舍監　寄宿舍ノ設アル學校ニ限ル

書記

第二條　學校長教諭助教諭舍監書記ハ判任文官トシ同一ノ待遇ヲ受ク但學校ノ等級種類等ニ依リ學校長及教諭一名ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第三條　奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ任免ハ文部大臣之ヲ發令宣行シ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ハ府縣知事之ヲ宣行ス

勅令

明治二十六年四月十二日第二百十二號

朕奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ任免奏薦及宣行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十四年勅令第二百十七號師範學校官制第二條但書及明治二十四年勅令第二百四十四號女學校專門學校技藝學校職員名稱待遇及任免ニ關スル勅令第二條ニ依リ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル各學校職員ノ任免奏薦及宣行ハ明治二十五年勅令第九十六號高等官等俸給令第四條及第五條ノ例ニ依ル

勅令

明治二十六年十月三日第百九十四號

警守任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警守任用令

第一條　警守ハ警視廳主事補及森林警守ハ農商務大臣定ム

警視廳主事補及森林警守ハ左ノ規則ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得

滿四年以上警視廳主事補ノ職ニ在リタル者ハ文官普通試驗ヲ要セス山林部務ニ關スル判任官ニ任用スルコトヲ得

滿二年以上警視廳警守ノ職ニ在リタル者ハ文官普通試驗ヲ要セス

第二條　本令施行ノ際警視廳主事補又ハ警視廳警守タル者ニシテ引續キ其ノ職ニ在ル者ハ文官普通試驗ヲ要セス大小林區署ノ判任官ニ任用スルコトヲ得

附則

第三條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

明治二十年勅令第八十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

農商務省令

明治二十七年二月十二日第五號

警視廳主事補及森林警守特別任用規則

警視廳主事補及森林警守特別任用令ニ據リ警視廳主事補及森林警守ニ選任スヘキ必要アルトキハ第二十條ニ掲クル者ヲ除クノ外左ノ科目ニ就キ試驗ヲ行フ

一　現行法令講述（刑事及林務ニ關スルモノ）

二　作文（片假交リ文及往復文）

三　算術（算數學全部）

四　珠算（加減乘除）

五　筆寫（楷行）

六　寫圖

七　寫記

八　代數

九　幾何

十　測量

但第二科目中片假名交リ文及第三科目ハ警視廳主事補ノ職ニ在リタル者ハ特別ノ必要アルトキ又ハ受驗者ノ望ニ依リ受驗者ヲシテ其内ニ就キ一若クハ二以上ヲ選擇セシメ之ヲ試驗ス

第二條　年齡滿二十年以上滿四十年以下ノ男子ニシテ身體強健ナルモノハ病傷ノ試驗ヲ受クルコトヲ得但左ノ諸項ノ一ニ該當スルモノハ此限ニアラス

一　重罪犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此限ニアラス
二　定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
三　破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第三條　試驗ハ大林區署長ニ於テ署員二名以上ヲ選定シ委員ヲ命シテ之ヲ行ハシム

第四條　試驗ノ期日及出願期日ハ大林區署長之ヲ定メ試驗期日二十日前便宜ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第五條　受驗者ノ人員ハ採用スヘキ人員ノ十倍ヨリ少カラサル數ニ限ルコトヲ得但此場合ニ於テハ前條ノ公告ト共ニ其人員ヲ公告スヘシ
前項ノ場合ニ於テ受驗出願者滿員ノ時ハ出願期日前ト雖モ願書ヲ受理セス

第六條　試驗ヲ受ケント欲スル者ハ大林區署長ノ指定シタル期日迄ニ履歷書及第七條ノ證明書ヲ添ヘ願書ヲ當該大林區署ニ差出スヘシ其願書履歷書ハ第一號及第二號書式ニ據リ認ムヘシ

第七條　試驗出願者ハ身分職業年齡及免役延期豫備役員ノ年志願兵等ニ關スル事項ヲ證明シタル市區町村長ノ證明書ヲ要ス

第八條　試驗問題ハ大林區署長及試驗委員之ヲ定ムルモノトス

第九條　試驗ノ日割場所及受驗人心得ハ大林區署長之ヲ定メ各受驗人ニ知悉セシムヘシ

第十條　試驗ノ問題ハ林務ニ關スル事項ヲ參酌シ專ラ實務ニ適應セシムルコトヲ要ス

第十二條　試驗ハ筆記及口述ノ二種トス口述試驗ハ筆記試驗ヲ終リタル後之ヲ行フ
口述試驗ハ第一條第二項ニ就キ之ヲ行フ

第十二條　受驗人ハ其試驗ヲ受クルノ際受驗人心得及試驗委員ノ命令ヲ遵守スヘシ怠ス者ハ當該試驗委員ヨリ直ニ退場ヲ命スヘシ其退場ヲ命セラレタル者ハ當期ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十三條　不正ノ方法ヲ以テ合格シタルトキハ其教ヲキモノトス

第十四條　前條ニ依リ合格ノ效ヲ失ヒ又ハ不正ノ方法ヲ以テ合格セント企テタル者ハ再ヒ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條　履歷書中事實ヲ隱匿シ又ハ之ヲ偽リタル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條　試驗ヲ經タル各科目ノ點數及其全體ノ效果ニ關シ合格者ヲ定ムルハ大林區署長及試驗委員ノ議定スル所ニ據ル

第十七條　試驗合格者ノ氏名ハ其試驗ヲ終リタル日ヨリ七日以內ニ便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第十八條　本則ニ依リ試驗ヲ受ケテ合格シタル者ハ大林區署長ヨリ營林主事補又ハ森林監守試驗合格證書ヲ付與スヘシ

第十九條　前條ノ試驗合格證書ヲ有スル者ノ內ヨリ當該大林區署ノ需用ニ應シ營林主事補又ハ森林監守ニ任用スルモノトス
但試驗合格證書有效ノ年限ハ其日附ヨリ滿五年トス

第二十條　左ニ掲クル者ハ試驗ヲ要セス營林主事補及森林監守ニ任用スルコトヲ得但第一項乃至第三項ニ該當スルモノニシテ滿四十年以上ノ者及第四項第五項ニ該當スルモノニシテ二十年未滿又ハ滿四十年以上ノ者ハ此限リニアラス
一　前ニ判任文官ヲ勤メタル者
二　陸軍滿期ノ下士及陸軍滿期ノ上等兵ニシテ下士適任證書ヲ有スル者
三　滿二年以上進級又ハ看守ヲ勤續セシ者
四　滿二年以上府縣立師範學校高等師範學校高等學校公立小學校ノ教員ヲ勤續セシ者
五　林務ニ關スル各官廳ノ屬員トナリ滿二年以上勤續セシ者

第二十一條　本則ニ掲クルモノノ外試驗ニ關スル手續ハ大林區署長ノ定ムル所ニ據ル
書式（用紙英濃紙字體楷行ノ內ニテ明瞭ニ記載シ一號二號各一通）

（第一號）

受驗願

族籍戶主又ハ何某嗣子二三男兄弟
職業
氏　名
生年月

私儀（營林主事補）（森林監守）志願ニ付御試驗被下度別紙履歷書及兵役ニ關スル證明書相添共陸軍願候也

現住所
氏　名　印

年月日

（何）大林區署長何某宛

（第二號）

履歷書

何府縣華士族平民
氏　名
生年月

本籍
一何府縣何市區町何町村何番地戶主又ハ何某男兄弟伯叔父等（現ニ本籍地ニ居住スルトキハ「現今本地ニ居住」ノ數字ヲ加ヘ夫以ノ現今皆留地ヲ書クヘシ）
一何府縣何郡何町村何番地（何某方）寄留
住所ノ移動
一何年何月何日何地ニ生レ何年何月マテ居住
一何年何月何地ニ移轉シ何年何月マテ居住
（住所ヲ移轉セシ毎ニ之ヲ記スヘシ）
學歷
一何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官公立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何年何月ニ至ル所修ノ科目大略何々
一何年何月ヨリ何地官公私立學校ニ入リ何學科ヲ修メ何年何月卒業ス其證書ノ寫別紙ノ如シ
修業ノ年何月間ニシテ其科目何々
一何年何月何地何學校若クハ其他ニ於テ何々ノ試驗ヲ受ケ及第ス其證書若クハ免許狀ノ寫別紙ノ如シ受驗ノ科目ハ何々
職業
一何年何月何日官公私立何學校何科教員トナリ教授ニ從事シ何年何月辭職其間何々ヲ兼勤シ何々ノ事務ニ從事ス其辭令書寫左ノ如シ
（辭令書寫ハ各其全文ヲ掲クヘシ又私立學校等ニテ辭令書ナキモノハ其俸給等ヲ本文ニ記スヘシ）
一何年何月何日何官廳ニ於テ何々拜命何年何月何日マテ何々ノ事務ニ從事シ何年何月何日辭職其官記辭令書寫左ノ如シ
（官記辭令書寫ハ各其全文ヲ掲クヘシ）
一何年何月ヨリ何地何會社ニ傭ハレ（給料何円）何々ノ業務ニ從事シ何年何月ニ至テ解傭何年何月何圓增給減額
一何年何月ヨリ何年何月マテ何業ニ從事ス
一何年何月ヨリ何年何月マテ何々ノ著譯ニ從事シ何年何月ニ至ル其著譯ノ原名ヲモ掲クヘシ）
賞罰
一何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ賞ヲ受ク其辭令書寫左ノ如シ
（辭令書寫ハ其全文ヲ掲ケ辭令書ナキモノハ本文中ニ受賞ノ事由ヲ記スヘシ）
一何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ罰ヲ受ク其辭令書寫宣告書要領左ノ如シ
（辭令書アルモノハ其全文ヲ掲ケ辭令書ナキモノハ本文中ニ其事由ヲ記シ又裁判所ノ宣告書ハ其要ヲ記シ總テ罰ハ其受罰ノ日數、科料罰金ノ額等ヲ記スヘシ）
破産家資分散又ハ身代限處分ノ有無
一何年何月何地ニ於テ破産家資分散又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ何年何月到債ノ辨償ヲ爲シタルコト又ハ破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ何年何月復權シタルコト
（裁判所ノ申渡書ヲ寫ヲ記スヘシ）
一破産若クハ家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタルコトナシ
右之通相違無之候也
年月日
右
氏　名　印

農商務省訓令

明治二十六年十二月十六日第二十五號

明治二十三年當省訓令第五號出納官吏任命規程左ノ通リ改正シ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス

出納官吏任命規程

第一條　大林區本署ニ主任收入官吏ヲ置ク其收入官吏ハ次席林務官又ハ大林區署書記ニ命スルモノトス

第二條　小林區署ニ分任收入官吏ヲ置ク其收入官吏ハ小林區署位置ノ便否區域ノ廣狹納付金庫ノ關係等ヲ參酌シ每小林區署ニ一名若クハ數小林區署ニ一名トシ小林區署所在地ニ在勤スル營林主事又ハ營林主事補ニ命スルモノトス

第三條　官有事業場ニ於テ經費ノ現金前渡ヲ要スルトキ現金前渡ヲ受クル官吏ハ掛員首席者ニ命スルモノトス

第四條　官有林野調査上使用スル雇人料及雜費ノ現金前渡ヲ要スルトキ現金前渡ヲ受クル官吏ハ掛員首席者ニ命スルモノトス

第五條　臨時ニ現金前渡ヲ受クル官吏ヲ設クルノ必要アルトキハ其都度農商務大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第六條　歲入歲出外ノ現金出納官吏ヲ置クノ必要アルトキハ大林區署ニアリテハ次席林務官又ハ大林區署書記ニ小林區署ニアリテハ營林主事又ハ營林主事補ニ命スルモノトス

第七條　前各條ノ官吏ハ大林區署長之ヲ任免シ其都度左ノ書式ニ據リ當省ハ屆出ヘシ

甲號書式

出納官吏任免屆

何官吏（收入官吏、現金前渡ヲ受クル官吏、歲入歲出外現金出納官吏各職每ニ區別掲載スヘシ）

任免年月日	住所	氏名	現金前渡ヲ受ケタル年月日	現金前渡ヲ受ケタル額	現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ氏名	現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ住所	任免年月日	任免ノ理由

右任免候ニ付此段及御屆候也

年月日　大林區署長　官　氏　名印

農商務大臣宛

備考

一所定身元保證金ナキモノハ朕欄ニ針線ヲ施スヘシ乙號書式亦同シ

一前任者ナキモノノ任命ハ朕欄ニ針線ヲ施スヘシ乙號書式亦同シ

乙號書式

出納官吏交替事務授受清届

何官吏（揭表方甲號書式ニ同シ）

在職者氏名	在職者官職	身元保証金額	前任者官氏名	後任者官氏名	事務授受年月日

右ハ明治何年何月何日何號ヲ以テ任免御屆濟ノ者事務授受ヲ了シ候ニ付此段及御屆候也

年月日　大林區署長　官　氏　名印

農商務大臣宛

備考

一會計規則第百條ニ據リ代務員ヲ以テ事務ノ授受ヲ了シタルトキハ備考ヲ付シ其事由ヲ記載スヘシ

勅令

明治二十年十二月十五日第六十六號　陸海三等郵便局長任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

三等郵便局長ハ其地ニ在住シ相當ノ資産アル者ヲ選任スルノ必要アルヲ以テ遞信大臣別ニ採用規則ヲ定メテ之ヲ選任スヘシ但該規則ニ依リ選任シタル三等郵便局長ハ他ノ判任官ニ任スルコトヲ得ス

遞信省令

明治二十一年四月二十七日第二號　明治二十年（十二月）勅令第六十六號ニ據リ三等郵便局長採用規則左ノ通之ヲ定ム

三等郵便局長採用規則

第一條　三等郵便局長ハ左ノ各款ヲ具備スル者ヨリ之ヲ採用スヘシ

第一款　其三等郵便局所在地ニ在住スル者

第二款　實價貳百圓以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有スル者

但滿三年以上郵便又ハ電信事務ニ從事スル官吏ハ記名公債證書ヲ以テ之ニ充用スルコトヲ得

第三款　日常ノ筆墨ニ通スル者

第四款　別ニ定ムル三等郵便局長服務規約ヲ遵奉スル者

第五款　年齢滿二十年以上ノ男子

第二條　職員ニ職務ヲ奉シタル三等郵便局長老年又ハ疾病其他ノ事故ニ依リ其職ヲ辭スルカ或ハ在官中死亡セシトキ其嗣子又ハ相續人タル男子年齢滿十六年以上ニ及フモノハ第一條第五款ノ制限ニ拘ハラス特ニ採用スルコトアルヘシ

第三條　非戸主ニシテ其戸主實價貳百圓以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有スル者保證スルニ於テハ其本人ノ資産第一條第二款ニ適合セサルモ特ニ之ヲ採用スルコトアルヘシ

遞信省訓令

明治二十一年五月一日第四號　遞信管理局三等郵便局長ヲ採用スルトキハ左ノ手續ニ依リ之ヲ執行スヘシ

第一條　三等郵便局長ノ採用ヲ要スルトキ遞信管理局長ハ三等郵便局長採用規則ニ合格スルモノノ中ニ就キ郵便事務ニ適當ナリト認ル者ヲ選出シ被選人ノ諾否及身元引受人ノ書面ヲ取調履歴書（書式一號）ヲ添ヘテ之ヲ推薦スヘシ

但辭職出願者又ハ死亡者若クハ犯罪ニ依リ官職ヲ失ヒタル者アルトキ後任ヲ要スル場合ヲ除ク外ハ本大臣ノ指揮ヲ待チ後選出スヘシ

第二條　遞信管理局長ハ時宜ニ依リ三等郵便局長ノ選出ヲ部員長ニ囑託スルコトヲ得

第三條　遞信管理局長ニ於テ三等郵便局長ノ任官辭令書ヲ傳達スルトキハ受書（書式二號）及身元引受證書（書式三號）本人非戸主ナルトキハ戸主ノ保證（書式四號）ヲ差出サシメ之ヲ本大臣ニ報告シ且採用ノ旨ヲ其地方長官戸部區長ニ通知スヘシ其免官ノトキ亦同シ

第四條　三等郵便局長ヲシテ爲替又ハ貯金ヲ取扱ハシムルトキハ遞信管理局長ニ於テ別ニ定ムル規程ノ保證品ヲ徵取スヘシ

第五條　被選人ヨリ差出シタル書類及前條ノ保證品ハ遞信管理局ニ保管スヘシ

書式第一號

履歴書

遞府縣第七旗本民

姓　名　印

生年月日

本籍

一遞府縣何國何郡區何町村何番地戸主又ハ何某男兄弟伯叔父母（現ニ本籍地ニ居住スルトキハ「現今本地ニ居住」ノ數字ヲ本項ニ加ヘ次項ノ現今寄留地ヲ書クヘシ）

住所ノ移動

一何年何月何日何地ニ生レ何年何月何日マテ居住

一何年何月何日何地ニ移轉シ何年何月何日マテ居住

戸籍ノ異動

一何年何月何日遞府縣何郡區何町村何番地族籍某

方ヘ養子入婿附籍等

一何年何月何日遞府縣何郡區何町村何番地族籍某方ヘ復籍等異動アル毎ニ之ヲ記スヘシ

兵役

一何年何月何日何鎮臺ニ入營何年何月何日何卒トナリ何年何月何日歸休ヲ命セラレ何年何月何日常備役滿期豫備軍ニ編入等兵役上ノ事項ヲ記載スヘシ

學事

一何年何月何日ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何年何月何日ニ至ル所修ノ科目大略何々

一何年何月何日ヨリ何地官公私立何學校ニ入リ何學科ヲ修業シ何年何月何日卒業ス其證書ノ寫別紙ノ如シ修業何年何月間ニシテ其科目ハ何々

職業

一何年何月何日ヨリ何業ヲ營ム（何業ヲ兼子營ム）

一何年何月何日何業ヲ廢ス

一何年何月何日ヨリ何地何會社ニ傭ハレ（給料何圓）何々ノ業務ニ從事シ何年何月何日ニ至テ解傭其間給料ノ增減

一何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ何業ニ從事ス

一何年何月何日ヨリ何々ノ著譯ニ從事シ何年何月何日ニ至ル其著譯スル所ノ書名左ノ如シ

著譯書名ヲ掲クヘシ

官職

一何年何月何日何地官公私立何學校何科教員トナリ教授ニ從事シ何年何月何日解職其間何々ヲ兼勤シ何々ノ事務ニ從事ス以上ノ辭令左ノ如シ

此所ニ辭令ノ全文ヲ各通トモ掲クヘシ又私立學校等ニテ辭令ナキモノハ其俸給等ヲ本文ニ記スヘシ

一何年何月何日何官廳ニ於テ何々拜命何年何月何日ヲ何々ノ事務ニ從事シ何年何月何日辭職以上ノ辭令左ノ如シ

辭令ノ全文ヲ掲クヘシ

賞罰

一何年何月何日何地ニ於テ何々事由ノ爲メ賞ヲ受ク其辭令左ノ如シ

辭令全文ヲ掲ケ辭令ナキモノハ本文中ニ受賞ノ事由ヲ記スヘシ

一何年何月何日何地ニ於テ何々事由ノタメ罰ヲ受ク

辭令アルモノハ各其全文ヲ掲ケ辭令ナキモノハ本文中ニ其事由ヲ記シ又裁判所ノ宣告書ハ其要ヲ記スヘシ總テ罰ハ其受罰ノ日數科料罰金ノ額等ヲ記スヘシ

身代限リノ有無

一何年何月何日何地ニ於テ身代限ノ處分ヲ受ケ何年何月何日負債辨償濟（身代限ノ處分ヲ受ケタルコトナシ）

右ノ處分ニ付裁判所ノ申渡ヲ記スヘシ

右

年月日　姓　名　印

何遞信管理局長姓名殿

書式第二號

御請書

（此ニ辭令書ノ通リ記載ス）

右御請仕候以上

年月日　三等郵便局長　姓　名　印

遞信大臣姓名殿

書式第三號

身元引受證書

何國何郡區何町村何某三等郵便局長ニ御採用ニ付身元引受ニ相立候ニ付テハ三等郵便局長身元引受人御規則ニ從ヒ誠實ニ其責任ヲ盡シ可申候仍テ證書差上候也

遞府縣何國何郡區何町村何番地住戸主

族籍職業

年月日　姓　名　印

何遞信管理局長姓名殿

書式第四號

保證書

今般私長次男某三等郵便局長拜命候ニ付テハ本人奉務中御局ニ對シ萬一上納金其他官物等ニ付弊損可仕旣相生候節ハ本人ハ勿論私ノ財産ヲモ盡シ辨納可仕候仍テ證書差上候也

遞府縣何國何郡區何町村何番地住戸主

族籍職業　姓　名　印

年月日

何遞信管理局長姓名殿

遞信省訓令

明治二十一年五月一日第三號　三等郵便局長ノ採用ニ關シ郡區長戸長ハ遞信管理局長ノ照會又ハ依托ニ應シ便宜進薦候樣從來郡區長戸長ニ達示スヘシ

遞信省令

明治二十二年四月一日第五號　北海道區等下及島地ノ三等郵便局長ハ當分ノ內三等郵便局長採用

規則第一條第二款ノ制限ニ滿タサル者ト雖採用スルコトアルヘシ

勅令 明治二十一年六月十三日第四十五號 朕三等電信局長ノ選任及手當ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

三等電信局長ハ三等郵便局長ノ例ニ依リテ選任シ手當ヲ支給スヘシ

勅令 明治二十六年十月三十日第百九十五號 朕遞信省鐵道書記補郵便電信書記補及郵便爲替貯金書記補任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遞信省鐵道書記補郵便電信書記補及郵便爲替貯金書記補任用令

第一條 遞信省鐵道書記補、郵便電信書記補及郵便爲替貯金書記補ハ遞信大臣定ムル所ノ試驗規則ニ依リ任用スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ任用シタル判任官ニシテ滿四年以上其ノ職ニ在リタル者ハ文官普通試驗ヲ要セス遞信部內ノ判任官ニ任用スルコトヲ得

第三條 本令施行ノ際鐵道驛長又ハ郵便及電信局書記補、郵便爲替貯金管理所書記補ノ職ニ在ル者ハ遞信省鐵道書記又ハ郵便電信書記、郵便爲替貯金書記ニ任用スルコトヲ得

附則

第四條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第百三十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

閣令 明治二十一年五月二十八日第八號 東京電信學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ事務練習ヲ要セス直ニ遞信技手ニ任スルコトヲ得

勅令 明治二十四年九月十四日第百九十二號 朕東京郵便電信學校卒業生任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京郵便電信學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ文官普通試驗及事務練習ヲ要セス直ニ郵便電信ニ關スル判任官ニ任用スルコトヲ得

但本令ニ依リ任用セラレタルモノハ普通試驗ヲ經ルニアラサレハ他ノ判任官ニ任スルコトヲ得ス

勅令 明治二十二年六月五日第八十號 朕會計檢査官資格ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計檢査院法第六條ニ依リ會計檢査官ハ左ノ資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

第一 年齡滿三十歲以上ノ者

第二 五年以上檢査官補又ハ五年以上他ノ高等行政官タル者但試補勤務年數ハ之ヲ算ス

勅令 明治二十五年七月八日第六十一號 朕檢査官補特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 會計檢査院ニシテ五年以上檢査院ニ奉職シ現ニ三級以上ノ俸給ヲ受ケ功績顯著ナル者ハ高等試驗ヲ要セス高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ檢査官補ニ任用スルコトヲ得

第二條 本令ニ依リ任用シタル檢査官及他ノ高等官ニ轉任スルコトヲ得ス

勅令 明治二十三年二月四日第九號 朕郡區長任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 郡區長ハ五箇年以上官務ニ從事シ判任官三等以上ノ現職ニ在ル者ニ限リ當分ノ內試驗ヲ要セス高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得ス

第二條 郡區長ハ五箇年以上官務ニ從事シ判任官五等以上ノ現職ニ在ルモノニ限リ當分ノ內試驗ヲ經スシテ任用シタル警部警部補ハ普通試驗ヲ經スシテ任用シタル警部警部補ハ普通試驗ヲ經ルニアラサレハ他ノ判任官ニ轉スルコトヲ得ス

勅令 明治二十三年七月十五日第百四十六號 朕看守奉職滿五年以上ノ者ヲ看守長看守副長ニ任用スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

看守奉職滿五年以上ニシテ精勤證書ヲ有シ現ニ其職ヲ奉スル者ハ文官試驗試補及見習規則第二條ノ規定ニ據ラス文官普通試驗委員長ノ銓衡ヲ經テ看守長看守副長ニ任用スルコトヲ得

但試驗ヲ經スシテ任用シタル警部警部補ハ普通試驗ヲ經ルニアラサレハ他ノ判任官ニ轉スルコトヲ得ス

內務省訓令 明治二十四年九月三日第二十一號

巡査採用規則

第一條 巡査ハ必試驗ノ上採用スヘキモノトス

但陸海軍規約滿期下士以上ノ者及巡査精勤證書ヲ有スル者並ニ曾テ警部警部補タリシ者ニシテ巡査ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス

第二條 巡査志願者ハ品行方正年齡二十一年以上四十年未滿ニシテ徵兵ニ相當セス且ツ左ノ諸項ニ抵觸セサル者タルヘシ

一 重罪ノ刑又ハ重禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ同上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シ罪ニ監視ニ附セラレタル者及輕禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經過セサル者但荷法ニ依リ笞體ノ刑ニ處セラレタル者ハ總テ本文ノ權衡ニ準ス

二 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者

三 巡査懲罰例又ハ官吏懲戒例ニ依リ免職セラレ若クハ故ナク辭職シ二年ヲ經過セサル者

四 身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分散者タルノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者又ハ從前身代限ノ處分ヲ受ケ神債ノ義務ヲ終ヘサル者

五 酒癖アル者又ハ暴行ノ癖アル者

第三條 巡査體格ノ檢査ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

一 體質善良ナル者即チ左ニ記載スル等ノ缺所ナキ者

四肢完具セサル者但執筆把提ニ差支サル指ノ欠小彎屈強直等ノ類ハ此限リニアラス

胸腹機關及腹內臟器若クハ皮膚病較著ノ疾病アル者但較著ノ疾病ニアラサルモ全身衰弱ノ機能減退ノ者亦同シ

眼裝又ハ運動ニ不便ナル者

貧生物畸形等容貌醜惡ナル者

二 身幹五尺一寸以上ニシテ胸圍大約身長ノ半ニ等シク呼吸擴張ノ差一寸以上ノ者

三 兩眼共視力三分ノ二以上ニシテ辨色力完全ノ者

四 聽力六尺ノ距離ニ於テ低語ヲ聽取シ得ル者

五 言語應答明瞭ニシテ光分ノ發聲ニ堪ヘル者

六 精神完全ナル者即チ精神病及神經病（詳發類任疑狀及詐瘋ヲ鑑別等ノ病）ナキ者

第四條 巡査技藝ノ試驗ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

一 刑法刑事訴訟法警察法規等ノ大要ニ通スル者

第二條 明治二十三年二月勅令第九號第一條ニ依リ郡區長ニ任用スル判任官ハ現ニ五級以上ノ俸給ヲ受クル者ニ限ル

第二條 明治二十三年十月勅令第二百二十七號第一條ニ依リ府縣參事官典獄ニ任用スル判任官ハ現ニ四級以上ノ俸給ヲ受クル者ニ限ル

第三條 明治二十四年四月勅令第三十七號第一條ニ依リ警察署長ニ補スヘキ警視ニ任用スル判任官ハ現ニ四級以上ノ俸級ヲ受クル者ニ限ル

勅令 明治二十六年十月三十日第百九十六號 朕警視總監北海道總府縣及集治監判任官中月俸十二圓未滿ノ者特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 警視總監、北海道總、府縣（島總郡區ヲ包含ス）及集治監判任官中月俸十二圓未滿ノ者ハ試驗ヲ要セス文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ任用シタル判任官ニシテ滿五年以上勤續シ現ニ其ノ職ヲ奉スル者ハ月俸十二圓以上ノ其ノ總判任官ニ任用スルコトヲ得

附則

第三條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

勅令 明治二十三年二月四日第十號 朕巡査奉職滿五年以上ノ者ヲ警部警部補ニ任用スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

巡査奉職滿五年以上ニシテ精勤證書ヲ有シ現ニ其職ヲ奉スル者ハ文官試驗試補及見習規則第二條ノ規定ニ據ラス文官普通試驗委員長ノ銓衡ヲ經テ警部警部補ニ任用スルコトヲ得

勅令 明治二十四年十一月二十日第二十一號 朕郡區長府縣參事官典獄警視特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郡區長試驗委員長ノ銓衡ヲ經テ郡區長ニ任用セラルル者他ノ道廳府縣ノ郡區長ニ轉任スルトキハ更ニ郡區長試驗委員長ノ銓衡ヲ經ヘシ

第三條 郡區長驗試委員長ノ銓衡ヲ經テ任用シタル郡區長ハ高等試驗ヲ經ルニアラサレハ他ノ高等官ニ轉任スルコトヲ得ス

勅令 明治二十三年十月十日第二百二十七號 朕府縣參事官及典獄特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣參事官典獄特別任用令

第一條 府縣參事官並典獄ハ五箇年以上官務ニ從事シ判任官三等以上ノ現職ニ在ル者ニ限リ當分ノ內試驗ヲ要セス高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用シタル府縣參事官並典獄ハ高等試驗ヲ經ルニ非レハ各他ノ高等官ニ轉任スルコトヲ得ス

勅令 明治二十四年四月一日第三十七號 朕警察署長ニ補スヘキ警視特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 警察署長ニ補スヘキ警視ハ五箇年以上警部ニ奉職シ判任官三等以上ノ現職ニ在ル者ニ限リ當分ノ內試驗ヲ要セス高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ任用シタル警視ハ高等試驗ヲ經ルニ非レハ他ノ高等官ニ轉任スルコトヲ得ス

勅令 明治二十四年十一月二十六日第二百三十七號 朕郡區長府縣參事官典獄警視特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布

二　本邦歷史及地理ノ大略ニ通スル者
三　假名交リノ論文及書簡往復文ヲ作リ得ル者
四　算術加減乘除ヲ爲シ得ル者
五　普通ニ楷書又ハ行書ヲ書キ得ル者

第五條　巡査ノ試驗ハ廳府縣巡査教習所ニ於テ警部二名以上立合ノ上巡査教習所長之ヲ施行スヘシ

第六條　試驗ノ上巡査ニ採用スヘシト定リタル者ハ警視廳ニ於テハ巡査本部長北海道廳及府縣ニ於テハ警部長親ク左ノ條件ヲ宣告シ誓書ヲ徵シタル上採用ス可シ

一　巡査タル者ハ官吏服務紀律ヲ恪守スヘキハ言ヲ俟タス常ニ上官ノ命令ヲ遵守シ勤務中ハ勿論勤務ニ服セサルトキト雖モ猥ニ政治ノ是非得失ヲ論評スルカ如キコト決シテアルマシキ事
一　巡査タル者ハ常ニ人民ノ保護者タルコトヲ記憶シ之ニ對シ丁寧親切ヲ旨トシ而モ之ト相狎職スルカ如キコトナク職務上ニ於テ負擔スル百般ノ責務ハ最モ嚴正忠實ニ之ヲ踐行スヘキ事
一　巡査タル者ハ一端拳職ノ上ハ他念ナク職務ニ從事シ五箇年未滿ニシテ一身ノ故ヲ以辭職スルカ如キコト決シテアルマシキ事
一　巡査タル者ハ自身ハ勿論家族ニ至ル迄專ラ品行ヲ正シクシ警察官吏タリ又其家族タル體面ヲ汚損スルカ如キ所業決シテアルマシキ事

第七條　巡査タルヘキ者ヨリ呈セシムヘキ誓文ハ左ノ如シ但前條各官ノ面前ニ於テ本人ヲシテ自書捺印セシム可シ

誓文

今般何（廳府縣）巡査志願仕候ニ付御採用ヲ被ルニ於テハ官吏服務紀律ヲ恪守仕ルヘキハ勿論人民ニ對シテハ丁寧親切ニ職務ヲ執行シ且ツ總テノ法律命令ヲ遵守シ職任上百般ノ責務ハ嚴正忠實ニ踐行仕ルヘク又奉職五箇年ニ滿タスシテ一身ノ故ヲ以テ自ラ職務御免相願候樣ノ儀決シテ無之且ツ自身ハ勿論家族ニ至ル迄品行方正ニ相保チ警察官吏タリ又其ノ家族タル體面ヲ汚損致シ候樣ノ所業決シテ仕マシク依テ誓文如件

明治年月日　　府縣國郡市町村番地身分
何　　某　　實印

第八條　新ニ採用スル巡査ハ先ツ三級俸ヲ給スヘシ其陸軍現役滿期ノ下士及巡査精勤證書ヲ有スル者ニ係ルトキハ直ニ二級俸ヲ給スルコトヲ得但陸軍現役滿期ノ下士ニシテ士官適任證書ヲ有スル者ハ特ニ一級俸ヲ給スルコトヲ得

勅令

明治二十六年十一月十日第二百九號

貴族院竝ニ衆議院ノ守衛奉職滿五年以上ニシテ現ニ其ノ職ニ在ル者ハ試驗ヲ要セス文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ貴族院又ハ衆議院ノ守衛長若クハ守衛番長ニ任用スルコトヲ得

第一回帝國議會會期前又ハ其ノ會期中ニ貴族院又ハ衆議院ノ守衛ヲ命セラレ引續キ其ノ職ニ在ル者ハ其ノ奉職年數ニ拘ラス前項ニ依ルコトヲ得

勅令

明治二十四年七月二十四日第百十三號

貴族院竝ニ衆議院ノ守衛番長特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　新ニ採用スル巡査ハ先ツ三級俸ヲ給スヘシ其陸軍現役滿期ノ下士及巡査精勤證書ヲ有スル者ニ係ルトキハ直ニ二級俸ヲ給スルコトヲ得但陸軍現役滿期ノ下士ニシテ士官適任證書ヲ有スル者ハ特ニ一級俸ヲ給スルコトヲ得

勅令

明治二十六年十一月十九日第二百九十號

貴族院竝ニ衆議院ノ守衛長及守衛番長特別任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貴族院竝ニ衆議院ノ守衛奉職滿五年以上ニシテ現ニ其ノ職ニ在ル者ハ試驗ヲ要セス文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ貴族院又ハ衆議院ノ守衛長若クハ守衛番長ニ任用スルコトヲ得

第一回帝國議會會期前又ハ其ノ會期中ニ貴族院又ハ衆議院ノ守衛ヲ命セラレ引續キ其ノ職ニ在ル者ハ其ノ奉職年數ニ拘ラス前項ニ依ルコトヲ得

勅令

明治二十六年十月三十日第百九十號

長及北海道集治監分監長及北海道監獄典獄ハ五箇年以上官務ニ從事シ現ニ判任官六級以上ノ俸給ヲ受クル者ニ限リ當分ノ內試驗ヲ要セス文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

第一條　北海道集治監分監長及北海道監獄典獄ハ五箇年以上官務ニ從事シ現ニ判任官六級以上ノ俸給ヲ受クル者ニ限リ當分ノ內試驗ヲ要セス文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

第二條　前條ニ依リ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用シタル北海道集治監分監長及北海道監獄典獄ハ高等試驗ヲ經サル者ハ他ノ高等官ニ轉任スルコトヲ得ス

附則

第三條　本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

勅令

明治二十六年十月三十日第百九十號

鳥司ノ任用ニ就テハ明治二十三年勅令第九號ヲ適用ス

內務省訓令

明治二十六年十二月十九日第二十六號（總府縣（東京府ヲ除ク）集治監看守採用規則左ノ通相定ム

看守採用規則

第一條　看守ハ必ス試驗ノ上採用スヘキモノトス但看守精勤證書ヲ有スル者竝ニ替ヲ看守長タリシ者ニシテ看守ヲ志願スル者ハ此限ニアラス

第二條　看守志願者ハ品行方正年齡二十一年以上四十年未滿ニシテ徵兵ニ相當セス且ツ左ノ諸項ニ抵觸セサルモノタルヘシ

一　重罪ノ刑又ハ懲役禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ同上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シ現ニ監視ニ付セラレタル者及輕懲役禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經過セサル者但舊法ニ依リ處

二　刑セラレタル者亦之ニ準ス
三　賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者
三　看守巡査懲罰例又ハ官吏懲戒例ニ依リ免職セラレ若クハ自己ノ便宜ニ依リ看守ヲ辭職シ二年ヲ經過セサル者
四　身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分散者タルノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者又ハ從前身代限ノ處分ヲ受ク未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者
五　酒癖アル者又ハ暴行ノ癖アル者

第三條　看守志願者ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

一　體質強壯ナル者即チ左ニ記載スル等ノ缺所ナキ者
四肢完具セサル者但執筆把握ニ差支サル指ノ類小彎屈強直等ノ類ハ此限ニアラス
胸腔機關及腹內臟器若クハ皮膚病較著ノ疾病アル者但較著ノ疾病ニアラサルモ全身諸機關ノ機能減退ノ者亦同シ
服裝又ハ運動ニ不便ナル者
發生物畸形等容貌體勢醜惡ナル者
身幹五尺一寸以上ニシテ胸圍大約身長ノ半ニ等シク呼吸擴長ノ差一寸以上ノ者
二　國眼共視力三分ノ二以上ニシテ辨色力完全ノ者
三　聽力六尺ノ距離ニ於テ低語ヲ聽識シ得ル者
四　言語應答明瞭ニシテ充分ノ發聲ニ堪ユル者
五　精神完全ナル者即チ精神病及神經病（癲癇瘋狂癡獃及類諸病類類等ノ病）ナキ者
六　看守技藝ノ試驗ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス
一　刑法、刑事訴訟法、裁判所構成法、監獄則、監獄則施行細則等ノ大要ニ通スル者
二　普通往復文及申告書ヲ作リ得ル者
三　加減乘除ヲ爲シ得ル者
四　普通ニ楷書又ハ行書ヲ書キ得ル者

第五條　看守ノ試驗ハ看守長竝ニ監獄書記二名以上立合ノ上第二課長之ヲ施行スルモノトス

第六條　試驗ニ合格セシ者一年內ハ其合格ヲ有效トス但體格ハ此限ニアラス

第七條　試驗ノ上看守ニ採用スヘシト定リタル者ハ典獄親ク左ノ諸件ヲ宣告シ誓書ヲ徵シタル上採用スヘシ

一　看守タル者ハ官吏服務紀律ヲ恪守スヘキハ言ヲ俟タス常ニ上官ノ命令ヲ遵守シ勤務中ハ勿論勤務ニ服セサルトキト雖モ猥ニ政治ノ是非得失ヲ論評スルカ如キコト決シテアルマシキ事
一　看守タル者ハ在監人ト相狎昵スルカ如キコトナク職務上ニ於テ負擔スル百般ノ責務ハ最モ嚴正忠實ニ之ヲ踐行スヘキ事
一　看守タル者ハ一旦奉職ノ上ハ他念ナク職務ニ從事シ一身ノ故ヲ以テ辭職スルカ如キコト決シテアルマシキ事
一　看守タル者ハ自身ハ勿論家族ニ至ル迄專ラ品行ヲ正シクシ監獄官吏タリ又其家族タル體面ヲ汚損スルカ如キ所業決シテアルマシキ事

第八條　看守タルヘキ者ヨリ呈セシムヘキ誓文ハ左ノ如シ但典獄ノ面前ニ於テ本人ヲシテ自書捺印セシムヘシ

誓文

今般何（廳府縣集治監）看守志願仕候ニ付御採用ヲ被ルニ於テハ官吏服務紀律ヲ恪守仕ルヘキハ勿論在監人ニ對シテハ決シテ相狎昵スルカ如キコトナク總テノ法律命令ヲ遵守シ職任上百般ノ責務ハ嚴正忠實ニ執行仕ルヘク又一身ノ故ヲ以テ自ラ職務御免相願候樣ノ儀決シテ無之且ツ自身ハ勿論家族ニ至ル迄品行方正ニ相保チ監獄官吏タリ又其家族タル體面ヲ汚損致シ候樣ノ所業決シテ仕ルマシク依テ誓文如件

明治年月日　　府縣國郡市町村番地身分
何　　某　　實印

第九條　本則ヲ施行スル方法細目ハ警視總監北海道廳長官府縣知事之ヲ定メ內務大臣ニ報告スヘシ

勅令

明治二十六年十月三十日第百九十三號

府縣立師範學校長特別任用令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣立師範學校長ハ高等師範學校ノ卒業證書ヲ有スル者又ハ學位若クハ學士ノ稱號ヲ有シ一箇年以上教育ニ關スル公務ニ從事シタル者又ハ三箇年以上教育ニ關スル公務ニ從事シ現ニ三十圓以上ノ月俸ヲ受クル判任官又ハ判任官待遇ノ者ニ限リ試驗ヲ要セス文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

勅令

明治二十六年十二月二十日第二百六十號

市町村立小學校教員任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市町村立小學校教員ハ市長又ハ郡長ノ推薦ニ由リ小學校教員銓衡委員ノ銓衡ヲ經テ府縣知事之ヲ任ス

第一條　市町村立小學校教員ハ市長又ハ郡長ノ推薦ニ由リ小學校教員銓衡委員ノ銓衡ヲ經テ府縣知事之ヲ任ス

第二條　小學校教員銓衡委員ハ府縣知事ノ指命スル所ノ府縣高等官及判任官各一人平常師範學校長及其ノ教員二人ヲ以テ組織ス

第三條　明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第五十九條第一項第二項第三項ハ刪除ス

文部省令

明治二十四年十一號　明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令第五十六條ニ基キ小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則

第一條　小學校教員ハ學校ノ種類學級ノ編制等ニ應シ相當ノ資格アル者ヲ任用スヘシ

第二條　市町村立小學校長ハ本科正教員中ニ就キ兼任スルヲ常例トス

第三條　府縣知事ニ於テ市町村立小學校ニ正教員ヲ任用スヘキ場合ニ當リ適當ノ正教員タルヘキ者ヲ得ルコト能ハスト認ムルトキハ期限ヲ定メテ准教員ヲ任用スルコトヲ得

前項ニ依リ一時教授スル准教員ハ其年齡男子ハ二十年以上女子ハ十八年以上ナルコトヲ要ス

第四條　府縣知事ニ於テ市町村立小學校正教員ヲ轉任セシメントスルニ當リ若シ之カ爲メ正教員ヲ准教員トナシ又ハ俸給ヲ減少スヘキ場合ニ於テハ本人ノ意ニ反シテ之ヲ行フコトヲ得ス但特別ノ事情アリト認ムルトキハ此限ニ在ラス

第五條　府縣知事ニ於テ市町村立小學校ノ正教員左ノ事項ニ該當スト認ムルトキハ其情狀ニ依リ休職ヲ命スヘシ但休職ノ期限ハ一箇年以内トス

一　傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタル者其職務ヲ行フニ妨ケアルコト二箇月以上ニ及フト

二　學校編制ノ變更等ニ依リ其人ヲ要セサルニ至リタルトキ

休職者ハ職務ニ從事セス及俸給ヲ減セラレ又ハ全ク之ヲ受ケサル等ノ外總テ本職者ト異ナルコトナシ

第六條　府縣知事ニ於テ市町村立小學校ノ正教員左ノ事項ニ該當スト認ムルトキハ退職ヲ願出テタルトキシ

一　正當ノ理由ニ基キ退職ヲ願出テタルトキ

二　傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ終身其職務ニ堪ヘサルトキ

三　休職ノ期限滿ツルモ休職ヲ命シタル事由消滅セサルトキ

四　休職者ノ代員トシテ任用セラレタル場合ニ於テ休職者ノ復職スルトキ

從前ノ成規ニ依リ授與シタル小學校教員免許狀又ハ之ト同一ノ效ヲ有スル小學師範學科卒業證書ヲ有シ教員タル者ニシテ其有效期限滿ツルトキハ特ニ辭令書ヲ用ヒスシテ前項ニ依リ退職ヲ命シタル者ト同一ニ見做スヘシ

第七條　府縣知事ハ休職退職ノ事由ニ關シ第五條第六條ノ例ニ依リ疑キモノアル場合ニ於テハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケテ特別ノ處分ヲナスコトヲ得

第八條　市町村立小學校長及教員ノ任用休職復職退職等ニハ辭令書ヲ交付スヘシ

第九條　私立小學校長ハ其小學校ノ教員中ニ就キ兼任スルヲ常例トス

第十條　第三條准教員任用ノ規程ハ私立小學校ニ關シ之ヲ適用ス但任用ノ期限ハ其設立者ニ於テ之ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條　私立小學校ノ學校長及教員ノ任用解職ハ其設立者ヨリ府縣知事ニ開申スヘシ

第十二條　此規則ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

宮内省達

明治二十三年六月十二日第六號　宮内省判任官中醫員藥劑師掌典補醫部醫部補准判任中内舍人監守ノ陞級年限ハ二等三等ハ仲等在職四年四等五等六等ハ每等在職二年トス

第三欵　武官任用

勅令

明治二十六年五月十九日第五十號　陸海軍將校相當官交互轉任ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸海軍將校相當官ニシテ其職務ノ性質相均シキ者ハ陸海軍互ニ轉官任用スルコトヲ得此場合ニ於テ其實役停年ハ前後通算ス

勅令

明治二十六年十二月十六日第二百五十號　陸海軍高等武官任用條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　海軍高等武官任用條例

海軍高等武官ハ各其ノ武官候補生ヨリ任用ス

第二條　候補生ハ一箇年以上實務練習ノ後學術及實務試驗ヲ行ヒ合格シタル者ニ就キ候補者簿ヲ作リ本官ニ任用ス

第三條　候補者簿ノ列序ハ學術及實務試驗ノ成績順序ニ依リ之ヲ定ム

第四條　海軍ノ官費生徒ト爲リ外國ニ留學シ適當ノ卒業證書ヲ得タル者ハ其ノ成績ニ照シ相當ノ

本官ニ任用スルコトヲ得

私費ヲ以テ外國ニ留學シ相當ノ學術ヲ修メ卒業ノ後海軍出身志願ノ者ハ試驗ヲ行ヒ其ノ成績ニ照シ特ニ其ノ學科相當ノ本官ニ任用スルコトアルヘシ

前二項ノ場合ニ於テモ初メテ海軍高等武官ニ任用スルハ少尉若クハ其ノ相當官ニ限ル

第五條　海軍少軍醫ハ必要ノ場合ニ於テ帝國大學醫科大學卒業ノ者ニ就キ身體檢査學術試驗ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ任用スルコトヲ得

第六條　海軍少主計ハ必要ノ場合ニ於テ文官高等試驗ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者ニ就キ身體檢査ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ任用スルコトヲ得

第七條　海軍高等武官ニシテ特別ノ學術技能ヲ有シ且事績顯著ナル者ハ其ノ學術技能ヲ要スル他ノ海軍高等武官ニ轉任セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ實役停年ハ前後通算ス

第八條　海軍少軍醫及海軍少主計タランコトヲ欲スル者ハ海軍大臣ノ告示ニ從ヒ出願スヘシ

第九條　第四條第二項及第五條ノ者ニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ任用スルコトヲ得ス

一　年齡二十年未滿及滿二十八年以上ノ者

二　禁錮以上ノ刑ヲ受ケタル者又ハ贈賄犯ノ處分ヲ受ケタル者

三　復權ヲ得サル家資分散者、破產者及身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人

第十條　身體檢査及學術試驗ニ關スル規定ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十一條　身體檢査委員及ニ學術試驗委員ハ海軍大臣之ヲ命ス

附則

第十二條　明治二十八年マテハ少尉候補生ヲ少機關士ニ任用スルコトヲ得

第十三條　海軍少技士ハ當分ノ内帝國大學工科大學卒業ノ者及其ノ他相當ノ學術ヲ修メタル者ニ就キ身體檢査學術試驗ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ任用スルコトヲ得

第九條ノ規程ハ前項ニ掲クル者ニ準用ス

勅令

明治二十二年三月十四日第三十五號　陸地測量官任用規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸地測量官任用規則

第一條　陸地測量師ハ陸地測量手中其任ニ適スル者ヲ選ミ陸地測量部修技所ニ於テ二箇年以上高等ノ學科ヲ修業セシメ卒業シタル者ヲ以テ之ニ任ス

第二條　陸地測量手ハ陸地測量部修技所生徒ノ卒業シタル者ヲ以テ之ニ任ス

第三條　本則ニ依リ陸地測量官ニ任セラレタル者他ノ技術官ニ轉任セントスルトキハ技術官任用ノ例規ニ依ル但他ノ技術官ヨリ轉任シタル者ハ此限ニアラス

第四條　本則第一條第二條ニ掲クルモノノ外技術官其他學術技藝等ノ者ニシテ陸地測量部ニ於テ實地試業ノ上適當ト認ムルトキハ陸地測量官ニ轉任セシメ若クハ任用スルコトヲ得

第五條　本則施行ノ前陸地測量部ニ出仕スル技術官陸軍屬又ハ官員ニシテ陸地測量部事業ニ從事シ學術技藝優等ナル者ハ陸地測量官ニ轉任セシメ若クハ任用スルコトヲ得

勅令

明治二十三年七月十日第百五十二號　陸海軍下士任用進級條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍下士任用進級條例

第一條　海軍下士ハ三等ヲ初任トシ海上勤務一箇年半以上若クハ陸上勤務二箇年以上ノ實役停年ヲ經タル一等卒中ヨリ左ノ區別ニ從ヒ任用ス

一　三等兵曹ハ砲術練習艦若クハ水雷術練習艦卒業ノ一等水兵若クハ兵曹適任證書ヲ有スル一等水兵又ハ學術檢査ニ合格シタル一等水兵ヨリ任用シ三等信號手ハ信號卒業證書ヲ有スル一等信號兵又ハ學術檢査ニ合格シタル一等信號兵ヨリ任用ス

二　三等機關手ハ機關學校卒業ノ一等火夫又ハ水雷術練習艦ニ於テ水雷教程ヲ卒業シタル一等火夫一等鍛冶若クハ學術檢査ニ合格シタル一等火夫ヨリ任用ス

三　三等軍樂手ハ一等軍樂生中三等船匠手ハ一等木工中三等鍛冶手ハ一等鍛冶中三等主帆ハ一等廚夫中海軍大臣ノ定ムル所ノ教育規則ニ依リ卒業シタル者又ハ學術檢査ニ合格シタル者ヨリ任用ス

四　三等看護手ハ學術檢査ニ合格シタル一等看病夫ヨリ任用ス

技工ハ前項ニ依ラス造船工學校卒業ノ生徒又ハ海軍大臣ノ定ムル任用試驗ニ及第シタル者ヨリ任用ス

第二條　年齡二十年未滿ノ者ハ下士ニ任用スルコトヲ得ス

第三條　進級ハ超級ノ陞進ヲ許スコトナク缺員アルニアラサレハ進級セシムルコトナシ又機關學校ヲ卒業シタル機關手特別教育規則ニ依リ卒業シタル主帆ノ外ハ學術檢査ニ合格シタル者ニアラサレハ進級セシムルコトヲ得ス

第四條　三等下士ニシテ海上勤務一箇年半以上若クハ陸上勤務二箇年以上二等下士ニシテ海上勤務二箇年以上若クハ陸上勤務二箇年八箇月以上一等下士ニシテ海上勤務三箇年以上若クハ陸上勤務四箇年以上ノ實役停年ヲ經タル者ハ各其上級ノ官ニ進級セシムルコトヲ得

第五條　戰時ニ在テハ實役停年最下期限ヲ其半ニ減スルコトヲ得

第六條　敵ノ捕虜トナリ正當ノ理由アル者ハ其年月ヲ實役停年ニ算入スルコトヲ得

第七條　收禁處刑及歸休中ノ日數ハ實役停年ニ算入セス

第八條　停年ヲ算スルニハ三月一日ヲ以テ終期トス

第九條　海上勤務ト稱スルハ軍艦ニ乘組ミ服務スルヲ云フ

第十條　公務ニ原因セサル傷痍疾病ニ依リ上陸療養ノ日數ハ海上勤務ニ算入セス

第十一條　海上勤務ヨリ陸上勤務ニ轉シタル者ノ停年ハ海上勤務日數ノ三分一ヲ加算シ陸上勤務ヨリ海上勤務ニ轉シタル者ノ停年ハ陸上勤務日數ノ四分一ヲ減算スルモノトス

第十二條　下士ノ任用進級ハ海兵團在籍ノ區別ニ從ヒ各鎮守府司令長官之ヲ行フモノトス但艦隊ニ屬スル下士ノ任用進級ハ艦隊司令長官之ヲ行ヒ一等下士ノ進級及造兵廠火藥工廠水路部ニ勤務セシムル技工ノ任用進級ハ海軍大臣之ヲ行フモノトス

第十三條　艦國隊長各廳長ハ毎年學術檢査終ルノ後部下ノ下士及一等卒中進級セシムヘキ者ヲ選拔シ下士任用進級候補名簿ヲ調製シ所屬ノ鎮守府司令長官艦隊司令長官ニ出ス可シ但練習生タル下士ノ進級候補名簿ハ在籍海兵團ヲ管スル鎮守府司令長官ニ出スヘシ

艦長廳長ノ調製セル下士任用鎮守府ニ屬セサル艦長廳長ノ在籍海兵團ヲ管スル鎮守府司令長官ニ出ス可シ但技工ノ候補名簿ハ海軍大臣ニ出ス可シ

第十四條　兵曹機關手ノ任用進級候補名簿技工ノ進級候補名簿ハ左ノ如ク區別ス可シ

甲　兵曹

一　掌砲ノ職ニ充ツ可キ者
二　掌水雷ノ職ニ充ツ可キ者
三　掌帆ノ職ニ充ツ可キ者
四　按針ノ職ニ充ツヘキ者

乙　機關手

一　汽罐部員ノ職ニ充ツ可キ者
二　水雷工ノ職ニ充ツ可キ者

丙　技工

一　造船ノ職ニ充ツ可キ者
二　流機流罐製造ノ職ニ充ツ可キ者
三　造兵ノ職ニ充ツ可キ者
四　火藥製造ノ職ニ充ツ可キ者
五　水路測量ノ職ニ充ツ可キ者

第十五條　鎮守府司令長官ハ部下ノ軍港司令官警備隊長軍港內ニ在ル部下艦國隊長ヲ會同シ艦隊司令長官ハ部下ノ司令官警備隊長同港ニ在ル部下ノ艦長ヲ會同シ下士任用進級候補名簿ニ就キ候補者ノ技能ノ優劣ニ依リ順序ヲ定メ下士任用進級決定候補名簿ヲ調製シ海軍大臣ニ出ス可シ

艦隊司令長官決定候補名簿ヲ調製スルニハ軍艦ノ水管ニ依リ鎮守府毎ニ區別ス可シ鎮守府司令長官他鎮守府水管ノ艦ヲ管轄スルコトアルトキ亦同シ

第十六條　決定候補名簿ノ効ハ次回ノ決定候補名簿調製迄ノモノトス

決定候補名簿ニ登載ノ後任用進級セシムル能ハサル事由ヲ生シタル者ハ之ヲ除名ス可シ

第十七條　定員外ノ下士ハ陸進ノ順次ニ當ルト雖モ定員ニ充ツルル後ニ非サレハ補任スルコトヲ得ス

練習生ハ殘備艦乘組ノ定員ニ充ツ可キ現員不足アルトキニ進級セシムルコトヲ得

第十八條　左ノ場合ニ在テハ前條ノ例ニ依ルコトナク任用シ又ハ進級セシムルコトヲ得

一　戰前ニ在テ豫勤ヲ奏セシ者アル時
二　戰地ニ在テ人員多ク缺乏シ補缺定規ヲ顧ムル能ハサル時

第十九條　鎮守府司令長官艦隊司令長官司令官ハ戰軍ノ日ニ方リ戰地ニ派遣スル艦長ニ下士任用進級ノ權ヲ假スコトヲ得

勅令

明治二十年十二月二十八日第八十三號

陸軍下士文官採用規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　陸軍下士文官採用規則

陸軍下士ニシテ左ニ掲クル者ハ文官奉職ヲ請願スルコトヲ得

一　職役若クハ公務上ノ傷痍疾病ニ因リ免官シ尚文官ノ勤務ニ堪ヘ且技倆證明書ヲ所持スル者
二　現役七箇年以上服役滿期ノ下士ニシテ技倆證明書ヲ所持スル者

第二條　陸軍下士ハ本人ノ請願ニ因リ前條第一項ノ者ハ試驗ヲ要セスシテ判任官トナルコトヲ得

第三條　海軍者ヲ除クノ外各官廳ニ於テ判任官ヲ任用スルニハ少クモ五人ニ付一人ハ陸軍下士ノ文官請願者ヲ以テス可キモノトス

第四條　文官タランコトヲ望ム者ハ服役滿期前一箇月間又滿期若クハ免役後三箇月間ニ之ヲ請願ス可シ

第五條　請願者ニ於テ教官技術官タランコトヲ望ム者アルトキハ之ヲ採用セントスル官廳ニ於テ相當ノ試驗ヲ施行スルコトヲ得

第六條　請願者ノ名簿ハ本人請願ノ順序ニ從テ調製シ之ヲ陸軍省ニ備置ク可シ

第七條　請願者ノ採用ハ其同年內ニ係ルモノハ第一條各項ノ順序ニ從ヒ其同項內ニ於テハ服役時日ノ多キ者ヨリ採用シ其服役時日ノ同シキ者ハ請願時日ノ順序ニ從ヒ採用ス可シ

本人ノ技倆及任務ノ必要ニ依リテハ前項ノ順序ニ拘ハラス採用スルコトアルヘシ

第八條　各官廳ニ於テ請願者ヲ採用スルトキハ陸軍省ニ照會シ直ニ本人ヲ其廳ニ呼出ス可シ

第九條　陸軍省ニ於テハ前條ノ照會ニ依リ第七條ニ照シ請願者ノ氏名及履歷書ヲ其官廳ニ交付ス可シ

第十條　請願者ニ於テ其請願ヲ取消サント欲スルトキハ陸軍省ニ屆出可シ

第十一條　本則施行ニ要スル細則及伎倆證明書ノ規程ハ陸軍大臣之ヲ定ム可シ

陸軍省令

明治二十一年二月二十三日第二號

陸軍下士文官採用細則左ノ通定ム

陸軍下士文官採用細則

第一條　本則（本則トアルモノハ陸軍下士文官採用規則ヲ云フ以下倣之）第一條ニ因リ文官奉職ヲ請願セント欲スル者ニシテ第一項ニ該當スルモノハ第一書式第二項ニ該當スルモノハ第二書式及第三書式ニ據ルヘシ

第一書式（紙質美濃紙以下倣之）

某　㊞

某職役（公務上）ノ傷痍（疾病ニ）因リ過ル年月日免官相成候ニ付陸軍下士文官採用規則御採用相成度別紙履歷書並ニ伎倆證書寫相添此段奉願候也

年月日

陸軍大臣爵姓名殿

年號月日生
年號月何年何箇月

文官奉職仕度候間御採用相成度別紙履歷書（陸軍出身役ノ經歷及賞罰等ヲ詳細ニ記載シ正副二通差出スヘシ以下履歷書トアルモノ倣之）並ニ診斷書（診斷書トハ傷痍者ノハ疾病ヲ證スル爲メ醫ヲ下附セラレタルモノヲ云フ）及伎倆證明書寫相添此段奉願候也

道廳（府）（縣）國郡（區）町（村）族籍
元何官　姓名　㊞

年號月日生
年號月何年何箇月

年月日

陸軍大臣爵姓名殿

前書之趣調査候處相違無之候也

道廳（府）（縣）郡（區）町（村）戶長
姓名　㊞

年月日

第二書式

某　㊞

來ル（過ル）年月日現役滿期相成候ニ付陸軍下士文官採用規則ニ因リ文官奉職仕度候間御採用相成度別紙履歷書並ニ伎倆證書寫相添此段奉願候也

兵種隊號（所管）預備役（後備軍）（職員）
官姓名　㊞

年號月日生
年號月何年何期月

年月日

（所管長官）
職官姓名殿

第三書式

過ル年月日現役滿期相成候ニ付陸軍下士文官採用規則ニ因リ文官奉職仕度候間御採用相成度別紙履歷書並ニ伎倆證書寫相添此段奉願候也

某　㊞

道廳（府）（縣）郡（區）長（村）戶長
姓名　㊞

年號月日生
年號月何年何箇月

年月日

陸軍大臣爵姓名殿

前書之趣調査候處相違無之候也

道廳（府）（縣）國郡（區）町（村）族籍
元何官　姓名　㊞

年號月日生
年號月何年何箇月

第二條　本則第五條ニ因リ教官技術官タランコトヲ望ム者及某官廳ニ限リ奉職センコトヲ望ム者ハ其志願ノ經名ヲ願書中ニ記載シ又教官技術官志願ノ者ニ在テハ其習得セシ學術ヲ履歷書中ニ記載シテ差出ス可シ

但教官技術官スルノ志願ナナシ合格セサル者ハ更ニ普通判任官タルヲ請願スルコトヲ得

第三條　本則第一條ノ資格ヲ有スト雖モ服役以來左ノ項目ニ觸ルル者ハ請願スルヲ得ス又既ニ請願ノ者ハ其請願無効ニ屬ス

一　禁錮ノ刑ニ處セラレタル者
一　賭博犯ニ付懲罰ニ處セラレタル者

第四條　本則第一條ニ因リ請願スル者アルトキハ所管長官又ハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ其請願書類ヲ審査シ陸軍大臣ニ進達ス可シ

第五條　本則第五條ニ因リ各官廳ニ於テ試驗ヲ爲セシトキハ其試驗ノ科目及ヒ合格不合格ノ旨ヲ直ニ陸軍省ニ通牒スルモノトス

第六條　各官廳ニ於テ請願者ヲ採用セン上ハ直ニ

其官等ヲ陸軍省ニ通牒スルモノトス

第七條　教官技術官タソンコトヲ望ム者受驗ノ爲メ官廳ニ往復スル旅費ハ總テ自辨タルヘシ

第八條　本則第十條ニ因リ其請願ヲ取消サント欲スルトキ又ハ請願者ノ身上ニ異動ヲ生シ或ハ轉居轉籍若クハ處刑等ニテ履歷上改正ヲ要スルコトアルトキハ其旨ヲ詳記シ最初願出ノ手續ニ因リ屆出ツ可シ

勅令

明治二十年十二月二十五日第六十五號　陸軍准士官並服役滿期下士判任文官ニ任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍准士官並服役滿期ノ下士ハ普通試驗ヲ要セス陸軍省遞信省鐵道局ノ判任文官ニ任用スルコトヲ得

勅令

明治二十七年二月五日第十三號　陸軍主理任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　理事ハ理事試補、主理ハ主理試補ヨリ任用ス

滿三年以上理事又ハ主理ノ職ニ在リタル者ハ直ニ之ヲ本官ニ任用スルコトヲ得

第二條　理事試補及主理試補ハ司法官試補タルノ資格ヲ有スル者ヨリ採用ス

第三條　理事試補ハ陸軍省若クハ陸軍軍法會議、主理試補ハ陸軍省若クハ陸軍軍法會議ニ於テ一箇年半以上實務ヲ修習シ實務修習試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ本官ニ任用スルコトヲ得ス

第四條　滿三年以上理事又ハ主理ノ職ニ在ル者及其ノ職ニ在リタル者ハ明治二十六年勅令第百八十三號文官任用令第一條列事檢事ノ例ニ依リ他ノ奏任文官ニ任用スルコトヲ得

第五條　左ノ諸項ノ一ニ該當スル者ハ理事及主理ニ任用スルコトヲ得ス

一　重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニアラス

二　定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

三　破產若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ償務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第六條　理事試補及主理試補ハ奏任官ノ待遇トス

第七條　實務修習及實務修習試驗ニ關スル規則ハ理事試補ニ係ルモノハ陸軍大臣、主理試補ニ係ルモノハ海軍大臣之ヲ定ム

第八條　勅任理事及勅任主理ハ本令ノ規程ニ拘ラス之ヲ任用スルコトヲ得

附則

第九條　明治二十一年勅令第十號ニ依リ理事試補主理試補タルノ資格ヲ有シ本令施行ノ際現ニ理事試補又ハ主理試補タル者ハ別ニ試驗ヲ用ヰス直ニ之ヲ本官ニ任用スルコトヲ得

第十條　司法官試補タルノ資格ヲ有シ判事檢事及他ノ高等文官ノ職ニ在ル者及在リタル者ハ本令施行後三年間ハ直ニ理事又ハ主理ニ任用スルコトヲ得

第十一條　明治二十五年三月十九日第四號陸地測量部修技所生徒採用規則左ノ通改正ス

陸軍省令

明治二十五年三月十九日第四號　陸地測量部修技所生徒採用規則

第一條　陸地測量部修技所生徒採用規則第十三條ノ發任文官ニ任用令第一條列事檢事ノ例ニ依リ他ノ奏任文官ニ任用スルコトヲ得

第五條　左ノ諸項ノ一ニ該當スル者ハ理事及主理ニ任用スルコトヲ得ス

一　重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニアラス

二　定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

三　破產若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ償務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第六條　理事試補及主理試補ハ奏任官ノ待遇トス

第七條　實務修習及實務修習試驗ニ關スル規則ハ理事試補ニ係ルモノハ陸軍大臣、主理試補ニ係ルモノハ海軍大臣之ヲ定ム

第八條　勅任理事及勅任主理ハ本令ノ規程ニ拘ラス之ヲ任用スルコトヲ得

附則

第九條　明治二十一年勅令第十號ニ依リ理事試補主理試補タルノ資格ヲ有シ本令施行ノ際現ニ理事試補又ハ主理試補タル者ハ別ニ試驗ヲ用ヰス直ニ之ヲ本官ニ任用スルコトヲ得

第十條　司法官試補タルノ資格ヲ有シ判事檢事及他ノ高等文官ノ職ニ在ル者及在リタル者ハ本令施行後三年間ハ直ニ理事又ハ主理ニ任用スルコトヲ得

第十一條　明治二十五年三月十九日第四號陸地測量部修技所生徒採用規則ハ本令施行ノ際之ヲ廢止ス

陸軍省令

明治二十七年三月十九日第四號　陸地測量部修技所生徒採用規則

第一條　陸地測量部修技所生徒採用規則左ノ通改正ス

生徒採用規則左ノ通改正ス

第一項　生徒募集ノ告達アリタル年ノ十一月ヨリ翌年十月迄ニ現役滿期トナル者身體強壯行狀方正勤務勉勵年齡二十八年以下（其計算ハ募集可キ年ノ十月ヲ以テス）

第二項

和漢文　假名交リ文　俗讀

地理學　球常中學校ノ程度

歷史　皇朝史略　十八史略　萬國史　球常中學校ノ程度

數學　算術代數學　平立　三角學　幾何

物理學　球常中學校ノ程度

化學　無機　球常中學校ノ程度

圖畫學　幾何畫法　自在畫法　寫景畫法

外國學　英佛獨ノ內讀法及書字

書字　楷行二體

第二條　製圖科ノ生徒ニ限リ一般人民ヨリ志願者ヲ採用スルコトアルヘシ其格資格及ヒ志願者心得ハ其時々告示ス

第三條　生徒ヲ募集セントスルトキハ豫メ其前年四月迄ニ召募人員ヲ告達ス

第四條　前條ノ告達アリタルトキハ聯隊長（聯隊ヲナササル隊ニ在テハ其隊五以下數之）該隊ノ志願者中第一條ニ相當スル者ヲ取調順序ヲ經テ其人名ヲ師團長ニ差出シ師團長ハ六月十五日迄ニ之ヲ參謀總長ニ進達スヘシ

第五條　參謀總長ハ志願者アル各隊ニ下付スヘキ試驗問題ヲ豫期シテ之ヲ其師團長ニ送付シ且ツ試驗期日ヲ告知スヘシ

第六條　聯隊長ハ試驗ノ當日開題ヲ開封シ試驗ヲ行ヒ試驗答類ニ兵籍寫及考科表寫ヲ添ヘ之ヲ師團長ニ差出シ師團長ハ八月末日迄ニ之ヲ參謀總長ニ進達スヘシ

第七條　參謀總長ハ各師團長ヨリ進達セル書類ヲ陸地測量部長ニ下シ審査セシメ採用スヘキ者ヲ撰定シ其人名及入學時日ヲ豫メ該師團長ニ告知シ師團長ハ其聯隊長ヲシテ之ヲ本人ニ達セシム可シ

第八條　修技所生徒志願ニシテ已ニ試驗書類進達後ノ者又ハ達ヲ受ケ入學前ノ者其轉任轉籍改姓名犯罪等身上ノ異動アルトキ現役中ナルトキハ出願ノ手續ニ從ヒ其所管ヲ經若シ滿期後ナルトキハ本人ヨリ直チニ參謀本部ヘ屆出ヘシ

第九條　除外下士ニ在テハ聯隊長トアルハ直屬ノ長官師團長トアルハ所管長官ニ於テ其事務ヲ取扱フモノトス

第十條　陸地測量部修技所入學ノ者上京ノ旅費ハ各自辨トス

第十一條　陸地測量部修技所生徒ノ修業スヘキ科目左ノ如シ

三角科

數學　球三角　高等代數　代數幾何　微積學摘要　最小方數法摘要

圖畫學　標高平圖幾何學　二面平圖幾何學　寫彩及淺渲法實地寫生

地形測量概要

製圖概要

三角學　三角測量一般　選點法　基線測量法　測角法　水準測量法　諸式投影法　經緯度及指角計算法　三角術及水準測量ノ諸計算　平均算法

地形科

數學　球三角　高等代數摘要　代數幾何摘要　最小方數法摘要

圖畫學　三角尋ニ同シ

製圖科

數學　球三角　高等代數摘要　代數幾何摘要

圖畫學　標高平圖幾何　二面平圖幾何　寫彩及淺渲法　畫論　器械圖　建築圖

地形測量　地形測量學一般　規則圖一般　不規則圖一般　地形測圖

製圖　製圖學一般　寫圖及縮圖法　製板及縮圖法　製板不製板式圖法　踏式投影法　寫彩及淺渲法　地形圖々法

三角測量概要

製圖科

製圖學一般　寫圖及縮圖法　製板不製板式踏圖法　踏式投影法　踏式地形描畫法　寫眞製圖法　地形製圖　帝國圖製圖　輿地圖製圖　銅板石板電氣寫眞製板法　踏印刷法

地形測量概要

第十二條　陸地測量部修技所生徒ハ入學ノ上各其技能ニ應シ三角測量地形測量製圖ノ三科中其一科ヲ專修セシメ卒業ノ上ハ陸地測量官任用規則ニ據リ陸地測量手ニ任用ス

第十三條　陸地測量部修技所生徒ノ修學年限ハ大概ヲ一箇年トシ入學中ハ手當トシテ一箇月金若干圓ヲ給シ各私宿ヨリ通學セシム

第十四條　修學ニ要スル器具ハ貸與シ書籍及消耗品ハ貸與或ハ支給シ其他ハ總テ自辨トス若自己ノ不注意ヨリ貸與品ヲ毀損紛失スルトキハ辨償セシム

第十五條　陸地測量部修技所生徒ハ自己ノ情願ヲ以テ歸省休暇並ニ退學ヲ許サヽルモノトス然レトモ病患ニテ修業ニ堪ヘサル者ハ軍醫ノ診斷ニ依リ之ヲ處分ス又學術不勉強品行不正若クハ卒業ノ目的ナキ者ハ免除ス

但學術不勉強品行不正ニシテ免除シタル者ハ第十三條ニ依リ支給シタル手當金ヲ償還セシム

第十六條　陸地測量部修技所生徒ヲ命セラレタル者ハ父兄親族若クハ其他一家ヲ爲ス身元確實ナル者二名（內一名ハ東京市內居住ノ者タルヘシ）ヲ以テ身元保證人トシテ入學ノ際左式ノ入學證書ヲ差出ス可シ

書式（證券印紙貼用）

陸地測量部修技所生徒入學證書

某　儀

此度陸地測量部修技所生徒ニ御採用相成候ニ付テハ御規則壓重ニ相守修業中ハ勿論測量官ニ御採用ノ上滿十箇年間ハ他志ナク奉仕シ決シテ自己ノ情願等申出間敷萬一學術不勉強品行不正ニシテ退學ヲ命セラレ候節ハ退學ノ日ヨリ三十日以內ニ陸地測量部修技所生徒採用規則第十三條ニ依リ支給ヲ受ケタル手當金ヲ辨償可仕且本人身上ノ儀ハ何事ニ由リスト身元保證人ニ於テ引受可申依テ保證人連署證書如斯候也

本人

府（縣）何郡（市區）何村

戶主ニ非レハ誰子弟等
何國何郡(市)何町(村)產　姓　名　印
何國何郡(市)何町(村)何　年　號　月　日　生
番地住(寄留)　明治年月何年何月
身元保證人
府(縣)何族(平民)
何國何郡(市)何町(村)
何番地住(寄留)　姓　名　印
年號月日
身元保證人
府(縣)何族(平民)
東京市何區何町何番
地住(寄留)　姓　名　印
陸地測量部長姓名殿
前書之趣相違無之候也
府縣市町村長　東京東部大阪ノ三市ニ在テハ區長　姓　名　印
東京市何區長　姓　名　印

陸軍省令

明治二十六年七月水年(七月)二十九日第十三號

第七十七號陸軍衛生部現役士官補充條例ニ依リ陸軍衛生部士官候補生竝醫科大學依託學生採用規則左ノ通定ム

陸軍衛生部士官候補生竝醫科大學依託學生採用規則

第一條　陸軍衛生部醫科大學依託學生ノ補缺要員ハ陸軍省醫務局長ヲシテ帝國大學總長ニ協議セシメ志願者ヲ召募ス

軍醫生、藥劑生ヨリ衛生部士官候補生志願者ヲ召募スルトキハ醫務局長ヲシテ其要員ヲ師團長ニ移牒シ師團長之ヲ部隊ニ告達ス

第二條　醫科大學學生ニシテ依託學生ヲ志願スル者ハ願書ニ履歷書及戶籍明細書ヲ添ヘ帝國大學總長ヲ經テ陸軍省醫務局長ニ之ヲ出サシメ醫務局長ハ醫官ヲシテ身體檢査ヲ爲サシメ其體格適當ノ者ニ醫科大學依託學生ヲ命ス該學生卒業ノ際タルトキハ醫務局長ハ大學總長ヨリ其卒業成績書ヲ受ケタル後陸軍大臣ノ認可ヲ得テ陸軍衛生部士官候補生ヲ命ス

第三條　左ニ掲クル者ハ醫科大學依託學生及陸軍衛生部士官候補生ヨリ候補生ヲ志願スル者ハ願書ニ履歷書戶籍明細書及卒業證書竝免狀ノ寫ヲ添ヘ醫務局長ヨリ出シタル書類ヲ審査シ適當ノ者ニ候補生ヲ命ス

一　有妻ノ者

二　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

三　破產若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四條　第二條ノ衛生部士官候補生竝醫科大學依託學生志願者ノ願書履歷書戶籍明細書書式ハ左ノ如シ

願　書　其一　醫科大學ヶ生分

某　印

醫科大學第何年生ニ是在候處陸軍衛生部醫科大學依託學生志願ニ付御檢査ノ上御採用被下度就テハ御認可ヲ得テ陸軍衛生部士官候補生ニ採用スルコトヲ得ス

情願ヲ以テ免除ノ儀出願致間敷且本人身上ニ關スルコトハ身元引請人ニ於テ萬事引請可申候依テ別紙履歷書戶籍明細書相添ヘ身元引請人連署ヲ以テ此段相願候也

何府縣何族(平民)
現住所東京府何區(郡)何町(村)番地
明治何年何月何日　本人　姓　名印
何府(縣)何族(平民)
東京府何區(郡)何町(村)番地住(寄留)
身元引請人
姓　名印

(身元引請人ハ現住地ノ在籍父ハ寄留ニシテ公民タル者ニ限ル

身元引請人ノ身上ニ異動アルトキハ相當ノ關係者ヲ定ムヘシ)

右身元引請人ハ當區(郡)內ニ住シ公民權ヲ有スル者ニ相違無之候也

何區(郡)長
姓　名印

陸軍省醫務局長姓名殿

願　書　其二　軍醫生、藥劑生分

某　印

軍醫生(藥劑生)トシテ服役中ニ候處陸軍衛生部現役士官候補生志願ニ付御檢査ノ上御採用被下度就テハ御採用ノ上ハ御認可可仕候ヶ則紙履歷書戶籍明細書相添ヘ此段相願候也

歩兵第何聯隊第何中隊
軍醫生(藥劑生)
明治何年何月何日　姓　名印
陸軍省醫務局長姓名殿

履歷書

一何年何月ヨリ何年何月マテ何學校ニ入リ何學科修業

一何年何月ヨリ何年何月マテ何學研究ノ爲メ何國ニ在留

一何年何月何學校ニ於テ何學科（醫學、藥學）卒業證書ヲ受ク別紙寫之通

一何年何月帝國大學醫科大學第何年生ニ入ル

一何年何月軍何號醫術開業（藥劑師）免狀ヲ受ク別紙寫之通

一何年何月何學校（何病院）何々被申付（何官醫被任何官）

一何年何月何々被免（被免本官）

一何年何月一年志願兵トシテ歩兵第何聯隊ニ入營

一何年何月軍醫生（藥劑生）ヲ命セラル

一何年何月何々ニ依リ賞與下賜

一何年何月何々ノ科ニ依リ何關

一明治二十六年七月陸軍省令第十三號陸軍衛生部士官候補生竝醫科大學依託學生採用規則第三條ニ抵觸スルモノニアラス

右之通相違無之候也

戶籍明細書

一親父　某　姓　名印
一祖母　某
一父　某
一母　某
一兄　某　何年何月何日生
一弟　某　同
一姉　某　同
一妹　某　同

（同戶籍中ニ現在スルモノヲ載スヘシ）

右之通相違無之候也

何府(縣)何市(區)(郡)何町(村　番地住
何府(縣)市(何郡何町(村))長(東京、京都、大阪ハ區長)　姓　名　印
戶主(戶主ニ非ル者ハ其長次男等ノ職業)
姓　何年何月何日生

右證明候也

明治何年何月何日

何府(縣)市(何郡何町(村))長(東京、京都、大阪ハ區長)　姓　名　印

勅令

明治二十三年九月三日第百九十五號

陸志願軍吏生志願獸醫部豫備士官ニ補任スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍豫備後備將校補充條例第一志願軍吏生ニシテ陸軍豫備後備將校補充條例第六條ニ依リ實地ノ試驗ニ及第シタル者ハ當該監督部長本人所屬隊ノ軍吏ヨリ其勤務勉勵品行方正學術適當ノ者ニシテ軍吏部士官タルヲ得ヘキ保證書ヲ出サシメ且自ラ署認シタル後其意見書ヲ添ヘ三等軍吏ニ補任ノコトヲ會計局長ニ照申ス會計局長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ陸軍大臣ニ進達シ若シ監督部長之ヲ否認シタルトキハ其事由ヲ悉シ會計局長ニ照申シ會計局長ハ更ニ理由ヲ具ヘ陸軍大臣ニ進達シ大臣ニ於テ見習士官ノ分限ヲ除クコトヲ裁定ス此裁定ヲ受ケタル者ハ一等書記ニ任シ豫備役ニ編入ス

二志願獸醫生ニシテ陸軍豫備後備將校補充條例第六條ノ試驗ニ及第シタルトキハ本人所屬隊長ハ隊附中ノ狀況書ヲ調製シ之ヲ軍務局長ニ進達シ師團獸醫長ハ考科表ヲ調製シ之ニ自己ノ意見書ヲ添ヘ軍務局長ニ進達ス軍務局長ハ該書類ニ依リ陸軍三等獸醫ニ任スヘキ資格ノ有無ヲ審査シ考科表ニ意見書ヲ添ヘ陸軍大臣ニ具申ス但三等獸醫ニ任スヘキ資格ナキ者ハ陸軍大臣ニ於テ見習獸醫官ノ分限ヲ除クコトヲ裁定ス此ノ裁定ヲ受ケタル者ハ陸軍工長ニ任シ豫備役ニ編入ス

勅令

明治二十七年六月三十日第八十號

陸望樓長望樓手ノ任用ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　望樓長及望樓手ハ海軍大臣ノ定ムル所ノ試驗規則ニ依リ任用ス

望樓長、望樓手試驗委員ハ海軍大臣之ヲ命ス

第二條　豫備、後備海軍准士官若クハ豫備役、後備役海軍下士卒及滿一年以上電信ノ業務ニ從事シタル者ハ試驗ヲ用ヰス望樓長、望樓手試驗委員ノ詮衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

第三條　戰時若クハ事變ニ際シテハ現役海軍准士官下士卒ヲシテ望樓長、望樓手ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得

勅令

明治二十六年十月三十日第百九十二號

陸監獄官特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍監獄官特別任用令

第一條　陸軍監獄長ハ現事、陸軍附官又ハ陸軍監獄看守ニシテ滿五年以上一級俸ヲ受ケ學識經驗アル者ハ文官高等試驗委員ノ詮衡ヲ經テ陸軍監獄長ニ任スルコトヲ得

第二條　陸軍監獄看守ニシテ滿五年以上一級俸ヲ受ケ學識經驗アル者ハ文官高等試驗委員ノ詮衡ヲ經テ陸軍監獄看守長ニ任スルコトヲ得

第三條　陸軍監獄看守長ハ陸軍下士文官採用規則ニ定ムル所ノ資格アル者又ハ該事ヨリ之ヲ選任ス

第四條　陸軍監獄看守ニシテ滿五年以上其ノ職ヲ奉シ學識經驗アル者ハ文官普通試驗委員ノ詮衡

チ經テ陸軍監獄書記又ハ陸軍監獄看守長ニ任スルコトヲ得

第五條　陸軍監獄看守ノ採用規則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附　則

第六條　陸軍監獄書記及陸軍監獄看守長ハ本年勅令第百四十二號陸軍監獄官官制施行ノ際ニ限リ第三條ノ規程ニ拘ラス從來陸軍監獄ニ職ヲ奉スル下士ニシテ獄務ニ經驗アル者及其ノ他ノ判任官ヨリ選任スルコトヲ得

第七條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

陸軍省令 明治二十七年三月七日第三號　陸軍監獄看守採用規則左ノ通定ム

陸軍監獄看守採用規則

第一條　陸軍監獄看守ハ陸軍各兵科豫備後備役下士兵卒ヨリ其志願ニ依リ之ヲ採用ス但屯田兵豫備役及警備隊區所屬ノ者ハ採用スルノ限ニ在ラス

第二條　左ニ掲クル者ハ看守ニ採用セス

一　身體羸弱ノ者

二　年齢四十歳以上ノ者

三　重罪又ハ重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者但國事犯ニシテ復權ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

四　賭博犯處分規則ニ依リ罰金ニ處セラレタル者

五　家資分散若クハ破產ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得サル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者

第三條　下士上等兵ニシテ監獄看守タラントコトヲ望ムモノハ現役滿期前一月內若クハ滿期後三月內ニ志願書ニ履歷書ヲ添ヘ現役滿期前ニ係ルモノハ大隊長若クハ長官ヲ經テ採用ヲ望ム地ノ師團長若クハ獨立混成旅團司令官ニ出スヘシ

屯田兵下士上等兵ニシテ監獄看守タラントコトヲ望ムモノハ前項ノ規定ニ準シ豫備後備役滿期前ニ係ルモノハ隊長ヲ經滿期後ニ係ルモノハ直ニ志願書ヲ屯田兵司令官ニ出スヘシ但家族中本人ニ代リテ耕耘ニ從事スルコトヲ得ル男子ナキモノハ志願スルコトヲ得ス

第四條　師團屯田兵副官ハ前條ノ志願書ニ依リ志願者名簿ヲ作リ之ヲ備ヘ置クヘシ

第五條　看守ニ缺員ヲ生シタルトキハ師團長屯田兵司令官第三條ノ志願者中ヨリ其身體ヲ檢査シ品行方正學術優等ノ者ヲ撰ミ之ヲ採用スヘシ

第六條　前條ニ依リ看守ノ闕ヲ補フニ足ラサルトキハ師團長屯田兵司令官其管內居住ノ下士上等兵ヨリ募集シ身體ヲ檢査シ之ヲ採用スヘシ

第七條　下士上等兵ノ志願者ヲ以テ看守ノ闕ヲ補フニ足ラサルトキハ師團長屯田兵司令官其管內居住ノ兵卒ヨリ之ヲ採用スヘシ

及第者中ヨリ募集シ身體檢査學科試驗ヲ行ヒ品行方正學術優等ノ者ヲ撰ミ之ヲ採用スヘシ

第八條　學科試驗ノ項目ハ左ノ如シ

一　讀書　假名交リ文

二　作文　往復文

三　算術　四則分數比例

第九條　檢査及試驗ハ師團長屯田兵司令官委員ヲ命シテ之ヲ爲サシムヘシ

第十條　第七條ノ檢査及試驗ヲ行ヒタルトキハ委員長試驗ノ成績ニ依リ順序ヲ定メタル及第者名簿ヲ作リ之ヲ師團長屯田兵司令官ニ出シ其認可ヲ得テ及第者ニ證書ヲ付與スヘシ

第十一條　志願書及第證書ノ效力ハ總テ一年限トス

第十二條　本則ニ依リ採用シタル後ト雖モ看守ノ職務ニ堪ヘサル者アルトキハ監獄長ノ具申ニ依リ師團長若クハ屯田兵司令官之ヲ免スルコトヲ得

第十三條　豫備後備役服役中ノ者觀時召集ニ應シ或護上差支ヲ生スルトキハ師團長屯田兵司令官一般人民ヨリ募集シ第七條ノ檢査及試驗ヲ行ヒ看守ヲ採用スルコトヲ得

附　則

第十四條　本則ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

第十五條　明治二十八年四月一日前屯田兵監獄ニ於テ看守ニ缺員ヲ生シ本則ノ規定ニ依リ其闕ヲ補フ能ハサルトキハ司令官ヨリ第二師團長ニ照會シ第二師團長ハ本規則ニ照シ志願者ヲ採用シ赴任セシム

第十六條　本則施行ノ際ニ限リ現ニ陸軍監獄ニ在リテ看守卒タル者ハ本則ノ規定ニ拘ハラス別ニ辭令ヲ須ヰスシテ看守ニ採用セラレタル者トシ押丁タル者ハ師團長屯田兵司令官看守ニ採用スルコトヲ得

海軍省達 明治二十六年五月二十日第五十九號　海軍監獄看守任用規則左ノ通定ム

海軍監獄看守任用規則

第一條　看守ハ所轄鎮守府司令長官志願書ヲ募リ試驗ニ及第シタル者ニ就キ之ヲ任用スヘシ

第二條　試驗委員長及試驗委員ハ鎮守府司令長官部下ノ高等官及判任官ヲ以テ臨時之ヲ編制スヘシ

第三條　試驗ノ科目左ノ如シ

海軍監獄則及海軍監獄則施行細則

普通往復文

算術加減乘除

第四條　左ニ列記シタル者ハ看守ナ志願スルコトヲ得ス

滿二十五歳以下四十歳以上ノ者

禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

身代限又ハ家資分散ノ處分ヲ受ケ其職務ヲ終ヘサル者

品行不良ノ者

第五條　左ニ列記シタル者ハ試驗ナ要セス看守ニ任用スルコトヲ得

現役滿期海軍下士

海軍ノ傭人ト爲リ現ニ監護ノ職ニ在リ勤勉ニシテ且經驗アル者

第六條　看守ヲ任用スルトキハ醫官ヲシテ身體ヲ檢査セシメ其體力服務ニ堪ヘサル者ハ之ヲ任用セス

勅令 明治二十二年七月九日第九十二號　陸軍各兵科現役士官補充條例

補充條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍各兵科現役士官補充條例

第一條　陸軍歩、騎、砲、工兵科現役士官ノ補充ハ陸軍出身志願ニシテ才能及學力ヲ有スル者ヲ選ンテ士官候補生ト爲シ各自ノ希望ニ依リ各兵科騎(大)隊ニ配賦シ概ネ一箇年間必要ノ教育ヲ與ヘタル後一年七箇月士官學校ニ分遣シ卒業ノ上原隊ニ復歸セシメ六箇月以上士官ノ勤務ヲ習得セシメ將校會議ニ於テ可決シタル者ヲ以テ其但屯田各兵科士官ノ補充ハ他ノ同兵科士官ナリ以テシ輜重兵科士官ノ補充ハ他兵科士官ヨリ轉科セシメ憲兵科士官ノ補充ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二條　士官候補生ニ採用シ得ヘキ者ハ左ノ如シ

其一　幼年學校生徒ニシテ卒業試驗ニ及第セシ者

其二　一年志願兵又ハ其他ノ者年齢十八年以上二十三年以下ニシテ尋常中學卒業證書ヲ所持スル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者

第三條　每年採用スヘキ士官候補生人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ監軍ニ移ス

第四條　士官候補生名簿ノ試驗格例ハ每年監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第五條　幼年學校生徒ヲ士官候補生ト爲スニハ校長該生徒ノ入名書ニ考科表及卒業試驗ノ成績ヲ添ヘ監軍ニ進達ス

第六條　一年志願兵ニシテ士官候補生タラントコトヲ志願スル者ハ願書ニ履歷書ヲ添ヘ（尋常中學卒業證書ヲ所持スル者ハ該證書ノ寫ヲ添ヘ）順序ヲ經テ都督師團長ニ差出シ都督師團長ハ各志願者ノ本籍ノ地方長官（寄留ノ者ハ其地ノ地方長官）ニ照會シ身分、財產、教育、性質、品行等ニ係ル詳細ノ證明書ヲ得之ヲ願書ニ添ヘ監軍ニ進達ス

第七條　準士族平民ニシテ士官候補生タラントコトヲ志願スル者ハ願書ニ履歷書ヲ添ヘ（尋常中學卒業證書ヲ所持スル者ハ該證書ノ寫ヲ添ヘ）本籍ノ地方長官（寄留ノ者ハ其地ノ地方長官）ニ差出シ地方長官ハ各志願者ノ身分、財產、教育、性質、品行等詳細ノ事ヲ取調（其證明書ヲ作リ之ヲ願書ニ添ヘ其地所管師團長ニ送付シ師團長ハ之ヲ監軍ニ進達ス

第八條　尋常中學卒業證書ヲ所持セサル志願者ハ本條例第六條又ハ第七條ノ手續ヲ爲シタル後試驗ヲ爲スヿ之カ爲メ監軍ハ試驗ヲ受クヘキ者ノ人名書ヲ師團長（近衛師團長ヲ除ク）ニ下シ師團長（近衛師團長ヲ除ク）ハ之ヲ陸軍將校生徒試驗臨時委員ニ下付シ試驗委員ヲ各試驗場ニ派遣シテ試驗ヲ施行セシム

第九條　師團長（近衛師團長ヲ除ク）ハ試驗前ニ於テ身體檢査ノ時日ヲ定メ之ヲ其部下各隊及管內ノ陸軍將官衛戍ニ地方長官ニ通達シ志願者ヲ檢査地ニ召集シ陸軍醫官ヲシテ身體檢査ヲ爲サシメ合格者ノ人名書ヲ陸軍將校生徒試驗臨時委員到着ノ時ニ下付ス

陸軍將校生徒試驗臨時委員ハ試驗ノ上其書類ヲ師團長（近衛師團長ヲ除ク）ニ進達シ師團長（近衛師團長ヲ除ク）ハ之ヲ監軍ニ進達ス

第十條　監軍ハ本條例第五條乃至第七條ノ書類ト第九條ノ試驗成績トニ依リ其士官候補生ニ採用スヘキ者ヲ裁定シ之ニ士官候補生ヲ命シ各兵科騎(大)隊ニ配賦ス但候補生ハ本隊ノ定員外トス

第十一條　一年志願兵ニシテ前條ニ該當スル者ハ士官候補生ヲ命スルノ日直チニ退營セシメ更ニ一般候補生ト同時ニ原隊ヘ入隊セシム但時宜ニ依リ他ノ隊ニ配賦スルコトアルヘシ

第十二條　士官候補生ヲ各兵科騎(大)隊ニ配賦スルニハ左ノ四項ヲ顧慮スヘシ

其一　本人ノ希望

其二　軍隊ノ必要

其三　學術藝等ノ者ハ各兵科聯(大)隊ニ平等ニ配賦スヘキ事

其四　砲、工兵科聯(大)隊ニ配賦スヘキ者ハ數學優等ナル事

第十三條　士官候補生ハ志願兵トシテ入隊ノ日ヨリ兵籍ニ編入シ陸軍一定ノ規則ニ依リ服役セシム

第十四條　士官候補生ハ士官學校分遣前概子一箇年(幼年生徒出身ノ者ハ概子六箇月)軍隊ニ在テ下士兵卒ノ勤務(雜役ヲ除ク)ヲ習得スルコトヲ要ス

第十五條　士官候補生入隊ノ上ハ聯(大)隊長ハ部下聯(大)隊中ノ某中隊ヲ撰ヒ之ニ編入シ該中隊長ヲシテ訓育ヲ掌リ踏動務ノ訓練ニ任セシム

第十六條　士官補候生軍事學ノ教授ハ聯(大)隊長部下大尉若クハ中尉ノ内一名ヲシテ之ニ任セシム

第十七條　聯(大)隊長ハ士官候補生ノ教育上ニ就テ總テ擔保ノ責ニ任ス

第十八條　士官候補生中幼年生徒出身ノ者ハ入隊後直チニ上等兵ノ階級ニ進メ二箇月ノ後ハ二等軍曹ノ階級ニ六箇月ノ後ハ一等軍曹ノ階級ニ其他ノ者ハ入隊後直チニ一等卒ノ階級ニ八箇月ノ後ハ二等軍曹ノ階級ニ一箇年ノ後ハ一等軍曹ノ階級ニ進ムルコトヲ得但各階級ニ於テ本官等下士兵卒ノ上位ニ在ルモノトス

第十九條　士官候補生ノ被服裝具等諸給與ハ本人ノ階級ニ應シ總テ下士兵卒同樣ニシテ官給トス其居室ハ一般下士兵卒ト混同スルコトナク別ニ一室ヲ與ヘ數名ノ候補生ヲ同居セシムヘシ但被服ニハ特別ノ徽章ヲ附シ將校ノ公會等ニ於テハ之ニ列席セシムルコトヲ要ス

第二十條　士官候補生ハ室内其他携帶輸品ノ補除及馬具馬匹等捕拭ノ爲メニハ兵卒ヲ使役スルコトヲ得但馬具、馬匹等ノ捕拭ヲ習得スル爲メニハ自ラ之ヲ爲サシムヘシ

第二十一條　士官候補生踏動務ノ訓練ヲ終レハ之ニ任シタル中隊長ハ士官候補生踏動務ヲ習得シタル保證書又軍事學ノ教授ニ任シタル士官ハ其教授成蹟ノ報告書ヲ聯(大)隊長ニ進達シ聯(大)隊長ハ之ヲ審閲シ更ニ教育ノ完全ナルコトヲ確認シ都督師團長(歩兵ハ旅團長ヲ經テ)ニ上申ス都督師團長ハ各兵科ノ連名簿ヲ製シ之ニ聯(大)隊長ヨリ出ス所ノ書類ヲ添ヘ監軍ニ進達スタル保證書又軍事學ノ教授ニ任シタル士官ハ其教授成蹟ノ報告書ヲ聯(大)隊長ニ進達シ聯(大)隊長ハ之ヲ審閲シ更ニ教育ノ完全ナルコトヲ確認シ都督師團長(歩兵ハ旅團長ヲ經テ)ニ上申ス都督師團長ハ各兵科ノ連名簿ヲ製シ之ニ聯(大)隊長ヨリ出ス所ノ書類ヲ添ヘ監軍ニ進達スヘシ

第二十二條　監軍ハ前條ノ書類ニ依リ士官候補生ノ士官學校ニ入校セシムヘキ者ヲ定メ都督師團長ヲ經テ之ヲ命スヘシ

第二十三條　士官候補生士官學校修學ヲ終リ卒業試驗ニ及第シ歸隊セシ者ハ曹長ノ階級ニ進メ其中隊ニ在テ士官ノ勤務ヲ習得セシム但其位置ハ曹長ノ上位トス之ヲ見習士官ト云フ

第二十四條　見習士官ノ教育ハ聯(大)隊長自ラ其責ニ任シ殊ニ諸種ノ演習等精密且著實ニ實施セシメ以テ其學力ヲ實際ニ應用進歩セシムルコトヲ務ムヘシ

第二十五條　見習士官ノ刀、刀緒、刀帶、背嚢、脚絆等ハ士官ト同一ノモノヲ給ス

第二十六條　見習士官ヲ將校ニ選擧スルニハ聯(大)隊長先ツ中隊長ヨリ本人ノ教育完全ニシテ將校タルヲ得ヘキ保證書ヲ得尚ホ聯(大)隊長モ亦自ラ是認シタル後始メテ聯(大)隊ノ將校會議ニ付ス

第二十七條　將校會議ハ見習士官ヲ將校ト爲スノ可否ヲ議決スル所トス故ニ各將校ハ可否ノ答ヲ自ラ選擧報告書ニ記入シ自己ノ姓名ヲ署スヘシ但見習士官所屬ノ中隊長ニシテ保證書ヲ記載シタル者ハ選擧報告ヲ爲スノ限ニアラス

第二十八條　將校會議ニ於テ將校ノ答書可ナル者ハ聯(大)隊長ハ其選擧報告書ヲ一表ト爲シテ選擧報告書ヲ作リ之ニ順序ヲ定メタル連名簿ヲ添ヘ少尉ノ資格ヲ備フルコトヲ都督師團長(歩兵ハ旅團長ヲ經テ)ニ上申ス都督師團長ハ之ヲ監軍ニ進達シ監軍ハ之ヲ陸軍大臣ニ移ス若シ可答多數ナルモ幾分ノ否答アル者ハ其理由ヲ選擧報告表ニ記入シテ上申スルコト前項ニ同シ

之ニ反シ否答多數ナル者ハ選擧報告書ヲ添ヘ否決ノ理由ヲ上申ス但其手續ハ本條例第三十二條ニ依ル

第二十九條　士官候補生踏動務ノ習得充分ノ結果ヲ得ス若クハ疾病ノ爲メ士官學校ヘ分遣シ得サル者又ハ士官學校條例第二十一條其一其五ニ據リ退校歸隊セシ者ニシテ尚ホ習ミアル者ハ一回限リ次ノ入校期マテ所屬隊ニ止マラシムルコトヲ得但聯(大)隊長ハ其事由ヲ悉シ都督師團長(歩兵ハ旅團長ヲ經テ)ニ上申シ其認可ヲ經ヘシ都督師團長ハ默ヲ眞シ監軍ニ申報ス監軍ハ之ヲ陸軍大臣ニ移ス

第三十條　前條ニ該ル者ノ士官學校入校手續ハ本條例第二十一條及第二十二條ニ依ル

第三十一條　士官候補生ハ情願ヲ以テ之ヲ免セサルモノトス

第三十二條　士官候補生ニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ル者アル時ハ聯(大)隊長其事由ヲ悉シテ都督師團長(歩兵ハ旅團長ヲ經テ)ニ上申シ其理由ヲ審査シ其理由ヲ認ムル時ハ其士官候補生ヲ免シ其士官候補生ヲ免シ其士官候補生ヲ免シ

第十條　現役中疾病若クハ傷痍ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第十一條　第八條第九條ニ當ル者ハ豫備役ニ編入シ現役年期ヲ通シテ七箇年間服役セシム

第十二條　第八條第九條第十條ニ當ル者アルトキハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ヨリ近衛都督又ハ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ノ認可ヲ請ヒ現役若クハ兵役ヲ免ス但近衛都督又ハ師團長及ヒ之ト同等以上ノ權アル長官ニ在テハ自カラ之ヲ處分ス

第十三條　現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者ハ其刑期中及逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

陸軍省達

明治二十六年一月十日第一號

明治二十二年（九月）陸達第百四十號屯田兵士官下士補充細則ヲ廢シ更ニ屯田各兵科現役下士補充細則左ノ通定ム

屯田各兵科現役下士補充細則

第一條　各兵科現役下士補充條例第三條中隊長ノ職務ハ屯田騎兵砲兵工兵隊ニ在テハ該隊長之ヲ行フモノトス

第二條　屯田騎兵砲兵工兵隊下士ノ任官ハ屯田兵司令官ニ於テス可シ

第三條　各師團諸隊及各官廳附下士中屯田兵條例ニ依リ服役ヲ許ス可キ人員ハ毎年陸軍省ヨリ告達ス

第四條　各師團及各官廳ニ於テハ前條ノ告達ニ基キ志願者ヲ取調其願書及戸籍明細書ニ考科表ヲ添ヘ毎年十一月三十日迄ニ屯田兵司令部ニ送付ス可シ

第五條　屯田兵司令官ハ各所管ヲ通シ屯田各兵科現役下士補充名簿二通ヲ作リ其一通ヲ陸軍大臣ニ報告シ所要ニ應シ該名簿ノ順序ニ從ヒ之ヲ任用ス

第六條　屯田兵條例ニ依リ服役ヲ許ス可キ下士ハ屯田兵每年ノ召募定員ニ加フルモノトス其人員歩兵ハ一中隊ニ七名騎兵砲兵工兵ハ各一隊ニ二名以內トス

第七條　各師團諸隊及各官廳下士中一般ノ服役法ニ依リ屯田兵ニ轉センコトヲ志願スル者亦第四條第五條ノ例ニ依ル

第八條　前條ニ依リ屯田兵ニ轉スルノ後更ニ屯田兵條例ニ依リ服役センコトヲ志願スル者ノ取扱ハ第五條及第六條ノ例ニ依ル

第九條　屯田兵條例ニ依リ服役スルノ許可ヲ受ケタル者ハ屯田兵召募規則第十一條及第十二條ノ規定ヲ遵行ス可シ

第十條　屯田兵召募規則第九條第二項第三項第四項ハ本則ニ於テ之ヲ適用ス但第七條ニ依リ服役スル者ハ召募規則第九條第二項ヲ適用スル限ニ在ラス

第十一條　屯田兵出身ノ下士及各師團諸隊各官廳ヨリ屯田兵ニ轉シ屯田兵條例ニ依リ服役スル下士ニシテ子弟其他ノ男子ナシテ屯田兵役ヲ相續セシムルヲ得ル者ハ大隊本部附又ハ司令部附若クハ監獄附ヲ命スルコトヲ得

勅令

明治二十二年五月二十一日第六十九號

補充條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍豫備後備將校補充條例

第一條　陸軍豫備後備將校同相當官ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

第一　一年志願兵ニシテ一箇年服役ノ後終末試驗及第證書ヲ得テ豫備役ニ入ル者

第二　年齡滿限ニ至ラスシテ現役ヲ退キタル將校同相當官

屯田兵ニ在テハ前項ノ外屯田兵豫備下士ニシテ本隊（歩兵ニ在テハ札幌農學校）ニ於テ一箇年間軍事學ヲ修メ終末試驗及第證書ヲ所持スル者

第二條　第一條第一ニ當ル者ハ豫備士官ト爲ス可キ爲メ現役ヲ終リタル次年ニ於テ殆クモ三箇月間原隊ニ於テ勤務演習ヲ爲サシム但志願軍吏生志願軍醫生及志願獸醫生ノ勤務演習ハ原所屬ニ於テスルト其他ニ於テスルトハ近衛都督又ハ師團監督部長若クハ軍醫長之ヲ定ム

第三條　第二條ノ勤務演習ハ本人ノ實望ニ由リ他隊ニ於テスルト勤務演習ノ期ヲ翌年ニ延ストハ近衛都督又ハ師團長ノ許可ヲ受ケ可キモノトス但他ノ師團ノ某隊ニ於テ勤務演習ヲ爲サント欲スル者ハ近衛都督又ハ師團長ヨリ他ノ師團長ニ照會ス可シ

第四條　勤務演習ノ時期ハ歩兵ニ在テハ近衛都督又ハ師團長他兵ニ在テハ各兵監志願軍吏生志願軍醫生及志願獸醫生ニ在テハ各兵監志願軍吏生志願軍醫生及志願獸醫生ニ在テハ近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長之ヲ定メ志願獸醫生ニ在テハ本人ノ便宜ヲ斟酌シ原隊ニ於テ之ヲ定ム

第五條　勤務演習ニ召集シタル者ハ其演習ノ初ニ於テ豫備見習士官ト爲シ現役見習士官ト同一ノ取扱及教育ヲ受ケシム但志願軍吏生志願軍醫生志願獸醫生及志願獸醫生ハ各其專門ノ勤務ニ服セシム

第六條　勤務演習ノ終ニ於テ豫備將校試驗ヲ爲シ及第ノ者ヲ士官ニ選擧シ及補任ノコトヲ上申ス

ルハ陸軍各兵科現役士官補充條例第二十九條乃至第三十一條ニ依ル但豫備將校試驗ノ方法ハ近衛都督又ハ師團長之ヲ定ム

志願軍醫生志願獸醫生ハ實地ノ試驗ヲ爲シ其及第者ヲ衛生部士官ニ選擧シ及補任ノコトヲ上申スルハ陸軍衛生部現役士官補充條例第十一條乃至第十四條ニ依ル但選擧會議ニ於テ多數ノ否認者アルトキハ其報告書ヲ陸軍省醫務局長ニ上申シ醫務局長ハ其理由ヲ具ヘ陸軍大臣ニ進達シ大臣ニ於テ見習士官ノ分限ヲ除クコトヲ裁定ス此裁定ヲ受ケタル者ハ一等看護長又ハ一等調劑手ニ任シ豫備役ニ編入ス

志願軍吏生及志願獸醫生ハ實地ノ試驗ヲ爲シ其及第者ヲ軍吏部又ハ獸醫部士官ニ選擧シ及補任ノコトヲ上申スルハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條　第六條ノ試驗ニ落第シ仍ホ豫備士官タランコトヲ願望スル者及事故アリテ召集ニ應シ得サリシ者ハ次年ノ勤務演習ニ召集ス

第八條　第六條ノ試驗ニ落第シタル者ハ聯隊長若クハ之ト同等ノ權アル長官ヨリ近衛都督又ハ師團長（歩兵ハ旅團長ヲ經テ）ニ上申シ許可ヲ得テ豫備見習士官タルノ分限ヲ除キ曹長同相當官若クハ軍曹相當官ニ任ス

第九條　第一條末項ニ掲クル軍事學終末試驗及第證書ヲ所持スル者ヲ豫備士官ト爲スニハ屯田兵司令官其成績ヲ詳悉シ之ニ考科表ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達ス

第十條　豫備將校同相當官ノ服役期限ハ第一條第一ニ當ル者ハ徵兵令第十一條ニ依リ二箇年トシ第二及末項ニ當ル者ハ現役ニ於テ定メタル年齡定限迄トス

第十一條　後備將校同相當官ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

第一　豫備將校同相當官ヨリ後備籍ニ轉入スル者

第二　年齡滿限ニ至リ現役ヲ退キタル將校同相當官

第十二條　後備將校同相當官ノ服役期限ハ總テ五箇年トス

第十三條　豫備後備將校同相當官ハ現役將校ノ進級停年ニ等シキ年數ヲ超ユルトキハ特ニ進級ノ爲メニスル勤務演習ニ於テ實地ノ技能ヲ實閱シテ進級セシムルコトヲ得其方法ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十四條　豫備後備將校同相當官ハ志願ニ由リ其服役期限ヲ延スコトヲ得

第十五條　豫備後備將校同相當官ノ服役期限既ニ滿ツルト雖モ戰時若クハ事變ニ際スルトキハ其期限ヲ延スコトアル可シ

附則

第十六條　豫備後備將校同相當官ハ當分豫備後備下士中士官適任證書ヲ所持スル者ヨリ補充スルコトアル可シ

士官適任證書ヲ所持スル者ヲ豫備後備ノ士官ト爲スニハ第一條第一ニ當ル者ノ例ニ依ル其服役期限ハ豫備二箇年後備五箇年トス

第十七條　現今後備軍輜兵タル將校同相當官中現役ニ於テ定メタル年齡定限ニ滿タサル者ハ其定限ニ滿ツル迄年齡定限ニ由リ後備軍輜兵トナリタル者ハ輜兵中ノ年數ヲ通算シ五箇年間又後備軍輜兵滿期ノ際志願ニ由リ服役延期中ノ者ハ其期限滿ツル迄後備役ニ服セシム

勅令

明治二十二年五月二十一日第七十號

陸軍各兵科豫備後備下士補充條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍各兵科豫備後備下士補充條例

第一條　陸軍各兵科（騎兵科ヲ除ク以下之ニ倣フ）豫備下士ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

第一　豫備役上等兵中下士適任證書ヲ所持スル者

第二　現役免除ノ際下士ニ任セラレタル者

第三　服役七箇年ニ滿タスシテ現役ヲ退キタル下士

第二條　各大隊長ハ多數ノ豫備下士ヲ養成スルヲ以テ責任トス故ニ每年各大隊ニ於テ殆クモ上等兵六名（騎兵砲兵ハ各一名輜重兵ハ四名）ヲ下士ニ任シ或ハ下士適任證書ヲ附與シ除隊スルモノトス

第三條　第二條ノ下士ニ任ス可キ者ハ上等兵中技能優等ニシテ且品行方正ナル者ニ限ル

其當選者ハ聯隊長（獨立大隊ニ在テハ大隊長以下之ニ倣フ）ヨリ近衛都督又ハ師團長（歩兵ハ旅團長ヲ經テ）屯田司令官ニ具狀シ認可ヲ請ケ二等軍曹ニ任ス

第四條　陸軍各兵科後備下士ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

第一　後備役上等兵中下士適任證書ヲ所持スル者

第二　豫備役ヲ終リ後備役ニ轉入スル下士

第三　服役七箇年以上十二箇年ニ滿タスシテ現役ヲ退キタル下士

第五條　第一條第一及第四條第一ノ上等兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ下士ノ缺員ニ應シ聯隊長之ヲ二等軍曹ニ任ス

第六條　豫備後備下士ハ任官後現役下士ノ進級停年ニ等シキ年數ヲ超ユルトキハ特ニ進級ノ爲メ

ニスル勤務演習ニ於テ實地ノ技能ヲ査閲シ進級セシムルコトヲ得其方法ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條　豫備後備ノ下士及下士適任證書ヲ所持スル上等兵ハ志願ニ由リ服役期限ヲ延スコトヲ得

第八條　禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

附　則

第九條　豫備後備下士ハ當分豫備後備役兵卒中上等兵ニアラスシテ下士適任證書ヲ所持スル者ヨリ補充スルコトアル可シ

第十條　後備軍編員滿期ノ際志願ニ由リ服役延期中ノ者ハ其期限滿ツル迄後備役ニ服セシム

勅令

明治二十七年五月二日第五十五號

陸軍獸醫部現役士官補充條例

陸軍獸醫部現役士官ノ補充ハ獸醫部士官候補生ニシテ陸軍獸醫學校ニ於テ三箇月間陸軍獸醫ノ學術ヲ修得シ尚二箇月以上隊附獸醫部士官ノ勤務ヲ練習シタル者ヲ以テス

第一條　獸醫部士官候補生ニ採用シ得ヘキ者ハ左ノ如シ但第一第二ニ該ル者ニシテ豫備後備ノ兵役ニ在ル者ハ採用セス

一　帝國大學農科大學獸醫學科學生ニシテ志願者中適當ノ者ヲ選ミ農科大學依託學生ト爲シ同科ヲ卒業シタル者

二　帝國大學農科大學獸醫學科卒業生ニシテ志願者中適當ノ者

三　帝國大學農科大學獸醫學科卒業生タル一年志願兵ニシテ志願者中適當ノ者

第二條　獸醫部士官候補生ニ採用シ得ヘキ者ハ左ノ如シ但第一第二ニ該ル者ニシテ豫備後備ノ兵役ニ在ル者ハ採用セス

一　帝國大學農科大學獸醫學科學生ニシテ志願者中適當ノ者ヲ選ミ農科大學依託學生ト爲シ同科ヲ卒業シタル者

二　帝國大學農科大學獸醫學科卒業生ニシテ志願者中適當ノ者

三　帝國大學農科大學獸醫學科卒業生タル一年志願兵ニシテ志願者中適當ノ者

第三條　獸醫部士官候補生及農科大學依託學生ハ陸軍省軍務局長ノ管理ニ屬ス

第四條　獸醫部士官候補生及農科大學依託學生ハ員數ニ其ノ採用方法ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第五條　獸醫部士官候補生ハ六名ヲ以テ定員トス

第六條　獸醫部士官候補生ノ被服ハ陸軍二等看護長ニ同シ但第一種衣ハ肩章ニ夏衣ハ左臂ニ特別ノ徽章ヲ附ス

第七條　獸醫部士官候補生ハ校外若クハ營外ニ居住セシメ士官以上ノ公會ニ列席セシムルヲ要ス

第八條　獸醫部士官候補生ハ志願兵トシテ兵籍ニ編入シ陸軍一定ノ規則ニ依リ服役セシム

第九條　獸醫部士官候補生及農科大學依託學生ニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ル者アルトキハ陸軍大臣免除ノ裁定ヲ爲スコトヲ得

一　傷痍疾病ニ由リ學業ニ堪ヘサル者

二　學力乏シク候補生又ハ依託學生ニ適セサル者

三　品行不正服法則ヲ犯ス者

四　軍紀ヲ紊ル者

五　其ノ他上官ニ於テ候補生ニ適セスト認ムル者

第十條　獸醫部士官候補生陸軍獸醫學校在學中ハ校長之ヲ監督シ修學終レハ修得證明書ヲ付與シ軍務局長ニ報告ス

第十一條　獸醫部士官候補生陸軍獸醫ノ學術ヲ修得シ終レハ各師團ノ騎兵野戰砲兵輜重兵隊ニ配賦シ隊附獸醫部士官ノ勤務ヲ練習セシム之ヲ見習獸醫官ト爲ス但配賦ノ際ハ軍務局長之ヲ定メ同時ニ當該師團長ニ移牒ス

第十二條　見習獸醫官ハ曹長同等ノ階級トシ位置ハ其ノ上位トス

第十三條　見習獸醫官ノ被服ハ陸軍一等看護長ニ同シ但第一種衣ハ肩章ニ夏衣ハ左臂ニ特別ノ徽章ヲ附ス

見習獸醫官ノ餌、餌桶、飼帚、携帶嚢、脚絆ハ獸醫部士官ト同一トス

第十四條　見習獸醫官在隊中ハ隊長之ヲ監督シ其ノ練習ハ師團獸醫長之ヲ指揮シ隊附獸醫ヲシテ擔當セシム

第十五條　見習獸醫官隊附勤務ノ練習二箇月ヲ經過スルトキハ本人所屬隊長ハ隊附中ノ景況書ヲ調製シ之ヲ軍務局長ニ進述シ師團獸醫長ハ考科表ヲ調製シ之ニ自己ノ意見書ヲ添ヘ軍務局長ニ進達ス軍務局長ハ該書類ニ依リ陸軍三等獸醫ニ任スヘキ資格ノ有無ヲ審査シ考科表ニ意見書ヲ添ヘ陸軍大臣ニ具申ス

第十六條　陸軍三等獸醫ニ任スヘキ資格アル者ハ補任迄尚隊務ニ從事セシメ資格ナキ者ハ第九條ニ準シテ免除ノ處分ヲ爲スヘシ

第十七條　一年志願兵出身ノ者ニシテ第九條及第十六條ニ依リ免除ノ裁定ヲ受ケタル者ハ原隊ニ復セシメ前役ヲ通シテ現役、豫備役、後備役ニ服セシム

但第九條第一ニ該リタル者ニシテ現役ニ堪ヘ難キ者及常備後備ノ服役ニ堪ヘ難キ者ハ直ニ國民兵役ニ編入シ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免除ス

附　則

第十八條　明治三十年十二月迄ハ左ニ掲クル者ハ士官候補生ヲ命セスシテ直ニ陸軍三等獸醫ニ任スルヲ得但名簿採用ノ方法ハ陸軍大臣之ヲ定

ム

帝國大學農科大學獸醫學科卒業生

元駒場農學校獸醫學科卒業生

元東京農林學校獸醫學本科卒業生

帝國大學農科大學獸醫學科准卒業生

勅令

明治二十六年七月二日第七十七號

陸軍衛生部現役士官補充條例

陸軍衛生部現役士官補充條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　陸軍衛生部現役士官ノ補充ハ四箇月以上衛生部士官ノ勤務ヲ習得シ衛生部士官選擧會議ニ於テ可決シタル衛生部士官候補生ヲ以テス

第二條　衛生部士官候補生ハ帝國大學醫科大學學生中陸軍出身志願ノ者ヲ醫科大學依託學生トナシ同學ノ課程ヲ卒業セシメタル者ヨリ採用ス若シ其要員不足シタルトキハ一年志願兵中軍醫生若クハ藥劑生ニシテ候補生志願ノ者ヨリ採用ス但軍醫生ハ醫術開業免狀藥劑生ハ藥劑師免狀ヲ所持スル者ニ限ル

第三條　第二條ノ依託學生ハ四十名ヲ以テ定員トス

依託學生ノ補缺要員及軍醫生藥劑生ヨリ召募スヘキ候補生志願者ノ要員竝其採用方法ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條　衛生部士官候補生ノ身分ハ曹長同等ノ階級トシ位置ハ曹長ノ上位トス而シテ士官候補生ヲ一ニ見習醫官若クハ見習藥劑官ト云フ

衛生部士官候補生ハ師團司令部所在ノ地ノ部隊ニ配布シ衛生部士官ノ勤務ヲ習得セシム其見習醫官ハ歩兵聯隊ニ見習藥劑官ハ衛戍病院ニ於テス但其部隊ハ醫務局長之ヲ定メ同時ニ師團長ニ移牒ス

衛生部士官候補生ハ禁外ニ居住セシメ士官以上ノ公會ニ於テハ之ニ列席セシムルヲ要ス

第五條　見習醫官ノ被服ハ一等看護長、見習藥劑官ノ被服ハ一等調劑手同一ノモノヲ給ス但餌、餌桶、飼帚、携帶嚢、脚絆ハ衛生部士官同一ノモノヲ給ス

第六條　衛生部士官候補生ハ配布ヲ受ケタル師團ノ軍醫長之ヲ管理シ其教育ハ該隊高級醫官若クハ衛戍病院長之ヲ掌ル

第七條　衛生部士官候補生ヲ部隊ニ配布シテ四箇月ヲ經過シタルトキ軍醫長ハ先ツ該隊高級醫官若クハ衛戍病院長ヨリ本人ノ學術及勤務品行等ヲ調査シ本人ノ履歴書ヲ添ヘ三等軍醫又ハ三等藥劑官ノ資格ヲ備フルコトヲ醫務局長ニ具申ス醫務局長ハ之ヲ審査シ本人ノ履歴書ヲ添ヘ陸軍大臣ニ具申ス

第十條　選擧會議ニ於テ議員ノ多數否認シタルトキ若クハ六箇月以上ニ至ル選擧會議ニ附スルコト能ハサル者アルトキハ軍醫長ハ其事由ヲ醫務局長ニ具申ス醫務局長ハ之ヲ審査シ狀況ヲ具シテ陸軍大臣ニ進達シ陸軍大臣ハ衛生部士官候補生ノ分限ヲ除クノ裁定ヲ爲スコトヲ得此裁定ヲ受ケタル者軍醫生藥劑生出身ノ者ナルトキハ更ニ軍醫生藥劑生ニ復セシメ前役ヲ通シテ現役、豫備役、後備役ニ服セシム

附　則

第十一條　此條例ハ明治二十六年八月一日ヨリ施行ス

勅令

明治二十一年十二月二十四日第九十三號

陸軍衛生部現役下士補充條例

陸軍衛生部現役下士補充ハ看護手ニシテ入隊ノ日ヨリ起算シ二箇年以上現役ニ服シ再服役ヲ許シタル者ヲ以テス

豫備隊ニ在テハ一箇年以上在隊ヲ許シタル者ヲ以テス

第一條　陸軍衛生部現役下士補充ハ看護手ニシテ入隊ノ日ヨリ起算シ二箇年以上現役ニ服シ再服役ヲ許シタル者ヲ以テス

豫備隊ニ在テハ一箇年以上在隊ヲ許シタル者ヲ以テス

第二條　近衛及師團ノ軍醫長ハ第一條ニ適當シ學術優等ノ者ヲ選擇シテ衛生部下士候補名簿ヲ製シ陸軍省醫務局長ニ呈スヘシ

第三條　醫務局長ハ前條ノ候補名簿ヲ審査シ衛生部下士決定候補名簿ヲ製シ之ヲ近衛及師團ノ軍醫長ニ下付スヘシ

第四條　近衛及師團ノ軍醫長ハ管内衛生部下士ノ缺員アル毎ニ決定候補名簿ノ順序ニ從ヒ三等看護長若クハ三等調劑手ニ任ス

第五條　陸軍各兵科現役下士補充條例第二條第二項第八條第九條第十條第十一條第十三條及醫部隊條例第五條ハ本條例ニ亦之ヲ適用ス

第六條　陸軍各兵科現役下士補充條例第八條第九條第十條ニ當ル者ハ聯隊長（獨立大隊ハ大隊長）又ハ直屬ノ長官ヨリ當該軍醫長ニ移シ軍醫長ハ醫務局長ノ認可ヲ請ヒ現役若クハ兵役ヲ免ス

第七條　衛生部下士ニシテ刑法又ハ懲罰令ニ依リ官職ヲ失ヒ若クハ官職ヲ免シタル者ハ前兵科ニ

復シ兵卒トナシ服役年月ヲ通算シ其年數ニ從ヒ現役豫備役後備役ニ服セシム

第八條　屯田兵所屬衛生部下士ノ補充ハ別ニ定ムル所ニ據ル

勅令

明治二十四年九月朕陸軍軍吏部現役下士補充條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部現役下士補充條例

第一條　陸軍軍吏部現役下士ノ補充ハ歩騎砲工輜重兵科ノ上等兵中軍吏部下士出身志願ノ者チシテ軍隊ニ於テ三箇月間會計事務ヲ見習ハシメ該隊軍吏適當ト認メタル者ヲ近衛師團監督部長ニ上申シ部長試驗ヲ行ヒ合格者ノ内ヨリ一箇年間所要ノ人員ヲ採リ更ニ二箇月間當該監督部若クハ司計部若クハ糧餉部ノ事務ヲ見習ハシメタル者ヲ以テス

第二條　近衛師團監督部長ハ前條監督部若クハ司計部若クハ糧餉部ノ事務ヲ見習ハシメタル者ノ優劣順序ヲ定メ軍吏部下士候補名簿ヲ製シ之ヲ陸軍省經理局長ニ呈スヘシ

第三條　經理局長ハ前條ノ候補名簿ヲ審査シ軍吏部下士決定候補名簿ヲ製シ之ヲ近衛師團監督部長ニ下付スヘシ但決定候補名簿ニ登載ノ上等兵ハ再服役ヲ願願スルコトヲ得ス

第四條　近衛師團監督部長ハ其管區内軍吏部下士ノ缺員アル毎ニ決定候補名簿ノ順序ニ從ヒ三等書記ニ任ス

第五條　軍吏部下士ノ兵役期限ハ入隊ノ日ヨリ起算シ現役四年豫備役三年後備役五年トス

第六條　陸軍各兵科現役下士補充條例第二條第二項第八條乃至第十一條第十三條ハ本條例ニ於テ之ヲ適用ス

第七條　陸軍各兵科現役下士補充條例第八條第九條第十條ニ當ル者ハ聯隊長獨立隊長又ハ直屬ノ長官ヨリ當該監督部長ニ移シ監督部長ハ經理局長ノ認可ヲ請ヒ現役若クハ兵役ヲ免ス但經理局管理ノモノニアリテハ局長之ヲ處分ス

第八條　軍吏部下士ニシテ刑法又ハ懲罰令ニ依リ官職ヲ失ヒ若クハ官職ヲ免シタル者ハ前兵科ニ復シ兵卒トナシ服役年月ヲ通算シ其年數ニ從ヒ現役豫備役後備役ニ服セシム

附則

第九條　現任ノ軍吏部下士服役年期ハ從前定ムル所ニ依ル

第十條　第八條ニ該當スル軍吏部下士ニシテ前兵科ナキ者ハ歩兵科ニ編入ス

第十一條　屯田兵所屬軍吏部下士ノ補充ハ別ニ定ムル所ニ依ル

勅令

明治二十四年九月朕陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍軍吏部豫備後備下士補充條例

第一條　陸軍軍吏部豫備後備下士ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

第一　各兵科上等兵中現役免除ノ際軍吏部下士ニ任セラレタル者

第二　各兵科豫備役上等兵中軍吏部下士適任證書ヲ所持スル者

第三　服役七箇年ニ滿タスシテ現役ヲ退キタル軍吏部下士

第二條　各監督部長ハ軍吏部豫備下士ヲ補充スル爲メ毎年軍吏部下士志願ノ上等兵中軍吏部下士現役補充條例ニ掲クル所ノ試驗合格者ニシテ軍吏部下士候補名簿ニ登載セル者現役滿期ニ至ルトキハ其際三等書記ニ任シ其他ノ者現役滿期ニ至ルトキハ軍吏部下士適任證書ヲ附與スヘシ

第三條　陸軍軍吏部後備下士ノ補充ハ左ニ掲クル者ヲ以テス

第一　軍吏部下士ノ豫備役ヲ終リタル者

第二　各兵科後備役上等兵中軍吏部下士適任證書ヲ所持スル者

第三　服役七年以上十二年未滿ニシテ現役ヲ退キタル軍吏部下士

第四條　第一條第二及ヒ第三條第二ノ上等兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ軍吏部下士ノ缺員ニ應シ監督部長之ヲ三等書記ニ任ス

第五條　豫備後備ノ軍吏部下士ハ任官後現役下士ノ進級停年ニ等シキ年數ヲ超ユルトキハ特ニ適級ノ爲ニスル勤務演習ニ於テ實地ノ技能ヲ審査シ進級セシムルコトヲ得其方法ハ陸軍進級令ニ依ル

第六條　豫備後備ノ軍吏部下士及ヒ軍吏部下士適任證書ヲ所持スル上等兵ハ志願ニ依リ服役期限ヲ延スコトヲ得

第七條　禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及ヒ逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

陸軍省達

明治二十四年九月十一日第百二十八號　軍吏部下士補充條例細則別冊ノ通定ム

軍吏部下士補充條例細則

第一條　軍吏部下士タランコトヲ志願シ選ル上等兵ハ前前年ノ入營ニシテ上等兵トナリタル後六箇月以上現役ニ服シタル者ニ限ル

第二條　近衛師團各隊ニ於テハ毎年六月志願者ヲ選擇シ歩兵ニ在リテハ聯隊毎ニ三名其他ニ在リテハ大隊（大隊ヲ爲ササル諸隊ハ該隊）毎ニ一名該隊軍吏ニ附屬セシメ會計事務ヲ見習ハシム

第三條　隊附軍吏ハ前條ノ上等兵ヲシテ會計事務ヲ見習ハシメ且附屬書記ノ事務ヲ補助セシメ常ニ之ヲ監視シテ其適否ヲ考察スヘシ

第四條　隊附軍吏ハ毎年九月見習上等兵中適任ト認ムル者ニ就キ意見書ヲ製シ該隊長ヲ經由シテ當該監督部長ニ移シ不適任ト認ムル者アルトキハ該隊長ニ具申シ見習ヲ止ムヘシ

第五條　近衛師團監督部長第四條ノ書類ヲ受領スレハ部中ニ於テ檢査委員ヲ編制シ自ラ首座ト爲リテ檢査ヲ行フヘシ

第六條　近衛師團監督部長ハ檢査合格者ノ内優等ノ者若干名（本年十二月ヨリ翌年十一月マテ補充スヘキ人員ヲ標準トス）ヲ選ヒ都督師團長ノ認可ヲ得テ監督部若クハ司計部若クハ糧餉部ノ事務ヲ見習ハシメ其他ノ者ハ尚本隊軍吏ニ附屬シ見習ヲ繼續セシム但不合格ノ者ハ該隊長ニ通報シテ見習ヲ止ムヘシ

第七條　見習上等兵ハ本隊ノ定員中ニ在リテ身分及ヒ諸給與等總ヘテ該隊ノ管理ニ屬ス

第八條　近衛師團監督部長ハ監督部若クハ司計部若クハ糧餉部ノ事務見習兵ヲ監視シ十一月二十日迄ニ其成績ニ依リ優劣順序ヲ定メ軍吏部下士候補名簿ヲ製シ考科表ト意見書トヲ添ヘ經理局長ニ呈シ該局長ハ更ニ近衛師團各監督部ノ管區毎ニ軍吏部下士決定候補名簿ヲ製スヘシ

第九條　近衛師團監督部長ハ軍吏部下士缺員ニ該リ前條決定候補名簿ノ順序ニ從ヒ三等書記ニ任シ豫備役ニ編入シ之ヲ經理局長ニ報告スヘシ

第十條　第六條ニ掲クル檢査合格者ニシテ尚該隊軍吏ニ附屬スル所ノ見習上等兵現役滿期トナリトキハ軍吏ニ於テ更ニ覓見書ヲ製シ該隊長ヲ經由シテ當該監督部長ニ移シ監督部長ハ之ヲ調査シ軍吏部下士適任證書ヲ附與シテ歸郷セシム

第十一條　軍吏部下士適任證書ヲ有スル上等兵ヲシテ平時復習ノ爲メ召集スルトキハ會計事務ニ服セシム但決定候補名簿ニ登載ノ上等兵歸休中召集スルトキニ於テモ亦同シ

勅令

明治二十三年八月十五日第百七十四號　朕陸軍砲蕊監守補充條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍砲蕊監守補充條例

第一條　砲蕊監守ノ補充ハ現役砲工兵科曹長同一等軍曹中志願者ニシテ其入隊ノ日（教導團ヲ卒業シテ下士ニ任シタル者ハ其任官ノ日）ヨリ起算シ七箇年以上隊附勤務ニ服シ品行方正勤務勉勵ナル者ヲ以テス

第二條　砲蕊監守ノ補充ヲ要スルトキハ陸軍大臣之ヲ告達ス

第三條　志願者アルトキハ隊長若クハ直屬長官ハ志願者中第一條ニ適當スル者ヲ選ヒ其人名書ニ考科表ヲ添ヘ順序ヲ經テ近衛都督師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ具シ同官ハ之ヲ審査シテ陸軍大臣ニ呈ス

第四條　陸軍大臣ハ前條人名書ヲ軍務局長ニ下シ同局長ハ志願者ノ各官等中ニ於テ其服役實期ト考科表トヲ參照シ砲蕊監守候補名簿ヲ製シ之ヲ陸軍大臣ニ呈ス

陸軍大臣ハ候補者ヲ決定シ之ヲ軍務局長ニ下シ同局長ハ之ヲ軍務局工兵事務課長ニ下シ同課長ハ缺員アル毎ニ該名簿ノ列序ニ從ヒ之ヲ砲蕊監守ニ任ス

第五條　砲蕊監守ノ服役年限ハ砲蕊監守ニ任セラレタル日ヨリ更ニ七箇年間現役ニ服セシム

第六條　現役中疾病若クハ傷痍ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免ス但人隊ノ日（教導團ヲ卒業シテ下士ニ任シタル者ハ其任官ノ日）ヨリ起算シ十二箇年ニ滿タサルトキハ前兵科ノ曹長ニ復任シ後備役ニ編入ス

第七條　現役中疾病若クハ傷痍ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第八條　第六條第七條ニ當ルモノアルトキハ工兵方面提理ハ陸軍大臣ニ具申シ認可ヲ得テ現役若クハ兵役ヲ免ス

第九條　服役期限既ニ滿ツルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキハ其期限ヲ延スコトアルヘシ

陸軍省達

明治二十三年十二月二十七日第二百二十三號　陸軍砲蕊監守補充手續左ノ通定ム

陸軍砲蕊監守補充手續

第一條　砲蕊監守補充條例第一條ノ年限算定ノ日ハ同條例第二條當達ノ都度之レヲ定ム

第二條　候補名簿ハ砲兵工兵各別ニ製シ認可決定ノ日ヨリ起算シ一箇年間用フルモノニシテ其任用ハ砲兵工兵交互ニ之レヲ行フモノトス但シ一方ニ候補者ナキトキハ此限ニ非ス

第三條　各所管長官ハ志願者中任用前昇級若クハ所屬ヲ變換シ又補充條例第一條ノ資格ヲ失シ其他身上ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ之レヲ軍務局長ニ通報スヘシ

勅令

明治二十六年七月朕陸軍蹄鐵工下長補充條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍蹄鐵工下長補充條例

第一條　陸軍騎兵砲兵輜重兵ノ蹄鐵工下長ヲ補充スルニハ騎兵野戰砲兵輜重兵隊ノ蹄鐵工卒ニシテ陸軍獸醫學校卒業ノ者ヲ以テス

第二條　前條ノ蹄鐵工卒ヲ蹄鐵工下長ニ任スルニハ陸軍省軍務局長ハ卒業人名簿ヲ陸軍大臣ニ呈シ認可ヲ請ケ師團長ヲ經テ聯「大」隊長ニ移シ聯「大」隊長ハ該隊ニ缺員アル毎ニ之ヲ任ス

第三條　蹄鐵工下長ニ任セラレタル者ノ兵役期限ハ入隊ノ日ヨリ起算シ五箇年間現役ニ服セシメ其役終ルノ後前役ヲ通算シ七箇年ニ滿ル迄ハ豫備役ニ十二箇年ニ滿ル迄ハ後備役ニ服セシム

第四條　各兵科現役下士補充條例第二條第二項及第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條ハ本條例ニ適用ス

附則

第五條　若陸軍蹄鐵學舍卒業ノ者ニシテ蹄鐵工下長ニ任セラレタル者ノ兵役期限ハ改正以前ノ規定ニ依ル

陸軍省達 明治二十二年十二月五日第百七十二號　憲兵下士上等兵補充細則別冊ノ通定ム

憲兵下士上等兵補充細則

第一條　憲兵下士及ヒ上等兵ノ補充ハ左ノ二項ニ恰當シタル者ヲ以テス

一　品行方正志操確實

二　下士ハ滿二十三歲以上三十五歲迄上等兵ハ滿二十二歲以上三十歲迄

第二條　各兵科ヨリ憲兵下士及上等兵ヲ補充スルハ現役及ヒ豫備後備ノ下士兵卒ニシテ二箇年以上現役ニ服シ補充檢査ニ合格シタル者ニ限ル

第三條　憲兵上等兵ヨリ下士ヲ補充スルニハ分隊長部下上等兵ニシテ第一條第一項第二項ニ恰當ノ者ヲ選拔シ技能ノ優劣ニ由リ順序ヲ定メ下士假候補名簿及ヒ品行證明書ヲ製シ三月三十一日迄ニ之ヲ憲兵隊長ニ呈シ憲兵隊長ハ點檢取捨シ其下士候補名簿ハ隊ノ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ所要ニ應シ候補名簿ノ順序ニ從ヒ憲兵下士又ハ上等兵ニ選任ス可シ但其任命ハ近衛都督師團長其他ノ長官ヲ經由スヘシ

第七條　憲兵下士上等兵補充檢査ハ體格及ヒ學科ノ二種トシ其學科ハ筆記及ヒ口述ノ二種トス但體格檢査ニ合格セサル者ハ學科ノ檢査ヲ行ハス

體格檢査ハ檢査場所在地ノ陸軍醫官ナシテ從事セシムルヲ以テ憲兵司令官若クハ憲兵隊長ヨリ醫官所屬ノ長官ニ照會ス可シ

第八條　憲兵下士上等兵補充檢査格例及ヒ合格規程ハ憲兵司令官之ヲ定メ近衛都督師團長ノ各官廳長官ニ通知ス可シ

第九條　憲兵下士上等兵補充檢査施行期日ハ憲兵隊長ヨリ各隊長大隊區司令官及ヒ所屬長ニ通知ス可シ

第十條　憲兵下士上等兵補充檢査ノ場所ニ往復スル者ノ旅費ハ總テ自辨トス

勅令 明治二十三年八月十五日第百七十三號　陸軍砲兵監護同諸工下士補充條例

陸軍砲兵監護同諸工下士補充條例

第一條　砲兵監護ノ補充ハ現役砲兵被工鐵工木工鍛工長ニシテ實役滿年二年以上ノ者若クハ監護志願者ニシテ砲兵方面附トナリタル再服役以上ノ砲兵曹長火工曹長ヲ以テス

火工二等軍曹ノ補充ハ砲兵上等兵ニシテ陸軍砲兵工科學舍卒業ノ者ヲ選拔シ技能ノ優劣ニ由リ順序ヲ定メ下士候補名簿ヲ製シ三月三十一日迄ニ之ヲ憲兵隊長ニ呈シ憲兵隊長ハ點檢取捨シ其下士候補名簿ハ隊ノ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ所要ニ應シ候補名簿ヲ陸軍大臣ニ呈ス可シ

憲兵司令官ハ候補名簿ヲ點檢取捨シ之ヲ陸軍大臣ニ呈シ認可ヲ請ケ各隊ノ缺員ニ應シ下士候補者ヲ二等軍曹ニ任ス

下士候補者ヲ以テ缺員ヲ補フニハ同隊ニ於テスルヲ例トス

第四條　各兵科ノ下士兵卒ヨリ憲兵下士及ヒ上等兵ノ補充ヲ要スルトキハ憲兵司令官ヨリ所要ノ人員ヲ陸軍大臣ニ上申シ陸軍大臣之ヲ告達ス但各兵科ヨリ補充スルニハ補充ヲ要スル憲兵隊所在地ノ師管內ニ於テスルヲ例トス

第五條　前條ノ告達アルトキハ近衛都督又ハ師團長之ヲ各隊長大隊區司令官（歩兵聯隊長及大隊區司令官ニハ旅團長ヲ經テ）ニ達シ各隊長及大隊區司令官ハ志願者ヲ取調ヘ其人名書ニ品行證明書ヲ添ヘ近衛都督師團長（歩兵聯隊長及大隊區司令官ハ旅團長ヲ經テ）ニ呈シ同官ヨリ之ヲ憲兵司令官ニ送付ス可シ

各官廳ニ在テハ前項ニ準シ志願者ヲ取調ヘ其長官ヨリ人名書及ヒ品行證明書ヲ憲兵司令官ニ送付ス可シ

第六條　憲兵司令官前條ノ書類ヲ受領スルトキハ其書類ヲ添ヘ憲兵隊長ニ達シ該隊副官又ハ分隊長ヲ各地ニ派遣シテ補充檢査ヲ行ハシム可シ其檢査ニ合格ノ者ハ副官又ハ分隊長其優劣ニ由リ順序ヲ定メ憲兵下士假候補名簿又ハ憲兵上等兵假候補名簿ヲ製シ檢査書類ト共ニ之ヲ憲兵隊長ニ呈シ憲兵隊長ハ點檢取捨ヲ加ヘ一師管ヲ通シテ順序ヲ定メ下士候補名簿又ハ上等兵候補名簿ヲ製シ憲兵司令官ニ呈ス可シ

憲兵司令官ハ候補名簿ヲ點檢取捨シ其下士候補名簿ハ隊ノ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ所要ニ應シ候補名簿ヲ陸軍大臣ノ認可ヲ請ケ所要ニ應シ候補名簿ノ順序ニ從ヒ憲兵下士又ハ上等兵ニ選任ス可シ但其任命ハ近衛都督師團長其他ノ長官ヲ經由スヘシ

第七條　憲兵下士上等兵補充檢査ハ體格及ヒ學科ノ二種トシ其學科ハ筆記及ヒ口述ノ二種トス但體格檢査ニ合格セサル者ハ學科ノ檢査ヲ行ハス

體格檢査ハ檢査場所在地ノ陸軍醫官ナシテ從事セシムルヲ以テ憲兵司令官若クハ憲兵隊長ヨリ醫官所屬ノ長官ニ照會ス可シ

第八條　憲兵下士上等兵補充檢査格例及ヒ合格規程ハ憲兵司令官之ヲ定メ近衛都督師團長ノ各官廳長官ニ通知ス可シ

第九條　憲兵下士上等兵補充檢査施行期日ハ憲兵隊長ヨリ各隊長大隊區司令官及ヒ所屬長ニ通知ス可シ

第十條　憲兵下士上等兵補充檢査ノ場所ニ往復スル者ノ旅費ハ總テ自辨トス

勅令 明治二十三年八月十五日第百七十三號　陸軍砲兵監護同諸工下士補充條例

陸軍砲兵監護同諸工下士補充條例

第一條　砲兵監護ノ補充ハ現役砲兵被工鐵工木工鍛工長ニシテ實役滿年二年以上ノ者若クハ監護志願者ニシテ砲兵方面附トナリタル再服役以上ノ砲兵曹長火工曹長ヲ以テス

火工二等軍曹ノ補充ハ砲兵上等兵ニシテ陸軍砲兵工科學舍卒業ノ者ヲ以テス

砲兵諸工下長ノ補充ハ陸軍砲兵工科學舍生徒ニシテ卒業ノ者ヲ以テス

第二條　砲兵諸工長ヲ砲兵監護ニ任スルニハ隊長若クハ直屬長官ハ所要ヲ量リ第一條第一項ニ該當スル者ヲ撰拔シ砲兵監護候補名簿ヲ製シ順序ヲ經テ近衛都督師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ呈シ同官ノ認可ヲ經テ缺員アル毎ニ之ヲ砲兵監護ニ任ス

砲兵曹長火工曹長ヲ砲兵監護ニ任スルニハ砲兵方面本署長陸軍大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ砲兵監護ニ任ス

第三條　陸軍砲兵工科學舍卒業ノ砲兵上等兵ヲ火工二等軍曹ニ任スルニハ聯隊長該隊ニ缺員アル毎ニ再服役ヲ許可シタル者ニ限リ之ニ任ス

第四條　陸軍砲兵工科學舍卒業生徒ヲ工下長ニ任スルニハ陸軍大臣ノ認可ヲ經東京砲兵工廠提理之ヲ工下長ニ任シ同大臣ノ告達ニ基キ各部隊ニ配付ス

第五條　砲兵監護ノ兵役期限ハ一般ノ兵役期限ニ拘ハラス監護ニ任セラレタル日ヨリ更ニ四年間現役ニ服セシム

其現役ヲ離ルルトキハ入隊ノ日（砲兵工科學舍生徒ノ內一般人民ヨリ採用シタル者及教導團卒業ノ者ハ初任ノ日）ヨリ起算シ十二年ニ滿タサルモノハ後備役ニ服セシム

第六條　火工二等軍曹ニ任セラレタル者ノ兵役期限ハ一般ノ兵役期限ニ拘ハラス陸軍砲兵工科學舍卒業ノ上原隊ニ復歸シ更ニ三年間（卒業ノ日ヨリ起算ス）現役ニ服セシム

其現役ヲ離ルルトキ前役ヲ通算シ七年ニ滿タサル者ハ豫備役ニ十二年ニ滿タサルモノハ後備役ニ服セシム

第七條　諸工下長ニ任セラレタル者ノ兵役期限ハ一般ノ兵役期限ニ拘ハラス任官ノ日ヨリ七年間現役ニ服セシム

其現役ヲ離ルルトキハ入隊ノ日（一般人民ヨリ採用シタル者ハ初任ノ日）ヨリ起算シ十二年ニ滿タサルモノハ後備役ニ服セシム

第八條　各兵科現役下士補充條例第二條第二項及第九條第十條第十一條第十二條第十三條ハ本條例ニ適用ス

第五欵　試補見習、候補生

勅令 明治二十六年十月三十日第百八十六號　陸文官試補及見習規程

陸文官試補及見習規程

第一條　本年勅令第百八十三號文官任用令及同年勅令第百八十四號ニ依リ奏任文官ニ任用セラルヘキ資格ヲ有スル者ハ試補トシ本年勅令第百八十三號文官任用令ニ依リ判任文官ニ任用セラルヘキ資格ヲ有スル者ハ見習トシテ各官廳ノ事務ヲ練習セシムルコトヲ得

第二條　試補ハ奏任官見習ハ判任官ノ待遇トス但俸給ヲ支給セス

附則

第三條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

明治二十年勅令第五十七號及明治二十一年閣令第二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

勅令 明治二十六年十二月十六日第二百五十一號　陸海軍高等武官候補生規則

海軍高等武官候補生規則

第一條　海軍高等武官候補生ハ海軍少尉候補生、海軍少機關士候補生、海軍少技士候補生、海軍少軍醫候補生、海軍少藥劑官候補生、海軍少主計候補生トス

第二條　海軍少尉候補生ハ海軍兵學校ノ全學科ヲ卒業シタル者ヨリ採用ス

海軍少機關士候補生ハ海軍機關學校ノ全學科ヲ卒業シタル者ヨリ採用ス

第三條　海軍少軍醫候補生ハ醫術開業免狀ヲ有スル者ニ就キ身體檢査學術試驗ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ採用ス

第四條　海軍少藥劑官候補生ハ藥劑師免狀ヲ有スル者ニ就キ身體檢査學術試驗ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ採用ス

第五條　海軍少主計候補生ハ官立公立尋常中學校若クハ海軍大臣ニ於テ之ト同等以上ト認ムル學校ノ卒業證書ヲ有シ且法律及經濟學ヲ教授スル學校ニ於テ三年以上ノ課程ヲ終ヘタル者ニ就キ身體檢査學術試驗ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ採用ス

第六條　海軍少尉候補生、海軍少藥劑官候補生又ハ海軍少主計候補生タランコトヲ欲スル者ハ海軍大臣ノ告示ニ從ヒ出願スヘシ

第七條　海軍ノ官費生徒ト爲リ外國ニ留學シ適當ノ卒業證書ヲ得タル者ハ其ノ成績ニ應シ相當ノ候補生ニ採用スルコトヲ得

私費ヲ以テ外國ニ留學シ相當ノ學術ヲ修メ卒業ノ後海軍出身志願ノ者ハ試驗ヲ行ヒ其ノ成績ニ應シ特ニ其ノ學科相當ノ候補生ニ採用スルコトアルヘシ

補生規則ヲ設可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍高等武官候補生規則

第一條　海軍高等武官候補生ハ海軍少尉候補生、海軍少機關士候補生、海軍少技士候補生、海軍少軍醫候補生、海軍少藥劑官候補生、海軍少主計候補生トス

第二條　海軍少尉候補生ハ海軍兵學校ノ全學科ヲ卒業シタル者ヨリ採用ス

海軍少機關士候補生ハ海軍機關學校ノ全學科ヲ卒業シタル者ヨリ採用ス

第三條　海軍少軍醫候補生ハ醫術開業免狀ヲ有スル者ニ就キ身體檢査學術試驗ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ採用ス

第四條　海軍少藥劑官候補生ハ藥劑師免狀ヲ有スル者ニ就キ身體檢査學術試驗ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ採用ス

第五條　海軍少主計候補生ハ官立公立尋常中學校若クハ海軍大臣ニ於テ之ト同等以上ト認ムル學校ノ卒業證書ヲ有シ且法律及經濟學ヲ教授スル學校ニ於テ三年以上ノ課程ヲ終ヘタル者ニ就キ身體檢査學術試驗ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ其ノ成績順序ニ從ヒ採用ス

第六條　海軍少尉候補生、海軍少藥劑官候補生又ハ海軍少主計候補生タランコトヲ欲スル者ハ海軍大臣ノ告示ニ從ヒ出願スヘシ

第七條　海軍ノ官費生徒ト爲リ外國ニ留學シ適當ノ卒業證書ヲ得タル者ハ其ノ成績ニ應シ相當ノ候補生ニ採用スルコトヲ得

私費ヲ以テ外國ニ留學シ相當ノ學術ヲ修メ卒業ノ後海軍出身志願ノ者ハ試驗ヲ行ヒ其ノ成績ニ應シ特ニ其ノ學科相當ノ候補生ニ採用スルコトアルヘシ

第八條　海軍少軍醫候補生、海軍少藥劑官候補生、海軍少主計候補生及前條第二項ノ者ニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ候補生ニ採用スルコトヲ得ス

一　年齢二十年未滿及滿二十五年以上ノ者

二　有妻ノ者

三　禁錮以上ノ刑ヲ受ケタル者又ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

四　復權ヲ得サル家資分散者、破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者若クハ其ノ相續人

第九條　候補生ハ現役海軍軍人トシ其ノ身分ハ奏任官ノ待遇トス

第十條　候補生ハ情願ヲ以テ辭スルコトヲ得ス

第十一條　候補生ハ各其ノ本官ノ實務ヲ練習スルモノトス

第十二條　候補生ヲ直轄スル各長官ハ一箇年以上實務ヲ練習シタル各候補生ノ材能、品行、勤惰、傷痍、疾病等ノ事實ヲ詳記シ之ニ意見ヲ附シ所管長官ニ差出シ所管長官ハ之ニ意見ヲ附シ毎年一回海軍大臣ニ報告スヘシ

第十三條　海軍大臣ハ候補生ノ品行不正或ハ傷痍疾病等ノ故ヲ以テ高等武官ニ適セスト認ムルトキハ之ヲ免ス

第十四條　候補生海軍高等武官任用條例第二條ノ學術試驗ニ合格セサルトキハ六箇月ノ後再試驗ヲ行ヒ仍不合格ノ者ハ之ヲ免ス

第十五條　身體檢査學術及實務試驗ニ關スル規程ハ海軍大臣之ヲ定ム

第十六條　各候補生ノ身體檢査委員並ニ學術試驗委員ハ海軍大臣之ヲ命ス

附則

第十七條　本令施行ノ際海軍軍醫學校ニ在ル生徒ハ全學科卒業ノトキ海軍少軍醫候補生ニ採用ス

第十八條　海軍少技士候補生ハ當分ノ内帝國大學工科大學卒業ノ者及其ノ他相當ノ學術ヲ修メタル者ニ就キ身體檢査學術試驗ヲ行ヒ合格シタル者ヨリ採用スルコトヲ得

第八條ノ規程ハ前項ニ掲クル者ニモ適用ス

第十九條　明治二十二年勅令第十八號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第六欵　官吏勤續

勅令　明治二十六年十月三十日第百九十八號　朕官吏ノ勤續ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

廢官廢職若クハ官名改定ノ際其ノ廢改ニ係ル官職ニ在ル者即日他官ニ任セラルルトキハ勤續者トス

内務省訓令　明治二十六年四月一日第四號　府縣ノ分合又ハ管轄替ニ依リ巡査看守等甲廳ヨリ乙廳ニ引繼キ勤務スル者ハ勤續トシ明治十五年（一月）當省達乙第三號ニ依リ滿年賜金ヲ支給スルノ限リニアラス

文部省令　明治二十七年二月十日第三號　町村立小學校廢止ノ際其ノ小學校教員ノ職ニ在ル者即日他ノ市町村立小學校教員ニ任セラルルトキハ勤續者トス

第二章　官等俸給、定員、席次、待遇

第一欵　文官官等俸給

勅令　明治二十五年十一月十二日第九十六號　朕茲ニ高等官官等俸給令ヲ裁可ス

高等官官等俸給令

官等及敍任

第一條　親任式ヲ以テ敍任スル官ヲ除ク外高等官ヲ分テ九等トス親任式ヲ以テ敍任スル官及一等官二等官ヲ勅任官トシ三等官乃至九等官ヲ奏任官トス

第二條　勅任官中親任式ヲ以テ敍任スル官ノ辭令書ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣又ハ首座ノ大臣之ニ副署ス

親任式ヲ以テ敍任スル官ヲ除キ其他ノ勅任官ノ辭令書ハ御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ奉行ス

第三條　奏任官ノ任官及敍等ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其各者及各省所屬ノ官廳ニ屬スルモノハ内閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス

第四條　奏任官ノ辭令書ハ内閣ノ印ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ奉行ス

第五條　高等官官等ハ別ニ定ムルモノヲ除ク外本令中ノ文武高等官官等表ニ依リ

第六條　官制上他ノ官ニ在ル者ヲ以テ兼任セシメ又ハ之ニ充ツルノ官ニシテ別ニ官等ヲ定メサルモノハ本官ノ官等ニ依ル

第七條　初メテ奏任文官ニ任セラルル者ノ官等ハ六等以下トス

奏任文官ヲ勅メ退官シタル者再ヒ奏任官ニ任セラルル場合ニ於テ其官等ハ前官ノ官等以下トス

第八條　奏任官ノ官等ハ別ニ進級ノ例ヲ定メタル

モノヲ除ク外在職滿三年ヲ踰ユルニアラサレハ陞級スルコトヲ得ス

第九條　俸給　高等文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノノ外左ノ如シ

内閣ノ部	
内閣總理大臣	年俸九千六百圓
内閣所屬職員	
書記官長	年俸三千五百圓
局長	高等文官年俸一號表ニ依ル
書記官	高等文官年俸二號表ニ依ル
内閣總理大臣祕書官	
恩給局審査官	年俸千六百圓
賞勳局	
總裁	年俸三千五百圓
副總裁	年俸三千圓
書記官	一級俸年俸二千圓 二級俸年俸千六百圓
一級俸二級俸各一人トス	
法制局	
長官	年俸四千圓
參事官	高等文官年俸二號表ニ依ル
各省ノ部	
大臣	年俸六千圓
次官	年俸四千圓
局長	高等文官年俸一號表ニ依ル
參事官	高等文官年俸二號表ニ依ル
祕書官	
書記官	
外務省翻譯官	
大藏省主計官	高等文官年俸三號表ニ依ル
大藏省主稅官	
農商務省主計官	高等文官年俸二號表ニ依ル
農商務省特許局審判官	
農商務省特許局審査官	年俸千二百圓
逓信省鐵道事務官高等文官	技術官俸給令ニ依ル

第十條　高等文官ノ俸給ニ關シテハ別ニ定ムル所ナキモノハ總テ本令ノ規定ニ依ル

陸海軍武官ノ俸給ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十一條　同一ノ官職ニシテ官等ニ依リ其俸給ヲ異ニスルモノハ本令定ムル所ノ高等文官官等相當俸給表ニ依リ各其官等ニ照シテ之ヲ給ス

第十二條　同一官職ノ同一官等内ニ於テ其俸給ニ數級アル場合ニ於テハ其等級ニ依リ事務ノ繁簡ニ從ヒ本屬長官便宜之ヲ增減スルヲ得

第十三條　高等文官死亡シタルトキハ其在職中ナルト非職中ナルトニ拘ハラス在職最終年俸三分ノ一ヲ其遺族ニ給ス但遺族トハ官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スル者ヲ謂フ

終身官ハ其在職中死亡シタル者ニ限リ前項ノ規定ニ依ル

第十四條　年俸ハ十二分シテ毎月之ヲ支給ス

第十五條　俸給ハ新任增俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

第十六條　非職廢官退官退職及死亡ノトキハ年俸ヲ月割計算トシ當月分ノ全額ヲ給ス

第十七條　非職廢官退官者事務引繼殘務調理ノ爲特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スルトキハ其間尚從前ノ年俸ヲ給ス

第十八條　病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ踰ユル者及私事ノ故障ニ由リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス但公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者及特旨ニ由リ賜暇休養スル者ハ此限ニアラス

第十九條　俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣者今ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十條　本令ハ明治二十五年十一月二十日ヨリ施行ス但第十四條ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

第二十一條　明治二十四年勅令第八十二號高等官任命及俸給令竝ニ同年勅令第二百十五號文武高等官官職等級表ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

俸給ニ關スル他ノ勅令ニ於テ明治二十四年勅令第八十二號中第一號表第二號表若ハ第三號表ニ依ルヘキコトヲ規定セルモノハ本令施行ノ後ハ本令中同號ノ高等官年俸各表ニ依ル

第二十二條　現任ノ高等官ニシテ本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セサルモノハ左表ニ依リ明治二十四年勅令第二百十五號文武高等官官職等級表ニ規定シタル等級ト相對照スル官等ニ敍セラレタルモノトス

現任判事檢事ニシテ本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セサルモノハ現ニ受クル所ノ俸給ニ照シ高等文官官等相當俸給表ニ定ムル所ノ相當官等ニ敍セラレタルモノトス

對照表

文武高等官官等表ノ等級	文武高等官官等	現任一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等
文武高等官官等表ノ官等		一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等

文官官等等級	文部省	司法省	海軍省	陸軍省	大藏省
親任	文部大臣	司法大臣	海軍大將	陸軍大將	大藏大臣
勅任	文部次官	司法次官	海軍中將	陸軍中將	
一等	局長	局長	海軍少將	陸軍少將	
二等	局員	局員	海軍大佐	陸軍大佐	
三等	局員	局員	海軍中佐	陸軍中佐	
四等	局員	局員	海軍少佐	陸軍少佐	
奏任	局員	局員	海軍大尉	陸軍大尉	
奏任	局員	局員	海軍中尉	陸軍中尉	
奏任	局員	局員	海軍少尉	陸軍少尉	
奏任	局員	局員	海軍大佐	陸軍大佐	
奏任	局員	局員	海軍中佐	陸軍中佐	
奏任

職	俸給	職	俸給
參議	一等	參議	一等
同	二等	同	二等
同	三等	同	三等
同	四等	同	四等
同	五等	同	五等
同	六等	同	六等
同	七等	同	七等
同	八等	同	八等
同	九等	同	九等
同	十等	同	十等
同	十一等	同	十一等
同	十二等	同	十二等
同	十三等	同	十三等
同	十四等	同	十四等
同	十五等	同	十五等
同	十六等	同	十六等
同	十七等	同	十七等
同	十八等	同	十八等
同	十九等	同	十九等
同	二十等	同	二十等
同	二十一等	同	二十一等
同	二十二等	同	二十二等
同	二十三等	同	二十三等
同	二十四等	同	二十四等
同	二十五等	同	二十五等
同	二十六等	同	二十六等
同	二十七等	同	二十七等
同	二十八等	同	二十八等
同	二十九等	同	二十九等
同	三十等	同	三十等
同	三十一等	同	三十一等
同	三十二等	同	三十二等
同	三十三等	同	三十三等
同	三十四等	同	三十四等
同	三十五等	同	三十五等
同	三十六等	同	三十六等
同	三十七等	同	三十七等
同	三十八等	同	三十八等
同	三十九等	同	三十九等
同	四十等	同	四十等
同	四十一等	同	四十一等
同	四十二等	同	四十二等
同	四十三等	同	四十三等
同	四十四等	同	四十四等
同	四十五等	同	四十五等
同	四十六等	同	四十六等
同	四十七等	同	四十七等
同	四十八等	同	四十八等
同	四十九等	同	四十九等
同	五十等	同	五十等
同	五十一等	同	五十一等
同	五十二等	同	五十二等
同	五十三等	同	五十三等
同	五十四等	同	五十四等
同	五十五等	同	五十五等
同	五十六等	同	五十六等
同	五十七等	同	五十七等
同	五十八等	同	五十八等
同	五十九等	同	五十九等
同	六十等	同	六十等
同	六十一等	同	六十一等
同	六十二等	同	六十二等
同	六十三等	同	六十三等
同	六十四等	同	六十四等
同	六十五等	同	六十五等
同	六十六等	同	六十六等
同	六十七等	同	六十七等
同	六十八等	同	六十八等
同	六十九等	同	六十九等
同	七十等	同	七十等
同	七十一等	同	七十一等
同	七十二等	同	七十二等
同	七十三等	同	七十三等
同	七十四等	同	七十四等
同	七十五等	同	七十五等
同	七十六等	同	七十六等
同	七十七等	同	七十七等
同	七十八等	同	七十八等
同	七十九等	同	七十九等
同	八十等	同	八十等
同	八十一等	同	八十一等
同	八十二等	同	八十二等
同	八十三等	同	八十三等
同	八十四等	同	八十四等
同	八十五等	同	八十五等
同	八十六等	同	八十六等
同	八十七等	同	八十七等
同	八十八等	同	八十八等
同	八十九等	同	八十九等
同	九十等	同	九十等
同	九十一等	同	九十一等
同	九十二等	同	九十二等
同	九十三等	同	九十三等
同	九十四等	同	九十四等
同	九十五等	同	九十五等
同	九十六等	同	九十六等
同	九十七等	同	九十七等
同	九十八等	同	九十八等
同	九十九等	同	九十九等
同	一百等	同	一百等
同	一百一等	同	一百一等
同	一百二等	同	一百二等
同	一百三等	同	一百三等
同	一百四等	同	一百四等
同	一百五等	同	一百五等
同	一百六等	同	一百六等
同	一百七等	同	一百七等
同	一百八等	同	一百八等
同	一百九等	同	一百九等
同	二百等	同	二百等
同	二百一等	同	二百一等
同	二百二等	同	二百二等
同	二百三等	同	二百三等
同	二百四等	同	二百四等
同	二百五等	同	二百五等
同	二百六等	同	二百六等
同	二百七等	同	二百七等
同	二百八等	同	二百八等
同	二百九等	同	二百九等
同	三百等	同	三百等
同	三百一等	同	三百一等
同	三百二等	同	三百二等
同	三百三等	同	三百三等
同	三百四等	同	三百四等
同	三百五等	同	三百五等
同	三百六等	同	三百六等
同	三百七等	同	三百七等
同	三百八等	同	三百八等
同	三百九等	同	三百九等
同	四百等	同	四百等
同	四百一等	同	四百一等
同	四百二等	同	四百二等
同	四百三等	同	四百三等
同	四百四等	同	四百四等
同	四百五等	同	四百五等
同	四百六等	同	四百六等
同	四百七等	同	四百七等
同	四百八等	同	四百八等
同	四百九等	同	四百九等
同	五百等	同	五百等
同	五百一等	同	五百一等
同	五百二等	同	五百二等
同	五百三等	同	五百三等
同	五百四等	同	五百四等
同	五百五等	同	五百五等
同	五百六等	同	五百六等
同	五百七等	同	五百七等
同	五百八等	同	五百八等
同	五百九等	同	五百九等
同	六百等	同	六百等
同	六百一等	同	六百一等
同	六百二等	同	六百二等
同	六百三等	同	六百三等
同	六百四等	同	六百四等
同	六百五等	同	六百五等
同	六百六等	同	六百六等
同	六百七等	同	六百七等
同	六百八等	同	六百八等
同	六百九等	同	六百九等
同	七百等	同	七百等
同	七百一等	同	七百一等
同	七百二等	同	七百二等
同	七百三等	同	七百三等
同	七百四等	同	七百四等
同	七百五等	同	七百五等
同	七百六等	同	七百六等
同	七百七等	同	七百七等
同	七百八等	同	七百八等
同	七百九等	同	七百九等
同	八百等	同	八百等
同	八百一等	同	八百一等
同	八百二等	同	八百二等
同	八百三等	同	八百三等
同	八百四等	同	八百四等
同	八百五等	同	八百五等
同	八百六等	同	八百六等
同	八百七等	同	八百七等
同	八百八等	同	八百八等
同	八百九等	同	八百九等
同	九百等	同	九百等
同	九百一等	同	九百一等
同	九百二等	同	九百二等
同	九百三等	同	九百三等
同	九百四等	同	九百四等
同	九百五等	同	九百五等
同	九百六等	同	九百六等
同	九百七等	同	九百七等
同	九百八等	同	九百八等
同	九百九等	同	九百九等
同	一千等	同	一千等
同	一千一等	同	一千一等
同	一千二等	同	一千二等
同	一千三等	同	一千三等
同	一千四等	同	一千四等
同	一千五等	同	一千五等
同	一千六等	同	一千六等
同	一千七等	同	一千七等
同	一千八等	同	一千八等
同	一千九等	同	一千九等
同	二千等	同	二千等
同	二千一等	同	二千一等
同	二千二等	同	二千二等
同	二千三等	同	二千三等
同	二千四等	同	二千四等
同	二千五等	同	二千五等
同	二千六等	同	二千六等
同	二千七等	同	二千七等
同	二千八等	同	二千八等
同	二千九等	同	二千九等
同	三千等	同	三千等
同	三千一等	同	三千一等
同	三千二等	同	三千二等
同	三千三等	同	三千三等
同	三千四等	同	三千四等
同	三千五等	同	三千五等
同	三千六等	同	三千六等
同	三千七等	同	三千七等
同	三千八等	同	三千八等
同	三千九等	同	三千九等
同	四千等	同	四千等
同	四千一等	同	四千一等
同	四千二等	同	四千二等
同	四千三等	同	四千三等
同	四千四等	同	四千四等
同	四千五等	同	四千五等
同	四千六等	同	四千六等
同	四千七等	同	四千七等
同	四千八等	同	四千八等
同	四千九等	同	四千九等
同	五千等	同	五千等
同	五千一等	同	五千一等
同	五千二等	同	五千二等
同	五千三等	同	五千三等
同	五千四等	同	五千四等
同	五千五等	同	五千五等
同	五千六等	同	五千六等
同	五千七等	同	五千七等
同	五千八等	同	五千八等
同	五千九等	同	五千九等
同	六千等	同	六千等
同	六千一等	同	六千一等
同	六千二等	同	六千二等
同	六千三等	同	六千三等
同	六千四等	同	六千四等
同	六千五等	同	六千五等
同	六千六等	同	六千六等
同	六千七等	同	六千七等
同	六千八等	同	六千八等
同	六千九等	同	六千九等
同	七千等	同	七千等
同	七千一等	同	七千一等
同	七千二等	同	七千二等
同	七千三等	同	七千三等
同	七千四等	同	七千四等
同	七千五等	同	七千五等
同	七千六等	同	七千六等
同	七千七等	同	七千七等
同	七千八等	同	七千八等
同	七千九等	同	七千九等
同	八千等	同	八千等
同	八千一等	同	八千一等
同	八千二等	同	八千二等
同	八千三等	同	八千三等
同	八千四等	同	八千四等
同	八千五等	同	八千五等
同	八千六等	同	八千六等
同	八千七等	同	八千七等
同	八千八等	同	八千八等
同	八千九等	同	八千九等
同	九千等	同	九千等
同	九千一等	同	九千一等
同	九千二等	同	九千二等
同	九千三等	同	九千三等
同	九千四等	同	九千四等
同	九千五等	同	九千五等
同	九千六等	同	九千六等
同	九千七等	同	九千七等
同	九千八等	同	九千八等
同	九千九等	同	九千九等
同	一萬等	同	一萬等
同	一萬一等	同	一萬一等
同	一萬二等	同	一萬二等
同	一萬三等	同	一萬三等
同	一萬四等	同	一萬四等
同	一萬五等	同	一萬五等
同	一萬六等	同	一萬六等
同	一萬七等	同	一萬七等
同	一萬八等	同	一萬八等
同	一萬九等	同	一萬九等
同	二萬等	同	二萬等
同	二萬一等	同	二萬一等
同	二萬二等	同	二萬二等
同	二萬三等	同	二萬三等
同	二萬四等	同	二萬四等
同	二萬五等	同	二萬五等
同	二萬六等	同	二萬六等
同	二萬七等	同	二萬七等
同	二萬八等	同	二萬八等
同	二萬九等	同	二萬九等
同	三萬等	同	三萬等
同	三萬一等	同	三萬一等
同	三萬二等	同	三萬二等
同	三萬三等	同	三萬三等
同	三萬四等	同	三萬四等
同	三萬五等	同	三萬五等
同	三萬六等	同	三萬六等
同	三萬七等	同	三萬七等
同	三萬八等	同	三萬八等
同	三萬九等	同	三萬九等
同	四萬等	同	四萬等
同	四萬一等	同	四萬一等
同	四萬二等	同	四萬二等
同	四萬三等	同	四萬三等
同	四萬四等	同	四萬四等
同	四萬五等	同	四萬五等
同	四萬六等	同	四萬六等
同	四萬七等	同	四萬七等
同	四萬八等	同	四萬八等
同	四萬九等	同	四萬九等
同	五萬等	同	五萬等
同	五萬一等	同	五萬一等
同	五萬二等	同	五萬二等
同	五萬三等	同	五萬三等
同	五萬四等	同	五萬四等
同	五萬五等	同	五萬五等
同	五萬六等	同	五萬六等
同	五萬七等	同	五萬七等
同	五萬八等	同	五萬八等
同	五萬九等	同	五萬九等
同	六萬等	同	六萬等
同	六萬一等	同	六萬一等
同	六萬二等	同	六萬二等
同	六萬三等	同	六萬三等
同	六萬四等	同	六萬四等
同	六萬五等	同	六萬五等
同	六萬六等	同	六萬六等
同	六萬七等	同	六萬七等
同	六萬八等	同	六萬八等
同	六萬九等	同	六萬九等
同	七萬等	同	七萬等
同	七萬一等	同	七萬一等
同	七萬二等	同	七萬二等
同	七萬三等	同	七萬三等
同	七萬四等	同	七萬四等
同	七萬五等	同	七萬五等
同	七萬六等	同	七萬六等
同	七萬七等	同	七萬七等
同	七萬八等	同	七萬八等
同	七萬九等	同	七萬九等
同	八萬等	同	八萬等
同	八萬一等	同	八萬一等
同	八萬二等	同	八萬二等
同	八萬三等	同	八萬三等
同	八萬四等	同	八萬四等
同	八萬五等	同	八萬五等
同	八萬六等	同	八萬六等
同	八萬七等	同	八萬七等
同	八萬八等	同	八萬八等
同	八萬九等	同	八萬九等
同	九萬等	同	九萬等
同	九萬一等	同	九萬一等
同	九萬二等	同	九萬二等
同	九萬三等	同	九萬三等
同	九萬四等	同	九萬四等
同	九萬五等	同	九萬五等
同	九萬六等	同	九萬六等
同	九萬七等	同	九萬七等
同	九萬八等	同	九萬八等
同	九萬九等	同	九萬九等
同	十萬等	同	十萬等
同	十萬一等	同	十萬一等
同	十萬二等	同	十萬二等
同	十萬三等	同	十萬三等
同	十萬四等	同	十萬四等
同	十萬五等	同	十萬五等
同	十萬六等	同	十萬六等
同	十萬七等	同	十萬七等
同	十萬八等	同	十萬八等
同	十萬九等	同	十萬九等
同	二十萬等	同	二十萬等
同	二十萬一等	同	二十萬一等
同	二十萬二等	同	二十萬二等
同	二十萬三等	同	二十萬三等
同	二十萬四等	同	二十萬四等
同	二十萬五等	同	二十萬五等
同	二十萬六等	同	二十萬六等
同	二十萬七等	同	二十萬七等
同	二十萬八等	同	二十萬八等
同	二十萬九等	同	二十萬九等
同	三十萬等	同	三十萬等
同	三十萬一等	同	三十萬一等
同	三十萬二等	同	三十萬二等
同	三十萬三等	同	三十萬三等
同	三十萬四等	同	三十萬四等
同	三十萬五等	同	三十萬五等
同	三十萬六等	同	三十萬六等
同	三十萬七等	同	三十萬七等
同	三十萬八等	同	三十萬八等
同	三十萬九等	同	三十萬九等
同	四十萬等	同	四十萬等
同	四十萬一等	同	四十萬一等
同	四十萬二等	同	四十萬二等
同	四十萬三等	同	四十萬三等
同	四十萬四等	同	四十萬四等
同	四十萬五等	同	四十萬五等
同	四十萬六等	同	四十萬六等
同	四十萬七等	同	四十萬七等
同	四十萬八等	同	四十萬八等
同	四十萬九等	同	四十萬九等
同	五十萬等	同	五十萬等
同	五十萬一等	同	五十萬一等
同	五十萬二等	同	五十萬二等
同	五十萬三等	同	五十萬三等
同	五十萬四等	同	五十萬四等
同	五十萬五等	同	五十萬五等
同	五十萬六等	同	五十萬六等
同	五十萬七等	同	五十萬七等
同	五十萬八等	同	五十萬八等
同	五十萬九等	同	五十萬九等
同	六十萬等	同	六十萬等
同	六十萬一等	同	六十萬一等
同	六十萬二等	同	六十萬二等
同	六十萬三等	同	六十萬三等
同	六十萬四等	同	六十萬四等
同	六十萬五等	同	六十萬五等
同	六十萬六等	同	六十萬六等
同	六十萬七等	同	六十萬七等
同	六十萬八等	同	六十萬八等
同	六十萬九等	同	六十萬九等
同	七十萬等	同	七十萬等
同	七十萬一等	同	七十萬一等
同	七十萬二等	同	七十萬二等
同	七十萬三等	同	七十萬三等
同	七十萬四等	同	七十萬四等
同	七十萬五等	同	七十萬五等
同	七十萬六等	同	七十萬六等
同	七十萬七等	同	七十萬七等
同	七十萬八等	同	七十萬八等
同	七十萬九等	同	七十萬九等
同	八十萬等	同	八十萬等
同	八十萬一等	同	八十萬一等
同	八十萬二等	同	八十萬二等
同	八十萬三等	同	八十萬三等
同	八十萬四等	同	八十萬四等
同	八十萬五等	同	八十萬五等
同	八十萬六等	同	八十萬六等
同	八十萬七等	同	八十萬七等
同	八十萬八等	同	八十萬八等
同	八十萬九等	同	八十萬九等
同	九十萬等	同	九十萬等
同	九十萬一等	同	九十萬一等
同	九十萬二等	同	九十萬二等
同	九十萬三等	同	九十萬三等
同	九十萬四等	同	九十萬四等
同	九十萬五等	同	九十萬五等
同	九十萬六等	同	九十萬六等
同	九十萬七等	同	九十萬七等
同	九十萬八等	同	九十萬八等
同	九十萬九等	同	九十萬九等
同	一百萬等	同	一百萬等
同	一百萬一等	同	一百萬一等
同	一百萬二等	同	一百萬二等
同	一百萬三等	同	一百萬三等
同	一百萬四等	同	一百萬四等
同	一百萬五等	同	一百萬五等
同	一百萬六等	同	一百萬六等
同	一百萬七等	同	一百萬七等
同	一百萬八等	同	一百萬八等
同	一百萬九等	同	一百萬九等
同	二百萬等	同	二百萬等
同	二百萬一等	同	二百萬一等
同	二百萬二等	同	二百萬二等
同	二百萬三等	同	二百萬三等
同	二百萬四等	同	二百萬四等
同	二百萬五等	同	二百萬五等
同	二百萬六等	同	二百萬六等
同	二百萬七等	同	二百萬七等
同	二百萬八等	同	二百萬八等
同	二百萬九等	同	二百萬九等
同	三百萬等	同	三百萬等
同	三百萬一等	同	三百萬一等
同	三百萬二等	同	三百萬二等
同	三百萬三等	同	三百萬三等
同	三百萬四等	同	三百萬四等
同	三百萬五等	同	三百萬五等
同	三百萬六等	同	三百萬六等
同	三百萬七等	同	三百萬七等
同	三百萬八等	同	三百萬八等
同	三百萬九等	同	三百萬九等
同	四百萬等	同	四百萬等
同	四百萬一等	同	四百萬一等
同	四百萬二等	同	四百萬二等
同	四百萬三等	同	四百萬三等
同	四百萬四等	同	四百萬四等
同	四百萬五等	同	四百萬五等
同	四百萬六等	同	四百萬六等
同	四百萬七等	同	四百萬七等
同	四百萬八等	同	四百萬八等
同	四百萬九等	同	四百萬九等
同	五百萬等	同	五百萬等
同	五百萬一等	同	五百萬一等
同	五百萬二等	同	五百萬二等
同	五百萬三等	同	五百萬三等
同	五百萬四等	同	五百萬四等
同	五百萬五等	同	五百萬五等
同	五百萬六等	同	五百萬六等
同	五百萬七等	同	五百萬七等
同	五百萬八等	同	五百萬八等
同	五百萬九等	同	五百萬九等
同	六百萬等	同	六百萬等
同	六百萬一等	同	六百萬一等
同	六百萬二等	同	六百萬二等
同	六百萬三等	同	六百萬三等
同	六百萬四等	同	六百萬四等
同	六百萬五等	同	六百萬五等
同	六百萬六等	同	六百萬六等
同	六百萬七等	同	六百萬七等
同	六百萬八等	同	六百萬八等
同	六百萬九等	同	六百萬九等
同	七百萬等	同	七百萬等
同	七百萬一等	同	七百萬一等
同	七百萬二等	同	七百萬二等
同	七百萬三等	同	七百萬三等
同	七百萬四等	同	七百萬四等
同	七百萬五等	同	七百萬五等
同	七百萬六等	同	七百萬六等
同	七百萬七等	同	七百萬七等
同	七百萬八等	同	七百萬八等
同	七百萬九等	同	七百萬九等
同	八百萬等	同	八百萬等
同	八百萬一等	同	八百萬一等
同	八百萬二等	同	八百萬二等
同	八百萬三等	同	八百萬三等
同	八百萬四等	同	八百萬四等
同	八百萬五等	同	八百萬五等
同	八百萬六等	同	八百萬六等
同	八百萬七等	同	八百萬七等
同	八百萬八等	同	八百萬八等
同	八百萬九等	同	八百萬九等
同	九百萬等	同	九百萬等
同	九百萬一等	同	九百萬一等
同	九百萬二等	同	九百萬二等
同	九百萬三等	同	九百萬三等
同	九百萬四等	同	九百萬四等
同	九百萬五等	同	九百萬五等
同	九百萬六等	同	九百萬六等
同	九百萬七等	同	九百萬七等
同	九百萬八等	同	九百萬八等
同	九百萬九等	同	九百萬九等
同	一千萬等	同	一千萬等
同	一千萬一等	同	一千萬一等
同	一千萬二等	同	一千萬二等
同	一千萬三等	同	一千萬三等
同	一千萬四等	同	一千萬四等
同	一千萬五等	同	一千萬五等
同	一千萬六等	同	一千萬六等
同	一千萬七等	同	一千萬七等
同	一千萬八等	同	一千萬八等
同	一千萬九等	同	一千萬九等
同	二千萬等	同	二千萬等
同	二千萬一等	同	二千萬一等
同	二千萬二等	同	二千萬二等
同	二千萬三等	同	二千萬三等
同	二千萬四等	同	二千萬四等
同	二千萬五等	同	二千萬五等
同	二千萬六等	同	二千萬六等
同	二千萬七等	同	二千萬七等
同	二千萬八等	同	二千萬八等
同	二千萬九等	同	二千萬九等
同	三千萬等	同	三千萬等
同	三千萬一等	同	三千萬一等
同	三千萬二等	同	三千萬二等
同	三千萬三等	同	三千萬三等
同	三千萬四等	同	三千萬四等
同	三千萬五等	同	三千萬五等
同	三千萬六等	同	三千萬六等
同	三千萬七等	同	三千萬七等
同	三千萬八等	同	三千萬八等
同	三千萬九等	同	三千萬九等
同	四千萬等	同	四千萬等
同	四千萬一等	同	四千萬一等
同	四千萬二等	同	四千萬二等
同	四千萬三等	同	四千萬三等
同	四千萬四等	同	四千萬四等
同	四千萬五等	同	四千萬五等
同	四千萬六等	同	四千萬六等
同	四千萬七等	同	四千萬七等
同	四千萬八等	同	四千萬八等
同	四千萬九等	同	四千萬九等
同	五千萬等	同	五千萬等
同	五千萬一等	同	五千萬一等
同	五千萬二等	同	五千萬二等
同	五千萬三等	同	五千萬三等
同	五千萬四等	同	五千萬四等
同	五千萬五等	同	五千萬五等
同	五千萬六等	同	五千萬六等
同	五千萬七等	同	五千萬七等
同	五千萬八等	同	五千萬八等
同	五千萬九等	同	五千萬九等
同	六千萬等	同	六千萬等
同	六千萬一等	同	六千萬一等
同	六千萬二等	同	六千萬二等
同	六千萬三等	同	六千萬三等
同	六千萬四等	同	六千萬四等
同	六千萬五等	同	六千萬五等
同	六千萬六等	同	六千萬六等
同	六千萬七等	同	六千萬七等
同	六千萬八等	同	六千萬八等
同	六千萬九等	同	六千萬九等
同	七千萬等	同	七千萬等
同	七千萬一等	同	七千萬一等
同	七千萬二等	同	七千萬二等
同	七千萬三等	同	七千萬三等
同	七千萬四等	同	七千萬四等
同	七千萬五等	同	七千萬五等
同	七千萬六等	同	七千萬六等
同	七千萬七等	同	七千萬七等
同	七千萬八等	同	七千萬八等
同	七千萬九等	同	七千萬九等
同	八千萬等	同	八千萬等
同	八千萬一等	同	八千萬一等
同	八

高等文官年俸三號表左ノ通改ム

高等文官年俸三號表

一級　千八百圓　二級　千六百圓　三級　千四百圓　四級　千二百圓
五級　千圓　六級　九百圓　七級　八百圓　八級　七百圓

高等文官官等相當俸給表左ノ通定ム

高等文官官等相當俸給表

官名＼等級	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等
内閣書記官 内閣總理大臣秘書官 法制局參事官 樞密院書記官 各省參事官 各省大臣秘書官 各省書記官 大藏省主計官 逓信省鐵道事務官			一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸
賞勲局書記官			一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸
外務省翻譯官					二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸
理事 主理			一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸
陸海軍教授 陸軍編修					一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸
陸地測量師				一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸
軍馬補充署技師					一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸
陸軍監獄長					一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸
海軍編修					一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸
林務官					一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸
鑛山監督官					一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸
鑛山監督署技師						一級俸	二級俸	三級俸	四級俸
一等郵便電信局長			一級俸	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸
商船學校教授 郵便電信學校教授					一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸
郵便爲替貯金管理所長 船舶司檢所司檢官					一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸
檢査官			一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸
檢査官補								七級俸	八級俸
行政裁判所評定官			一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸
書記			年俸二千二百圓（第一部長） 同	年俸二千八百圓（第二部長） 同	年俸二千五百圓（第三部長） 年俸二千二百圓（官報第二部長）	年俸九百圓（警視官長） 年俸八百圓 年俸七百圓（警視官長）	同	同	同
視			上	上	上	上	上	上	上

貴族院書記官長											
貴族院書記官											二級俸
府縣立師範學校長											一級俸

勅令

明治二十四年七月二十四日第八十三號　族茲ニ判任官俸給令ヲ裁可ス

判任官俸給令

第一條　判任文官ノ月俸ヲ別テ十級トシ別表ニ依リ毎月下旬ニ於テ之ヲ支給ス

第二條　陸海軍准士官下士ノ月俸ハ別ニ定ムル所ニ依ル其他特ニ定ムルモノハ前條ノ限ニアラス

第三條　判任官ハ毎級在職一年以上ニ至ラサレハ增給スルコトヲ得ス

第四條　判任官最上級俸ヲ受ケ五年ヲ踰ヘ事務練熟優等ナル者ハ特別ヲ以テ別表ノ範圍ニ拘ラス漸次七十五圓マテ增俸スルコトアルヘシ

第五條　官ニ在リテ死亡シタル者ハ月俸三箇月分ヲ其遺族ニ給ス非職者ニ於テモ亦同シ但遺族トハ官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スル者ヲ謂フ

第六條　前條ノ外俸給支給ニ關シテハ高等官等俸給令第十五條第十六條第十七條第十八條ノ例ニ依ル

第七條　俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣省令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第八條　本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

明治十九年勅令第三十六號判任官官等俸給令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

一級	六十圓	五級	三十五圓	九級	十五圓
二級	五十圓	六級	三十圓	十級	十二圓
三級	四十五圓	七級	二十五圓		
四級	四十圓	八級	二十圓		

勅令

明治二十七年四月十二日第四十三號　族文武判任官等級裁ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文武判任官等級表

一等	二等	三等	四等	五等
各廳 特別俸 一級俸 二級俸	各廳 三級俸 四級俸	各廳 五級俸 六級俸	各廳 七級俸 八級俸	各廳 九級俸 十級俸
各書記 同 同	各書記 同	各書記 同	各書記 同	各書記 同
公使館領事館書記生 同 同	公使館領事館書記生 同	公使館領事館書記生 同	公使館領事館書記生 同	公使館領事館書記生 同
稅關鑑定吏 特別俸 一級俸 二級俸	稅關鑑定吏 三級俸 四級俸	稅關鑑定吏 五級俸 六級俸	稅關鑑定吏 七級俸 八級俸	稅關鑑定吏 九級俸 十級俸
稅關監吏 同 同	稅關監吏 同 同	稅關監吏 同 同	稅關監吏 同 同	稅關監吏 同 同

陸軍砲工兵上等監護											
陸軍二等軍樂長											
陸軍各兵曹長（下副官、教官補）											
陸軍錄事	一級俸 二級俸	陸軍各兵曹長並相當官	陸軍各兵一等軍曹並相當官	陸軍錄事	五級俸 六級俸	陸軍各兵二等軍曹並相當官	陸軍錄事	七級俸 八級俸	陸軍錄事	九級俸 十級俸	稅關監吏補
陸軍助教	同 同	陸軍火工曹長	陸軍火工一等軍曹	陸軍助教	同 同	陸軍火工二等軍曹	陸軍助教	同 同	陸軍助教	同 同	
陸軍編修書記	同 同	陸軍屯田火工曹長	陸軍屯田火工一等軍曹	陸軍編修書記	同 同	陸軍屯田火工二等軍曹	陸軍編修書記	同 同	陸軍編修書記	同 同	
陸地測量手	同 同	陸軍砲工兵監護	陸軍各兵諸工長	陸地測量手	同 同	陸軍各兵諸工下長	陸地測量手	同 同	陸地測量手	同 同	
		陸軍砲工兵監守		軍馬補充署技手	一級俸 二級俸		軍馬補充署技手	三級俸 四級俸	軍馬補充署技手	五級俸 六級俸	
				陸軍監獄書記	同 同		陸軍監獄書記	同 同	陸軍監獄書記	同 同	
				陸軍監獄看守長	同 同		陸軍監獄看守長	同 同	陸軍監獄看守長	同 同	
海軍錄事	特別俸 一級俸 二級俸	海軍錄事	海軍錄事	海軍錄事	五級俸 六級俸	海軍錄事	海軍錄事	七級俸 八級俸	海軍錄事	九級俸 十級俸	
海軍編修書記	同 同	海軍編修書記	海軍編修書記	海軍編修書記	同 同	海軍編修書記	海軍編修書記	同 同	海軍編修書記	同 同	

北洋海軍醫學堂	同	同	同	同
北京鐵路管理局	同	同	同	同
北京鐵路電信學校	同	同	同	同
北洋法政學堂	同	同	同	同
北洋法政學堂	同	同	同	同
北洋法政學堂

同	警部	同	警部	同	警部
同	警視廳	同	警視廳	同	警視廳
同	消防士	同	消防士	同	消防士
同	消防機關士	同	消防機關士	同	消防機關士
同	集治監北海道監獄署	同	集治監北海道監獄署	同	集治監北海道監獄署
同	警視廳警察醫	同	警視廳警察醫	同	警視廳警察醫
同	監獄書記	同	監獄書記	同	監獄書記
同	看守長	同	看守長	同	看守長
同	收稅屬	同	收稅屬	同	收稅屬
同	郡區島廳書記	同	郡區島廳書記	同	郡區島廳書記
同	札幌農學校助教授	同	札幌農學校助教授	同	札幌農學校助教授
同	貴族院衆議院守衛長	同	貴族院衆議院守衛長	同	貴族院衆議院守衛長
同	貴族院衆議院守衛番長	同	貴族院衆議院守衛番長	同	貴族院衆議院守衛番長

同	警部	同	警部	同	警部
同	警視廳	同	警視廳	同	警視廳
同	消防士	同	消防士	同	消防士
同	消防機關士	同	消防機關士	同	消防機關士
同	集治監北海道監獄署	同	集治監北海道監獄署	同	集治監北海道監獄署
同	警視廳警察醫	同	警視廳警察醫	同	警視廳警察醫
同	監獄書記	同	監獄書記	同	監獄書記
同	看守長	同	看守長	同	看守長
同	收稅屬	同	收稅屬	同	收稅屬
同	郡區島廳書記	同	郡區島廳書記	同	郡區島廳書記
同	札幌農學校助教授	同	札幌農學校助教授	同	札幌農學校助教授
同	貴族院衆議院守衛長	同	貴族院衆議院守衛長	同	貴族院衆議院守衛長
同	貴族院衆議院守衛番長	同	貴族院衆議院守衛番長	同	貴族院衆議院守衛番長

同	警部	同	警部	同	警部
同	警視廳	同	警視廳	同	警視廳
同	消防士	同	消防士	同	消防士
同	消防機關士	同	消防機關士	同	消防機關士
同	集治監北海道監獄署	同	集治監北海道監獄署	同	集治監北海道監獄署
同	警視廳警察醫	同	警視廳警察醫	同	警視廳警察醫
同	監獄書記	同	監獄書記	同	監獄書記
同	看守長	同	看守長	同	看守長
同	收稅屬	同	收稅屬	同	收稅屬
同	郡區島廳書記	同	郡區島廳書記	同	郡區島廳書記
同	札幌農學校助教授	同	札幌農學校助教授	同	札幌農學校助教授
同	貴族院衆議院守衛長	同	貴族院衆議院守衛長	同	貴族院衆議院守衛長
同	貴族院衆議院守衛番長	同	貴族院衆議院守衛番長	同	貴族院衆議院守衛番長

同	警部	同	警部	同	警部
同	警視廳	同	警視廳	同	警視廳
同	消防士	同	消防士	同	消防士
同	消防機關士	同	消防機關士	同	消防機關士
同	集治監北海道監獄署	同	集治監北海道監獄署	同	集治監北海道監獄署
同	警視廳警察醫	同	警視廳警察醫	同	警視廳警察醫
同	監獄書記	同	監獄書記	同	監獄書記
同	看守長	同	看守長	同	看守長
同	收稅屬	同	收稅屬	同	收稅屬
同	郡區島廳書記	同	郡區島廳書記	同	郡區島廳書記
同	札幌農學校助教授	同	札幌農學校助教授	九級俸 十級俸	札幌農學校助教授
同	貴族院衆議院守衛長	同	貴族院衆議院守衛長	同	貴族院衆議院守衛長
同	貴族院衆議院守衛番長	同	貴族院衆議院守衛番長	同	貴族院衆議院守衛番長

同	裁判所書記	同	裁判所書記	同	裁判所書記
同	各廳技手	同	各廳技手	同	各廳技手

勅令

明治二十四年七月二十四日第八十四號　朕茲ニ技術官俸給令ヲ裁可ス

技術官俸給令

第一條　各廳ニ於テ工藝技術ヲ要スルモノハ職員ノ外特ニ技術官ヲ置ク

第二條　技術官ヲ分テ技監技師技手トス

第三條　技監ハ勅任トシ技師ハ奏任トシ技手ハ判任トス

第四條　技監及技師ノ年俸ハ別ニ定ムルモノノ外別表ニ依ル

第五條　技術官ハ各廳事務ノ繁簡ニ依リ俸給最低額以下ヲ給スルコトアルヘシ

第六條　本令ニ規定スルモノヲ除クノ外技監技師ニ關シテハ本年勅令第八十二號高等官任命及俸給令ヲ適用シ技手ニ關シテハ本年勅令第八十三號判任官俸給令ヲ適用ス

附則

第七條　技術官ニシテ現ニ休職中ノ者ハ其休職滿期迄仍ホ現俸三分ノ一ヲ支給ス

第八條　本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

明治十九年勅令第三十八號技術官官等俸給令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

官名	年俸等級
技監	一級　三千五百圓　二級　三千圓
技師	一級　三千五百圓　二級　二千五百圓 三級　二千六百圓　四級　二千八百圓 五級　二千二百圓　六級　二千四百圓 七級　九百圓　八級　八百圓 九級　七百圓　十級　六百圓 十一級　十二級

同	裁判所書記	同	裁判所書記	同	裁判所書記
同	各廳技手	同	各廳技手	同	各廳技手

勅令

明治二十四年七月二十四日第九十六號　朕茲ニ樞密院議長副議長顧問官並書記官長書記官年俸改正ノ件ヲ裁可ス

樞密院議長副議長顧問官並書記官長書記官ノ年俸左ノ通改ム

議長　五千圓
副議長　四千五百圓
顧問官　四千圓
書記官長　三千五百圓
書記官　（高等官任命及俸給令中第二號表ニ依ル）

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

宮内省達

明治二十二年七月二十三日第十二號　内大臣以下ノ俸給ヲ改定シ内大臣ハ宮内省官制第五十條ノ高等官俸給第一級俸ヲ賜ヒ宮中顧問官ハ其等位ニ依リ同第三級俸第四級俸第五級俸第六級俸ノ内ヲ賜ヒ内大臣秘書官ハ其等位・依リ同第一級俸第二級俸第三級俸第四級俸ノ内ヲ賜フ

同	裁判所書記	同	裁判所書記	同	裁判所書記
同	各廳技手	同	各廳技手	同	各廳技手

宮内省達

明治二十四年十二月二十二日第五號　明治二十二年宮内省達第十二號中宮中顧問官ノ俸給ハ廢止ス但現任者ニシテ他ノ官給官職ヲ兼任セサル者ハ特ニ退官者ニ準シテ恩給例ニ依リ恩給ヲ給ス

宮内省達

明治二十二年七月二十三日第十一號　皇族職員官等ヲ左ノ如ク改定シ其高等官俸給ハ宮内省官制第五十條ノ高等官俸給表ニ依リ別當ハ第四級俸第五級俸第六級俸第七級俸ノ内ヲ賜ヒ家令ハ其等位ニ依リ第一級俸第二級俸第三級俸第四級俸ノ内ヲ賜フ

親王家　有栖川宮　山階宮　小松宮　伏見宮　久邇宮　北白川宮　閑院宮
別當　各一人　勅任二等
家令　各一人　奏任二等以下
家扶　判任一等以下四等以上
家從　判任四等五等六等

諸王家　華頂宮　梨本宮
家令　各一人　奏任二等以下
家扶　判任一等以下四等以上
家從　判任四等五等六等

宮内省達

明治二十三年六月十二日（皇族別當、家令ヘ皇族職員ヲ抄錄）

官名	等級	判任官					
		一等	二等	三等	四等	五等	六等
家扶	上	六十圓	五十圓	四十五圓	三十圓		
	中	五十五圓	四十五圓	三十五圓	二十五圓		
	下	五十圓	四十圓	三十圓	二十圓		
家從	上						
	中						
	下						
掌典補	上	四十五圓	三十六圓	三十圓	二十五圓	二十圓	一十五圓
	下	四十圓	三十三圓	二十七圓	二十圓	一十八圓	一十二圓
技手補	上				二十圓	一十五圓	一十二圓
	中				二十圓	一十五圓	一十二圓
	下				二十圓	一十五圓	一十二圓
	上				二十一圓	一十八圓	一十二圓
	中				二十一圓	一十八圓	一十二圓
	下				二十一圓	一十八圓	一十二圓
	上				二十五圓	二十四圓	二十一圓
	中				二十五圓	二十四圓	二十一圓
	下				二十五圓	二十四圓	二十一圓
	上				三十圓	三十三圓	三十一圓
	中				二十八圓	三十三圓	三十一圓
	下				二十六圓	三十三圓	三十一圓
	上				三十圓	二十五圓	二十一圓
	中				二十八圓	二十五圓	二十一圓
	下				二十六圓	二十五圓	二十一圓
	上				三十圓	二十六圓	二十一圓
	中				二十八圓	二十六圓	二十一圓
	下				二十六圓	二十六

七級俸又ハ六級俸ヲ給スルコトヲ得

地方裁判所

長

定員　四十九人

奏任

東京　二級俸　但年功ニ依リ一級俸ヲ給スルコトヲ得

大阪　二級俸　但年功ニ依リ一級俸ヲ給スルコトヲ得

（京都　横濱　神戸　長崎　函館　新潟　仙臺　名古屋　廣島　熊本）二級俸　但年功ニ依リ二級俸ヲ給スルコトヲ得

其ノ他　五級俸　但年功ニ依リ四級俸ヲ給スルコトヲ得

定員　七十八人

部長

奏任

九級俸　但年功ニ依リ八級俸又ハ七級俸ヲ給スルコトヲ得

判事

奏任

定員　三百十五人

十二級俸　但年功ニ依リ十一級俸又ハ十級俸ヲ給スルコトヲ得

地方裁判所檢事局

檢事正

奏任

定員　四十九人

東京　二級俸　但年功ニ依リ一級俸ヲ給スルコトヲ得

大阪（京都　横濱　神戸　長崎　函館　新潟　仙臺　名古屋　廣島　熊本）四級俸　但年功ニ依リ三級俸ヲ給スルコトヲ得

其ノ他　六級俸　但年功ニ依リ五級俸ヲ給スルコトヲ得

檢事

奏任

區裁判所

判事

奏任

區裁判所檢事局

檢事

奏任

定員　二百十人

十二級俸　但年功ニ依リ十一級俸又ハ十級俸ヲ給スルコトヲ得

十二級俸　但年功ニ依リ十一級俸又ハ十級俸ヲ給スルコトヲ得

定員　六百五十一人

十二級俸　但年功ニ依リ十一級俸又ハ十級俸ヲ給スルコトヲ得

第三條　大審院判事ノ中四人、大審院檢事ノ中一人ヲ限リ特ニ勅任ニ進メ四級俸ヲ給スルコトヲ得

第四條　控訴院檢事ノ中六人ヲ限リ五級俸乃至三級俸ヲ給スルコトヲ得

第五條　東京及大阪ノ地方裁判所長ニシテ一級俸ヲ給セラルル者ハ特ニ勅任ニ進ムルコトヲ得

第六條　東京及大阪ノ地方裁判所判事ノ中各一人ハ七級俸ヲ給スルコトヲ得

第七條　東京及大阪ノ地方裁判所檢事ノ中各一人ハ七級俸ヲ給スルコトヲ得

第八條　地方裁判所判事及區裁判所判事ニシテ豫算掛ヲ命セラレタル者ハ百三十人ヲ限リ九級俸又ハ八級俸ヲ給スルコトヲ得

第九條　區裁判所判事ニシテ其ノ裁判所監督ヲ命セラレタル者ハ八十人ヲ限リ九級俸又ハ八級俸ヲ給スルコトヲ得

第十條　地方裁判所及區裁所檢事ノ中八十人ヲ限リ九級俸又ハ八級俸ヲ給スルコトヲ得

第十一條　豫備判事ハ二十五人、豫備檢事ハ五人ヲ以テ定員トス

豫備判事及豫備檢事ハ年俸四百圓トス

第十二條　司法官試補ハ奏任官ノ待遇トス

司法官試補ニシテ檢事代理ヲ命セラレタル者ハ百五十人ヲ限リ年俸三百圓以下ヲ給スルコトヲ得

第十三條　判事檢事ノ裁判所內ニ於ケル席次ハ官等ニ依リ官等同シキ者ハ俸給ノ多寡ニ依リ俸給同シキ者ハ俸給下賜辭令ノ日附ニ依ル

附則

第十四條　本令施行ノ際別ニ辭令ヲ交付セサル者ハ其ノ職ニ相當スル俸給ヲ給セラルルモノトス

第十五條　本令ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

第十六條　明治二十四年勅令第百三十四號判事檢事俸給令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十五年勅令第九十六號高等官官等俸給令中文武高等官官等表ノ中裁判所ノ欄並ニ高等文官官等相當俸給表ノ中判事檢事ノ欄ハ本令施行ノ日ヨリ削除ス

勅

一級	二級	三級	四級
五千圓	四千圓	三千五百圓	三千圓 上
			二千五百圓 下

奏任

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級
二千五百圓	二千二百圓	二千百圓	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓

勅令

明治二十六年十月三十日第百七十七號

裁判所書記長書記定員及俸給令

裁判所書記長書記定員及俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　裁判所書記長書記定員及俸給令

裁判所書記長ハ奏任トス

第二條　裁判所書記長及書記ノ各職ニ付人員及俸給ヲ限定スルコト左ノ如シ

大審院

書記長　一人　年俸千二百圓又ハ千圓

裁判所書記　一級俸乃至八級俸　十一人

大審院檢事局

裁判所書記　一級俸乃至八級俸　三人

控訴院

書記長（東京大阪）年俸千圓又ハ九百圓　七人

其ノ他年俸八百圓又ハ七百圓　六十二人

裁判所書記　一級俸乃至九級俸

控訴院檢事局

裁判所書記　一級俸乃至九級俸　十八人

地方裁判所

裁判所書記　二級俸乃至十級俸　四百六十七人

地方裁判所檢事局

裁判所書記　二級俸乃至十級俸　百五十八人

區裁判所及區裁判所檢事局

裁判所書記　六級俸乃至十級俸　三千三百一人

以上

附則

第三條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

明治二十四年勅令第百三十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

勅令

明治二十七年二月十四日第十八號

裁判所書記長ノ官等ニ關スル件

裁判所書記長ノ官等ハ高等官五等以下控訴院書記長ノ官等ハ高等官六等以下トス

大審院書記長ノ官等ハ高等官五等以下控訴院書記長ノ官等ハ高等官六等以下トス

明治二十六年八月十四號　朕帝國大學教官俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

勅令

明治二十六年八月十四號

帝國大學教官俸給令

第一條　各分科大學教授助教授ノ俸給ハ分チテ本俸及職務俸トス

第二條　教授ノ本俸ハ第一表助教授ノ本俸ハ第二表ニ依ル

教授ニシテ學術上著明ノ教績アリ五年以上一級俸ヲ受クル者ハ其ノ年數ヲ通算スルコトヲ得

教授ニシテ分科大學長又ハ醫院長ニ補セラレタル者ハ本俸年額千六百圓迄ヲ給スルコトヲ得

第三條　各講座ニ對スル職務俸ハ學科ノ種類職務ノ繁閑ニ從ヒ年額四百圓以上千圓以下トシ文部大臣之ヲ定ム

第四條　教授ハ其ノ擔任スル所ノ講座ニ對スル職務俸ヲ受ク

助教授ニシテ講座ヲ擔任スル者ハ其ノ講座ニ對スル職務俸ノ半額ヲ受ク

第五條　助教授ハ學科ノ種類職務ノ繁閑ニ從ヒ年額二百圓以上五百圓以下ノ職務俸ヲ受ク

第六條　教授ニシテ二箇ノ講座ヲ擔任スル場合ニ於テハ其ノ兼擔スル所ノ講座ニ對スル職務俸ノ半額ヲ加給ス

第七條　講師ヲ囑託シテ講座ヲ擔任セシムルトキハ其ノ講座ニ附スル職務俸ノ內ヨリ年額六百圓以下ノ手當ヲ給ス

第八條　一時他ノ公務ニ從事シ若ハ特ニ學術上ノ必要ニ由リ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ一時講座ヲ擔任セス又ハ職務ヲ離ルル者ハ二年以內ヲ限リ仍本俸ヲ給スルコトヲ得

第九條　講義又ハ職務ヲ闕クコト三週日以上ニ及フ者ハ其ノ日ヨリ職務俸ヲ給セス

第十條　本令ノ施行ニ關スル細則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條　本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

第一表

一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸
千二百圓	千百圓	千圓	九百圓	八百圓
十五人	十五人	十五人	十五人	十五人

第二表

一級俸	二級俸	三級俸	四級俸
六百圓	五百圓	四百圓	三百圓
八人	九人	九人	九人

勅令

明治二十六年八月二十四日第八十八號　朕帝國大學文部省直轄諸學校及東京圖書館高等官官等俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國大學文部省直轄諸學校及東京圖書館高等官等俸給令

第一條　帝國大學各分科大學教授ハ高等官二等以下助教授ハ高等官六等以下トシ文部省直轄諸學校教官ハ高等官三等以下トス

文部省直轄諸學校教官ニシテ高等官三等ニ敘セラルル者ハ定員ノ七分ノ一以内四等ニ敘セラルル者ハ四分ノ一以内トス

第二條　帝國大學總長ノ官等ハ高等官一等又ハ二等トシ文部省直轄諸學校長ハ東京盲啞學校長ヲ除クノ外三等以下六等以上トシ帝國大學書記官東京圖書館長東京盲啞學校長ハ四等以下七等以上トス

文部省直轄諸學校專任ノ舍監ハ高等官七等以下九等以上トシ兼任ノ舍監ハ其ノ本官ノ官等ニ從フ

第三條　帝國大學總長ノ年俸ハ三千五百圓文部省直轄諸學校長ノ年俸ハ二千圓トス但東京盲啞學校長ノ年俸ハ七百圓トス

第四條　東京圖書館長及帝國大學書記官ノ年俸ハ千二百圓トス

第五條　文部省直轄諸學校教官ノ年俸ハ別表ニ依ル

官名	年俸等級
文部省直轄諸學校教授	一級 二千圓 二級 千八百圓 三級 千六百圓 四級 千四百圓 五級 千二百圓 六級 千圓 七級 九百圓 八級 八百圓 九級 七百圓 十級 六百圓
文部省直轄諸學校教諭	一級 千二百圓 二級 千圓 三級 八百圓 四級 六百圓 五級 四百圓 六級 三百圓 七級 二百圓 八級 一百圓 九級 七十圓 十級 五十圓

第六條　高等師範學校舍監ノ年俸ハ五百圓女子高等師範學校舍監ノ年俸ハ二百五十圓トス

第七條　文部省直轄諸學校教官ハ其ノ授業ノ時間及學科ノ難易輕重ニ依リ別表ニ掲クル最低額以下ノ年俸ヲ給スルコトアルヘシ

第八條　文部省直轄諸學校教官ニシテ一校若クハ數校ノ教官ヲ兼任スル者ニハ本官竝兼官ニ於ケル授業ノ時間及學科ノ難易輕重ニ應シ其ノ本官ノ俸額ヲ分割シテ各學校ヨリ支給スルコトヲ得

第九條　文部省直轄諸學校官制第十五條ニ依リ某學科ノ授業ヲ擔任スル囑託講師ニハ教官俸給額ノ内ヨリ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十條　帝國大學教官ノ俸給ハ別ニ定ムル所ニ依ル

附則

第十一條　本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

第十二條　明治二十四年勅令第三十九號明治二十四年勅令第百三十九號高等官官等俸給令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十五年勅令第九十六號高等官官等俸給令中文武高等官官等表ノ中帝國大學文部省直轄諸學校及東京圖書館ノ欄竝高等文官官等相當俸給表ノ中帝國大學教授ノ欄帝國大學助教授ノ欄文部省直轄諸學校教授ノ官名及文部省直轄諸學校教諭ノ欄ハ本令施行ノ日ヨリ削除ス

勅令

明治二十六年九月十一日第百七十六號　朕帝國大學各分科大學講座ニ屬スル職務分擔ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國大學各分科大學ニ於テ臨時ノ必要ニ依リ教授助教授若クハ講師ナシテ一講座ニ屬スル職務ヲ分擔セシムル場合ニ於テ教授助教授ニ分給スヘキ職務俸及講師ニ分給スヘキ手當ハ合シテ其ノ講座ニ對スル職務俸ノ年額ヲ超ユルコトヲ得ス

附則

本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

勅令

明治二十六年十月三日第百七十六號　朕大小林區署及鑛山監督署職員俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大小林區署及鑛山監督署職員俸給令

第一條　大林區署及鑛山監督署高等官ノ年俸ハ別表ニ依ル

第二條　大小林區署及鑛山監督署判任官ノ月俸左ノ如シ

林務官補	判任官俸給八級以上
大林區署書記	判任官俸給二級以下
鑛山監督署書記	判任官俸給二級以下
鑛山監督署技手	判任官俸給二級以下
營林主事	判任官俸給三級以下
營林主事補	二十五圓以下八圓以上
森林監守	十二圓以下五圓以上

附則

第三條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

明治二十四年勅令第百四十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

勅令

明治二十六年八月二十四日第八十八號　朕帝國大學文部省直轄諸學校及東京圖書館高等官官等俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國大學文部省直轄諸學校及東京圖書館高等官官等俸給令

第一條　帝國大學各分科大學教授ハ高等官二等以下助教授ハ高等官六等以下トシ文部省直轄諸學校教官ハ高等官三等以下トス

文部省直轄諸學校教官ニシテ高等官三等ニ敘セラルル者ハ定員ノ七分ノ一以内四等ニ敘セラルル者ハ四分ノ一以内トス

第二條　帝國大學總長ノ官等ハ高等官一等又ハ二等トシ文部省直轄諸學校長ハ東京盲啞學校長ヲ除クノ外三等以下六等以上トシ帝國大學書記官東京圖書館長東京盲啞學校長ハ四等以下七等以上トス

文部省直轄諸學校專任ノ舍監ハ高等官七等以下九等以上トシ兼任ノ舍監ハ其ノ本官ノ官等ニ從フ

第三條　帝國大學總長ノ年俸ハ三千五百圓文部省直轄諸學校長ノ年俸ハ二千圓トス但東京盲啞學校長ノ年俸ハ七百圓トス

第四條　東京圖書館長及帝國大學書記官ノ年俸ハ千二百圓トス

第五條　文部省直轄諸學校教官ノ年俸ハ別表ニ依ル

官名	年俸等級
文部省直轄諸學校教授	一級 二千圓 二級 千八百圓 三級 千六百圓 四級 千四百圓 五級 千二百圓 六級 千圓 七級 九百圓 八級 八百圓 九級 七百圓 十級 六百圓
文部省直轄諸學校教諭	一級 千二百圓 二級 千圓 三級 八百圓 四級 六百圓 五級 四百圓 六級 三百圓 七級 二百圓 八級 一百圓 九級 七十圓 十級 五十圓

第六條　高等師範學校舍監ノ年俸ハ五百圓女子高等師範學校舍監ノ年俸ハ二百五十圓トス

第七條　文部省直轄諸學校教官ハ其ノ授業ノ時間及學科ノ難易輕重ニ依リ別表ニ掲クル最低額以下ノ年俸ヲ給スルコトアルヘシ

第八條　文部省直轄諸學校教官ニシテ一校若クハ數校ノ教官ヲ兼任スル者ニハ本官竝兼官ニ於ケル授業ノ時間及學科ノ難易輕重ニ應シ其ノ本官ノ俸額ヲ分割シテ各學校ヨリ支給スルコトヲ得

第九條　文部省直轄諸學校官制第十五條ニ依リ某學科ノ授業ヲ擔任スル囑託講師ニハ教官俸給額ノ内ヨリ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十條　帝國大學教官ノ俸給ハ別ニ定ムル所ニ依ル

附則

第十一條　本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

第十二條　明治二十四年勅令第百三十九號明治二十四年勅令第二百四號明治二十六年勅令第十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十五年勅令第九十六號高等官官等俸給令中文武高等官官等表ノ中帝國大學文部省直轄諸學校及東京圖書館ノ欄竝高等文官官等相當俸給表ノ中帝國大學教授ノ欄帝國大學助教授ノ欄文部省直轄諸學校教授ノ官名及文部省直轄諸學校教諭ノ欄ハ本令施行ノ日ヨリ削除ス

官名	年俸等級
林務官	一級 千五百圓 二級 千三百圓 三級 千百圓 四級 九百圓 五級 七百圓 六級 五百圓 七級 四百圓
鑛山監督官	一級 千五百圓 二級 千二百圓 三級 千百圓 四級 九百圓 五級 八百圓
鑛山監督署技師	一級 千二百圓 二級 千圓 三級 八百圓 四級 六百圓

勅令

明治二十六年四月七日第十九號　朕茲ニ農事試驗場高等官官等及俸級ノ件ヲ裁可ス

農事試驗場技師ノ官等ハ高等官四等ヨリ高等官九等ニ至リ其俸給及官等相當俸給ハ別表ニ依ル

農事試驗場高等官年俸表

官名	年俸等級
農事試驗場技師	一級 千五百圓 二級 千二百圓 三級 千百圓 四級 九百圓 五級 八百圓 六級 七百圓 七級 六百圓 八級 五百圓 九級 四百圓

農事試驗場高等官官等相當俸給表

官名＼官等	四等	五等	六等	七等	八等	九等
農事試驗場技師	一級俸	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸
				六級俸	七級俸	八級俸
						九級俸

勅令

明治二十六年十月三十日第百七十八號　朕遞信省所屬職員俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遞信省所屬職員俸給令

第一條　一等郵便電信局長、郵便爲替貯金管理所長及船舶司檢所司檢官ノ年俸ハ別表ニ依ル

一等郵便電信局長ノ中東京郵便電信局長タル者ニハ特ニ年俸二千二百圓ヲ給スルコトヲ得

第二條　遞信省鐵道書記補、郵便電信書記補、郵便爲替貯金書記補ハ月俸十五圓以下五圓以上トス

第三條　三等郵便局長、三等郵便局長ハ俸給ヲ給セス一箇年四百圓以下ノ手當ヲ給ス其ノ細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

第四條　航路標識看守ノ俸給ハ別表ニ依ル但一級俸ヲ受ケ三年ヲ踰エ事務練熟優等ナル者ハ三十圓マテ增俸スルコトヲ得

附則

第五條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

明治二十四年勅令第百五十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

官名	年俸等級
一等郵便電信局長 郵便爲替貯金管理所長 船舶司檢所司檢官	一級 二千圓 二級 千八百圓 三級 千六百圓 四級 千四百圓 五級 千二百圓 六級 千圓 七級 九百圓 八級 八百圓 九級 七百圓 十級 六百圓
看守	一級 二十五圓 二級 二十圓 三級 十五圓 四級 十二圓 五級 十圓

勅令

明治二十四年七月二十四日第百五十六號　朕茲ニ遞信省所管學校職員俸給ノ件ヲ裁可ス

第一條　商船學校長ノ年俸ハ千八百圓トス

第二條　商船學校教授東京郵便電信學校教授ノ年俸ハ別表ニ依ル

附則

第三條　本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

官名	年俸等級
一級	千四百圓
二級	千二百圓
三級	千圓
四級	九百圓
五級	八百圓
六級	七百圓
七級	六百圓
八級	五百圓

遞信省令

明治二十四年八月五日第十二號　三等郵便電信局長郵便局長電信局長手當金年額ヲ改定シ左表ニ依リ支給ス

其勤勞顯著ナル者ハ特ニ左表ノ範圍ニ拘ハラス漸次年額四百圓迄ヲ給與スルコトアルヘシ

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

官名	年俸等級
一級	九拾六圓
二級	八拾四圓
三級	七拾貳圓
四級	六拾圓
五級	四拾八圓
六級	三拾六圓
七級	二拾四圓
八級	拾八圓
九級	拾貳圓
十級	九圓六拾錢

勅令

明治二十四年六月二十三日第六十七號　朕在外國本邦郵便電信局長郵便局長以下局員月手當金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

在外國本邦郵便電信局長郵便局長以下局員月手當金ハ別表定ムル所ニ依ル其給與細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

本令ハ明治二十四年七月一日ヨリ施行ス

國名	官名	手當額
清國	局長	金五拾圓
	書記	金三拾圓
	書記補	金拾五圓
朝鮮國	局長	金貳拾五圓
	書記手	金拾五圓
	書記補	金拾圓

勅令 明治二十四年七月二十四日第九十七號　朕茲ニ會計檢査院高等官年俸ノ件ヲ裁可ス

會計檢査院高等官年俸左ノ通定ム

院長　四千圓
部長　三千圓

檢査官
- 一級　二千五百圓
- 二級　二千二百圓
- 三級　二千圓
- 四級　千八百圓
- 五級　千六百圓
- 六級　千四百圓
- 七級　千二百圓
- 八級　千圓

書記官
- 一級二級　千二百圓
- 三級　千五百圓

書記官ハ一級二級俸各一人トス

檢査官補
- 一級　九百圓
- 二級　八百圓
- 三級　七百圓
- 四級　六百圓

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

勅令 明治二十四年七月二十四日第九十八號　朕茲ニ行政裁判所長官並評定官年俸改正ノ件ヲ裁可ス

行政裁判所長官評定官年俸左ノ通改ム

長官　四千圓

評定官
- 勅任
  - 一級　三千圓
  - 二級　二千五百圓
  - 三級　二千二百圓
  - 四級　二千圓
  - 五級　千八百圓
  - 六級　千六百圓
  - 七級　千四百圓
- 奏任
  - 一級　二千圓
  - 二級　千八百圓
  - 三級　千六百圓
  - 四級　千四百圓
  - 五級　千二百圓
  - 六級　千圓
  - 七級　八百圓

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

勅令 明治二十四年七月二十四日第百一號　朕茲ニ貴族院衆議院書記官長並書記官年俸左ノ通定ム

貴族院衆議院書記官長　三千圓

貴族院書記官
衆議院書記官
- 一級　二千圓
- 二級　千八百圓
- 三級　千六百圓
- 四級　千四百圓
- 五級　千二百圓
- 六級　千圓
- 七級　九百圓
- 八級　八百圓

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

勅令 明治二十六年三月三十日第百五號　朕警視廳警部消防士消防機關士監獄書記看守長俸給ノ件ヲ裁可ス

第一條　警視廳警部消防士消防機關士監獄書記看守長ノ俸給ハ明治二十四年勅令第八十三號判任官俸給令ニ依ル

第二條　現在ノ職員ハ別ニ辭令ヲ用ヰス現俸給相當ノ俸給ヲ給スルモノトス但月俸七拾五圓ヲ受ケ判任官俸給令第四條ノ期限ニ滿タサル者ハ一級俸ヲ給スルモノトス

判任官俸給令第三條及第四條ノ期限ハ現俸給ヲ受ケタル日ヨリ起算ス

第三條　本令ハ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス」

明治二十四年勅令第三十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

勅令 明治二十六年十月三十日第百八十二號　朕警視廳北海道廳府縣及集治監判任官俸給額ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警視廳、北海道廳、府縣（島廳郡區ヲ包含ス）及集治監判任官ニハ判任官俸給令中別表ニ掲クル最低額以下六圓マテノ月俸ヲ給スルコトアルヘシ

附則

本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

深川警察署　品川警察署　八王子警察署
右警察署長年俸八百圓

赤阪警察署　四谷警察署　小石川警察署
新宿警察署　板橋警察署　千住警察署
小松川警察署　府中警察署　青梅警察署
水上警察署
右警察署長年俸七百圓

勅令 明治二十六年三月三十日第百五號　朕警視廳警部消防士消防機關士監獄書記看守長俸給ノ件ヲ裁可ス

第一條　警視廳警部消防士消防機關士監獄書記看守長ノ俸給ハ明治二十四年勅令第八十三號判任官俸給令ニ依ル

第二條　現在ノ職員ハ別ニ辭令ヲ用ヰス現俸給相當ノ俸給ヲ給スルモノトス但月俸七拾五圓ヲ受ケ判任官俸給令第四條ノ期限ニ滿タサル者ハ一級俸ヲ給スルモノトス

判任官俸給令第三條及第四條ノ期限ハ現俸給ヲ受ケタル日ヨリ起算ス

第三條　本令ハ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス」

明治二十四年勅令第三十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

勅令 明治二十四年七月二十四日第百十九號　朕茲ニ北海道廳高等官俸給ノ件ヲ裁可ス

第一條　北海道廳高等官ノ年俸左ノ如シ

長官　四千圓

書記官
- 上級　二千二百圓
- 下級　二千圓

警部長　千八百圓
財務長　千八百圓
參事官　千圓
典獄　八百圓
郡區長　六百圓

第二條　內務大臣ニ於テ特ニ指定スル各郡區ノ郡區長ハ年俸八百圓ヲ給ス但其人員ハ七人以內トス

第三條　書記官ハ上級俸下級俸各一人トス

附則

第四條　本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

內務省告示 明治二十四年八月十五日第四十一號　明治二十四年（七月）勅令第百十九號第二條ニ依リ北海道中左ノ郡ヲ指定ス

檜山郡久遠郡奥尻郡太櫛郡瀬棚郡島志郡
小樽郡高島郡忍路郡余市郡古平郡美國郡積丹郡
根室郡花咲郡野付郡標津郡目梨郡國後郡色丹郡
得撫郡新知郡占守郡
札幌郡空知郡夕張郡樺戸郡雨龍郡上川郡石狩郡
厚田郡濱益郡千歲郡

第一條　警視廳高等官ノ年俸左ノ如シ

警視總監　四千圓

警視
- 第一部長ニ補スル者　二千二百圓
- 第二部長ニ補スル者　千八百圓

警視
- 第三部長ニ補スル者　千五百圓
- 官房第一課長ニ補スル者　千二百圓
- 官房第二課長ニ補スル者　千二百圓

警視
- 警察署長ニ補スル者　九百圓、八百圓、七百圓

警視
- 消防司令長　千五百圓

警察醫長　千圓

典獄　千圓

第二條　警察署長ニ補スル警視ノ俸給區別ハ內務大臣其ノ警察署ニ就テ之ヲ指定スヘシ

附則

第三條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

內務省告示 明治二十六年十一月九日第五十號　明治二十六年（十月）勅令第百八十號警視廳高等官俸給令第二條ニ依リ警察署長俸給ノ區別ニ關シ警察署ヲ指定スルコト左ノ如シ

麹町警察署　神田警察署　日本橋警察署
京橋警察署　芝警察署
淺草警察署　本所警察署　下谷警察署
右警察署長年俸九百圓

麻布警察署　牛込警察署　本郷警察署
增毛郡留萌郡苫前郡天鹽郡中川郡上川郡
釧路郡厚岸郡川上郡歌尻郡紋別郡中川郡
河西郡河東郡上川郡白糠郡阿寒郡足寄郡
紋那郡振別郡擇捉郡柴取郡

勅令 明治二十四年七月二十四日第百二十號　朕茲ニ地方高等官俸給令ヲ裁可ス

地方高等官俸給令

第一條　府縣知事書記官警部長收稅長及典獄ノ年俸左ノ如シ

東京府知事四千圓
京都府知事、大阪府知事、神奈川縣知事、兵庫縣知事、長崎縣知事、新潟縣知事、愛知縣知事、宮城縣知事、廣島縣知事、熊本縣知事三千五百圓
其他ノ縣知事三千圓

	三府及神奈川兵庫長崎新潟愛知宮城廣島熊本ノ八縣	其他ノ諸縣
書記官	二千圓	千五百圓
警部長	千四百圓	千百圓
收稅長	千四百圓	千百圓
典獄	一八百圓	六百圓

第二條　東京府書記官ハ特ニ年俸二千二百圓ヲ給スルコトヲ得

大阪府警部長ハ特ニ年俸千八百圓ヲ給スルコトヲ得

大阪府典獄ハ特ニ年俸千圓ヲ給スルコトヲ得

第三條　全事官ノ年俸ハ千圓トス但九百圓又ハ八

百圓ヲ給スルコトアルベシ

第四條　郡長ノ年俸ハ六百圓トス

內務大臣ニ於テ特ニ指定スル各郡ノ郡長ハ年俸八百圓ヲ給ス但其人員ハ二百人以內トス

第五條　島司ノ年俸ハ千二百圓トス

附則

第六條　本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第二百二十六號地方官官等俸給令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

內務省告示

明治二十三年十一月二日第三十九號

年（十月）勅令第二百二十六號地方官官等俸給令第四條第八條ニ依リ左ノ郡ヲ指定ス

東京府
　佐渡郡　北豆島郡　東多摩郡　南豆島郡

京都府
　與謝郡　天田郡　紀伊郡　加佐郡

大阪府
　西成郡　南郡　日根郡　石川郡　八上郡　古市郡　安宿郡　錦部郡　志紀郡　丹南郡

神奈川縣
　南多摩郡　三浦郡　足柄下郡

兵庫縣
　明石郡　洲本郡　城崎郡　美含郡　氣多郡

長崎縣
　西彼杵郡　南高來郡　北松浦郡

新潟縣
　中頸城郡　北蒲原郡　古志郡　佐渡郡　加茂郡　羽茂郡

埼玉縣
　北足立郡　新座郡　入間郡　南埼郡　秩父郡

群馬縣
　東群馬郡　西多郡　西群馬郡　片岡郡

千葉縣
　千葉郡　市原郡　印旛郡　下埴生郡　南相馬郡　安房郡　夷隅郡　朝夷郡　長狹郡　海上郡　匝瑳郡

茨城縣
　新治郡　真壁郡

栃木縣
　河內郡　下都賀郡

奈良縣
　添上郡　添下郡　山邊郡　廣瀨郡　平群郡　宇智郡　吉野郡

三重縣
　度會郡　三重郡　朝明郡　桑名郡　阿拜郡　山田郡

愛知縣
　愛知郡　額田郡　知多郡　愛知郡

群馬縣
　長上郡　勢多郡　碓氷郡　佐位郡　那波郡　新田郡

山梨縣
　中巨摩郡　南都留郡

滋賀縣
　滋賀郡　犬上郡

岐阜縣
　大野郡　益田郡　吉城郡　安八郡

福岡縣
　東筑紫郡　上木丹郡　小縣郡　下伊那郡

宮城縣
　牡鹿郡　志田郡　玉造郡　柴田郡　刈田郡　宮城郡

福島縣
　東群馬郡　西多郡　西群馬郡　片岡郡

陸奥
　伊達郡　信夫郡　北會津郡　南會津郡　安積郡

陸手縣
　西磐井郡　東磐井郡　東閉伊郡　中閉伊郡　北閉伊郡　南九戶郡　北九戶郡

青森縣
　東津輕郡　三戶郡

山形縣
　西田川郡　南村山郡

秋田縣
　南秋田郡　仙北郡　北秋田郡

福島
　坂井郡　南條郡　今立郡　淺數郡

石川縣
　鹿島郡　能美郡　鳳至郡

富山縣
　婦負郡　上新川郡

鳥取縣
　會見郡　汗入郡　久米郡　河村郡　八橋郡

島根縣
　那賀郡　邑智郡　秋鹿郡　立字郡

岡山縣
　西北條郡　東南條郡　渡口郡　兒島郡

廣島縣
　安芸郡　御調郡　世羅郡　深津郡　沼隈郡　安那郡　佐伯郡

山口縣
　豐浦郡　阿武郡　三島郡　玖珂郡

和歌山縣
　名草郡　那賀郡　海草郡　西牟婁郡

德島縣
　那賀郡　麻植郡

香川
　那河郡　多度郡　大內郡　寒川郡　三木郡

愛媛縣
　南宇和郡　北宇和郡　風早郡　和氣郡　溫泉郡　久米郡　越智郡　野間郡

高知縣
　幡多郡　高岡郡　土佐郡

福岡縣
　企救郡　三潴郡　遠賀郡

大分縣
　大分郡　下毛郡　日田郡

佐賀縣
　東松浦郡　佐賀郡

熊本縣
　鹿田郡　菊陽郡　宇土郡　天草郡　玉名郡

宮崎縣
　宮崎郡　北那珂郡　東臼杵郡　北諸縣郡

鹿兒島縣
　鹿兒島郡　谿山郡　北大隅郡　宮城郡　薩摩郡　甑島　那珂　伊佐郡　姶良郡　桑原郡　門倉郡　吹郡

內務省告示

明治二十四年二月十日第四十六號

年（七月）勅令第百二十號第四條ニ依リ從前指定ノ郡ヲ左ノ郡ヲ指定ス

神奈川縣
　愛甲郡

兵庫縣
　武庫郡　淡路郡　氷上郡

群馬縣
　佐位郡　那波郡

茨城縣
　久慈郡

山梨縣
　北巨摩郡

滋賀縣
　愛田郡　東淺井郡

福井縣
　敦賀郡

鳥取縣
　邑美郡　法美郡　岩美郡

島根縣
　出雲郡　能義郡　簸川郡

岡山縣
　小田郡

山口縣
　豐浦郡

和歌山縣
　那賀郡

德島縣
　美馬郡

愛媛縣
　新居郡　周布郡　桑村郡

福岡縣
　上毛郡　下毛郡

大分縣
　直入郡

佐賀縣
　杵島郡

內務省告示

明治二十四年二月十三日第五十號

年（七月）勅令第百二十號第四條ニ依リ從前指定ノ郡ヲ左ノ郡ヲ指定ス

大阪府
　東成郡　住吉郡

滿
　大谷川郡　濃飛郡

兵庫縣
　川邊郡　北東郡　北西郡

新潟縣
　刈羽郡　南蒲原郡

埼玉縣
　大里郡　榛澤郡　橫澤郡　男衾郡

群馬縣
　山田郡

千葉縣
　望陀郡　周淮郡　天羽郡

茨城縣
　東茨城郡　那珂郡

栃木縣
　式上郡　式下郡　芳賀郡　十市郡

三重縣
　飯野郡　飯野郡

愛知縣
　中島郡　碧海郡

靜岡縣
　賀茂郡　山名郡　榛田郡

滋賀縣
　蒲生郡　甲賀郡

岐阜縣
　厚見郡　各務郡　方縣郡　東郡　羽栗郡　中島郡

長野縣
　上伊那郡　北佐久郡

福島縣
　田村郡　耶麻郡

陸手縣
　磐貢郡　東和賀郡　西和賀郡　南陸手郡　北陸手郡

紫波郡
青森縣
南津輕郡
秋田縣
山本郡
福井縣
大野郡
島根縣
邇摩郡安濃郡
德島縣
名東郡
香川縣
三野郡豐田郡
愛媛縣
西宇和郡
福岡縣
上座郡下座郡夜須郡　山門郡
大分縣
北海部郡
鹿兒島縣
給黎郡揖宿郡頴娃郡川邊郡

內務省告示

明治二十五年二月二十四日第十三號

明治二十四（七月）勅令第百二十號第四條ニ依リ從前指定ノ外仍ホ左ノ郡ヲ指定ス

京都府
船井郡
栃木縣
足利郡梁田郡
宮城縣
栗原郡
山形郡
最上郡
岡山縣
上房郡　上道郡
廣島縣
賀茂郡
熊本縣
八代郡芹北郡　山鹿郡山本郡菊池郡合志郡

勅令

明治二十四年八月十七日第百七十二號

朕茲ニ府縣立師範學校長任命及俸給令ヲ裁可ス

府縣立師範學校長任命及俸給令

第一條　府縣立師範學校長ハ奏任トス

第二條　府縣立師範學校長ノ年俸ハ別表ニ依リ之ヲ支給ス

第三條　本令ニ規定スルモノノ外總テ本年勅令第八十二號高等官任命及俸給令ニ依ル

附則

第四條　本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

一級	二級	三級	四級	五級	六級
千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓

文部省令

明治二十五年四月三十日第六號

明治二十四年（十一月）勅令第二百十七號尋常師範學校官制第九條ニ基キ尋常師範學校教諭助教諭訓導及書記ノ俸額ヲ定ムルコト左ノ如シ但明治二十五年度ノ經費豫算內ニ於テ支辨スヘカラサルモノアルトキハ同年度中便宜俸給等級相當ノ額ヲ減給スヘシ

尋常師範學校教諭助教諭訓導及書記ノ俸給

第一條　尋常師範學校教諭ノ俸給ハ其月俸ヲ別テ五級トシ一號表ニ依リ支給スヘシ但奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ハ號表ノ範圍ニ拘ラス特ニ百圓マテ增俸スルコトヲ得

第二條　尋常師範學校助教諭訓導及書記ノ俸給ハ其月俸ヲ別テ五級トシ二號表ニ依リ支給スヘシ

第三條　尋常師範學校教諭助教諭及訓導ノ俸給ハ其授業ノ時間及學科ノ經重難易等ニ依リ一號表及二號表ニ掲クル俸給等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

一號表

職名	月俸等級				
	一級	二級	三級	四級	五級
教諭	上 七十五圓	六十五圓	五十五圓	四十五圓	三十五圓
	下 七十圓	六十圓	五十圓	四十圓	三十圓

二號表

職名	月俸等級		
助教諭 訓導 書記	一級 三十圓	二級 二十五圓	三級 二十圓
	四級 十五圓	五級 十二圓	

勅令

明治二十四年八月十日第百六十九號

裁可ス

巡査俸給令

第一條　巡査ノ月俸ハ左ノ如シ

一級　十圓

二級　九圓
三級　八圓

第二條　巡査勤續滿九年以上ノ者ハ月俸十二圓滿十二年以上ノ者ハ月俸十五圓ヲ給スルコトヲ得

第三條　巡査教習所ニ於テ職務教習中ノ者ニ限リ月俸六圓ヲ給ス但地方ノ便宜ニ依リ其半額迄ハ之ヲ減スルコトヲ得

第四條　本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

勅令

明治二十三年十月十日第二百二十九號

朕樞府縣看守俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

勅令第二百二十八號巡査監假留監看守人員及俸給ノ件中俸給及休職ニ關ル規定ハ樞府縣看守ニモ適用ス

第二款　武官官等俸給

陸軍武官官等表

將官	各兵科佐官（上長官）	各兵科尉官（士官）	准士官	各兵科下士
	陸軍憲兵大佐	陸軍憲兵中佐		陸軍憲兵少尉
	陸軍歩兵大佐	陸軍歩兵中佐		陸軍憲兵曹長
	陸軍騎兵大佐	陸軍騎兵中佐		陸軍憲兵二等軍曹
	陸軍憲兵大尉	陸軍憲兵中尉		陸軍憲兵一等軍曹
	陸軍歩兵大尉	陸軍歩兵中尉		陸軍歩兵少尉
	陸軍騎兵大尉	陸軍騎兵中尉		陸軍歩兵曹長
	陸軍憲兵少佐	陸軍憲兵大尉		陸軍歩兵二等軍曹
	陸軍歩兵少佐	陸軍歩兵中尉		陸軍歩兵一等軍曹
	陸軍騎兵少佐	陸軍騎兵大尉		陸軍騎兵曹長
	陸軍憲兵中佐	陸軍憲兵少尉		陸軍騎兵二等軍曹
	陸軍歩兵中佐	陸軍歩兵少尉		陸軍騎兵一等軍曹
	陸軍騎兵中佐	陸軍騎兵少尉		陸軍憲兵曹長
	陸軍憲兵少佐	陸軍憲兵曹長		陸軍憲兵二等軍曹
	陸軍歩兵少佐	陸軍歩兵曹長		陸軍憲兵一等軍曹
	陸軍騎兵少佐	陸軍騎兵曹長		陸軍騎兵曹長
	陸軍憲兵大尉	陸軍憲兵二等軍曹		陸軍騎兵二等軍曹
	陸軍歩兵大尉	陸軍憲兵一等軍曹		陸軍騎兵一等軍曹
	陸軍騎兵大尉	陸軍歩兵曹長		陸軍歩兵曹長
	陸軍憲兵中尉	陸軍歩兵二等軍曹		陸軍歩兵二等軍曹
	陸軍歩兵中尉	陸軍歩兵一等軍曹		陸軍歩兵一等軍曹
	陸軍騎兵中尉	陸軍騎兵曹長		陸軍騎兵曹長
	陸軍憲兵少尉	陸軍騎兵二等軍曹		陸軍騎兵二等軍曹
	陸軍歩兵少尉	陸軍騎兵一等軍曹		陸軍騎兵一等軍曹
	陸軍騎兵少尉	陸軍騎兵曹長		陸軍騎兵曹長
	陸軍憲兵曹長	陸軍騎兵二等軍曹		陸軍騎兵二等軍曹
	陸軍歩兵曹長	陸軍騎兵一等軍曹		陸軍騎兵一等軍曹
	陸軍騎兵曹長	陸軍騎兵曹長		陸軍騎兵曹長
	陸軍憲兵二等軍曹	陸軍憲兵二等軍曹		陸軍憲兵二等軍曹
	陸軍憲兵一等軍曹	陸軍憲兵一等軍曹		陸軍憲兵一等軍曹
	陸軍歩兵二等軍曹	陸軍歩兵二等軍曹		陸軍歩兵二等軍曹
	陸軍歩兵一等軍曹	陸軍歩兵一等軍曹		陸軍歩兵一等軍曹
	陸軍騎兵二等軍曹	陸軍騎兵二等軍曹		陸軍騎兵二等軍曹
	陸軍騎兵一等軍曹	陸軍騎兵一等軍曹		陸軍騎兵一等軍曹
	陸軍憲兵曹長	陸軍憲兵曹長		陸軍憲兵曹長
	陸軍歩兵曹長	陸軍歩兵曹長		陸軍歩兵曹長
	陸軍騎兵曹長	陸軍騎兵曹長		陸軍騎兵曹長
	陸軍憲兵二等軍曹	陸軍憲兵二等軍曹		陸軍憲兵二等軍曹
	陸軍憲兵一等軍曹	陸軍憲兵一等軍曹		陸軍憲兵一等軍曹
	陸軍歩兵二等軍曹	陸軍歩兵二等軍曹		陸軍歩兵二等軍曹
	陸軍歩兵一等軍曹	陸軍歩兵一等軍曹		陸軍歩兵一等軍曹
	陸軍騎兵二等軍曹	陸軍騎兵二等軍曹		陸軍騎兵二等軍曹
	陸軍騎兵一等軍曹	陸軍騎兵一等軍曹		陸軍騎兵一等軍曹
	陸軍憲兵曹長	陸軍憲兵曹長		陸軍憲兵曹長
	陸軍歩兵曹長	陸軍歩兵曹長		陸軍歩兵曹長
	陸軍騎兵曹長	陸軍騎兵曹長		陸軍騎兵曹長
	陸軍憲兵二等軍曹	陸軍憲兵二等軍曹		陸軍憲兵二等軍曹
	陸軍憲兵一等軍曹	陸軍憲兵一等軍曹		陸軍憲兵一等軍曹
	陸軍歩兵二等軍曹	陸軍歩兵二等軍曹		陸軍歩兵二等軍曹
	陸軍歩兵一等軍曹	陸軍歩兵一等軍曹		陸軍歩兵一等軍曹
	陸軍騎兵二等軍曹	陸軍騎兵二等軍曹		陸軍騎兵二等軍曹
	陸軍騎兵一等軍曹	陸軍騎兵一等軍曹		陸軍騎兵一等軍曹
	陸軍憲兵曹長	陸軍憲兵曹長		陸軍憲兵曹長
	陸軍歩兵曹長	陸軍歩兵曹長		陸軍歩兵曹長
	陸軍騎兵曹長	陸軍騎兵曹長		陸軍騎兵曹長
	陸軍憲兵二等軍曹	陸軍憲兵二等軍曹		陸軍憲兵二等軍曹
	陸軍憲兵一等軍曹	陸軍憲兵一等軍曹		陸軍憲兵一等軍曹
	陸軍歩兵二等軍曹	陸軍歩兵二等軍曹		陸軍歩兵二等軍曹
	陸軍歩兵一等軍曹	陸軍歩兵一等軍曹		陸軍歩兵一等軍曹
	陸軍騎兵二等軍曹	陸軍騎兵二等軍曹		陸軍騎兵二等軍曹
	陸軍騎兵一等軍曹	陸軍騎兵一等軍曹		陸軍騎兵一等軍曹
	陸軍憲兵曹長	陸軍憲兵曹長		陸軍憲兵曹長
	陸軍歩兵曹長	陸軍歩兵曹長		陸軍歩兵曹長
	陸軍騎兵曹長	陸軍騎兵曹長		陸軍騎兵曹長

| | | |

勅令

明治十九年四月二十九日第三十七號

陸軍海軍武官官等ニ關スル件

第一條　陸軍海軍大將ハ親任式ヲ以テ敍任スルノ官トシ中將ハ勅任一等少將及相當官ハ勅任二等トス

第二條　陸軍海軍大佐ハ奏任一等中佐ハ奏任二等少佐ハ奏任三等大尉ハ奏任四等中尉ハ奏任五等少尉ハ奏任六等トス佐官尉官ノ相當官亦同シ

第三條　陸軍准士官下士ノ官等ハ判任一等ヨリ四等ニ至リ海軍准士官下士ノ官等ハ判任一等ヨリ五等ニ至ル

勅令

明治二十四年七月二十七日第百五十七號

陸軍武官官階ヲ定ムルノ件ヲ裁可ス

第一條　海軍武官官階ヲ定ムルコト左表ノ如シ

海軍武官官階表

將官	上長官	又佐官	士官	又尉官	准士官	下士
大將					上等兵曹	一等兵曹
中將					一等兵曹	二等兵曹
少將	大佐	少佐	大尉	少尉	二等兵曹	三等兵曹
					一等信號手	一等信號手
					二等信號手	二等信號手
					一等軍樂手	一等軍樂手
					二等軍樂手	二等軍樂手
機技部上長官	機技部士官				機技部准士官	機技部下士
機關大監	機關少監	大機關士	少機關士	機關師	一等機關手	一等機關手
					二等機關手	二等機關手
					三等機關手	三等機關手
					一等船匠手	一等船匠手
					二等船匠手	二等船匠手
					三等船匠手	三等船匠手
					一等鍛冶手	一等鍛冶手
					二等鍛冶手	二等鍛冶手
					三等鍛冶手	三等鍛冶手
機技部上長官	機技部士官				機技部准士官	機技部下士
軍醫大監	軍醫少監	大軍醫士	少軍醫士	軍醫師	一等看護手	一等看護手
					二等看護手	二等看護手
					三等看護手	三等看護手
軍醫部上長官	軍醫部士官				軍醫部准士官	軍醫部下士
軍醫總監	軍醫大監	軍醫少監	大軍醫士	少軍醫士	上等看護手	一等看護手
		藥劑監	大藥劑官	少藥劑官		
主計總監	主計大監	主計少監	大主計	少主計	上等主幹	一等主幹
					一等主幹	二等主幹
					二等主幹	三等主幹
主計部上長官	主計部士官				主計部准士官	主計部下士
					一等主計	一等主計
					二等主計	二等主計
					三等主計	三等主計

第二條　本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

第三條　海軍武官官等表ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

勅令

明治二十六年十二月十六日第二百五十二號

海軍軍人俸給令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　高等武官ノ俸給ハ第一表、准士官ノ俸給ハ第二表、下士卒ノ俸給ハ第三表ニ依ル

准士官以下及下士ニシテ其ノ俸給ニ等級アルモノハ各等級ニ付海軍大臣其ノ定員ヲ定ム

第二條　候補生ノ俸給ハ日給八十錢トス

第三條　准士官以上ニ發令シタルトキハ俸給十分ノ八ヲ給シ休職ヲ命シタルトキハ俸給十分ノ六ヲ給シ停職ヲ命シタルトキハ俸給十分ノ三ヲ給ス

第四條　下士卒ノ俸給ハ定員ニ在ル者ニ甲額ヲ給シ定員外ニ在ル者ニアリ額ヲ給ス

海軍團ニ於テ定員外ニ在ル者ニ須要ニ依リ特ニ執務ヲ命シタルトキハ執務中甲額ヲ給ス

練習員（五等卒ヲ除ク）ニハ甲額ヲ給ス

第五條　士官以上ニ上官ノ職務心得ヲ命シタルトキハ上官ノ最下級俸十分ノ二ヲ加給ス

下士ニ準士官ノ職務心得ヲ命シタルトキハ准士官最下級俸十分ノ一ヲ加給ス

第六條　航行ノ役務ニ服スル軍艦ノ定員及乘組候補生ニハ第四表ニ依リ航海加俸ヲ給シ航行ノ役務ニ服スル水雷艇ノ乘員ニハ第五表ニ依リ航海加俸ヲ給ス

第七條　士官以上ニ上官ノ職務心得ヲ命シ若クハ下士ニ準士官ノ職務心得ヲ命シタルトキハ其ノ職務相當ノ航海加俸ヲ給ス

第八條　官有船舶若クハ官ニテ借入ル船舶ノ運轉及其ノ他ノ職務ニ服スル爲メ乘組ヲ命シタル者ニハ第六條ニ準シ航海加俸ヲ給ス但炊具員ノ設備ナキ船艇ニ乘組ヲ命シ糧料ヲ給スルトキハ航海加俸ヲ給セス

第九條　下士卒ニシテ勤務行賞ヲ有スル者ニハ一線毎ニ一日一錢ノ加俸ヲ給ス

第十條　下士卒ニシテ教員ノ職ヲ充スル者ニハ一日三錢ノ加俸ヲ給ス

第十一條　下士卒ニシテ砲術教員適任證書ヲ有スル者ニハ一日四錢、一等掌砲證狀ヲ有スル者ニハ一日三錢、二等掌砲證狀ヲ有スル者ニハ一日二錢ノ加俸ヲ給ス

砲術教員適任證書及掌砲證狀ヲ併有スル者ニハ多額ニ就キ加俸ヲ給ス

第十二條　下士卒ニシテ水雷術教員適任證書ヲ有スル者ニハ一日四錢、一等掌水雷證狀ヲ有スル者ニハ一日三錢、二等掌水雷證狀ヲ有スル者ニハ一日二錢ノ加俸ヲ給ス

水雷術教員適任證書及掌水雷證狀ヲ併有スル者ニハ多額ニ就キ加俸ヲ給ス

第十三條　准士官以上ニシテ他職ヲ兼務シタルトキ其ノ航海加俸ハ多額ニ就キ之ヲ給ス

第十四條　准士官以上ニシテ豫備、後備、退役トナリタルトキハ服役終期ノ日マテ其ノ俸給及加俸ヲ給ス

第十五條　准士官以上ニシテ免官廢官トナリ若クハ候補生ニシテ候補生ヲ免セラレ又ハ下士卒ニシテ現役ヲ離レ若クハ歸休兵トナリタルトキハ其ノ當日マテ俸給及加俸ヲ給ス

第十六條　准士官以上ノ待命、休職、停職、豫備、後備、退役者若クハ免官廢官トナリタル者事務引繼殘務調理ノ爲メ特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スルトキハ其ノ間俸給及加俸ハ在職ノ例ニ依ル但海軍高等武官進級條例第十三條ニ依リ進級シタル者本條ノ場合ニ於テハ前官職ニ依リ其ノ俸給及加俸ヲ給ス

第十七條　豫備、後備ノ准士官以上及豫備兵、後備兵、歸休兵召集中准士官以上ハ在職ニ準シ下士卒ハ現役ニ準シ俸給及加俸ヲ給ス

第十八條　准士官以上及候補生ニシテ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ間俸給十分ノ五ヲ給ス但停職ニ在ル者ニハ停職中ノ俸給額ヲ給ス

第十九條　下士卒ニシテ傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リ入院若クハ陸地療養ノ者若クハ陸上勤務外宿中又ハ公務出張中傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リタルトキ若クハ其ノ間俸給十分ノ四ヲ給ス但公務ニ原因シ傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リタルトキ若クハ勤務ニ服スル者ハ其ノ間俸給十分ノ二以内ヲ其ノ家族ニ下渡スコトヲ得

外國出張中ニ在ルトキハ其ノ全額ヲ給ス

第二十條　下士卒ニシテ依願歸郷、收禁、拘留、處刑、處罰中若クハ被告事件ノ爲メ護送中ハ其ノ間俸給十分ノ二ヲ給ス但無罪若クハ免訴ニ歸スルトキハ亦同シ

下士卒ニシテ戴冠服務中ノ者ハ俸給全額ヲ給ス

第二十一條　下士卒ニシテ擅ニ職役ヲ離レ若クハ他方ニ赴キ歸著ノ期ニ後レタル者ハ其ノ間俸給ヲ停止ス但自首又ハ捕縛ニ因リ護送中ノ者ハ前條ノ例ニ依ル

第二十二條　准士官以上候補生及下士卒ニシテ病願休暇、陸地療養（公務ニ原因シ傷痍ヲ受ケ疾病ニ罹リタルトキ若クハ外國出張中ニ在ルトキヲ除ク）入院、收禁、拘留、處刑、處罰中若クハ被告事件ノ爲メ護送中若クハ擅ニ職役ヲ離レ若クハ他方ニ赴キ歸著ノ期ニ後レタルトキハ其ノ間加俸ヲ停止ス但准士官以上及候補生ニシテ處罰中勤務ニ服スルトキ若クハ下士卒ニシテ戴冠服務中ハ加俸ヲ給ス

第二十三條　准士官以上候補生及下士卒通信不便ノ地ニ勤務中又ハ艦船ノ乘員航海中ハ其ノ準給額ヲ給ス

第二十四條　准士官以上ノ俸給ハ三百六十五分ノ一ヲ以テ日數ニ應シ給ス但太平洋ヲ渡航シ日數ニ一日ノ增減アルトキハ曆ノ日數ニ依ル又二月ハ閏年ト雖モ二十八日分ヲ給ス

第二十五條　準給及加俸ハ新月下旬ニ於テ之ヲ給ス

第二十六條　本令施行ノ細則ハ海軍大臣之ヲ定ム

附則

第二十七條　本令ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

第一表　海軍高等武官俸給表

	大佐及相當官	少佐及相當官	大尉及相當官	少尉及相當官
大將				
中將				
少將及相當官				
大佐及相當官		一級 二千四百九十六圓六十錢	一級 一八百七十六圓二八百十七圓六十錢	一級 四百五十六圓二十五錢
少佐及相當官	一級 二千四百九十六圓六十錢		二級 一千二百七十七圓五十錢	二級 四百一圓五十錢
大尉及相當官	二級 一千八百九十八圓	二級 一千二百七十七圓五十錢		三級 三六百七十八圓九十錢 四六百二十圓五十錢
少尉及相當官				
年俸	六千圓	四千圓	三千三百圓	

第二表　海軍准士官俸給表

年俸	一級	二級	三級	四級	五級
	五百四十圓五十錢	四百七十四圓	四百十六圓	三百五十七圓七十錢	二百九十九圓三十錢

第三表　海軍下士卒俸給表

	一等下士	二等下士	三等下士	卒
一級				
二級	一等			
三級	二等	一等		
四級	三等	二等	一等	
五級	四等	三等	二等	一等
六級	五等	四等	三等	二等
七級		五等	四等	三等
八級			五等	四等
九級				五等
卒				卒

甲額日當	乙額日當
七十錢	八十四錢
五十九錢八錢	六十四錢一錢
四十三錢七錢	四十三錢四錢
三十三錢三錢	三十二錢六錢
三十三錢一錢	三十二錢三錢
三十二錢七錢	三十二錢二錢
二十二錢五錢	二十二錢一錢
二十二錢一錢	二十一錢八錢
二十一錢	二十一錢五錢
十八錢	十八錢
十五錢	十五錢
十三錢	十三錢
十一錢	十一錢
八錢	八錢
七錢	七錢
五錢	五錢

第四表　軍艦航海加俸表

官職		加俸日當額	
		本邦沿岸	支那、朝鮮、亞細亞露領（東經三十度以西北緯三十度以南西經七十度以東）
大將	司令長官	二圓	一圓
中將	司令長官	一圓六十錢	八十錢
少將	司令官	一圓三十錢	六十五錢
大佐及參謀長	相當官	一圓	五十錢
	其他	八十錢	四十錢
少佐及副長參謀	相當官	七十錢	三十五錢
	機關長	六十五錢	三十三錢
	其他	六十錢	三十錢
大尉及副長參謀	艦長	六十錢	三十錢
	航海長	五十五錢	二十八錢
	機關長	四十五錢	二十三錢
	其他	四十錢	二十錢
少尉及相當官		三十錢	十五錢
候補生及准士官		二十錢	十錢
下士		十四錢	八錢
一等卒		三錢	二錢
二等卒		三錢	二錢
三等卒		二錢	一錢
四等卒		二錢	一錢
五等卒		一錢	一錢

大西洋亞米加洲沿岸ハ第五欄ノ加給額ヲ給ス

第五表　水雷艇乗員航海加俸表

官職		加俸日當額	
		本邦沿岸	支那、朝鮮、東亞細亞露領（東經三十度以西北緯三十度以南西經七十度以東）
司令		八十錢	四十錢
艇長		七十錢	三十五錢
大尉及相當官		五十錢	二十五錢
少尉及相當官		四十錢	二十錢
候補生及准士官		三十錢	十五錢
下士		十錢	五錢
卒		六錢	三錢
		十二錢	十八錢
		二十四錢	

大西洋亞米加洲沿岸ハ第五欄ノ加給額ヲ給ス

勅令

明治二十六年十月三十日第百七十五號

陸軍所屬特別文官俸給令

陸軍所屬特別文官俸給令ヲ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　勅任官及奏任官ノ俸給ハ第一表判任官以下ノ月俸ハ第二表ニ依リ之ヲ給ス

理事試補ハ軍法會議ノ構成員ヲ命セラレタル者ニ限リ三百圓以下ノ年俸ヲ給ス

第一表

官名	年俸等級	月俸等級
理事	三千圓	
	一級俸 二千四百圓	
	二級俸 二千二百圓	
	三級俸 二千圓	
	四級俸 一千八百圓	
	五級俸 一千六百圓	
	六級俸 一千四百圓	
	七級俸 一千二百圓	
	八級俸 一千圓	
	九級俸 九百圓	
	十級俸 八百圓	
	十一級俸 七百圓	
	十二級俸 六百圓	
陸軍教授	千八百圓	
陸軍編修	千六百圓	
陸地測量師	千四百圓	
陸軍編修	千二百圓	
陸地測量師	千圓	
軍馬補充署技師	九百圓	
	八百圓	
	七百五十圓	
	七百圓	
	六百五十圓	
	六百圓	
	五百五十圓	
	五百圓	
	四百五十圓	
	四百圓	
陸軍監獄長	七百圓	
	六百圓	
	五百圓	
千住製絨所長	二千圓	

第二表

官名	月俸
一級俸	
二級俸	
三級俸	
四級俸	
五級俸	
六級俸	
七級俸	
八級俸	
九級俸	
十級俸	
陸軍助教事	六十圓
陸軍編修書記	五十圓
陸地測量手	四十五圓
	四十圓
	三十五圓
	三十圓
	二十五圓
	二十圓
	十五圓
	十二圓
	十圓
	九圓
	八圓
	七圓
軍馬補充署技手	
陸軍監獄書記	三十五圓
陸軍監獄看守長	三十圓
	二十五圓
	二十圓
	十五圓
	十二圓
	十圓
	九圓
	八圓
	七圓
陸軍監獄看守	

第二條　陸軍監獄長一級俸ヲ受ケ滿七年ヲ踰エ特ニ效績アル者ハ年俸八百圓マテ增給シ陸軍監獄看守滿十年以上勤續スル者ハ月俸十二圓ヲ給スルコトヲ得

第三條　陸地測量師及軍馬補充署技師ニハ第一表定ムル所ノ年俸最低額以下ヲ給スルコトヲ得

附則

第四條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

明治二十四年勅令第百二十六號、同年勅令第百二十七號、同年勅令第百二十九號、同年勅令第百三十號及同年勅令第百二十八號中陸軍ニ關スルモノハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

勅令

明治二十四年七月二日第百二十八號

陸軍海軍諸學校文官教授俸給ノ件ヲ裁可ス

陸軍海軍諸學校文官教授年俸左ノ如シ

一級	千八百圓
二級	千六百圓
三級	千四百圓
四級	千二百圓
五級	千圓
六級	九百圓
七級	八百圓
八級	七百圓
九級	六百圓
十級	五百圓

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

勅令

明治二十四年七月二日第百三十二號

陸軍ニ主理錄等俸給ノ件ヲ裁可ス

第一條　主理ハ勅任又ハ奏任トス其年俸ハ別表ニ依ル但奏任主理ニハ別表定ムル所ノ年俸最低額以下ヲ給スルコトヲ得

第二條　錄事ハ判任トス其俸給ハ本年勅令第八十三號判任官俸給令ニ依ル

附則

第三條　本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

明治二十年勅令第五十五號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

勅任	奏任	判任
三千圓	一級 二千四百圓	一級 二千二百圓
	二級 二千六百圓	二級 二千八百圓
	三級 二千八百圓	三級 三千四百圓
	四級 三千四百圓	四級 三千六百圓
	五級 三千六百圓	五級 三千八百圓
	六級 三千八百圓	六級 四千二百圓
	七級 四千二百圓	七級 四千六百圓
	八級 四千六百圓	八級 五千四百圓
	九級 五千四百圓	九級 六千四百圓
	十級 六千四百圓	十級 七千四百圓
	十一級 七千四百圓	十一級 八千四百圓
	十二級 八千四百圓	十二級 九千四百圓

勅令

明治二十六年十一月十日第二百七號　朕海軍軍法會議構成員ヲ命シタル主理試補年俸ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

主理試補ニシテ軍法會議ノ構成員ヲ命セラレタル者ニハ三百圓以下ノ年俸ヲ給スルコトヲ得

勅令

明治二十六年十一月二十日第二百十二號　朕在外國公使館附陸海軍武官俸給令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　在外國公使館附陸海軍武官俸給令

第二條　在外國公使館附陸海軍武官ノ俸給ハ分チテ本俸及在勤俸ノ二種トス

第三條　公使館附陸軍武官ノ本俸ハ陸軍給與令ニ定ムル所ノ現役俸及職務俸トス

公使館附海軍武官ノ本俸ハ海軍軍人俸給令中第一表ニ依ル

第三條　公使館附陸海軍武官ノ在勤俸年額ハ別表ニ依ル

陸軍大尉ニシテ公使館附少佐ノ職務心得ヲ命セラレタル者ノ在勤俸ハ陸軍佐官ノ在勤俸額ニ同シ

第四條　清國公使館附陸海軍武官ニシテ特ニ天津在勤ヲ命セラレタル者ハ在勤俸年額三百六十圓以内ニ增給スルコトヲ得

第五條　在勤俸ハ海外在勤ノ場合ニ於テ本俸ノ外任所到著ノ翌日ヨリ任所出發ノ前日マテ之ヲ給ス

第六條　任所替ヲ命セラレタルトキハ舊任所出發ノ當日ヨリ新任所到著ノ日マテハ在勤俸ヲ給セス

第七條　歸朝若クハ任所替ヲ命セラレタル者其ノ辭令到達ノ日ヨリ三十日ヲ過キ尚出發セサルトキハ其ノ翌日ヨリ在勤俸ヲ給セス但特ニ滯在ヲ命セラレタル者ハ此ノ限ニアラス

第八條　俸給ハ年額ヲ十二分シテ一箇月分トシ每月下旬ニ之ヲ給ス但外國ニ送金ヲ要スルモノハ半箇年分以内ニ於テ前金渡ヲ受スコトヲ得

第九條　歐米各國ニ在勤スル者ノ在勤俸ハ金貨ヲ以テ支給シ東洋諸國ニ在勤スル者ノ在勤俸ハ銀貨ヲ以テ支給ス

附則

第十條　本令ハ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

明治二十一年勅令第十八號及本年勅令第六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

在外國公使館附陸海軍武官在勤俸

官 / 任所	陸海軍佐官	英國米佛獨伊	清朝鮮
陸軍佐官	二千二百圓	二千圓	千七百圓
海軍佐官	二千圓	千八百圓	千六百圓
海軍佐官	二千圓	千八百圓	千六百圓
海軍佐官	二千圓	千八百圓	千五百圓

勅令

明治二十四年七月二十四日第百三十三號　朕益ニ海軍編修俸給ノ件ヲ裁可ス

海軍編修ノ年俸左ノ如シ

一級　千二百圓

二級　千圓

三級　八百圓

四級　六百圓

附則

本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス

勅令

明治二十七年六月三十日第七十八號　朕望樓長望樓手俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

望樓長望樓手ノ俸給ハ別表ニ依ル

望樓長望樓手俸給表

俸給 / 官名	月俸等級				
望樓長	三十圓	二級俸 二十五圓	三級俸 二十圓	四級俸 十五圓	五級俸 十二圓
望樓手	二十五圓	二十圓	十五圓	十二圓	十圓

第三款　定員

勅令

明治二十六年十月三十日第百二十一號　朕樞密院顧問定員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

樞密院顧問ハ十人ヲ以テ定員トス

附則

本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

勅令

明治二十六年十月三十日第百二十五號　朕外交官領事官及書記生定員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外交官領事官及書記生定員令

第一條　外交官、領事官及書記生ノ定員ヲ定ムルコト左ノ如シ

特命全權公使、辨理公使、代理公使ハ通シテ十人

公使館一等書記官、公使館二等書記官、公使館三等書記官ハ通シテ十九人

總領事、一等領事、二等領事、貿易事務官ハ通シテ二十一人

外交官補、領事官補ハ通シテ十五人

公使館書記生、領事館書記生ハ通シテ五十三人

第二條　待命外交官及待命領事官ハ前條定員ノ内ニ算入セス

待命外交官、待命領事官ハ通シテ十五人以内トス

附則

第三條　本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第二百八十三號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

勅令

明治二十三年十一月一日第二百六十七號　朕陸軍定員令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　本令ハ治平ノ日ニ於ケル現役軍人及馬匹ノ數並在職文官ノ人員ヲ規定スルモノトス

陸軍省及千住製絨所ノ職員雇傭職ノ軍人一年志願兵及六週間現役兵ハ本令定員ノ外トス

第二條　常備軍隊ハ左ノ如シ

其一　歩兵　近衛歩兵　四聯隊

師團歩兵　廿四聯隊

其二　騎兵　近衛騎兵　一大隊

師團騎兵　六大隊

其三　砲兵

甲　野戰砲兵　近衛砲兵　一聯隊

師團砲兵　六聯隊

乙　要塞砲兵　四聯隊

其四　工兵　近衛工兵　一大隊

師團工兵　六大隊

其五　輜重兵　近衛輜重兵　一大隊

師團輜重兵　六大隊

其六　軍樂隊　近衛軍樂隊　一隊

師團軍樂隊　一隊

其七　島嶼警備隊　一隊

對馬警備隊　一隊

歩兵一聯隊ハ本部並三大隊ヲ以テ編成シ其一大隊ハ本部並四中隊トス（附表第一號甲）

但近衛歩兵聯隊ハ二大隊トス（附表第一號乙）

騎兵一大隊ハ本部並三中隊ヲ以テ編成ス（附表第二號）

野戰砲兵一聯隊ハ本部並野戰砲兵二大隊及山砲兵一大隊ヲ以テ編成シ其一大隊ハ本部並二中隊トス（附表第三號甲）

但近衛砲兵聯隊ハ野戰砲兵二大隊トス（附表第三號乙）

要塞砲兵一聯隊ハ本部並三大隊ヲ以テ編成シ其一大隊ハ本部並四中隊トス（附表第三號丙）

但各地要塞ノ砲數ニ應シ大隊數或ハ中隊數ヲ增減スルヿアルヘシ

工兵一大隊ハ本部并三中隊ヲ以テ編成ス（附表第四號甲）

但近衛工兵大隊ハ二中隊トス（附表第四號乙）

輜重兵一大隊ハ本部并二中隊ヲ以テ編成シ之ニ輜重廠ヲ屬ス（附表第五號甲乙丙）

軍樂隊ノ編成附表第六號ノ如シ

對馬警備隊ハ司令部并歩兵砲兵各一隊ヲ以テ編成ス（附表第七號）

第三條　屯田兵ハ左ノ如シ

其一　歩兵　四大隊

其二　騎兵　一隊

其三　砲兵　一隊

其四　工兵　一隊

歩兵一大隊ハ本部并二中隊乃至六中隊　現役及豫備役ヲ以テ編成シ騎兵砲兵及工兵隊ハ現役及豫備役ヲ以テ編成ス但豫備役歩兵中隊士官ハ現役トス（附表第八號甲乙丙丁）

第四條　憲兵隊ハ六隊トス其一隊ハ本部及數個ノ分隊ヲ以テ編成ス（附表第九號）

第五條　諸學校生徒隊及教導隊ハ左ノ如シ

士官學校生徒隊（附表第十四號丙）

幼年學校生徒隊（附表第十四號丁）

要塞砲兵幹部練習所生徒隊（附表第十四號戊）

教導團生徒隊（附表第十四號子）

砲兵工科學校生徒隊（附表第十四號丑）

工兵學校生徒隊（附表第十四號寅）

月山學校教導大隊（附表第十四號夘）

砲兵射的學校教導中隊（附表第十四號辰）

第六條　軍隊ヲ分ツスル部局ハ左ノ如シ

其一　中央部

參謀本部（附表第十號甲）

監軍部（附表第十號乙）

其二　地方部

近衛及師團司令部（附表第十一號乙）

近衛ハ其管轄師團ハ各師管ニ置ク

諸團司令部（附表第十一號丙）

近衛ハ其管轄地ハ各連隊ニ置ク

大隊區司令部（附表第十一號丁）

各大隊區ニ置ク

鎮臺隊區司令部（附表第十一號戊）

各鎮臺隊區ニ置ク

屯田兵司令部（附表第十一號己）

北海道ニ置ク

要塞司令部（附表第十一號庚）

其管轄ニ置ク

近衛及師團并屯田兵隊營部（附表第十一號辛壬癸）

各司令部所在地ニ置ク

砲兵方面（附表第十一號子）

本部ハ其管轄大隊及下ノ級ニ置キ支部ハ師團司令部及要塞司令部所在地ニ置ク

工兵方面（附表第十一號丑）

本部ハ其管轄大隊及下ノ級ニ置キ支部ハ要塞司令部及宮城ヲ警衛スル砲兵隊所在地ニ置ク

其三　特務部

憲兵隊本部（附表第十二號甲）

外國留學將校同相當官（附表第十二號乙）

砲兵幹部（附表第十二號丙）

工兵幹部（附表第十二號丁）

衛生幹部（附表第十二號戊）

將校生徒試驗隊員（附表第十二號己）

陸地測量部（附表第十二號庚）

砲兵工廠（附表第十二號辛）

陸軍軍醫補充員（附表第十二號壬）

陸軍衛生部士官候補生及軍醫補充員（附表第十二號癸）

其四　衛戍部

衛戍（附表第十三號甲）

警戒隊（附表第十三號乙）

其五　諸學校

陸軍大學校（附表第十四號甲）

砲工學校（附表第十四號乙）

士官學校（附表第十四號丙）

幼年學校（附表第十四號丁）

月山學校（附表第十四號戊）

教導團（附表第十四號己）

砲兵射的學校（附表第十四號庚）

要塞砲兵幹部練習所（附表第十四號辛）

經理學校（附表第十四號壬）

軍醫學校（附表第十四號癸）

教導團（附表第十四號子）

砲兵工科學校（附表第十四號丑）

士官候補生（附表第十四號寅）

工科學校（附表第十四號夘）

獸醫學校（附表第十四號辰）

其六　作圖部

陸軍省方面ノ管理ニ屬スルモノ

地圖調製（附表第十五號丁）

各鎮臺管轄部ニ屬スルモノ　但北海道ヲ除ク

地圖調製（附表第十五號己）

經營部（附表第十五號庚）

第七條　本令附表中將校同相當官用兵ノ數ハ陸軍省ノ所管ニ屬スル部局ノ定ニ依ル但一部ニシテ官等ニ通ジスルモノハ其人員一人ナルトキハ最上級ノ官等相當官ノ員數ヲ定員トシ二人ナルトキハ其人員ヲ通ジテ一人ナルトキハ其官等相當官ノ員數ヲ定員トシ二人ナルトキハ其人員ヲ通ジテ一人ナルトキハ其官等相當官ノ員數ヲ定員トスル所以ナリ

第八條　本令附表中將官以下ノ員數ハ定員ノ故ニ從ヒ適員ヲ超過シ置クコトヲ得

附則

第九條　本令附表各隊編成中ニ掲クル士官候補生ハ編制定員ニ在ルヲ常分其定員ヲ超過スルコトヲ得

第十條　左ニ掲クルモノハ常分ノ內從軍ノ現定ニ從リ各左ノ期日限リ之ヲ廢止ス

一　鎮臺工　明治二十四年十一月三十日

二　野戰電信隊　明治二十三年十一月十六日

三　屯田兵各部各隊　明治二十四年三月三十一日

四　鎮臺砲兵幹部練習所　同上

五　鎮臺砲兵幹部　同上

六　近衛砲兵幹部練習所ノ員ニ生シタル過員　明治二十四年十一月三十日

七　近衛、師團工兵隊編制ノ員ニ生シタル過員　明治二十四年一月二十七日

八　近衛工兵中隊　明治二十五年十一月三十日

九　調査主事（第四、第六師團、明治二十四年十一月三十日）（第二、第三、第五師團、明治二十五年十一月三十日）

十　海外留學生ノ內現今海軍ノ生徒ハ各編制ノ日

第十一條　從來ノ本令ニ從ヒタル各部各隊ニシテ本令施行ノ日ヨリ廢止スベキ

第一號甲

平時歩兵一聯隊編制表

階級＼區分	聯隊本部 人員	聯隊本部 馬	大隊本部 人員	大隊本部 馬	一中隊 人員	一中隊 馬	聯隊（十二中隊）計 人員	聯隊（十二中隊）計 馬
大佐（中佐）	連隊長 1	3					1	9
少佐	1	1	大隊長 1	2			4	
大尉	副官 1	1			中隊長 1		3	12
中尉			副官 1	1	2		26	
少尉	1				2		24	
曹長			下副官 1		1		12	
一等軍曹	4		6		5		72	
二等軍曹					4		48	
上等兵					16		192	
一等卒					32		384	
二等卒					68		816	
計	8	4	9	3	132		1,584	12

階級＼區分	聯隊本部 人員	聯隊本部 馬	大隊本部 人員	大隊本部 馬	一中隊 人員	一中隊 馬	聯隊（十二中隊）計 人員	聯隊（十二中隊）計 馬
准士官	30						360	
下士官	10						120	
計	38	1	6		1		456	1
合計	41	5	15	3	133		1,596	13

階級	聯隊本部 人員	聯隊本部 馬	大隊本部 人員	大隊本部 馬	一中隊 人員	一中隊 馬	聯隊（十二中隊）計 人員	聯隊（十二中隊）計 馬
一等軍醫正							1	
二（三）等軍醫正			1				3	
一（二）（三）等軍醫			1				3	
二（三）等軍醫			1				3	
一（二）（三）等獸醫			1				3	
看護手					1		12	
鼓工長			1				3	
鼓工下長			1				3	
縫工長（下長）							1	
靴工長（下長）							1	
縫工							30	
靴工							10	
計		1	6		1		46	1
合計	41	6	21	3	134		1,642	14

第一號乙

平時治安警察兵一聯隊編制表

階級＼區分	聯隊本部 人員	聯隊本部 乘馬	大隊本部 人員	大隊本部 乘馬	一中隊 人員	一中隊 乘馬	聯隊（二中大隊） 人員	聯隊（二中大隊） 乘馬	計 人員	計 乘馬
大佐（中佐）	聯隊長 一	二					一			七
少佐	一	一	大隊長 一	三			三			
大尉	副官 一	一	一		中隊長 一		六			三
中尉			副官 一	一	二		二			
少尉	一				二		二			
曹長			下副官 一		一		一〇			
一等軍曹	四		六		四		四七			
二等軍曹					五		五			
上等兵					一六		一六			
一等卒					四三		四三			
二等卒					一〇		一〇			
計										
一（二）等軍吏										
一（二）（三）等書記										
一等軍醫										
一（二）等軍醫										
一等軍醫正										
一（二）（三）等獸醫										
一（二）（三）等獸醫長										
看護手										
縫工長										
縫工下長										
靴工長（下長）										
靴工長（下長）										
縫工										
靴工										
計										
合計										

備考

（一）聯隊本部ノ少尉一ハ警手、軍曹ノ内一ハ武器掛、軍曹ノ内一ハ給養掛ノ分課ト為ス（二）大隊本部軍曹ノ内一ハ武器掛、軍曹ノ内一ハ給養掛ノ分課ト為ス（三）中隊一等軍曹ノ内一ハ給養掛ノ分課、兵卒ノ内四ハ喇叭手、一、二等卒ノ内縫工、靴工、縫工、靴工ヲ少クモ各二名ヲ含有ス（四）一等軍吏ノ所属スル大隊ニハ別ニ一（二）（三）等書記一名ヲ増加ス（五）聯隊本部ノ二等軍医ハ聯隊中第一大隊ノ衛生業務ヲ兼ス（六）本表定員ノ外士官候補生毎年三名宛入隊ス

第二號

平時騎兵一大隊編制表

階級＼區分	大隊本部 人員	大隊本部 乘馬	一中隊 人員	一中隊 乘馬	大隊（三中隊）計 人員	大隊（三中隊）計 乘馬
中佐（少佐）	大隊長 一	二			一	二
大尉	一	二	中隊長 一	二	四	三四
中尉	副官 一	二	二	四	七	
少尉			二	四	六	
曹長	下副官 一	一	一	一	四	三七
一等軍曹	五	五	五	五	一七	
二等軍曹			五	五	一八	
上等兵			一六	一六	四八	三六七
一等卒			四三	一一三	一一六	
二等卒			八四		三四二	
計	九	一一	一五八	一五〇	四八三	四六二
一（二）等軍吏	一				一	
一（二）（三）等書記	一				一	
一等軍醫	一				一	
一（二）等軍醫	一				一	
一（二）（三）等獸医	一				一	
看護手			一		二	
一等獸醫	一				一	
一（二）等獸醫	一				一	
靴工長（下長）	一				一	
縫工	一				一	
縫工下長	一				一	
鞍縫工長（下長）	一				一	
鞍縫工下長	三				三	
靴縫工長（下長）	一				一	
靴縫工長（下長）	一				一	
縫工	六				六	
靴工	四				四	
計	四六		一		四七	
合計	四三	一一	一五七	一五〇	四一三	四六二

備考

（一）大隊本部軍曹ノ内二ハ武器掛、喇叭長、書記、二ハ給養掛ノ分課ト為ス（二）中隊一等軍曹ノ内一ハ給養掛ノ分課、兵卒ノ内四ハ喇叭手、一、二等卒ノ内縫工、鞍縫工、縫工、靴工ヲ少クモ各二名ヲ含有ス（三）本表定員ノ外士官候補生毎年三名宛入隊ス

第三號甲

平時野戰砲兵一聯隊編制表

階級＼區分	大佐（中佐）	少佐	大尉	中尉	少尉	曹長	一等軍曹	二等軍曹	火工曹長	火工一（二）等曹	上等兵	一等卒	二等卒	計	一等軍吏	二（三）等軍吏
聯隊本部 人員	1		1			1								9	1	
聯隊本部 乘馬																
大隊本部 人員		1	1	1	1		3	3	1					9		
大隊本部 乘馬		2												4		
一中隊 人員			1	2	1	1	3	3		1	2	28	52	110	1	1
一中隊 乘馬				1	1		3	3						7		
一中隊 駄馬							(ロ) 3	(イ) 1						4		
中野砲隊一 乘馬				2	1		3	3						14		
中野砲隊一 駄馬														4		
中山砲隊一 乘馬				2	1							(ハ) 1		5		
中山砲隊一 駄馬														30		
聯隊（中野砲隊一中山砲隊一） 人員	1	2	9	13	8	7	13	13	1	6	7	118	343	548	1	1
聯隊（中野砲隊一中山砲隊一） 馬匹	8			30										38		

階級＼區分	一等獸醫	二（三）等獸醫	監護	鞍工長	鞍工下長	木工長	木工下長	鍛工長	鍛工下長	蹄鐵工長	蹄鐵工下長	鞍工長	鞍工下長	計	一等獸醫	二（三）等獸醫
聯隊本部 人員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9	1	1
聯隊本部 乘馬																
大隊本部 人員																
大隊本部 乘馬																
一中隊 人員																
一中隊 乘馬																
一中隊 駄馬																
中野砲隊一 乘馬																
中野砲隊一 駄馬																
中山砲隊一 乘馬																
中山砲隊一 駄馬																
聯隊（中野砲隊一中山砲隊一） 人員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9	1	1
聯隊（中野砲隊一中山砲隊一） 馬匹																

階級＼區分	看護手	一等獸醫	二（三）等獸醫	計	一等軍醫	二（三）等軍醫	一（二）（三）等薬剤官	看護手	一（二）等看護長	二（三）等看護長	一等軍吏	二（三）等軍吏	一（二）（三）等薬剤官	看護手	一（二）等看護長	二（三）等看護長
聯隊本部 人員	1	1	1	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
聯隊本部 乘馬																
大隊本部 人員																
大隊本部 乘馬																
一中隊 人員																
一中隊 乘馬																
一中隊 駄馬																
中野砲隊一 乘馬																
中野砲隊一 駄馬																
中山砲隊一 乘馬																
中山砲隊一 駄馬																
聯隊（中野砲隊一中山砲隊一） 人員	1	1	1	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
聯隊（中野砲隊一中山砲隊一） 馬匹																

備考

（一）聯隊本部大佐ノ内一人武器主管、軍曹三人、喇叭長、蹄鉄、喇叭副長ノ分課トス（二）大隊本部軍曹一人蹄鉄、蹄鉄補ノ分課トス（三）中隊一等軍曹ノ内二人給養掛、武器掛ノ分課、兵卒ノ内三人喇叭手、一、二等卒ノ内鞍工、木工、鍛工、蹄鐵工、鞍工、鞍工卒少クモ各二名ヲ含有ス（四）一等軍吏ノ附屬スル大隊ニハ副官一（二）（三）等軍記一名ヲ増加ス（五）（イ）ハ軍記（ロ）ハ分課外ノ下士（ハ）ハ喇叭ノ兼用トス（六）本表定員ノ外士官候補生等ハ三名宛大隊ス

第三號乙

平時近衛砲兵一聯隊編制表

階級＼區分	大佐（中佐）	少佐	大尉	中尉	少尉	曹長	一等軍曹	二等軍曹	火工曹長	火工一（二）等曹	計	一等軍吏	二（三）等軍吏	一（二）（三）等薬剤官	看護手	一（二）等看護長
聯隊本部 人員	1		1			1					9	1				
聯隊本部 乘馬	2		3			1					6					
大隊本部 人員		1		1	1		3	3	1		10					
大隊本部 乘馬		2		1							3					
一中隊 人員			1	2	1	1	3	3		1	13	1	1	1	1	1
一中隊 乘馬			2	2	1	1	3	3			14					
一中隊 駄馬							(ロ) 3	(イ) 1			4					
聯隊（一中隊） 人員	1	2	7	10	4	7	13	13	1	1	68	1	1	1	1	1
聯隊（一中隊） 馬匹	8			30							38					

階級＼區分	一等獸醫	二（三）等獸醫	監護	鞍工長	鞍工下長	木工長	木工下長	鍛工長	鍛工下長	計	上等兵	一等卒	二等卒	計	合計
聯隊本部 人員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9					44
聯隊本部 乘馬															9
大隊本部 人員											12	52	56	120	130
大隊本部 乘馬															4
一中隊 人員												(ハ) 3		3	16
一中隊 乘馬															14
一中隊 駄馬															4
聯隊（一中隊） 人員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9	12	55	56	123	207
聯隊（一中隊） 馬匹															38

階級	区分	大隊本部 人員	大隊本部 乘馬	一中隊 人員	一中隊 乘馬	大隊(三中隊)計 人員	大隊(三中隊)計 乘馬
少佐	大隊長	一	二			一	二
大尉	中隊長	一	一	一	一	三	
中尉	副官	一	一	二	二	七	一七
少尉				二	二	六	
曹長	下副官	一		一		三	
一等軍曹		五		五		一七	
二等軍曹				三		一五	
上等兵				一六		四八	
一等卒				三四		九六	
二等卒				六二		一八六	
計		九	四	一三四	四	三八四	一七
二(三)等軍吏		一				一	
一(二)(三)等書記		一				一	
衛生							
一等軍醫		一				一	
二(三)等軍醫		一				一	
看護長		一				一	
看護手							

平時工兵一大隊編制表

階級	区分	大隊本部 人員	大隊本部 乘馬	一中隊 人員	一中隊 乘馬	大隊(三中隊)計 人員	大隊(三中隊)計 乘馬
少佐	大隊長	一	二			一	二
大尉	中隊長	一	一	一	一	三	
中尉	副官	一	一	二	二	七	一七
少尉				二	二	六	
曹長	下副官	一		一		三	
一等軍曹		五		五		一七	
二等軍曹				三		一五	
上等兵				一六		四八	
一等卒				三四		九六	
二等卒				六二		一八六	
計		九	四	一三四	四	三八四	一七
二(三)等軍吏		一				一	
一(二)(三)等書記		一				一	
衛生							
一等軍醫		一				一	
二(三)等軍醫		一				一	
看護長		一				一	

第四號中

階級	区分	人員	乘馬
大佐(中佐)	兵隊	一	二
少佐	長大隊	一	一
計		二	三
監護		一	
木工長		一	
木工下長		一	
鍛工長		一	
鍛工下長		一	
鋳工長		一	
鋳工下長		一	
縫工長(下長)		一	
靴工長(下長)		一	
縫工		二〇	
靴工		一〇	
計		四二	一
合計		五一	四

備考

(一)聯隊本部大尉ノ内一ハ武器主管、年曹三ハ喇叭長、書記、喇叭副長ノ分課トス(二)大隊本部軍曹ノ内二ハ書記、炊事掛ノ分課トス(三)中隊一等軍曹ノ内二ハ給養掛、武器掛ノ分課、兵卒ノ内三ハ喇叭手、一、二等卒ノ内鞍工、木工、鍛工、蹄鐵工、縫工、靴工卒少クモ各二名ヲ含有ス(四)一等軍吏ノ附属スル大隊ニハ別ニ一(二)(三)等書記一名ヲ増加ス(五)(イ)ハ書記(ロ)ハ分課外ノ下士官(ハ)ハ喇叭手ノ乘用トス(六)本表定員ノ外士官候補生毎年二名宛入隊ス

第三號内

平時要塞砲兵一聯隊編制表

階級	区分	聯隊本部 人員	聯隊本部 乘馬	大隊本部 人員	大隊本部 乘馬	一中隊 人員	一中隊 乘馬	聯隊(三大隊十二中隊)計 人員	聯隊(三大隊十二中隊)計 乘馬
少佐	大(中)佐 兵聯隊	一	二					一	二
	長大隊			一	一			三	
大尉	副官	一	一					一	
中尉	副官					一	一	二	
少尉								二	
曹長	下副官					一		一	
一等軍曹						五		一五	
二等軍曹						三		一三	
火工曹長						一		一	
火工一(二)等軍曹						一		二	
上等兵						一六		一六	
一等卒						三四		四〇八	
二等卒						六二		八〇四	
計		九	三	八	二	一三四	一	二八三	九
一等軍吏								一	
二(三)等軍吏				一				二	
一(二)(三)等書記				一				三	
二等軍醫正		一	一					一	一
一等軍醫		一						一	
二(三)等軍醫		一						一	
一(二)(三)等看護長				一				三	
看護手						一		三	

階級＼区分	大隊本部 人員	大隊本部 乗馬	一中隊 人員	一中隊 乗馬	大隊(三中隊)計 人員	大隊(三中隊)計 乗馬	備考	合計 人員	合計 乗馬
看護手	一		一		三				
木工長(下長)	一				一				
鍛工長(下長)	一				一				
鈑工長	一				一				
銃工下長	一				一				
縫工長(下長)	一				一				
靴工長(下長)	一				一				
縫工	六				六				
靴工	四				四				
計	二一		一		三四				
合計	三〇	四	一三六	五	四〇八	一九	（一）大隊本部ノ大尉一ハ材料主管、軍曹ノ内三ハ材料掛、蹄工長、書記、二ハ炊事掛ノ分課トス（二）中隊一等軍曹ノ内一ハ給養掛ノ分課、兵卒ノ内二ハ蹄工手、一、二等卒ノ内木工、鍛工、縫工、靴工少ルモ各二名ヲ含有ス（三）本表定員ノ外士官候補生毎年二名宛入隊スベシ		

第四號乙

平時近衛工兵一大隊編制表

階級＼区分	大隊本部 人員	大隊本部 乗馬	一中隊 人員	一中隊 乗馬	大隊(三中隊)計 人員	大隊(三中隊)計 乗馬	備考	合計 人員	合計 乗馬
鍛工長(下長)	一				一				
靴工長(下長)	一				一				
縫工	五				五				
靴工	三				三				
計	一七		一		二一				
合計	二八	四	一三六	五	二六〇	一四	（一）大隊本部ノ大尉一ハ材料主管、軍曹ノ内三ハ材料掛、蹄工長、書記、二ハ炊事掛ノ分課トス（二）中隊一等軍曹ノ内一ハ給養掛ノ分課、兵卒ノ内二ハ蹄工手、一、二等卒ノ内木工、鍛工、縫工、靴工少ルモ各二名ヲ含有ス（三）本表定員ノ外士官候補生毎年二名宛入隊スベシ		

第五號甲

平時輜重兵一大隊編制表

階級＼区分	大隊本部 人員	大隊本部 乗馬	一中隊 人員	一中隊 乗馬	一中隊 駄馬	大隊(二中隊)計 人員	大隊(二中隊)計 馬匹	備考	合計 人員	合計 馬匹
少佐 大隊長	一	二				一	二			
大尉	一	一	中隊長 一	一		三				
中尉 副官	一	一	二	二		五	一二			
少尉			二	二		四				
曹長 下副官	一 一		二	二		六				
一等軍曹	五	二	八	六		一八	二六			
二等軍曹										
上等兵										
一等卒										
二等卒										
計	七	四	二五	九		四二	一四			
二(三)等軍吏	一					一				
一(二)(三)等輜重兵	一					一				
一等軍醫	一					一				
二(三)等軍醫	一					一				
一(二)(三)等看護長	一					一				
看護手			一			一				
一等獣醫	一					一				
二(三)等獣醫	一					一				
鈑工長(下長)	一					一				
蹄鐵工長	一					一				
蹄鐵工(下長)	二					二				
縫工長(下長)	一					一				
靴工長(下長)	一					一				
縫工	六					六				

階級＼区分	大隊本部 人員	大隊本部 乗馬	一中隊 人員	一中隊 乗馬	一中隊 駄馬	大隊(二中隊)計 人員	大隊(二中隊)計 馬匹	備考	合計 人員	合計 馬匹
大尉	一		中隊長 一	一		三				
中尉 副官	一		二	二		五	一二			
少尉			二	二		四				
曹長 下副官	一		二			三				
一等軍曹	五		八			一三				
二等軍曹	一		二			三				
上等兵	一六	一六				三二				
一等卒	一三	一三				六六				
二等卒	六〇	六〇				一二〇				
輸卒	一八〇					三六〇				
計	二八七	三〇	三〇			四八七	二六			
二(三)等軍吏						一				
一(二)(三)等輜重兵						一				
一等軍醫						一				
二(三)等軍醫						一				
一(二)(三)等看護長						一				
看護手						一				
一等獣醫						一				
二(三)等獣醫						一				
鈑工長(下長)						一				
蹄鐵工長						一				
蹄鐵工(下長)						二				
縫工長(下長)						一				
靴工長(下長)						一				
縫工	六					六				

階級＼区分	大隊本部 人員	大隊本部 乘馬	一中隊 人員	一中隊 乘馬	一中隊 駄馬	大隊(二中隊)計 人員	大隊(二中隊)計 馬匹
少佐	大隊長 1	2				1	2
大尉	1	1	中隊長 1	1		3	12
中尉	副官 1	1	2	2		5	
少尉			2	1		3	
曹長	下副官 1 1	1	2	2		6	22
一等軍曹	5	1	8	6		18	
二等軍曹			4	4		11	
上等兵			16	16		33	
一等卒			11			44	
計	31	6	54	42	12	144	34
合計	31	6	110	84	24	174	34
輸卒			110			110	
二等卒			44			44	110
計	10	6	154	84	24	218	110
二(三)等軍吏	1					1	
一(二)(三)等書記	1					1	
一等軍醫	1					1	
二(三)等軍醫	1					1	
一(二)(三)等獣医長	1					1	
看護手			1			1	
一等獣医	1					1	
二(三)等獣医	1					1	
鞍工長(下長)	1					1	
蹄鐵工長	1					1	
鞍匠工下長	1					1	
縫工長(下長)	1					1	
靴工長(下長)	1					1	
縫工	5					5	
靴工	3					3	
計	31		1			32	
合計	31	6	110	84	24	142	110

備考　(一)大隊本部ノ曹長一ハ器械班、軍曹ノ内一ハ喇叭長、二ハ書記、二ハ炊事班ノ分課トス(二)中隊一等軍曹ノ内二ハ給養班、器械班ノ分課、上等兵一、二等卒ノ内三ハ喇叭手、一、二等卒ノ内鞍工、木工、鍛工、蹄鐵工、縫工、靴工卒少クモ各二名ヲ含有ス(三)輸卒ノ在籍期限ハ四ヶ月トシ之ヲ三期ニ分チ毎期百二十名宛入隊ス

第五號乙

平時近衛輜重兵一大隊編制表

階級＼区分	人員	乘馬
大尉	隊長 1	1
中尉	監務 2	2
少尉		
曹長	書記 2	
一等軍曹	監査 4	
二等軍曹		
鞍工長(下長)	1	
木工長(下長)	1	
鍛工長(下長)	1	
鞍工		
木工		
鍛工		
計	14	3

備考　(一)大隊本部ノ曹長一ハ器械班、軍曹ノ内一ハ喇叭長、二ハ書記、二ハ炊事班ノ分課トス(二)中隊一等軍曹ノ内二ハ給養班、器械班ノ分課、上等兵一、二等卒ノ内三ハ喇叭手、一、二等卒ノ内鞍工、木工、鍛工、蹄鐵工、縫工、靴工卒少クモ各二名ヲ含有ス(三)輸卒ノ在籍期限ハ四ヶ月トシ之ヲ三期ニ分チ毎期八十名宛入隊ス

第六號

陸軍軍樂隊編制表

階級	人員
一等軍樂長	隊長 1
二等軍樂長	
軍樂次長	次長 1
一等軍樂手	3
二等軍樂手	4
樂手補	24
樂生	12
計	50
一(二)(三)等書記	1
一(二)(三)等看護長	1
計	2
合計	53

備考　鞍工、木工、縫工ノ數ハ、戰工ノ制度決定ノ後之ヲ掲ク

備考　(一)樂手補樂生ハ兵卒トス但樂手補ハ上等兵樂生ハ補充トス(二)軍樂隊ノ衛生事務ハ所在地在隊軍醫之ヲ兼ス

第七號

不時對馬警備隊編制表

階級＼區分	司令部 人員	司令部 乘馬	歩兵隊 人員	歩兵隊 乘馬	砲兵隊 人員	砲兵隊 乘馬	合計 人員	合計 乘馬
中(少)佐								
大尉								
中尉								
少尉								
曹長								
一等軍曹								
二等軍曹								
伍長								
一等兵								
二等兵								
計								
一(二)(三)等軍醫								
一(二)(三)等獣医								
一等軍醫								
一(二)(三)等軍吏								
一(二)(三)等軍記								
一等軍醫								
二(三)等軍醫								
一(二)(三)等獣医								
看護手								
鍛工長(下長)								
計								
合計								

第八號甲

不時屯田歩兵一大隊編制表

階級＼區分	現役 大隊本部 人員	現役 大隊本部 乘馬	現役 中隊 人員	現役 中隊 乘馬	予備役 人員	予備役 乘馬
中(少)佐						
大尉						
中尉						
少尉						
曹長						
一(二)等軍曹						
上等兵						
一等卒						
二等卒						
計						
一(二)(三)等軍醫						
一(二)(三)等獣医						
看護手						
砲兵監護						
木工長(下長)						
鍛工長(下長)						
鉄工長(下長)						
鞍工長(下長)						
靴工長(下長)						
縫工						
計						
合計						

備考

(一)司令官、副官、下副官及司令部ノ馬匹ハ歩(砲)兵科ヲ以テ之ニ充ツ(二)司令部馬匹三ハ内訓練二、給養班ノ分課、上等兵一、二等卒ノ内二ハ輜重手トス(三)歩兵隊一等卒ノ内二ハ輜重手、一、二等卒ノ内三ハ輜重手トス(四)砲兵隊一等卒ノ内二ハ輜重手、給養班ノ分課、上等兵一、二等卒ノ内三ハ輜重手トス

階級＼區分	司令部 人員	司令部 乘馬	歩兵隊 人員	歩兵隊 乘馬	砲兵隊 人員	砲兵隊 乘馬	合計 人員	合計 乘馬
中(少)佐	大隊長							
大尉	副官		中隊長		中隊長			
中尉								
少尉								
曹長	下副官							
一(二)等軍曹								
上等兵								
一等卒								
二等卒								
計								
一(二)(三)等軍吏								
一(二)(三)等軍記								
一等軍醫								
二(三)等軍醫								
一(二)(三)等獣医								
看護手								
鍛工長(下長)								
計								
合計								

第八號乙

不時屯田騎兵隊編制

階級＼區分	現役 人員	現役 乘馬	予備役 人員	予備役 乘馬
大尉	隊長			
中尉				
少尉				
曹長				
一(二)等軍曹				
上等兵				
一等卒				
二等卒				

備考

(一)大隊ハ現役及征補役ヲ混合シ特別補充ニ依リ二中隊乃至六中隊ヲ以テ編成ス(二)実戦中大隊本部ハ人員ハ現役四中隊ヲ以テ編成ス(三)大隊本部馬匹三ハ武器班、輜重班、給養班ノ分課トス(四)現役中隊馬匹ハ内訓練二、給養班ノ分課、兵器ハ輜重手、一、二等卒ノ内鍛工長(下長)ハ兵器班ノ分課トス(五)特別補充ハ二年目ヨリハ現役中隊ニ中(少)尉ヲ置キ二年目ニ於テハ其年屯田兵出身ノ者ヲ用ヒ(六)現役中隊下士ハ初年ニ於テハ其年屯田兵出身ノ者ヲ用ヒ(七)現役中隊ニ於テハ三ヶ月間ハ屯田兵出身ノ者ヲ用ヒ(八)現役中隊ニ於テハ初年上等兵ヲ置キ二年目ヨリハ鍛工長(下長)ハ兵器分課ノ内輜重手ヲ以テ充ツ(九)兵器分課ハ輜重手、鍛工長(下長)ハ兵器班ノ内輜重手ヲ以テ充ツ(十)二(三)等軍醫、看護長、看護手、鍛工長(下長)ハ兵器分課ノ内輜重手ヲ以テ充ツ(十一)兵器班ハ鉄工ハ之ヲ補ハス

第八號甲

平時屯田砲兵隊編制表

階級＼區分	現役 人員	現役 乘馬	現役 駄馬	豫備役 人員	豫備役 乘馬	豫備役 駄馬
中尉	隊長 一	一				
中計	三	三				
大尉	隊長 一	一				
大計	三	三				
合計	一四三	一三六		一六〇	一六〇	
計	七					
醫師	醫師長（下長） 一					
獸醫	獸醫長（下長） 一					
二（三）等獸醫	一					
看護手	二					
一等平醫	一					
一等書記	一					
計	一三六	一三六		一六〇	一六〇	

備考

（一）現役將校ノ內一ハ給養掛ノ分課、現役兵卒ノ內四ハ喇叭手、一、二等卒ノ內鞍工、蹄鐵工、縫工、靴工少クモ各二名ヲ含有ス（二）現役將校ノ內牛馬、屯田兵出身ノ者ヲ用ユルヲ得（三）現役ニ於テハ初年上等兵ヲ置カス但シ既ニ內地ニ於テ二ヶ年服役セシモノニシテ適當ナル資格ヲ有スルモノアルトキハ上等兵トス（四）二（三）等獸醫、看護手、修工長、蹄鐵工長（下長）ハ將分ノ內構員ヲ以テ充ツルヲ得（五）兵卒ヨリ下士ニ任用シタル缺員ハ之ヲ補ハス

第八號丙

平時屯田砲兵隊編制表

階級＼區分	現役 人員	現役 乘馬	現役 駄馬	豫備役 人員	豫備役 乘馬	豫備役 駄馬
中尉	隊長 一	一				
中計	三	三				
大尉	隊長 一	一				
大計	三	三				
合計	一四三	一三六		一六〇	一六〇	
計	七					
蹄鐵工長（下長）	一					
鞍工長（下長）	一					
二（三）等獸醫	一					
看護手	二					
一等平醫	一					
一等書記	一					
計	一三六	一三六		一六〇	一六〇	

備考

（一）現役將校ノ內一ハ給養掛ノ分課、現役兵卒ノ內四ハ喇叭手、一、二等卒ノ內鞍工、蹄鐵工、縫工、靴工少クモ各二名ヲ含有ス（二）現役將校ノ內牛馬、屯田兵出身ノ者ヲ用ユルヲ得（三）現役ニ於テハ初年上等兵ヲ置カス但シ既ニ內地ニ於テ二ヶ年服役セシモノニシテ適當ナル資格ヲ有スルモノアルトキハ上等兵トス（四）二（三）等獸醫、看護手、修工長、蹄鐵工長（下長）ハ將分ノ內構員ヲ以テ充ツルヲ得（五）兵卒ヨリ下士ニ任用シタル缺員ハ之ヲ補ハス

第八號丁

平時屯田工兵隊編制

階級＼區分	現役 人員	現役 乘馬	豫備役 人員
大尉	隊長 一	一	
中尉		三	
少尉		三	
曹長	一		
一（二）等軍曹	一〇		六
少計			
曹長	一		
一（二）等軍曹	八		五
准尉（一）（二）曹長	一		
大計			
上等兵	二		一六
一等卒	二五		九九
二等卒	五三		
計	一〇九	四	一一〇
合計	一〇九	四	一一〇

備考

（一）現役將校ノ內二ハ給養掛、材料掛ノ分課、現役兵卒ノ內三ハ喇叭手、一、二等卒ノ內木工、鍛工、縫工各少クモ各二名ヲ含有ス（二）現役將校ノ內牛馬、屯田兵出身ノ者ヲ用ユルヲ得（三）現役ニ於テハ初年上等兵ヲ置カス但シ既ニ內地ニ於テ二ヶ年服役セシモノニシテ適當ナル資格ヲ有スルモノアルトキハ上等兵トス（四）兵卒ヨリ下士ニ任用シタル缺員ハ之ヲ補ハス

第九號

階級＼區分	本部	乘馬	第一乘馬隊	第二乘馬隊	第三乘馬隊	第四乘馬隊	第五乘馬隊	第六乘馬隊	第七乘馬隊	第八乘馬隊	隊野
中（少）佐 隊長	一	二									
大（中）尉 副官	一	一	分隊長 一	一	分隊長 一	一	分隊長 一	一	分隊長 一	一	分隊長 一	一	分隊長 一	一	分隊長 一	一	

京	佐官	中（少）	佐隊長	一	二																										
	將官	大（中）	副官	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一														
	士官	曹長	下副官	一																											
		下士	書記	四		伍長記	七一		伍長記	二一		伍長記	五一		伍長記	三一		伍長記	五一		伍長記	五一		伍長記	六一		伍長記	七一		二六
		兵	上等			三五			一〇			二五			一五			二五			二五			三〇			三五			
	書記	一（二）（三）等	記等	二																											
		二（三）等	軍曹	一																											
	計			一〇	三	四四	一	一四	一	三二	一	二〇	一	三二	一	三二	一	三二	一	三八	一	四四	一								
堺	佐官	中（少）	佐隊長	一	二																										
	將官	大（中）	副官	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一														
	士官	曹長	下副官	一																											
		下士	書記	四		伍長記	八一		伍長記	四一		伍長記	四一		伍長記	四一															一三
		兵	上等			四〇			二〇			二〇			二〇																
	書記	一（二）（三）等	記等	二																											
		二（三）等	軍曹	一																											
	計			一〇	三	五〇	一	二六	一	二六	一	二六	一																		
愛	佐官	中（少）	佐隊長	一	二																										
	將官	大（中）	副官	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一											
	士官	曹長	下副官	一																											
		下士	書記	四		伍長記	八一		伍長記	四一		伍長記	四一		伍長記	四一		伍長記	五一												一三
		兵	上等			四〇			二〇			二〇			二〇			二五													
	書記	二（三）等	軍曹	一																											
知	書記	一（二）（三）	記等	二																											
	計			一〇	三	五〇	一	二六	一	二六	一	二六	一	二六	一	三二	一														
大阪	佐官	中（少）	佐隊長	一	二																										
	將官	大（中）	副官	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一								
	士官	曹長	下副官	一																											
		下士	書記	四		伍長記	五一		伍長記	五一		伍長記	五一		伍長記	五一		伍長記	五一		伍長記	五一		伍長記	五一						一三
		兵	上等			二五			二五			二五			二五			二五			二五			二五							
	書記	一（二）（三）	記等	二																											
		二（三）等	軍曹	一																											
	計			一〇	三	三二	一	三二	一	三二	一	三二	一	三二	一	三二	一	三二	一	三二	一										
廣島	佐官	中（少）	佐隊長	一	二																										
	將官	大（中）	副官	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一														
	士官	曹長	下副官	一																											
		下士	書記	四		伍長記	八一		伍長記	四一		伍長記	四一		伍長記	四一															一三
		兵	上等			四〇			二〇			二〇			二〇																
	書記	二（三）等	軍曹	一																											
		一（二）（三）	記等	二																											
	計			一〇	三	五〇	一	二六	一	二六	一	二六	一																		
熊	佐官	中（少）	佐隊長	一	二																										
	將官	大（中）	副官	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一	分隊長	一	一																	

本	計	准士官	上等兵	二（三）等兵	一（二）（三）等兵
曹長					
下士	四	伍長 五一	二五		
上等兵		伍長 五一	二五		
二（三）等兵	一				
一（二）（三）等兵	二				
計	一〇 三	三二 一	三二 一	三二 一	三二 一

合計　將校同相當官　五五〇　下士　二三四　上等兵　八〇〇

備考　當分ノ内上等兵定員中ニ下士ヲ混用スルコトヲ得

第十號甲

參謀本部定員表

區分＼階級	將大	將中	將少	大佐	中佐	少佐	大常時	中常時	少常時	大尉	中尉	少尉	准士官
大總長	一		四										
次長	一	一	三										
副官部				副官 一	二副官 一	一	副官 二	二	一				
第一局				長 一	二局員				九 二				
第二局				長 一	二局員				九 二				
編纂課					長 一	二	課員		二	一			
出仕將校								三	三				
公使館附			六										

二四

計　將校同相當官　四九　將校　六

備考　一局員ニ欠員アルトキハ之ニ代ユルニ出仕將校ヲ以テスルコトヲ得
二第一局第二局局員ノ内各一名ハ海軍參謀官中本職アルモノヲ以テ充ツ
三編纂課員ハ將校及陸軍編修ヲ混用ス

第十號乙

監軍部定員表

區分＼階級	將大	將中	將少	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	准士官
監軍		一	四						
參謀部			參謀長 一	三參謀 一	二參謀 一	一			
副官部						副官 一	一副官 一	一	

第十一號甲

○第十一號甲近衛司令部編制表（廢止）

第十一號乙

師團司令部編制表

區分＼階級	將中	將少	大佐	中佐	少佐	大常時	中常時	少常時	准士官
本部 師團長	一	四							
參謀部			長參謀 一	二參謀 一	二參謀 一				
副官部						官副 一	一	副官 一	一
軍吏部								副官 二	二
支部 法官部			理事						四
軍醫部			軍醫長 一	二		部員 二			
獸醫部						長獸醫 一	一		

二九

計　將校同相當官並理事　八　將校　一六

備考　（一）師團カ獨立シテ第一大將ヲ以テ補スルコトヲ得（二）近衛師團ニハ於テハ理事二名獸醫四名第四師團ニハ於テ法官

各兵隊	騎兵隊	野戰砲兵隊	要塞砲兵隊	工兵隊	輜重兵隊	計
副官	一	一	一	一		一
副官	三	三	三	三		七
副官	一	一	一	一	一	一
副官	一	一	一	一	一	一
副官	一	一	一	一	一	一
副官	一	一	一	一	三	三

計　將校　三　將校以下　三六

備考　ノトハ内ヲ電信隊（百四名）ヲ以テ補ス
二第一師團第二師團ノ各部隊ヲ以テ補スルモノトシ（五）本表ニ於テ一名ノ定員ノ外當分ノ
三第一師團第二師團ノ各部隊ニ一名ヲ置クコト

第十一號丙

鎮國司令部編制表

鎮國長	少將	乘馬	大尉	乘馬	中尉	乘馬	下士
	一	三	副官 一	一	副官 一	一	四

備考　（一）本表ニ於テ定ムル定員ノ外理事及法官各一名ヲ置ク（二）近衛師團ノ司令部ハ軍法會議ニ於テ法官ヲ置クトキハ下士ヲ二名ニ以テ

第十一號丁

大隊區司令部定員表

司令官	小佐	乘馬	大（中）尉	下士
	一	一	副官 一	二

備考　各大隊區副官定員四人ノ内四分ノ一ハ乘馬本分ノ者ヲ以テ充ツルコトヲ得

第十一號戊

特別隊區司令部定員表

司令官	中（少）佐	大（中）尉	下士
	一	副官 一	二

備考　司令官ハ特別隊司令官之ヲ兼ス

第十一號己

屯田兵司令部編制表

區分＼階級	少將乘馬	密定大佐	密定中佐	密定少佐	密定大尉	密定中尉	密定少尉	准士官
本司令官	一	三						

部		計	將校同相當官	准士官	下士	兵	雇員	傭人
部支	參謀部					參謀長 一	參謀 一	一
	副官部					副官 一	副官 三	二
	軍吏部						軍吏 一	一
部支	法官部					判事		二
	軍醫部				長 一	軍醫部員 三		三
計			將校同相當官 一	將校 二				一

備考
(一)軍醫部部員ノ內一名ハ藥劑官トス
(二)衛生部下士ハ當分ノ內判任文官ヲ用ヰルコトヲ得

第十一號庚

鎮兵司令部定員表

司令官	大佐	乘馬	大佐(中佐)相當官	乘馬	判任文官	官吏
	一	三	軍醫部 一	二	三	三

○第十一號辛廢止

第十一號壬

師團監督部定員表

階級 / 區分		一(二)等監督	乘馬	三等監督(監督補)	乘馬	一(二)(三)等軍吏	下士
師團監督部	一課	部長 一	二	課長 一			
	二課			課長 一	一		
	三課			課長 一	一	三	二
計		一	二	三	三	七	二

備考
加之師團監督部各課ニ一(二)(三)等軍吏各一名及同部ニ下士三名ヲ置ク

第十一號癸

屯田兵監督部定員表

一(二)(三)等監督	乘馬	二(一)等監督補	一(二)等軍吏	下士
部長 一	三	副官 一	副官 二	三

第十一號子

砲兵方面定員表

區分 / 階級		大佐	中佐	乘馬	少佐	乘馬	大尉	乘馬	中尉	少尉	准士官下士
本署	第一方面長	一		二	員署 一	二	軍醫部員	三		二	一七
	第二方面長	一		三			軍醫部員	二		二	一四
支署	一等		長		一	二	軍醫部員	二		一	七
	二等				長 一	一	署員	二		二	七
							軍吏	一			
	三等				長 一	一	署員	二		二	七
							軍吏	一			
	四等				長 一	一	軍吏	一			四
武庫											二

備考
(一)東京大阪ノ支署ニ在テハ署員ヲ置カズ且准士官下士ノ內軍吏ノ員ハ一名大阪支署ハ二名ヲ減ス(二)支署附軍醫ハ兵隊附ヲシテ兼務セシムル外技手三名相當官ノ內一名ハ兵隊附ヲシテ兼務セシム(三)軍吏所在地ノ支署ニ在テハ大佐ノ外技手三名相當官ノ內一名ハ兵隊附ヲシテ兼務セシム(四)武庫附ノ內准士官下士一名ヲ減ス(五)支署長少佐ナルトキハ乘馬一ヲ減ス

第十一號丑

工兵方面定員表

區分 / 階級		大(中)佐	乘馬	中佐	少佐	乘馬	大尉(相當官)	乘馬	中尉	少尉	准士官	下士	砲手
本署		署長 一	二		員署 三	二	軍醫部員	三			一	九	
支署	一等				長 一	二	軍醫部員	二				九	
	二等				長 一	一	署員	二				七	五
							軍吏	一					
	三等				長 一	一	署員	二				五	
							軍吏	一					
本廠					長	一						五	
支廠					長	一						二	

備考
(一)本廠ノ外當分ノ內本署ニ技師二名ヲ置ク(二)砲兵監督部ニ下士五名ヲ增加スルコトヲ得(三)支廠行政上陸軍大臣ノ指揮ヲ受ケシム(四)支署長少佐ナルトキハ乘馬一ヲ減ス

第十一號寅

東宮武官定員表

中將	少將	乘馬	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	乘馬
東宮武官長 一			三 東宮武官						四 六

備考
佐尉官ノ內二名ヲ參謀官トス

第十一號乙

外國留學將校同相當官定員表

大(中)尉同相當官　三〇

備考
時宜ニ依リ少尉同相當官ヲ以テ留學セシムルヿヲ得

第十一號丙

陸軍砲兵會議定員表

大佐	乘馬	大(中)少佐	陸軍同相當官	大(中)少佐	技師	中少佐	乘馬	大尉	乘馬	准士官下士
議長 一	議員 三	若干	若干	議員	書記官 三	書記官 三		三		二

備考
議員及臨時議員ハ他ニ本職アル者ヲシテ之ヲ兼ネシム

第十一號丁

陸軍工兵會議定員表

大佐	乘馬	大(中)少佐	陸軍同相當官	大(中)少佐	技師	中少佐	乘馬	大尉	乘馬	准士官下士
議長 一	議員 三	若干	若干	議員	書記官 三	書記官 三		三		九

備考
議員及臨時議員ハ他ニ本職アル者ヲシテ之ヲ兼ネシム

第十一號戊

陸軍衛生會議定員表

軍醫監	一(二)等軍醫	下士	准士官	文官
議長 一	事務官 三		二	

備考
議長以下總テ他ニ本職アル者ヲ以テ之ヲ兼ネシメス

第十一號己

陸軍將校生徒試驗委員定員表

區分 / 階級	大佐	中佐	少佐	大尉
常置委員長		一		
常置委員				二
臨時委員				

備考
臨時委員ハ當時在學ノ士官生徒ノ員數ニ應シ其ノ他人員ヲ增減スルヿヲ得

第十二號庚

陸地測量部定員表

區分＼階級	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	准尉	下士	兵
本部 部長	一								
本部 官房			一						
本部 庶務官				一					
本部 主計官				一					
本部 事務官					一				
三角科			一	二	二	二			
地形科			一	二	二	二	一	一	一七
製圖科			一	二	二	二	一	一	七
修技所 幹事				一					
修技所 教官					三				
計	將校同相當官並陸地測量部 六九								
計	將校馬 三四								

區分＼階級	准尉	下士	兵
監督官			一
監督官			一
監督官			一
監督官			一
監督官			一
三角科	一	一	一
地形科	一	一	一
製圖科	一	一	一
修技所			
計			一四
計			一四

陸軍大學校定員表

區分＼階級	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	准士官下士	士官候補生	校卒
相當官	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	下士	士官候補生	校卒
相當官並陸軍教授	乘馬	乘馬	乘馬	乘馬	乘馬	乘馬	列任文官	列任文官	馬
本部 部長	一	二							
教官部 兵學教官	一	三							
教官部 教官 副官				二	二				
教官部 教官 廳長				一	一				
教官部 教官 獸醫				一					
教官部 教官 軍吏			九	一三					
教官部 陸軍教授			八	九					
學生							一二	五〇	
計	將校同相當官並陸軍教授 三四 ヶ一 將校馬 二八								

備考
一 兵學教官ノ內一ハ海軍參謀佐尉官或ハ海軍佐官若クハ海軍大尉ニシテ本職ヲ兼勤セシム
二 教官ノ內一ハ監督部上長官（士官）一ハ衛生部上長官（一等軍醫）一ハ獸醫トス而シテ獸醫ハ校附獸醫ヲシテ之ヲ兼ネシム
三 教官ハ定員ノ外副官ヲシテ兼ネシムルコトヲ得
四 諸教官ハ本表掲クル所ノ外他ニ本職アル者ヲシテ兼勤セシメ若クハ學識アルモノヲ撰テ囑託スルコトヲ得

第十四號乙

陸軍砲工學校定員表

區分＼階級	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	准士官下士
相當官	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	下士
相當官並陸軍教授	乘馬	乘馬	乘馬	乘馬	乘馬	乘馬	列任文官
本部 部長	一						
陸軍教授 副官				二	二		
陸軍教授 軍吏				一	一		
計	將校同相當官並陸軍教授 六二 ヶ三 將校馬 二〇						

備考
一 教官二八ノ內軍醫一獸醫一ヲ包含ス又教官一ハ軍醫ニシテ共ニ本部附ヲ以テ之ヲ兼ネ
二 教官ハ本表定員ノ外他ニ本職アルモノヲシテ兼勤セシムルヿヲ得
三 卒六六ノ內五八ハ分遣卒八ハ喇叭卒トス其分遣卒ハ當分ノ內分遣セス

第十四號丁

陸軍幼年學校定員表

區分＼階級	大佐（中佐）（少佐）	大尉（中尉）（少尉）	准士官下士	士官候補生	卒
相當官	大佐	大尉	准士官下士	士官候補生	卒
相當官並陸軍教授	乘馬	乘馬	列任文官	列任文官	馬
本部 部長	一				
教官部 副官		二			
教官部 軍醫		二			
教官部 軍吏			一		
教官部 陸軍教授			一七		
教育部 教官				三六	
教育部 生徒隊					三〇〇
教育部 中隊長		二			
教育部 中隊附		二			
教育部 馬術教官		一			
計	將校同相當官並陸軍教授 三六 ヶ一 將校馬 一〇				

備考
教官及下士ハ本表定員ノ外他ニ本職アル者ヲシテ兼勤セシメ又教官ハ學識アル者ヲ選テ囑託スルコトヲ得

第十四號戊

陸軍戶山學校定員表

區分＼階級	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	准士官下士	士官候補生	校卒
相當官	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	准士官下士	士官候補生	校卒
相當官並陸軍教授	乘馬	乘馬	乘馬	乘馬	乘馬	乘馬	列任文官	列任文官	馬
本部 部長	一	二							
教官部 副官				二	二				
教官部 軍醫				一	一				
教官部 獸醫				一					
教官部 軍吏			一						
教官部 陸軍教授			一						
教官部 教官							一三		
計	將校同相當官並陸軍教授 三一 ヶ一 將校馬 一一								

第十四號丙

陸軍士官學校定員表

區分＼階級	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	候補生	校卒
相當官	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	候補生	校卒
相當官並陸軍教授	乘馬	乘馬	乘馬	乘馬	乘馬	乘馬	乘馬	馬
本部 部長	一	二						
教官部 副官				二	二			
教官部 軍醫				一	一			
教官部 獸醫				一				
教官部 軍吏			一					
教官部 教官						二八		
教官部 陸軍教授			一					
教育部 教官						二		
教育部 生徒隊								六〇〇
教育部 中隊長				二				
教育部 中隊附				一八				
教育部 馬術教官				一				
計	將校同相當官並陸軍教授 三一 ヶ一 將校馬 二一							

備考
一 學生ハ編制完備ニ至ルマテ本表ノ定員ヲ超過スルコトアルヘシ

陸軍乘馬學校定員表

區分＼階級	大佐（中佐）（少佐）	大尉	中尉	少尉	下士	校卒
相當官	大佐	大尉	中尉	少尉	下士	校卒
相當官並陸軍教授	乘馬	乘馬	乘馬	乘馬	列任文官	馬
本部 部長	一					
教官部 副官			二	二		
教官部 軍醫		一				
教官部 獸醫		一				
教官部 軍吏					一	
教官部 教官						一三
計	將校同相當官並陸軍教授 三四 ヶ一 將校馬 七					

備考
（一）ヶハ號數ヲ示ス（二）教官九ノ內一ハ本部附軍醫之ヲ兼ネ（三）准士官下士並列任文官七七ノ內三二准兵卒六四〇ハ本隊ヨリ分遣ス
（四）校長少佐ナルトキハ乘馬一頭トス

第十四號

陸軍造兵廠會計部

一、常平米　一、外注　一、文士

第十四號附

○第十四號附屬醫院定員表（元帥）

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵工廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四號附

陸軍造兵廠會計部定員表

分類	將官	佐官	尉官	准尉	下士	兵	計
本部							
醫官							
看護婦							
計							

第十四條戊

陸軍研究所定員表

區分＼階級	一等研究員	二等研究員	下士	兵卒	生徒
本部	員一				
生徒隊	員一		三	三九	三〇
計	二		三	三九	三〇

備考
衛生等級ハ戸山學校衛生隊之ヲ準ス

第十四條己

陸軍獸醫學校定員表

區分	少佐	佐官	尉官	准尉	下士	兵卒
校長	一	一				
教官			一	一		
軍醫			二			
學生			八	七	二	二
計			將校同相當官 四		將校 二	

備考
一 教官三人ノ内一名ハ醫(司)(輜重)兵科將官トス 二 少佐ハ准將ヲ以テ之ヲ當ツ

○第十五條甲 軍事行政所定員表〔廢止〕

○第十五條乙 憲兵司令部定員表〔廢止〕

○第十五條丙 中央司計部定員表〔廢止〕

第十五條丁

陸軍軍醫部定員表

一等軍吏	二等軍吏	三等軍吏	下士相當任文官
主管 一	軍醫官 一		七

○第十五條戊 司計部定員表〔廢止〕

第十五條己

陸軍經理部定員表

區分＼階級	一等軍吏	二等軍吏	三等軍吏	下士
經理部	主管 一	經理官 一		三
經理部支部	經理官 一			一

備考
一 下士一名ヲ内二名ニ增加スルコトヲ得 二 經理部ヲ置カサルトキハ其管轄區ニ

第十五條庚

陸軍經理部定員表

區分＼階級	一等軍吏	二等軍吏	三等軍吏	相當任文官
近衛經理部	主管 一	計算官 一		一八
東京陸軍經理部	主管 一	計算官 一		二〇
仙台、名古屋、熊本陸軍經理部	主管 一	計算官 一		一四
大阪、廣島、小倉陸軍經理部	主管 一	計算官 一		一二
札幌、旭川、金澤陸軍經理部	主管 一	計算官 一		八

勅令

明治二十三年第百四十六號

陸軍各軍法會議主理ノ職務ヲ執行スル人員ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　各軍法會議ノ上席主理ハ海軍治罪法ニ依リ職務ヲ執行スル外陸軍法會議ニ於テハ鎮守府司令長官ノ命ヲ承ケ其軍法會議ノ庶務ヲ統理ス

第二條　各軍法會議ノ主理ハ海軍治罪法ニ從フ職務ヲ執行スル外上席主理ノ指揮ヲ受ケ軍法會議ノ庶務ニ從事ス

第三條　各軍法會議ノ主理ハ海軍治罪法ニ依リ職務ヲ執行スル外上席主理ノ指揮ヲ受ケ軍法會議ノ庶務ニ從事ス

第四條　各軍法會議ノ雑務ハ海軍治罪法ニ依リ職務ヲ執行スル外主理ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事シ又其他係存ノ事ヲ掌ルル

第五條　各軍法會議ヲ開シテ主理ハ十二人雑務ハ十二人ヲ以テ定員トス

第六條　主理或補ハ二人雑務又ハ三人ヲ以テ定員トス

勅令

明治二十六年十二月三日

陸軍憲兵隊定員表ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍憲兵隊定員表

	大佐	少佐	大尉	少尉	少機	監獄大尉	監獄少尉	監獄少機	監獄大尉	監獄少尉	監獄少主計	計大主	計少主	兵上等	師軍	師機	師船	醫	下士一等	下士二等	卒一等	卒二等	卒三等	計
廣島	一	一	七	七	一	三	一		二	一		二	一	三		四	一	一〇	一二	一六	五三	九六	一四	一四五
松島	一	一	七	七	一	三	一		二	一		二	一	三		四	一	一〇	一二	一五	五三	九六	一四	一四四
鎮立	一	一	七	七	一	三	一		二	一		二	一	三		四	一	一〇	一二	一五	五三	九六	一四	一四四
扶桑	一	一	七	六	一	二	一		二			二		二		三	一	一〇	一七	一四	四八	八四	一三三	一四四
須磨	一	一	七	六	一	三	一		二			二	一	三		四	一	一二	一二	一八	五六	九八	一四四	一四一
高千穂	一	一	七	六	一	三	一		二			二	一	三		四	一	一二	一二	一八	五六	九八	一四四	一四一
千代田	一	一	六	五	一	二	一		一	一		一	一	三		三	一	一二	一八	一七	五四	七三	九五	一〇八
金剛	一	一	六	五		二	二		一	一		一	一	二		二	一	一七	一五	九	三八	七九	一〇一	一六六
比叡	一	一	六	五		二	二		一	一		一	一	二		二	一	一七	一五	七	三八	七九	一〇一	一六五
筑波	一		五	五		一	一		一	一		一	一	二		二	一	一四	一六	八	二六	七	一一八	一五五
高雄	一	一	五	四		三	一		一	一		一	一	二		三	一	一四	一四	一〇	三七	五四	九六	一二二
八重山	一		六	四	一	二	一		一	一		一	一	二		三	一	九	一四	一一	三三	五一	七二	一一五

| | | |